

内一部ノ市町村其ノ他公共團體若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス  
夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ  
夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百十三條 府縣稅ノ减免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル者ニ限リ府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

第百十四條 市制施行ノ府縣ニ於テハ郡廳舎建築修繕費及郡役所費ハ郡ニ屬スル部分ノ負擔トス

第百十五條 府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百十六條 前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十七條 府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變等ノ爲メ必要アル場合ニ限リ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得

第百十八條 府縣知事ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前府縣會ノ議決ヲ經ヘシ

第百十九條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第百二十條 府縣費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第百二十一條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲メ豫備費ヲ設クヘシ但シ府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百二十二條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ內務大臣ニ報告シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百二十四條 決算ハ翌翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ府縣

會ニ報告スヘシ

府縣知事ハ決算ヲ府縣會ニ報告スル前府縣參事會ノ審査ニ付スヘシ若府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

第百二十五條 豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第百二十六條 府縣吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 府縣行政ノ監督  
第百二十七條 府縣ノ行政ハ內務大臣之ヲ監督ス

第百二十八條 此ノ法律ニ規定スル異議若ハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ此ノ法律中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

此ノ法律ニ規定スル行政訴訟ハ處分ヲ爲シ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ

決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ翌日ヨリ起算ス

此ノ法律ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付スヘシ

前項異議ノ決定書ハ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

第一輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

一五七



此ノ法律ニ規定スル異議ノ申立若ハ訴願ノ提起ニ關スル期間ノ計算或天災事變ノ場合ニ於ケル特例ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス  
異議ヲ申立又ハ訴願訴訟ヲ提起スル者アルトキハ行政廳及行政裁判所ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限リ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二百二十九條 內務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スヘシ內務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ或實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス  
內務大臣ハ府縣行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第三百十條 內務大臣ハ府縣ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得  
第三百十一條 內務大臣ハ勅裁ヲ經テ府縣會ノ解散ヲ命スルコトヲ得  
府縣會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

解散後始メテ府縣會ヲ召集スルトキハ府縣知事ハ第五十條第二項ノ規定ニ拘ラス內務大臣ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得  
第三百十二條 府縣吏員ノ服務規律ハ內務大臣之ヲ定ム

第三百十六條 府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ許可ヲ經スシテ處分スルコトヲ得

第七章 附則

第三百十七條 此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第三百十八條 島嶼ニ關スル府縣ノ行政ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得  
町村制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ  
沖繩縣ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三百十九條 法律命令中別段ノ規定アルモノヲ除ク外此ノ法律ニ規定スル郡長ノ職務ハ島司ヲ置ケル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ  
第四百十條 從前郡市經濟ヲ異ニシタル府縣ノ財產處分ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市郡部ノ經濟ヲ分別シ市郡部會郡部會市郡部參事會郡部參事會ヲ置キ其ノ他必要ナル事項ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四百十一條 (明治二十三年法律第八十八號府縣稅

第三百二十三條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事
- 二 使用料手數料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
- 三 寄附若ハ補助ヲ爲ス事
- 四 不動産ノ處分ニ關スル事
- 五 第一百十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 六 繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事
- 七 特別會計ヲ設クル事

第三百二十四條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 府縣債ヲ起シ或起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更スル事但シ第一百七條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 (地租二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス)
- 三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第三百二十五條 府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

徵收法及) 地方稅ニ關スル從前ノ規定ハ此ノ法律ニ依リ變更シタルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルマテ其ノ效力ヲ有ス

第三百二十二條 明治二十三年法律第三十五號府縣制ノ規定ニ依リ選舉セラレタル府縣會議員府縣參事會員ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ其ノ職ヲ失フ

本法發布後施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ府縣會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス

第三百二十三條 此ノ法律施行ノ際府縣會及府縣參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ルマテノ間府縣知事之ヲ行フ

第三百二十四條 此ノ法律施行ノ際議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ノ調製ニ限リ第九條乃至第十二條ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ選舉人名簿ハ翌年調製スル選舉人名簿確定ノ日マテ其ノ效力ヲ有ス

第三百四十五條 此ノ法律ニ定ムル直接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第三百四十六條 明治十三年第十五號布告府縣會規則明治十四年第八號布告區郡部會規則明治二十二年法律第六號府縣會議員選舉規則其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ  
第三百四十七條 此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ



命令ヲ以テ之ヲ定ム

●府縣行政及郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項(抜抄)

(明治三十一年六月二十九日) 改正(三三年第三一勅令第三百十五號) 號(三五年第一三三號)

府縣行政及郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
左ニ掲クル事項ハ主務大臣ノ許可ヲ要セス但シ郡ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ  
四 其ノ府縣ニ於テ從來賦課シタルモノト同種類ノ夫役現品ノ賦課ニ關スル件  
八 (地租二分ノ一以下ノ附加税ノ賦課ニ關スル件)  
十一 府縣制第八條ノ場合ニ於テ關係府縣知事ノ協議一致シタルトキ

●市部會郡部會等ノ特例(明治三十二年六月二十一日) 勅令第二百八十五號  
朕市部會郡部會等ノ特例ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 從來市部郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於テハ內務大臣ハ其ノ區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設ケシムルコトヲ得  
第二條 市部會郡部會ハ各市部郡部ニ於テ選出シタル府縣會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

附則

第九條 本令ニ依リ市部會郡部會ヲ設クル府縣ニ於テハ從來市部若ハ郡部ニ關スル事件及市郡部連帶ニ關スル事件ハ本令ニ於テモ亦其ノ効力ヲ有ス  
第十條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設クル府縣(明治三十二年六月二十一日) 內務省令第二十五號

本年勅令第二百八十五號ニ依リ左ノ府縣ニ於テハ從來ノ區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設クヘシ  
東京府 京都府 大阪府 神奈川縣  
兵庫縣 愛知縣 廣島縣

●縣會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別法

(明治三十四年三月二十日) 改正(三五年第二四兵庫縣告示第九十號) 號(三六年第五三八號三九年第九一號四〇) 年第三三號、四二年第二二號

第一條 縣會ニ於テ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ  
一歲入豫算 但市部郡部連帶ニ屬スルモノ  
一歲出豫算 但警察部ノ警察ニ係ル諸費  
警察 但警察部ノ警察ニ係ル諸費  
其他市部郡部ニ屬セサル諸費  
警察廳舎建築及修繕費 但警察部及其附屬物ノ建築

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

市部又ハ郡部ニ於テ選出スヘキ府縣會議員ノ數十二名ニ滿タサルトキハ府縣制第五條ノ定員ニ拘ラス之ヲ十二名トス

第三條 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府縣會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第四條 市部會郡部會ヲ設ケタル縣ニ於テハ名譽職參事會員ノ定員ヲ八名トス  
市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ノ名譽職參事會員ハ各會ニ於テ其ノ定員ノ半數ヲ選舉ス

市部參事會郡部參事會ハ府縣知事府縣高等官參事會員及各部會ニ於テ選舉シタル府縣名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 府縣費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入ノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第六條 第三條第五條ノ事件ニ付テハ議員定員ノ五分ノ四以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス  
第七條 本令ニ規定スルモノヲ除ク外總テ府縣制ノ規定ヲ準用ス

第八條 市部會又ハ郡部會解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議員ハ府縣會議員ノ職ヲ失フ

土木費

縣會議諸費

市町村傳染病豫防補助費

教育費

教育補助費

救育費

感化院費

勸業費

勸業補助費

縣稅取扱費

修繕ニ屬スル諸費  
但測量用備品費同文具費同  
消耗品費浚渫船ニ係ル諸費  
但縣會議長副議長ノ増手當  
諸備給其他市部郡部ニ屬セ  
サル諸費衛生及病院費

但農事試驗場費害蟲驅除豫  
防費其他事件ノ郡部ニ屬ス  
ルモノヲ除ク  
但勸業技術員ノ補助費害蟲  
驅除豫防補助費其他事件ノ  
郡部ニ屬スルモノヲ除ク

但市部郡部連帶歲入ノ徵收  
諸費縣廳ニ於テ取扱フ市部  
郡部連帶及市部郡部各歲入  
歲出ノ出納ニ屬スル通信費  
同消耗品費同圖書及印刷費



同文具費同備品費縣金庫手  
當其他市部郡部ニ屬セサル  
諸費 (削除)

(衆議院議員選舉費  
縣廳舎建築及修繕費

縣吏員費

但縣稅検査吏員及郡部ニ屬  
スル委員ニ係ル諸費ヲ除ク  
但市部郡部連帶ニ屬スル縣  
有財產ニ係ル諸費

財產費

公園費

土地收用審査費

縣統計費

徵發物件輸送費

(慈惠救濟資編入金  
(農學校資編入金

市町村立小學校教員恩給金補充  
市町村立小學校教員加俸資金補充  
神戶病院基金編入金

豫備費

但市部郡部連帶ノ歲出ニ充  
ツルモノ  
衛生資金ノ歲入歲出豫算ニ關スル件  
各學校資金ノ歲入歲出豫算ニ關スル件  
市町村立小學校教員恩給金補充  
市町村立小學校教員加俸資金補充  
神戶病院基金編入金

一歲入豫算

警察廳舎建築及修繕費

土木費

縣會議諸費

縣稅取扱費

縣會議員選舉費

財產費

行政執行費

豫備費

市部分賦市部負擔額

一市部ニ屬スル部分ヨリ徵收スヘキ額ヲ市ニ分賦ノ

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

出豫算ニ關スル件

一 慈惠救濟資金ノ歲入歲出豫算ニ關スル件  
一 (兵庫縣農工銀行株式引受資金ノ歲入歲出豫算ニ  
關スル件 (削除)  
一 罹災救助基金ノ歲入歲出豫算ニ關スル件  
一 市町村立小學校教員加俸資金ノ歲入歲出豫算ニ關  
スル件

兵庫縣教育資金ノ歲入歲出豫算ニ關スル件

兵庫縣立神戶病院ノ歲入歲出豫算ニ關スル件

兵庫縣立神戶病院基金ノ歲入歲出豫算ニ關スル件

普通教育獎勵金ノ歲入歲出豫算ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件

市部郡部連帶ニ屬スル決算報告ニ關スル件



勸業費

但農事試驗場費害蟲驅除豫防費其他事件ノ郡部ニ屬スルモノ

勸業補助費

但勸業技術員補助費害蟲驅除豫防補助費其他事件ノ郡部ニ屬スルモノ

縣稅取扱費

但縣稅取扱費其他事件ノ郡部ニ屬スルモノ

縣會議員選舉費

但同上

縣吏員費

但(縣稅檢查吏員及)郡部ニ屬スル委員ニ係ル諸費

財產費

但郡部ニ屬スル縣有財產ニ係ル諸費

行政執行費

但事件ノ姫路市及各郡ニ屬スルモノ

豫備費

但郡部歲出ニ充ツルモノ

縣債費

市郡分賦郡部負擔額

郡部ニ屬スル決算報告ニ關スル件

縣稅賦課方法ニ關スル件

縣稅課目課額ニ關スル件

郡部ニ屬スル不動產ノ處分並買受讓受ニ關スル件

郡部ニ屬スル義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ニ關スル件

之ヲ公布セシム

第一條 府縣ハ臨時少額ノ費用ノ爲特ニ賦課徵收ヲ爲スヲ要スル場合ニ於テハ其ノ費用ヲ府縣内市町村ニ分賦スルコトヲ得

前項ニ依リ分賦スヘキ費用ノ限度ハ内務大臣之ヲ定ム

第二條 第一項分賦ノ割合ハ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル市町村ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

第二條 市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ市部ニ屬スル部分ヨリ徵收スヘキ額ヲ市ニ分賦スルコトヲ得

第三條 法律命令中別ニ規定アルモノヲ除ク外市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事件ニシテ其ノ市部ト郡部ト利益ノ程度ヲ異ニシ均一ノ賦課ヲ爲シ難キ事情アルトキハ其ノ費用ニ限リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

附則

第四條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●市町村ニ分賦シ得ヘキ費用ノ限度

(明治三十二年六月三十日) 內務省令第二十九號

本年勅令第三百十六號第一條ニ依リ府縣ニ於テ市町村

一郡部ニ屬スル請願巡査費徵收額ニ關スル件

一前各項ニ關聯又ハ付帶ノ件

●縣歲入ニ於ケル市部郡部收入ノ割合

(明治三十二年二月十六日) 兵庫縣告示第三十九號

明治三十二年年度以降縣歲入ニ於ケル市部郡部收入ノ割合縣會ノ議決ヲ經縣歲出ニ於ケル市部郡部分賦ノ割合ト同シク左ノ通定メタリ

總額ノ百分ノ十九 市部

總額ノ百分ノ八十一 郡部

●縣歲出ニ於ケル市部郡部分賦ノ割合

(明治三十二年二月十六日) 改正(三十五年) 兵庫縣告示第三十八號

府縣制(第七十一條第一項)ニ依リ明治三十二年年度以降縣歲出ニ充ツヘキ縣稅ノ市部郡部分賦ノ割合縣會ノ議決ヲ經左ノ通定メタリ

總額ノ百分ノ十九 市部

總額ノ百分ノ八十一 郡部

(但自明治三十五年年度繼續ニ係ル縣廳舍建築費ハ市部百分ノ四十、郡部百分ノ六十トシ明治三十五年度マテ此割合ニ據ルモノトス)

●府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル制(明治三十二年六月二十九日) 勅令第三百十六號

府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ

ニ分賦スルコトヲ得ヘキ費用ノ限度ハ當該年度ノ府縣稅既定豫算額ノ十分ノ一トス

●市部ニ屬スル費用市ニ分賦

(明治三十三年二月二十二日) 兵庫縣令第十三號

本縣市部歲入豫算中市部ニ屬スル部分ヨリ徵收スヘキ額ヲ市ニ分賦ノ件縣會ノ議決ヲ經左ノ通定ム

兵庫縣市部歲入豫算中市部ニ屬スル部分ヨリ徵收スヘキ額ハ明治三十三年年度以降神戸市ニ分賦ス

●市分賦額納期(明治三十八年九月十一日) 神戸市長

明治三十三年三月兵庫縣訓令第十八號兵庫縣市部歲入豫算中市分賦額ノ納期ヲ左ノ通改メ本年度第三期分ヨリ施行ス



第一條 (地方稅)ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

〔地租三分一以内〕

營業稅並雜種稅

戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 (地方稅)ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ

警察費

警察廳舍建築修繕費

土木費

〔區〕町村土木補助費

府縣會議諸費

衛生及病院費

教育費

〔區〕町村教育補助費

郡〔區〕廳舍建築修繕費

〔郡區〕吏員給料旅費及廳中諸費

教育費

〔浦役場及難破船諸費〕

諸達書及揭示諸費

勸業費

〔戶長以下給料旅費〕

〔地方稅〕取扱費府縣廳ニ屬スル爲換方給料爲  
換手數料現金運送等ノ費用

府縣廳舍建築修繕費

〔府縣監獄費〕

縣會ニ報告シ然ル後內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第八條 (削除)

第九條 (島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得)

第十條 (削除)

●地方稅中營業稅雜種稅ノ種類

(明治十三年四月八日) 改正(一五年)  
太政官布告第十七號 第三號

明治十一年十二月二十九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類〔及ヒ制限〕左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ〔但國稅アルモノハ課稅ノ限リニ非ラス〕

商業

工業

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ

料理屋、待合茶屋、遊船宿、芝居茶屋、飲食店ノ類

湯屋

理髮人

雇人請宿

遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優、幫間、藝妓ノ類

市場

演劇其他興行遊覽所

一 〔府縣監獄建築修繕費〕

〔以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス〕

一 〔豫備費豫算外ニ生シタル事件ノ發達  
及豫算ノ臨時不足ニ充ル者〕

〔右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ〕

第四條 〔其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取り其年二月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ〕

〔地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取り府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルコトヲ得〕

第五條 〔非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取り內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ〕

〔前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取り其補充費ヲ徵收スルコトヲ得〕

第六條 〔地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ〕

第七條 〔府知事縣令ハ一周年度間ノ出納ヲ計查シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府

遊技場 玉突大弓場行  
人寄席 射的吹矢ノ類

船 解漁船川船及五、車 馬車人力車荷積馬車荷積大七六  
拾石未満海船 八車荷積中小車荷積牛車ノ類

〔但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス〕

水車

乘馬

屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ府知事〔縣令〕ヨリ內務大藏兩〔卿〕ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 (削除)

第四條 府知事〔縣令〕ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルコトヲ得

第五條 府知事〔縣令〕ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ議決ヲ以テ各個ノ稅額ヲ査定スヘシ

第六條 (削除)

第七條 (削除)

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事〔縣令〕ヨリ內務大藏兩〔卿〕ニ報告スヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ府知事〔縣令〕ヨリ內務大藏兩〔卿〕ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ



●府縣稅家屋稅賦課制

(明治三十二年六月十七日 勅令第二百七十六號)

朕府縣稅家屋稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
府縣ハ其ノ府縣ノ全部若ハ一部ノ地ニ於ケル家屋ニ對シ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス  
前項ニ依リ新ニ家屋稅ヲ賦課セントスルトキハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

附則

本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●姫路市ニ家屋稅施行

(明治三十五年二月十日 兵庫縣令第十四號)

明治三十二年六月勅令第二百七十六號ニ依リ郡部會ノ議決ヲ經且内務大臣兩大臣ノ許可ヲ得テ明治三十五年度ヨリ姫路市ニ家屋稅ヲ施行ス

●府縣制郡制中直接稅ノ種類

(明治三十二年六月十九日 內務省告示第六十九號) 改正(三十二年第七四號 內務省告示第六十九號) 年第六

本年法律第六十四號府縣制第四百五條本年法律第六十五號郡制第二百七十七條直接稅ノ種類左ノ如シ

國稅

第二條 前條賦課期日後納稅義務ノ消滅シ又ハ變更シタル場合ト雖モ該期間ノ前納稅金ハ之ヲ還付セス其ノ徵收セサルモノハ仍之ヲ徵收ス但シ其ノ義務ノ移轉ヲ受ケタル者ハ其ノ前納期間ノ終リマテ納稅セサルモノトス

納稅義務ノ消滅又ハ變更ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ届出ヲ爲シタル期間中仍從前ノ稅ヲ賦課ス

第三條 縣稅ノ脫稅者アルトキハ脫稅シタル年度ノ賦課額ニ依リ其ノ脫稅期間ノ稅金ヲ一時ニ賦課ス

市町村會ノ議決ニ依リ賦課額ヲ定ムヘキモノニ在テハ縣會議定ノ普通課率ニ依リ其ノ脫稅金額ヲ算定ス

第二章 地租割

第四條 地租割ハ年稅トシ課率ヲ二分シ半額ハ其ノ年四月一日半額ハ其ノ年十月一日現在ノ地租額ニ依リ納租者ニ賦課シ前納トス

地租割ノ賦課率ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依ル

第五條 前條賦課期日後納稅義務變更ノ爲稅額ノ増加スル場合ト雖モ有租地成ノ外之ヲ賦課セス

第三章 營業稅及雜稅

第六條 營業稅及雜稅ノ賦課率ハ毎年度課目課額ノ定ムル所ニ依ル

第七條 營業稅及雜稅中年稅ニ係ルモノハ其ノ年四月一日月稅ニ係ルモノハ其ノ月一日現在ノ營業者又ハ物件所有者ニ賦課ス

日稅ニ係ルモノハ開場前届出ノ日數ニ應シ届出ノ時

所得稅 所得稅法第三條第一項第二 種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク 營業稅

地租

府縣稅

地租割 戶數割 家屋稅 營業稅 雜稅 營業稅附加稅 所得稅附加稅 礦業稅附加稅

●兵庫縣郡部縣稅賦課規則

(明治三十五年二月十日 兵庫縣令第十六號) 改正(四〇年第二號、四一年第九號第二八七號) 號第三

明治三十一年二月兵庫縣々稅賦課規則郡部會ノ議決ヲ經左ノ通改ム

兵庫縣郡部縣稅賦課規則

第一章 總則

第一條 縣稅中賦課期日ヲ定メタルモノハ其ノ期日ニ於テ納稅義務ヲ有スル者ニ賦課ス

賦課期日後納稅義務ノ發生シタルトキハ其ノ日ヲ以テ期日トシ年稅ハ其ノ月ヨリ月割ヲ以テ賦課シ月稅ハ十五日以前ニアルトキハ全額十六日以後ニアルトキハ半額ヲ賦課ス

賦課期日後納稅義務變更ノ爲稅額ヲ増加シタルトキハ其ノ日ヲ以テ期日トシ前項ノ例ニ依リ差額ヲ賦課ス

々賦課ス其ノ期限ヲ延長シ又ハ期限中新タニ課稅標準ヲ増加シタルモノノ増加額ニ對シテモ亦同シ  
屠畜稅ハ屠殺ノ時々其ノ營業者ニ賦課ス但數日又ハ數月ニ涉リ屠殺スヘキ見込數ニ依リ豫メ賦課スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ徵收後稅額ニ異動ヲ生シタルトキハ追徵又ハ還付ス

第八條 營業稅及雜稅中料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店湯屋理髮人ハ課目課額ニ定ムル各市町村ノ等級課率ヲ以テ其ノ年四月一日現在ノ營業者ニ乘

シ各市町村營業者ノ負擔總額ヲ定メ市會ニ於テハ其ノ年四月三十日マテニ町村會ニ於テハ其ノ年四月二十日マテニ營業ノ狀態ヲ標準トシ各營業者ノ等級賦課額ヲ議定スヘシ

第九條 狩獵稅ハ狩獵法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ時々賦課ス

第十條 物品販賣業ハ店舖其ノ他ノ營業場ヲ設クルト否トニ拘ハラズ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト看做ス

一 一定ノ製造場ナク原料ヲ供給シ工錢ヲ仕拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者

二 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者

三 牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鷄卵牛乳等其ノ產物ヲ



販賣スル者

- 四 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者
- 五 動植物等普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者
- 六 自家收穫ノ農産物又ハ漁獲物等ヲ店舗ヲ設ケテ販賣シ又ハ品質ヲ變更シテ販賣スル者
- 第十七條ノ營業者其ノ製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス
- 第十一條 金錢貸付業及物品貸付業ハ利息又ハ貸料ヲ受ケテ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲ス者亦同シ
- 第十二條 運送業ハ運賃又ハ手數料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ謂フ
- 第十三條 請負業ハ土功建築又ハ勞役事業ノ請負ヲ爲シ若クハ勞役者ノ供給ヲ爲ス請負ヲ謂フ
- 第十四條 席貸業ハ貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ謂フ
- 第十五條 宿屋業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ハラズ旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシムル者ヲ謂フ牛馬宿モ宿屋業ト看做ス
- 第十六條 雜商業ハ兩替藝妓置屋等前數條ノ各業ニ屬セサル商業ヲ謂フ
- 第十七條 製造業ハ一定ノ製造場ニ於テ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

於テ稅額ノ増加スルモノハ出稼地ニ於テ其ノ差額ヲ賦課ス

- 第二十二條 人寄席ハ諸興行ヲ爲ス常設ノ場所ヲ謂フ人寄席ニ於テ爲ス諸興行ニハ興行稅ヲ賦課セス
- 第二十三條 船稅ハ定營場所在ノ市町村ニ於テ賦課ス芝居茶屋飲食店湯屋理髮人稅ノ賦課ヲ受クヘキ新規開業者アルトキハ市町村會ニ於テ其ノ營業者ノ賦課額ヲ議定スヘシ但市町村會ハ豫メ賦課額査定ノ方法ヲ議定シ置キ之ニ基キ其ノ時々賦課スルコトヲ得
- 第二十五條 縣稅營業者ニシテ國稅營業稅ヲ課セララルニ至リタルトキハ其ノ月分ヨリ月割ヲ以テ既納ノ稅金ヲ還付ス
- 國稅營業者ニシテ縣稅ノ賦課ヲ受クルニ至リタルトキハ新規開業ノ例ニ依ル
- 第二十六條 第八條第二十四條ノ賦課額ハ他ノ市町村ニ轉スルモ該年度中ハ之ヲ變更セス
- 第二十七條 年稅ハ二期ニ區分シ其ノ年四月ヨリ九月マテヲ前半期トシ其ノ年十月ヨリ翌年三月マテヲ後半期トス但狩獵稅ハ二期ニ區分セス
- 營業稅及雜種稅ハ總テ前納トス
- 第二十八條 年稅ノ賦課ヲ受クヘキ營業者ニシテ廢業ノ後同納稅期間ニ更ニ同種ノ營業ヲ爲ストキ既ニ其ノ期ノ納稅ヲ了シタル者ハ其ノ期間ハ再ヒ課稅セス
- 第二十九條 左ニ掲クルモノハ營業稅、雜種稅ヲ賦課セス

- ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物、洗濯ヲ爲ス者ハ製造業ト看做ス
- 第十八條 職工ハ賃錢其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケテ他人ノ需ニ應シ若クハ他人ニ傭役セラレ工業ニ從事スル者ヲ謂フ職工ノ弟子ト雖モ賃錢ヲ受クル者ハ職工ト看做ス
- 第十九條 物品販賣業者中其ノ家族又ハ傭人ヲシテ行商セシムル場合ニ於テ其ノ營業主ト同居セサル者ハ單獨營業者ト看做ス
- 第二十條 商業稅工業稅雜種稅中ノ各業目ヲ互ニ兼ヌル者ハ各別ニ課稅ス
- 店舖又ハ營業場ヲ異ニスル者ハ其ノ店舖又ハ營業場毎ニ課稅ス但同一市町村内ニ在ルモノハ此限リニアラス
- 左ニ掲クル兼業ヲ爲ストキハ其ノ一ニ就キ課稅ス其ノ稅額異ナルトキハ重キニ依リ同シキトキハ業體ノ重ナルモノニ依ル
- 一 營業場内ニ於テ料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ヲ交互兼ヌル者
- 二 營業場内ニ於テ物品販賣業飲食店ヲ交互兼ヌル者
- 三 雜種稅中遊藝師匠遊藝稼人ヲ交互兼ヌル者
- 四 同藝妓遊藝師匠ヲ交互兼ヌル者
- 第二十一條 藝妓ニシテ出稼シタルトキハ其ノ出稼地ノ稅額ニ依リ賦課ス其ノ月分既ニ納稅シタル場合ニ

- 一 農隙些細ノ藝細工
- 二 理髮人ノ外婦女子ニシテ賃工ヲ爲ス者
- 三 年齡十五未滿六十年以上ノ職工但他人ヲ傭役スルモノヲ除ク
- 四 蠶絲製造製茶
- 五 一定ノ工場ニ定傭ノ職工
- 六 遊藝師匠遊藝稼人ニシテ不具廢疾等ノ爲自用ヲ辨シ能ハサル者
- 七 神佛宗教祭典又ハ慈善ノ爲ニスル者ニシテ營利ノ目的ニ非サル演劇其ノ他興行遊覽所遊技場
- 八 運送業ノ内傭人ヲ使用セサルモノ
- 九 蠶絲製造一途ニ用ユル水車蒸氣器械
- 十 倉庫船水田ノ耕作ニ用ユル船水災ノ爲陸地ニ備ヘ置ク船橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用ユル船船橋ノ組成ニ用ユル船航海中本船ニ掲ケ置ク傳馬船ハツテ一ラ船ノ類
- 十一 軌道所屬ノ車耕作一途ニ用ユル車非常專用ノ車神佛宗教祭典專用ノ車育兒用ノ車製造所若クハ鐵道停車場ノ如キ一構内ニ專用ノ車
- 十二 自用(營業用ニ非サルモノ)ノ水車
- 十三 官用公用ノ船車馬
- 第三十條 漁業稅ノ賦課方法ハ別ニ之ヲ定ム
- 第四章 營業稅附加稅
- 第三十一條 一 營業稅附加稅ハ本稅ニ基キ其ノ納稅者ニ賦課ス



營業稅附加稅ノ賦課率ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依ル

第五章 所得稅附加稅

第三十一條ノ二 所得稅附加稅ハ本稅(所得稅法第三條第二種ノ所得稅中無記名債券ニ係ルモノヲ除ク)ニ基キ其ノ納稅者ニ賦課ス

第六章 戶數割

第三十二條 戶數割ハ年稅トシ其ノ年四月一日ニ於テ

- 一 戶ヲ構ヘ現住スル者ニ賦課ス
- 左ニ掲クル者ハ一戶ヲ構ヘタルモノト看做ス
- 一 本籍寄留ヲ問ハス戶主又ハ家族ニシテ別ニ一戶ヲ成ス者
- 二 同居ニシテ爨炊又ハ經濟ヲ異ニスル者
- 三 官有公有ノ家屋若クハ會社寺院等ニ居住シ獨立ノ生計ヲ營ム者
- 四 旅人宿下宿屋等ニ寄寓シ獨立ノ生計ヲ營ム者
- 五 三ヶ月以上本縣内ニ滞在スル者

第三十三條 戶數割ハ前條ノ現住戶數ニ豫算ニ定ムル課率ヲ乘シ各町村現住者ノ負擔總額ヲ定メ町村會ニ於テ其ノ年四月二十日マテニ各戶ノ賦課額ヲ議定ス

第三十四條 町村會ニ於テ戶數割ノ負擔ニ堪ヘスト認定シタル者ハ戶數割ヲ賦課セサルコトヲ得

課額ヲ議定スルトキハ家屋ノ種類敷地ノ等級其ノ他相當ノ標準ニ依リ等差ヲ設クヘシ

第四十三條 毎年四月以後ニ於テ家屋ヲ新築シタルトキ又ハ家屋ノ増築ニ依リ坪數ヲ増加シタルトキハ其ノ建築落成ノ月ヨリ增加坪數ニ豫算ニ定ムル課率ヲ乘シ月割ヲ以テ賦課ス

第四十四條 家屋稅ハ二期ニ區分シ其ノ年四月ヨリ九月マテヲ前半期トシ其ノ年十月ヨリ翌年三月マテヲ後半期トシ總テ前納トス

第四十五條 左ノ家屋ニ對シテハ家屋稅ヲ賦課セス

- 一 私立學校校舍
- 一 戶締ナキ小屋ノ類

第八章 附則

第四十六條 此規則ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

第四十七條 規則第八條第四十一條ニ依リ市町村會ニ於テ各營業者又ハ各家屋所有者ノ賦課額ヲ議定スヘキ期日ハ明治三十五年度ニ限リ其ノ年五月二十日マテ延期スルコトヲ得

郡部營業稅及雜稅各業目中業體ノ種類

營業稅及雜稅ノ各業目中必要ト認ムルモノニ就キ其業體ノ種類取調候處凡ソ別紙ノ通ニ付課稅上爲御參考此段及通牒候也

總額ヲ減スルコトヲ得ス

第三十五條 賦課期日ニ於テ現ニ恤救規則ニ據リ救助ヲ受クル者ハ戶數割ヲ免除ス

第三十六條 戶ヲ構フル者同納稅期間ニ戶ヲ廢シタル後更ニ戶ヲ構フルモ其ノ期間ハ再ヒ課稅セス

第三十七條 新ニ一戶ヲ構ヘタル者及神戸市又ハ姫路市ヨリ移轉シタルモノハ町村會ニ於テ賦課額ヲ議定スヘシ但町村會ハ豫メ賦課額査定ノ方法ヲ議定シ置キ之ニ基キ其ノ時々賦課スルコトヲ得

第三十八條 第三十三條及第三十七條ノ賦課額ハ他ノ町村ニ轉スルモ該年度中ハ之レヲ變更セス

第三十九條 戶數割ハ二期ニ區分シ其ノ年四月ヨリ九月マテヲ前半期トシ其ノ年十月ヨリ翌年三月マテヲ後半期トシ總テ前納トス

第七章 家屋稅

第四十條 家屋稅ハ姫路市内ニ於ケル家屋ニ對シ其ノ所有者ニ賦課ス

第四十一條 家屋稅ハ年稅トシ毎年四月一日現在家屋ノ總坪數ヲ定メ之ニ豫算ニ定ムル課率ヲ乘シテ市内ニ於ケル家屋所有者ノ負擔總額ヲ定メ市會ニ於テ其ノ年四月三十日マテニ各家屋所有者ノ賦課額ヲ議定スヘシ

前項ノ家屋坪數中ニハ二階以上ノ坪數ヲモ包含ス第四十二條 市會ニ於テ前條ニ依リ各家屋所有者ノ賦

追テ別紙ハ本日發行縣報第八百八十九號ノ通ト御承知相成度候

(別紙) (兵庫縣報第八百八十九號縣報內登載)

兵庫縣營業稅及雜稅各業目中業體ノ種類

營業稅

商業

物品販賣業

- 一 物品販賣業ノ種類凡ソ左ノ如シ
- 穀類、青物類、鹽、味噌、醬油、漬物類、酒類、酒糟類、酢、魚介類、鳥獸及同肉類、卵、牛乳商、酪類、脂類、砂糖類、菓子類、茶類、氷雪、飲料水、清涼飲料水、醃、飴湯、麥湯、乾物類、海藻類、醬類、麴、麵類、麵粉類、粉類、煎豆、納豆、豆腐屋、蒟蒻屋、蒟、燒甘藷、果物類、食品罐詰類其他食料品及飲料品ノ類
- 衣服類、帽子類、足袋、ハッチ類、袋物類、組物類、編物類、紐類、綿類、絲類、麻苧類、寢具類、敷物類、旗幟類、古着類、繭、香薰類、化粧品類、石鹼、扇子團扇類、金銀其他細工物、針、鈕、眼鏡類、鏡類、印材、印版、印肉、彫刻物、繪畫類、押繪類、寫真、繪馬類、人形類、碁將碁雙六、骨牌其他遊戲品、盤、樂器類、時計寒暖計及晴雨計類、度量衡器、算盤其他計數器、陶磁器類、素燒土器類、漆器類、草具類、護謄類、鞆類、銃器類、弓矢刀劍類、擊劍道具、運動器械、古物商、骨董商、金物商、硝子類、



點火具類、神佛具類、葬具類、桌子、椅子、指物類、箱類、曲物類、籠類、建具類、防火具類、甕類、桶類、厨具其他家具類、蠶具、綿打具、綿線具、紡績具、機具、刷毛、銅版鉛版石版類、速寫版類、活字、疊、疊表及莫莖類、牛馬具類、農具類、船具類、獵具類、釀造具、臼類、諸車、籠類、編蝠傘、傘其他兩具類、桐油紙類、杖類、行李類其他器具及器械類、圖書類、文房具類、各種印刷物、紙類、煙管、煙草類、艾、生蠟、蠟燭、油類、點火用品<sup>火口、燭芯、燭木、燭寸</sup>、火藥及彈丸類、煙花、標本類、瓢類、造花類、履物類、履物表及鼻緒類、屑物類、鑛物類、染料類、繪ノ具類、藥種商、藍類、膠、漆、柿澁、鑛泉類、荒物類、帚類、薪炭類、石炭、コークス、石灰、セメント、灰類、肥料、竹木材、竹木皮類、屋根板及屋根草類、種苗類、植物類、植木及庭石類、砥石、瓦及煉瓦、土石類、磨粉類、秣草、養魚商、牛馬商、新聞雜誌賣捌所、同取次所

金錢貸付業

一金錢貸付業ノ種類凡ソ左ノ如シ  
普通ニ稱スル貸付業、質屋

物品貸付業

一物品貸付業ノ種類凡ソ左ノ如シ  
貨本業、衣服貸付業、夜具貸付業、器具貸付業、水車貸付業、諸車貸付業、葬具貸付業、船舶貸付業、植木貸付業、貨牛馬業、穀物貸付業、鬻貸付業、人

月一日以後ニ於テ課税スヘキモノトス

工業

製造業

一製造業ノ種類凡ソ左ノ如シ  
漬物製造業、乾酪製造業、脂類製造業、菓子製造業、水雪製造業、清涼飲料水製造業、乾物類製造業、海苔類製造業、凍豆腐製造業、凍蒟蒻製造業、醬類製造業、麴類製造業、麵類製造業、麵粉製造業、粉類製造業、食品罐詰製造業其他食料品及飲料品ノ類製造業、織物製造業、裁縫業、縫箔業、帽子製造業、足袋製造業、袋物製造業、組物製造業、編物製造業、莫大小製造業、紐打業、綿製造業、絲類製造業<sup>生絲ヲ除ク</sup>、製麻業、紡績業、寢具製造業、敷物類製造業、染物業、洗濯業、織物糊付業、綿布晒業、上繪業、織物靴付業、形付業、機屋、織物仕直屋、旗幟染業、香薰物製造業、化粧品製造業、石輪製造業、櫛管筭類製造業、元結製造業、鬘及指形類製造業、煙管製造業、扇子團扇製造業、金銀其ノ他細工業、眼鏡製造業、鏡製造業、彫刻業、印肉製造業、繪畫業、押繪業、繪馬製造業、人形類製造業、基將基雙六類製造業、骨牌其ノ他遊戯品製造業、鑿製造業、樂器製造業、時計寒暖計及晴雨計類製造業、時計修復業、度量衡器製作業、算盤其ノ他計數器製造業、陶磁器製造業、素燒土器製造業、漆器製造業、製皮業、革具類製造業、護謄製造業、鞆類製造業、銃器類製造業、

形貸付業

運送業

一運送業ノ種類凡ソ左ノ如シ  
水陸運送世話人、運送取扱人、瀛車船舶荷積取扱人、運送請負業、馬車營業、陸運營業、廻漕業、解船營業、乘合船業、渡船營業、荷問屋、船問屋

請負業

一請負業ノ種類凡ソ左ノ如シ  
建築請負業、大工仕事請負業、土方仕事請負業、左官仕事請負業、井戸堀及井戸浚請負業、灌水請負業、排水請負業、公告印刷物等ノ配達請負業、點燈請負業、掃除請負業、埋火葬請負業、袍衣及產褥汚物請負業、轉居請負業、荷造請負業、測量請負業、製圖請負業、公告請負業、家挽請負業、ペンキ塗請負業

席貸業

一席貸業ノ種類凡ソ左ノ如シ  
普通ニ稱スル席貸業、溫泉場業、海水浴場業

宿屋業

一宿屋業ノ種類凡ソ左ノ如シ  
旅人宿、下宿屋、木賃宿、溫泉宿、海水浴宿、廻漕船宿、荷主宿、牛馬宿

雜商業

一雜商業ノ種類凡ソ左ノ如シ  
兩替屋、藝妓置屋、代書業、蓄音器、肺量器、公ナル周旋業、代辨業、仲立業、仲買業<sup>公ナル周旋業以下四種ハ明治三十六年一</sup>

弓矢刀劍類製造業、擊劍道具製造業、金物具製造業、硝子製造業、點火具製造業、運動器械製造業、神佛具製造業、葬具製造業、卓子製造業、椅子製造業、指物業、箱類製造業、桶類製造業、曲物業、籠類製造業、建具類製造業、表具屋、防火具製造業、甕類製造業、厨具其他家具類製造業、蠶具製造業、綿打具製造業、綿線具製造業、紡績具製造業、機具製造業、刷毛製造業、銅版鉛版石版類製造業、速寫版類製造業、疊製造業、牛馬具製造業、農具製造業、造船業、船具製造業、獵具製造業、釀造具製造業、臼類製造業、車製造業、籠類製造業、編蝠傘、傘其ノ他兩具類製造業、杖類製造業、行李類製造業、其ノ他器具及器械ノ類製造業、桐油紙類製造業、疊表及莫蔭類製造業、箆製造業、製本業、帳簿製造業、文房具製造業、製紙業、煙草製造業、艾製造業、點火用品製造業、生蠟製造業、蠟燭製造業、油類製造業、烟花製造業、魚鳥獸蟲類刺製業、履物類製造業、履物表及鼻緒製造業、染料製造業、繪ノ具製造業、藍製造業、蠶種製造業、膠製造業、漆製造業、柿澁製造業、薪切業、炭燒業、コークス製造業、石灰製造業、セメント製造業、灰類製造業、肥料製造業、砥石切業、割石業、瓦及煉瓦製造業、鈕製造業、磨粉類製造業、金銀銻解業、鑄物業、鍛冶屋、製綿業、針製造業、鍍金銀業、塗物業、金銀箔匠、磨キ物業、金銀其ノ他燒付業、燒織業、陶磁器類彩色業、金銀



鑛物精鍊業、鑄掛屋、研屋業、造花業、板類製造業

印刷業

一 印刷業ノ種類凡ソ左ノ如シ

石版印刷業、活版印刷業、銅版印刷業、木版印刷業

職工

一 職工ノ種類凡ソ左ノ如シ

牛乳搾取職、乾酪製造職、脂類製造職、菓子職、製茶職、製水職、製麵職、湯葉職、海苔製造職、寒天製造職、麵打職、製粉職、清涼飲料水製造職、罐詰職、料理人、椎茸造職、仕立職、縫箔職、袋物職、組物職、編物職、紐打職、莫大小職、繡職、綿打職、綿線職、絲捻職、生絲捻職、生絲括束職、麻結職、麻繩職、綿子一ル等毛撚職、染物職、洗濯職、織物糊付職、綿布晒職、上繪師、織物艶付職、形付職、機織職、織物仕直職、紋組職、紺屋形紙職、意匠職、香薰物職、化粧品具職、石鹼職、櫛引職、元結引職、髮結職、鬚形職、煙管張職、煙管直職、扇子團扇職、金銀其ノ他細工職、眼鏡職、鏡職、鏡磨職、彫刻師、印肉職、寫真師、押繪職、繪馬職、人形職、基將茶雙六職、骨牌其ノ他遊戯品職、毬職、樂器職、太鼓張職、時計職、度量衡製作職、算盤其ノ他計數器職、印刷所職工、陶磁器職、素焼土器職、塗物職、調草職、革具職、護謄職、鞆職、弓矢刀劍職、銃器職、擊劍道具職、鐵工、鋸目立職、硝子職、神佛具師、卓子職、椅子職、指物職、大工、桶工、籠職、建具職、表

飲食店

一 飲食店ノ種類凡ソ左ノ如シ

饅屋、鮮屋、肉店、煮賣屋、蕎麥屋、饅饅屋、汁粉屋、雜煮屋、天麩羅屋、田樂屋、氷水屋、辨當屋、居酒屋

遊藝師匠

一 遊藝師匠ノ種類凡ソ左ノ如シ

三味線、琴、琵琶、鼓、太鼓、笛、箏、鼓弓、淨瑠璃、踊、振付、音頭取、碁、將碁、插花、茶ノ湯、謠曲

遊藝稼人

一 遊藝稼人ノ種類凡ソ左ノ如シ

淨瑠璃、新内、長唄、小唄、軍談、講釋、祭文讀、昔話、茶番、寫繪、八人藝、太鼓、琴、三味線、踊、人形遣、曲馬、輕業、足藝、手品遣、獨樂廻シ、鳥獸蟲類遣、浮カレ節、能狂言、物真似、落語、音樂興行囃シ方、神樂廻シ、萬歳、笛其ノ他演劇興行等街路ニテ觸レ言スルモノ

興行

一 興業ノ種類凡ソ左ノ如シ

相撲、輕業、曲馬、手踊、浮カレ節、身振、物真似、落語、軍談、講釋、昔話、淨瑠璃、茶番、手品、八人藝、操人形、面芝居、猿芝居、犬芝居、足藝、能狂言、獨樂廻シ、力持、祭文、長唄、小唄、新内、競馬、寫繪、幻燈、活動寫真、催眠術、X光線、樂

具師、竈築職、箸削職、楊子削職、綿打具職、箆職、綾取職、刷毛職、疊職、牛馬具職、棒扱職、鐵柄扱職、節通職、確職、確目立職、田臼建職、車職、車直職、獨具職、籠職、傘職、傘直職、笠造職、合羽職、箕造職、蠶具職、杖職、行李職、壘表及莫蔭職、箆職、農具職、運動器械製造職、茶具製造職、芝居道具製造職、製本帳面職、文房具職、紙箱職、紙漉職、印刷版木職、煙草刻職、煙草製造器械職、提灯張職、火口職、燈芯職、燧木職、燧寸職、艾職、線香職、油蠟其ノ他絞職、蠟燭掛職、烟花師、製藥職、履物職、履物直職、鼻緒職、染料職、繪ノ具職、藍製造職、膠製造職、漆搔職、薪切職、炭燒職、コークス職、石灰燒職、石工、瓦職、煉瓦積職、鈕職、磨粉職、金銀器解師、鑄物師、鑄掛職、銀冶職、製綿職、針職、鍍金銀師、蒔繪師、磨キ物職、及物研職、金銀其ノ他燒付職、燒繼職、陶磁器彩色職、金銀鑛物精鍊師、造花師、曲物職、木挽職、柚職、屋根葺職、屋根板削職、左官、ペンキ塗職、井戸堀及井戸浚職、黒鐵職、植木職、庭造師、剝製其ノ他標本職、醫術器械師、紙裁職、理髮職、獸類毛苴職、(鑛夫)、家挽職、屠手、杜氏

料理屋

一 料理屋トハ客室ヲ設ケ割烹ヲナシ來客ノ需メニ應シテ供スルモノヲ云フ

劍會、演劇

遊覽所

一 遊覽所ニ於テ爲スヘキ種類凡ソ左ノ如シ

動物、器械、奇品、書畫展覽、視目鏡、花卉、草園、造人形其ノ他見世物

遊技場

一 遊技場ニ於テ爲スヘキ種類凡ソ左ノ如シ

玉突、楊弓、大弓、射的、投扇、吹矢、玉轉、玉彈、玉打、打毬、圍碁、將碁、釣堀

郡部縣稅賦課規則ニ關スル廳議決定

(明治三十五年四月二十九日決定同月三十日發行第八百九十五號縣報第百九號內各條)

一 第三條ノ脫稅者中ニハ現年度分モ包含ス尤モ年稅ニ屬スルモノヲ前半期中ニ發見シタルトキハ前後二期ニ、後半期中ニ發見シタルトキハ一時期ニ徵收スヘキモノトス

一 明治三十四年度以前ノ雜種稅中料理屋以下七種ノ脫稅者ニ對シテハ仍市町村會ニ於テ其脫稅年度ノ賦課額ヲ議定スヘキモノトス

一 縣稅ノ賦課ヲ免レンカ爲故意ニ國稅營業稅納稅資格ノ申告ヲナシ營業稅法第二十一條ノ期間滿限ノ後引續キ該稅ヲ納ムル者ニアラサルコトヲ發見シタルトキハ縣稅ノ脫稅者トシテ處分ス

一 第七條第二項及第三項但書ノ場合ト雖トモ次年度ニ跨リ一時ニ賦課スルコトヲ得ス



- 一 第八條營業稅ノ等級賦課額ハ各業目毎ニ定ムルヲ可トス尤モ此ノ場合ニ於テ各業目ノ等級賦課額ハ商業稅又ハ工業稅毎ニ通スルモノトス
- 一 山林所有者ニシテ其樹木ヲ用材トシ又ハ薪炭トシテ常ニ販賣スル者
- 一 物品購買ノ廣告ニ應シ其供給ノ請負ヲナス者
- 一 質屋ニシテ其流質物ヲ店舖ヲ設ケテ販賣スル者
- 一 第十條第二項第五號中普通ニ物品ト稱セサルモノトハ公債證書其他有價證券ノ類ヲ云フ
- 一 人力車立場ヲ設ケ自己所有ノ車ヲ挽子ニ貸渡シ齒代トシテ料金を收入スルモノハ物品貸付業トス
- 一 物品貸付業ニハ土地及建物ノ貸付ハ包含セス
- 一 左ニ掲クルモノハ運送業トス
- 一 上下又ハ傳便ト稱シ他人ノ注文ニ應シ貨物ヲ運送スルヲ常業トナス者但第二十九條第八號ノ場合ハ此限ニアラス
- 一 挽子ヲ傭入レ置キ人力車ヲ挽カシムル者
- 一 農家ニ於テ農隙ニ其耕牛馬ヲ使用シテ貨物ヲ運送シ運賃ヲ受クルモ營業ノ目的ニアラサル場合ハ運送業トセス
- 一 殺蠅場ヲ設ケ養蠶家又ハ繭仲買人等ノ注文ニ應シ生繭ノ蠅ヲ蒸殺又ハ火殺スルヲ營業トナス者ハ請負業トス
- 一 雜商業ノ種類中代書業ニハ自ラ筆耕ヲナシ單ニ勞

- 一 力賃ノミヲ得ル目的ノモノハ包含セス
- 一 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ卸賣ヲナシ傍ラ小賣ヲナス者ハ店頭ヲ以テ製造場ト看做ス
- 一 製造業者別ニ營業場ヲ設ケ主トシテ製造品ノ卸賣ヲナシ傍ラ小賣ヲナス者ハ第十條第三項ニ該當スルモノニ反シ主トシテ小賣ヲナシ傍ラ卸賣ヲナス者若クハ自製品ト他製品ヲ仕入レテ販賣シ及製造品ヲ家族又ハ傭人ヲシテ行商セシムル者ノ如キハ物品販賣業トス
- 一 職工ノ弟子ニシテ其賃錢ヲ親方ノ收得トナス者ハ課稅スルノ限ニアラス
- 一 家族ニシテ理髮業ヲ營ムモ各別ニ課稅セス
- 一 月稅營業者ニシテ廢業ノ後同月内更ニ同種ノ營業ヲナストキハ第二十八條ノ例ニ準ス
- 一 (物件稅ハ物件ノ廢滅セサル限ハ課稅スヘキモノトス)
- 一 左ニ掲クル類ハ物件稅ヲ賦課スルノ限ニアラス
- 一 製造業者又ハ物品販賣業者カ營業ノ爲所有スルモノ
- 一 標本又ハ見本トシテ所有スルモノ
- 一 恤救規則ニ據リ救助ヲ受クル者ハ第三十二條現住者ニ算入セス然レトモ救助ヲ受クル者中途之ヲ止ルニ至リタルトキハ新タニ戸ヲ構フルモノトス
- 一 戶數割免除者ニシテ中途資産ヲ得ル等ニテ納稅ノ

候也

資格ヲ備フルニ至ルモ同年度内ハ課稅スルノ限ニアラス

一 同上免除者ニシテ戸ヲ廢シ更ニ戸ヲ構フルモノ戸數割納稅ノ資格ヲ得ルニ至ルモノ亦前項ニ同シ

◎明治三十五年四月二十九日廳議決定ニ關

スル取扱方(明治三十五年五月八日兵庫縣廳内一丙第五號内務部長ヨリ郡市長神戶加西發交ヲ除クニ)

客月三十日發行縣報覽欄内郡部縣稅賦課規則中左ニ掲クル類ハ物件稅ヲ賦課スルノ限リニアラストアル第一項ハ物件ノ製造業者又ハ販賣業者カ其製造シタル物件又ハ販賣スル物件ヲ所有スルモノ別ニ物件稅ヲ課稅セサル趣旨ニ有之候條御了知相成度爲念此段及通牒候也

◎明治三十四年法律第二十七號ニ依ル免租地ニ對シ府縣稅賦課方

(明治三十五年十一月二十六日)

(地甲第一一四號地方局長通牒)

明治三十四年法律第二十七號ニ依ル水害地方田畑免租處分ハ特ニ地租ノ徵收ヲ免除セラル、ニ止マリ荒地處分ノ如ク地價ノ減消ヲ認定セルモノニ非ス從テ府縣稅ハ直ニ該處分ノ效果トシテ免除セラルヘキモノニ無之又斯カル場合ニ於テ府縣制第百十三條ニ依リ府縣稅ヲ減免セントスル向有之候條其納稅者其人ノ資力如何ニ因リ適用セラルヘキモノニシテ直ニ被害ノ事實ニ對シ適用スヘキモノニ無之候條爲御心得此段及通牒

◎醬油稅則等ニ依リ造石稅ヲ納ムル營業者

二 地方稅賦課方(明治三十年三月十日第一一九七號) 内務部長ヨリ郡市長姫路市長ニ通牒

岡山縣照會 三十年一月二十九日

當縣ニ於テハ營業稅法ノ課稅要件ヲ備ヘサル營業者ハ總テ(地方稅)ヲ課スヘキ筈(明治二十九年地方稅ハ其課有之候得共醬油稅則酒造稅法及「混成酒造稅法」ニ依リ造石稅ヲ納ムル營業者ハ營業稅法ノ課稅要件ヲ備ヘサルモ營業稅雜稅規則第一條但書ニ依リ(地方稅)營業稅ヲ課スルコト能ハサルヘクト存居候處右之場合ニ於テ醬油營業者ニ(地方稅)營業稅ヲ課スヘキ向有之哉ニ承知致候右ハ果シテ造石稅ヲ納ムル營業者ニモ(地方稅)營業稅ヲ課スルコトヲ得ル義ト心得可然哉折返シ電信ヲ以テ何分ノ御答相煩度爲念此段及照會候也

縣治局回答 同年二月二十三日

二十九日付議乙第六號問合ノ件ハ(地方稅)ヲ課スルヲ得經同ノ上回答ス

◎府縣稅賦課方

(明治三十一年十月二十六日縣甲)

(第九六號縣治主稅兩局長通牒)

營業稅法第十一條ニ掲クル營業ニ對シテハ府縣稅營業稅ヲ賦課スルヲ得サルノ例ニ有之候處右ノ内度量衡ノ販賣製作ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課シ得ルコトニ今般決







本月十二日附地發第五三號ヲ以テ船舶ノ新造又ハ修繕變更ノ届出アリタルトキハ其都度該届書ノ寫ヲ添ヘ其所有者ノ所在地ノ郡市役所ヘ管海官廳ヨリ右通報方ニ關シ御照會ノ趣了承然ルニ各管海官廳ハ客年ノ新法實施以來事務非常ニ多端ニ有之目下職員缺乏ノ折柄ニ付乍遺憾御來意ニ難應候得共船舶ノ種類名稱積量船籍港並所有者ノ氏名及其異動ハ時々官報ニ掲載致候ニ付可相成ハ右ニテ了知相成候様致度此段及回答候也

●狩獵稅賦課方 (明治三十五年三月二十六日)

相撲俳優遊藝稼人等ニ對シ課稅方ノ義ニ付キ本年地甲第一一號ヲ以テ及通牒候處猶ホ狩獵ニ付テモ同様御取扱相成候様致度爲念此段及通牒候也

●營業稅附加稅賦課方

(明治二十九年十二月五日縣甲第(二一九號)縣治主稅兩局長通牒)

內務省議決定

- 一 營業稅ニ附加スル府縣稅又ハ地方稅ハ會計年度内ニ於ケル國稅ノ賦課額ニ附加スヘキモノトス
- 二 營業稅ノ附加稅ハ本稅(十分ノ二)以內ヲ附加スルノ外府縣稅又ハ地方稅ヲ課スルコトヲ得サルモノナシニ依リ附加稅ニ非サル府縣稅又ハ地方稅ヲ賦課徵收シタル營業者ニシテ營業稅法第二條乃至第五條及第七條乃至第十條ノ規定ニ依リ國稅ノ賦課ヲ受クルニ至ルトキハ過納ニ係ル府縣稅又ハ地方稅ハ下戻ス

●家屋稅課稅標準定メ方

(明治三十五年二月十三日兵庫縣内一甲第(三十四)二六六〇號ノ二內務部長ヨリ姫路市長ニ通牒)

明治三十五年度ヨリ御市ニ縣稅家屋稅施行可相成ニ付テハ市會ニ於テ家屋ノ種類敷地ノ等級其ノ他相當ノ標準ヲ設ケ各家屋所有者ノ賦課額ヲ議定スル事ニ相成居候ニ付右ニ關シテハ彼是不公平無之様慎重ニ御調査ノ上發案相成候様致度依命此段及通牒候也  
追テ各家屋所有者ノ賦課額査定ノ標準ハ可成年度前ニ於テ議決セシメ候様御準備相成度此段申添候也

●家屋稅賦課區分

姫路市長照會 明治三十五年二月十七日

- 今般縣令第十四號ヲ以テ本市ニ家屋稅施行可相成ニ付テハ是レカ調査ニ際シ左記ノ建物ハ課稅スルヤ否ヤ疑義相生シ候ニ付及御問合候條折返シ何分ノ御回報ヲ煩度候也
- 一 戶籍以外ノ椽側
  - 二 道路ニ沿ヒタル戶籍以外ノ庇兩端ニ柱ノ建設シアルモノ
  - 三 甲乙家屋ニ通スル廊下片側締ナキモノ
  - 四 葺下或ハ葺卸ト稱シ家屋又ハ土藏ニ附着シアル建物ニシテ一方又ハ二方ニ締ナキモノ
  - 五 雪隠中戶籍ナキ部分
  - 六 炊事場又ハ井戶屋形ニシテ一方或ハ二方ニ締ナキモノ

ヘキモノトス

- 三 營業稅法第三十一條ノ規定ニ依リ國稅金ヲ減額セラルタル營業者アルトキハ其ノ附加稅タル府縣稅又ハ地方稅モ其ノ割合ニ應シ減額シ徵收スヘキモノトス
- 四 營業稅法第三十條ノ規定ニ依リ國稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル營業者アルトキハ其ノ附加稅タル府縣稅又ハ地方稅ノ徵收モ猶豫シ國稅ノ納額確定ノ上附加稅ヲ徵收スルヲ便トス(但シ府縣稅ニ關シテハ府縣制第七十條ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ議決ヲ經ルヲ要ス)
- 五 附加稅ノ徵收ヲ猶豫シ又ハ附加稅ヲ減額徵收スル等取扱上便宜ノ爲メ營業稅ニ附加スル府縣稅又ハ地方稅ハ營業稅法第二十條ニ規定セル國稅ノ納期ト同一若クハ其ノ以後ニ納期ヲ定メ徵收スルヲ可トス

●明治二十九年十二月五日縣甲第二一九號縣治主稅兩局長通牒取扱方

(明治三十年三月十六日縣甲(第一七號)內務局長通牒)

熊本縣開會(略)ニ對スル縣治局長回答 三十年三月一日  
客年十二月二十八日第一二四二號ヲ以テ營業稅ニ關スル附加稅ノ件ニ付御問合ノ趣了承右附加稅ハ會計年度間ニ於テ徵收スヘキ國稅額ヲ率トシ徵收シ可然義ニ有之候此段及回答候也

モノ

- 七 二階以上ノ階段ノ間
  - 八 敷地ノ官民所有ヲ問ハス寺院境内ニアル庫裡ト稱シ僧侶ノ住居スル家屋
- 內務部長回答 同年二月十八日
- 一 第一、二、三、四、六、七ノ各項ハ戶籍ノ區域内ヲ限リ坪數ヲ調査相成可然
  - 二 第五項ハ戶籍ナキ小屋ニ準シ御取扱相成可然
  - 三 第八項ハ市制第九十七條ニ依リ免除相成可然

●府縣稅戶數割賦課方法改善方

(明治三十二年七月二十二日)

府縣稅戶數割賦課法ハ從來ノ慣行上府縣ニ於テ議定シタル一戶當リ金額ヲ各市町村某日ノ現在戶數ニ乘シテ其市町村ノ總額ト爲シ市町村ハ各人ノ貧富ニ依リ等差ヲ設ケ各人ノ負擔額ヲ議決セシムル向モ有之候處其貧富ノ等差ヲ設ケタルニハ別段據ルヘキ標準ナク市町村會ノ見込ヲ以テ所謂見立割ヲ爲サシムルヲ以テ往々諸種ノ弊害ヲ醸生シ其結果訴願訴訟ヲ提起スルモノ亦少カラス斯ノ如ク賦課ニ標準ナク漠然見込ヲ以テ賦課セシムルカ如キハ弊害ナキ地方ニ於テハ却テ便宜ノ一方法タルコトモ可有之存候得共地方ニ依リテハ或ハ市町村會ヲシテ黨爭私怨ノ府タラシムルノミナラス内地雜居ヲ許サレタル今日ハ外人ニモ亦戶數割ヲ賦課スヘキコト、ナルヲ以テ其貧富ヲ推知スルハ邦人ヨリモ一層困難



難ナルヘキニ付從來ノ如キ漠然見立割ヲ爲サシムルト  
キハ其間又苦情ノ起ルヘキ場合モ可有之候要スルニ戸  
數割ノ賦課方法ニ付テハ市町村會ノ議決ニ對シ嚴重監  
督シ又ハ府縣廳ニ於テ充分其賦課ノ標準ヲ示ス等夫々  
改善ノ方法ヲ講スルノ必要有之義ト存候右ニ付テハ御  
考案モ可有之ト存候ニ付貴縣現在賦課方法ノ得失及將  
來之カ改良ノ御意見承知致度依命此段及照會候也  
追テ市町村ニ於テ特別稅トシテ戸別割ヲ賦課スル向  
モ有之候ハ、本文同様御意見承知致度此段申添候也

府縣稅戶數割及營業稅賦課方法監督方

(明治三十五年九月二十六日)  
(訓第七一七號內務大臣訓令)

府縣稅戶數割及營業稅ノ賦課法ハ從來ノ慣行上府縣會  
ニ於テハ賦課ノ總額ヲ定ムルニ止マリ其各人賦課ノ等  
差ハ舉ケテ之ヲ市町村會ノ議決ニ一任セラル、向多々  
有之ト雖モ是等差ヲ設クルニ當リ據ルヘキ一定ノ標  
準ナク漠然會議ノ見込ヲ以テ所謂見立割ヲ爲サシムル  
トキハ自然紛議ノ因トナルノミナラス其間種々ノ情弊  
ヲ生シ市町村會ヲシテ紛爭ノ府タラシムルノ傾向ナキ  
ニアラス爾今戶數割及營業稅ノ賦課ニ付見立割ニ伴フ  
諸般ノ情弊ヲ矯正セシカ爲メ勗メテ其賦課規則ニ於テ  
賦課ノ標準ヲ設ケ或ハ其標準ヲ設クル手續ヲ定メ其他  
相當規定ヲ設ケテ嚴重監督ノ道ヲ擧ケンコトヲ期セラ  
ルヘシ  
右訓令ス

府縣稅地租割戶數割賦課上注意方

(明治三十六年八月二十八日地甲)  
(第一〇四號內務總務長官通牒)

府縣稅中最モ主要ノ財源タル地租割戶數割ノ賦課ニ付  
其權衡如何ヲ察スルニ概シテ地租割ニ比シ戶數割ノ負  
擔稍重キノ傾向アルハ一般ノ常態ナルカ如シ抑モ戶數  
割ノ納稅義務者中ニハ日常勞働ニ依リ僅々ノ勞銀ヲ得  
以テ生計ヲ營ムカ如キ細民不少ニ拘ハラス尙且苛重ノ  
負擔ヲ課セラル、ノ結果滞納者亦漸ク多キヲ加フルハ  
趨向ヲ呈シ爲メニ徵收上不少手續ヲ要スルノミナラス  
其滞納處分ヲ行フニ方テハ日常ノ業務ニ用ユル器具ニ  
至ルマテ之カ處分ヲ及ホシ尙往々收入上缺損ヲ見ルモ  
ノ多ク而シテ其徵稅上ノ煩ハ延ヒテ累ヲ他ノ一般行政  
上ニ及ホスモノ亦少カラサルモノアリ之ヲ負擔ノ上ニ  
察スルモ將タ事務刷新ノ上ニ觀ルモ頗ル改善ノ必要之  
アル様被存候右ニ就テハ夫々御考案モ可有之ト存候得  
共即今來年度豫算編製ノ際ニモ有之候ニ付右等賦課ノ  
不權衡ナル地方ニ於テハ篤ト御審査ノ上課稅ノ均衡ヲ  
得ラル、様適切ノ方法ヲ講セラレ尙市町村ニ於テ地  
價割戶別割ヲ賦課スルニ付テモ其附加歩合ニ關シ偏重  
偏輕ノ嫌アルモノ間々有之候ヘ共右ハ十分監督ノ上權  
衡ヲ失ハシメサル様御措置相成度依命此段及通牒候也

戶數割戶別割賦課方法改善方

(明治四十一年四月二十三日郡市)  
(長會同ニ於ケル兵庫縣知事訓示)

從來戶數割戶別割ハ非常特別稅法ニ依ル課稅制限ノ爲

メ地方ニ依リテハ其負擔偏重ニ傾ケルノ嫌ナキニアラ  
ス此ノ如キ地方ニ在リテハ今回稅制ノ改正ヲ機トシ其  
權衡ヲ計ルノ必要アルヲ認ム尙其賦課ノ方法ヲ見ルニ  
市町村會カ各戶ノ等差ヲ定ムルニ當リテハ或ハ漠然見  
立割ノ方法ニ依ルモノアリ或ハ標準ヲ設クルモ選擇其  
當ヲ得サルモノアリ其等級ヲ設クル亦甚シク狹キニ失  
スルモノアリ之カ爲メ種々ノ情弊ヲ醸スノミナラス其  
等差ヤ亦往々資力ノ程度ニ適應セズ貧富ノ間著シク負  
擔ノ權衡ヲ失スルカ如キコト少シトセズ是等ハ將來努  
メテ適當ノ方法ヲ講シ以テ改善ノ途ヲ盡サシメラレシ  
コトヲ望ム

兵庫縣郡部漁業稅規則

(明治四十一年二月一日) 改正(四二二年)  
(兵庫縣令第十號)

明治四十年通常兵庫縣郡部會ノ議決ヲ經タル兵庫縣郡  
部漁業稅規則營業稅雜稅規則第二條ニ依リ內務大藏  
兩大臣ノ許可ヲ得テ左ノ通定ム

兵庫縣郡部漁業稅規則

第一條 本縣内(以下ニテ除ク)ニ於テ水產動物採捕ノ業  
ヲ營ム者ニハ此ノ規則ニ依リ漁業稅ヲ賦課ス

第二條 漁業稅ノ課目及課額ハ左ノ區分ニ依ル

第一種 漁業(海面)	賦課個數
武庫郡西宮町	百九十三個
同 郡今津村	同 三十三個
同 郡鳴尾村	同 五十二個

同 郡大庄村	同 三十七個
同 郡精道村	同 三十五個
同 郡本庄村	同 二十七個
同 郡住吉村	同 二十二個
同 郡御影町	同 十四個
同 郡都賀濱村	同 三十一個
同 郡西灘村	同 二十六個
同 郡須磨村	同 二百七十九個
同 郡石明石町	同 五百七十九個
同 郡垂水村	同 二百二十八個
同 郡大久保村	同 五十三個
同 郡林崎村	同 三百九十二個
同 郡阿閉村	同 二百四十四個
同 郡別府村	同 二百一十七個
同 郡高砂町	同 五十七個
同 郡荒井村	同 四百三十一個
同 郡伊根村	同 四十五個
同 郡的形村	同 十六個
同 郡大鹽村	同 十一個



飾磨郡飾磨町	賦課個數	二百九十一個
同 郡家島村	同	五百二十六個
同 郡高濱村	同	八十一個
同 郡下中島村	同	九十個
同 郡妻鹿村	同	九十三個
同 郡白濱村	同	二十六個
同 郡八木村	同	十一個
同 郡廣村	同	十一個
同 郡英賀保村	同	二十個
同 郡津田村	同	二百八十八個
同 郡御津村	同	百三十二個
同 郡大津村	同	百零八個
同 郡網干町	同	百六十八個
同 郡赤穂町	同	百一十個
同 郡鹽屋村	同	三十一個
同 郡尾崎村	同	四十五個
同 郡新濱村	同	四百九十三個
同 郡坂越村	同	四百九十六個
同 郡那波村	同	二百九十六個
同 郡相生村	同	二百八十五個
同 郡竹野村	同	二百五十八個
同 郡口佐津村	同	三百三十三個
同 郡香住村	同	三百三十三個

同 郡餘部村	同	五十個
同 美方郡濱坂町	同	二百八十六個
同 津名郡洲本町	同	三百六十六個
同 郡由良町	同	二百二十五個
同 郡中川原村	同	八百二十一個
同 郡鹽田村	同	九個
同 郡志筑町	同	六十七個
同 郡生穂村	同	三十九個
同 郡佐野村	同	三十五個
同 郡釜口村	同	百八個
同 郡來馬村	同	二百七十三個
同 郡浦村	同	四十一個
同 郡岩屋町	同	五百三十五個
同 郡野島村	同	三十九個
同 郡富島村	同	二十九個
同 郡淺野村	同	九十五個
同 郡青波村	同	二百四十八個
同 郡室津村	同	八十三個
同 郡尾崎村	同	百四十七個
同 郡那家村	同	百一十個
同 郡山井村	同	三十六個
同 郡都志村	同	百八十二個
同 郡島飼村	同	百十三個

三原郡津井村	同	六十九個
同 郡湊村	同	六百八十八個
同 郡福良町	同	三十二個
同 郡阿萬村	同	六十七個
同 郡灘村	同	四百七十二個
同 郡沼島村	同	百八個
同 郡阿那賀村	同	百八個
第二種 漁業(海面)	一許可ニ付	年税金拾圓
同 網	同	同
同 打瀬	同	同
同 鮭流	同	同
同 雜	同	同
第三種 漁業(河川)	一漁場ニ付	季税金貳圓
同 築	同	同
同 堰	同	同
同 鮭罾	同	同
同 鮭罾張網	同	同
同 鮭罾地曳網	同	同
同 鮭罾張網	同	同
同 鮭罾	同	同
第四種 漁業(河川)	一漁業主ニ付	年税金五拾錢
同 網	同	同
同 鮭掛漁	同	同
同 鮭掛漁(鏡掛、竿掛)	同	同
同 鮭掛漁(筒掛、網掛)	同	同
第三條 漁業稅中年稅ハ四月一日季稅ハ漁期ノ初日ヲ		

以テ各賦課期日トシ該期日ニ於テ納稅義務ヲ有スル者ニ課ス

前項賦課期日後新ニ納稅義務ノ發生シタル者ハ其ノ日ヲ以テ賦課期日トス

第四條 第一種漁業稅ハ兵庫縣郡部營業稅雜種稅課目課額ニ定ムル課率ヲ賦課個數ニ乘シ之ヲ四月一日現在總漁業者ノ賦課總額トシ町村會ニ於テ同月二十日マテニ漁業ノ狀態ヲ標準トシ各漁業者ノ賦課總額ヲ議定スヘシ但漁業者一人ナルトキハ町村ノ賦課總額ヲ以テ其ノ者ノ賦課額トス

町村會ハ漁業ノ規模小ナルモノ又ハ負擔ニ堪ヘスト認ムル者ニ對シテハ漁業稅ヲ課セサルコトヲ得但之レカ爲町村ノ賦課總額ヲ減スルコトヲ得ス

區畫漁業ハ本條ノ課稅標準ニ加フルコトヲ得ス

第五條 第一種漁業稅ノ賦課ヲ受クル町村ニ於テ海面漁業ヲ營ム者ニシテ第三條第二項ニ該當スルモノ又ハ第一種漁業稅ノ賦課ヲ受ケサル町村ニ於テ海面漁業ヲ營ム者ハ兵庫縣郡部營業稅雜種稅課目課額ニ定ムル課率ヲ以テ賦課額トス但區劃漁業ノミヲ營ム者ニハ漁業稅ヲ課セス

第六條 第二種漁業稅ハ本縣内ニ住所ヲ有セサル者ニ限リ之ヲ課ス

第七條 第一種漁業稅ハ年額ヲ二分シ其ノ年四月ヨリ九月マテヲ前半期トシ其ノ年十月ヨリ翌年三月マテヲ後半期トシテ之ヲ課ス但漁業者總員ノ組織ニ成ミ







一 水產動物ノ採捕若ハ販賣ニ關スル制限又ハ禁

止

一 漁具、漁船若ハ採捕ノ方法ニ關スル制限又ハ禁

止

一 漁業者ノ數又ハ其ノ資格ノ制限

一 水產動物ノ有害ナル物質ノ遺棄ニ關スル制限

又ハ禁止

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ命令ニハ漁具及漁獲物ノ沒收ニ關スル罰則ヲ設クルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ遼河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ一定ノ區域内ニ於ケル工作物設置ノ制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

工作物ニシテ遼河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第十五條 前條第二項ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ノ所有者ニ對シ相當ノ金額ヲ補償スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

第十六條 行政官廳ハ水產動物ノ蕃殖保護ニ必要アリト認ムルトキハ公有水面ニ通スル私有水面ニ前二條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 漁業ニ從事スル雇人及雇主ノ取締ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 一定ノ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業組合ヲ設置スルコトヲ得

漁業組合ノ地區ハ濱、浦、漁村其ノ他漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ

前項ノ區域ニ依リ難キ場合ニ於テハ市町村又ハ之ニ準スヘキ區域内ニ於テ其ノ地區ヲ定ムルコトヲ得

北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得

第十九條 漁業組合ハ漁業權ノ享有及行使ニ付權利ヲ有シ義務ヲ負フ但シ自ラ漁業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ノ專用ノ免許ヲ受ケタルトキハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ漁業ヲ爲サシムヘシ

第二十一條 漁業組合ノ設置、管理及監督ニ關スル規定ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十二條 漁業者又ハ水產動物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水産業ノ改良發達及水產動物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲メ水產組合ヲ設置スルコトヲ得

水產組合ニ關シテハ重要物產同業組合法ノ規定ヲ準用ス但シ同法中農商務大臣ニ屬スル職權ハ主務大臣之ヲ行フ

第二十三條 漁業免許若ハ其ノ更新ヲ拒否セラレタル被害者ノ告訴ニ依リ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 漁場ノ標識ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 明治三十三年法律第五十二號ノ規程ハ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ依リ犯罪ニ之ヲ適用ス

附則 第三十一條 本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 本法ノ規定ハ臘虎臘獸法ノ效力ヲ妨ケス

第三十三條 本法施行前ニ受ケタル漁業ノ免許又ハ公有水面使用免許ニ依リ第三條ノ漁業者ハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ免許期間ハ第六條ノ期間内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム

第三十四條 從來ノ慣行ニ因ル第三條又ハ第四條ノ漁業者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ出願スルトキハ之ニ免許ヲ與フヘシ

前項ノ漁業者ハ其ノ免許ヲ出願シタル者ニ在リテハ許否ノ處分ヲ受ケル迄ノ間其ノ他ニ在リテハ本法施行後一箇年間仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 本法施行前ニ於テ水産業ノ改良發達及水產動物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲メ行政官廳ノ認可ヲ得テ設置シタル組合ニシ

者又ハ第八條、第九條若ハ第十四條第二項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ處分ニ依リ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 漁業免許ノ違法許可若ハ其ノ更新ニ依リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 漁場ノ區域、漁業權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ依リ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスル申請者又ハ爭議ノ相手方ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條 免許ニ依ラスシテ免許ヲ受クヘキ漁業ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス免許ノ停止中又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違背シテ漁業ヲ爲シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ漁獲物及何人ノ所有ヲ問ハス漁具ヲ沒收ス但シ沒收スヘキ漁獲物ヲ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

第二十七條 使用人、漁夫其ノ他ノ從業者ノ所爲ハ漁業者ノ所爲ト看做シ前條ノ罰則ハ之ヲ漁業者ニ適用ス

第二十八條 第三條、第四條ノ權利ヲ侵害シタル者ハ



本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ抵觸セサルモノハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依ル水産組合ト看做ス

●漁業法施行規則(明治三十五年五月十七日) 改正(三十五年五月十七日) 農商務省令第七號(號、四〇年第一九號)

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ定置漁業ト稱スルハ漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、區劃漁業ト稱スルハ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、特別漁業ト稱スルハ漁業法第三條第二項ニ依リ主務大臣ニ於テ免許ヲ必要ト認ムル漁業ヲ謂ヒ、專用漁業ト稱スルハ定置漁業、區劃漁業及特別漁業ニ非スシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂フ

第二條 定置漁業ノ種類左ノ如シ

- 一 敷網及垣網又ハ敷網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(臺網類漁業)
- 二 落網、上網及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(落網類漁業)
- 三 側網及垣網ヲ碇、土俵若ハ支柱等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(樹網類漁業)
- 四 曲網及垣網又ハ刺網ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(建網類漁業)
- 五 垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設ス

第五條 前三條ニ該當スル漁業ノ名稱ハ別ニ之ヲ告示ス

第六條 本則ニ於テ漁場ト稱スルハ定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域ヲ謂ヒ、區劃漁業ニ在リテハ區劃スル區域ヲ謂ヒ、專用漁業ニ在リテハ專用スル區域ヲ謂ヒ、特別漁業中第一種ノ漁業ニ在リテハ網場又ハ捕獲場ノ區域ヲ謂ヒ、第二種ノ漁業ニ在リテハ追込場ノ區域ヲ謂ヒ、第三種及第四種ノ漁業ニ在リテハ網ノ使用區域ヲ謂ヒ、第五種及第六種ノ漁業ニ在リテハ網場ノ區域ヲ謂ヒ、第七種ノ漁業ニ在リテハ飼付ヲ爲ス區域ヲ謂ヒ、第八種ノ漁業ニ在リテハ濱場ノ區域ヲ謂ヒ、第九種ノ漁業ニ在リテハ築磯ノ區域ヲ謂フ

第七條 同一漁場ニ於テハ同一時期ニ於テ同一名稱ノ漁業ヲ免許セス但シ第三種乃至第六種ノ特別漁業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八條 前條ノ外水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益ニ害アリト認ムル漁業又ハ免許ヲ受ケタル漁業ト相容レヌト認ムル漁業ハ之ヲ免許セス

第九條 市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區ハ從來ノ慣行アルニ非サレハ漁業免許ヲ受ケタルコトヲ得ス

第十條 同一漁場ニ於テ二以上ノ漁業免許アリタルト

ルモノ(出網類漁業)

- 六 囊網又ハ立回網ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ建設若ハ敷設スルモノ(張網類漁業)
- 七 一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ管若ハ網ヲ建設シ又ハ竹、木、石堤等ヲ建設シテ陷穽ノ裝置若ハ魚堰ヲ設ケルモノ(罟築類漁業)

第三條 區劃漁業ノ種類左ノ如シ

- 一 一定ノ區域内ニ於テ瓦、石、竹、木等ヲ沈設シ又ハ築ヲ建設シテ爲ス蕃殖業(第一種)
- 二 土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス蕃殖業(第二種)
- 三 前二號ノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス蕃殖業(第三種)

第四條 特別漁業ノ種類左ノ如シ

- 一 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業(第一種)
- 二 一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業(第二種)
- 三 一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網、地漕網漁業(第三種)
- 四 一定ノ曳寄場ヲ有スル船曳網漁業(第四種)
- 五 一定ノ網場ヲ有スル囊待網漁業(第五種)
- 六 一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業(第六種)
- 七 一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業(第七種)
- 八 一定ノ水面ニ濱場ヲ設ケル鰹漁業(第八種)
- 九 一定ノ水面ニ築磯ヲ設ケル漁業(第九種)

キハ關係漁業權者ハ命令書ノ定ムル所ニ依リ交互ニ其ノ權利ヲ制限セラルルモノトス

第十一條 漁業權者ハ其ノ漁場内ニ於ケル他人ノ漁業直接ニ自己ノ漁業ニ妨害アルニ非サレハ其ノ漁業ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 他人ノ專用漁場ニ入漁スルノ權利ヲ有スル者ハ漁業權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行又ハ契約アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 前條ノ規定ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第十四條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農商務大臣ニ之ヲ爲スヘシ

一 專用漁業ニ關スルトキ  
二 二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ  
三 漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ニ關スルトキ  
前項第二號又ハ第三號ニ該當スル場合ニ於テハ主務大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得  
第十五條 農商務大臣ニ出願、申請又ハ届出ヲ爲サムトスルトキハ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ住所地方長官ヲ經由スヘシ



第十六條 漁業ニ關スル行政行為ニ付テハ關係地方長官ハ交互ニ補助スルモノトス

第十七條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
書面ハ專用漁業ニ在リテハ漁場毎ニ其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場毎ニ一通ヲ作り差出人ノ住所及差出ノ年月日ヲ記載シ差出人ノ記名捺印スヘシ

第十八條 二人以上共同シテ漁業ニ關スル權利ヲ享有行使シ又ハ漁業ニ關シ出願若ハ申請ヲ爲ストキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ届出テ又ハ出願若ハ申請ノ書面ニ記載スヘシ代表者ノ變更アリタルトキ亦同シ  
前項ニ依ル代表者ノ届出又ハ記載ナキトキハ行政官廳ハ代表者ヲ指定スヘシ  
代表者ハ行政官廳ニ對シ共同シテ漁業ニ關スル權利ヲ享有行使スル者又ハ共同出願者若ハ共同申請者ヲ代表ス

第十九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ漁業ニ關シ出願、申請若ハ届出ヲ爲シタル者又ハ漁業權者、入漁者若ハ漁業權ノ借主ニ對シ漁業ニ關スル目論見書其ノ他ノ書類ノ提出、訂正又ハ補充ヲ命スルコトヲ得

代表者ノ變更ハ第一項ノ手續ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十四條 漁場圖ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 漁場ノ位置  
二 定置漁業ニ在リテハ漁具建設又ハ敷設ノ形狀及間數、區劃漁業ニ在リテハ漁場ノ區域及面積其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁場ノ區域

第二十五條 從來ノ慣行又ハ契約ニ因リ共有ノ性質ヲ有スル入會ヲ爲シタル者カ從來ノ慣行ニ因リ專用漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ入會漁業者連印シテ出願スヘシ但シ連印ヲ爲ササル者アルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ願書ニ添附スヘシ  
前項但書ノ場合ニ於テハ入會漁業者連印シテ出願シタルモノト認ムルコトヲ得

第二十六條 從來ノ慣行又ハ契約ニ因リ他人ノ專用漁場ニ入漁シタル者ハ入會其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ專用漁業ノ免許ニ因リテ其ノ權利及義務ニ變更ヲ生スルコトナシ但シ入漁者ニ於テ專用漁業免許ノ告示アリタル後一箇年以内ニ免許漁業原簿ノ登錄ヲ申請シテ其ノ登錄ヲ受ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 前條ノ入漁者又ハ本則施行後ノ契約ニ因リ他人ノ專用漁場ニ入漁スル者ハ專用漁業權者ノ變更又ハ專用漁業免許期間ノ更新ニ因リテ其ノ權利及義務ニ變更ヲ生スルコトナシ但シ入漁者ニ於テ免許漁業原簿ノ登錄ヲ受ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第二十八條 漁業免許ヲ與フルトキハ免許狀ニ漁場圖

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ指定シタル期間内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ依リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ慣行ノ公布式ニ依リ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタル日ヨリ起算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第二章 漁業免許

第二十一條 漁業免許ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ漁場圖正副二通ヲ添附シ行政官廳ニ出願スヘシ

從來ノ慣行ニ因リ漁業免許ノ出願ヲ爲ストキハ前項ノ外其ノ慣行ノ事實ヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ  
第二十二條 漁業免許ヲ受ケムトスル漁場ノ敷地カ他人ノ所有ニ係ルトキハ前條第一項ノ外所有者又ハ關係人ノ承諾ヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ  
前項ノ規定ハ從來ノ慣行ニ因ル出願ニハ之ヲ適用セ

第二十三條 漁業免許ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 專用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及名稱  
二 漁獲物ノ種類  
三 漁業時期  
四 免許期間

ノ副本ヲ添附シ之ヲ下付スヘシ但シ行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ新ニ漁場圖ヲ調製シ其ノ副本ヲ添付シ之ヲ下付スルコトヲ得  
免許狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 免許番號  
二 免許年月日  
三 漁業權者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所  
四 漁場ノ位置  
五 漁業ノ種類及名稱  
六 漁獲物ノ種類  
七 漁業時期  
八 免許期間  
九 免許ニ條件又ハ制限ヲ附シタルトキハ其ノ條件又ハ制限ノ事項  
十 免許ヲ與ヘタル官廳名

第二十九條 前條第二項第六號及第七號ニ掲ケタル事項又ハ漁場ノ區域ヲ變更セムトスルトキハ願書ニ免許狀ヲ添附シ變更ノ免許ヲ行政官廳ニ出願スヘシ但シ漁場ノ區域ヲ變更セムトスルトキハ第二十四條ノ規定ニ依リ漁場圖正副二通ヲ作製シ之ヲ添附スヘシ  
前項ノ出願ヲ免許スルトキハ更ニ免許狀ヲ下付スヘシ但シ漁場ノ區域ノ變更ヲ免許スルトキハ之ニ漁場圖ノ副本ヲ添附スヘシ  
前項但書ノ場合ニ關シテハ前條第一項但書ノ規定ヲ



準用ス

第三十條 從來ノ慣行ニ因ル専用漁業權者ハ前條ノ規定ニ依リ變更ノ免許ヲ出願スルコトヲ得ス

第三十一條 第二十八條第二項第三號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ免許狀ヲ添附シ三十日以内ニ免許狀ノ訂正ヲ行政官廳ニ申請スヘシ

第三十二條 免許期間更新ノ免許ヲ得ムトスルトキハ更新期間及事由ヲ具シ願書ニ免許狀ヲ添附シ免許期間満了ノ日ヨリ三箇月前ニ行政官廳ニ申請スヘシ前項ノ出願ヲ免許スルトキハ更ニ免許狀ヲ下付スヘシ

第三十三條 漁業權ノ相續、讓渡若ハ共有アリタルトキハ相續人又ハ當事者雙方ハ申請書ニ其ノ事由ヲ證スヘキ書面及免許狀ヲ添附シ三十日以内ニ免許狀ノ書換ヲ行政官廳ニ申請スヘシ

第三十四條 免許狀ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ事由ヲ具シ行政官廳ニ再下付ヲ申請スヘシ

第三十五條 漁業權消滅シタルトキハ三十日以内ニ行政官廳ニ免許狀ヲ返納スヘシ

第三十六條 抛棄ニ因ル消滅ハ免許狀ヲ返納スルニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十七條 地先水面専用漁業權ノ處分ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ行政官廳ニ申請スヘシ

第三十七條 漁業休業ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ免許ヲ受ケタル日、休業ノ日又ハ認可期限満了ノ日ヨリ六箇月以内ニ事由ヲ具シ行政官廳ニ申請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ニ着手シ又ハ再ヒ漁業ニ從事シタルトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ此ノ届出ヲ爲ササルトキハ休業シタルモノト看做ス

第三章 漁業權登録

第三十八條 行政官廳ハ免許漁業原簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登録スヘシ

- 一 漁業免許ヲ與ヘタルトキハ第二十八條第二項第一號乃至第九號ニ掲ケタル事項
- 二 變更ノ免許ヲ與ヘタルトキハ其ノ事項及年月日
- 三 免許狀ノ訂正ヲ許可シタルトキハ其ノ事項及年月日
- 四 免許狀ノ書換ヲ許可シタルトキハ相續又ハ讓渡ニ關シテハ其ノ事由、年月日及相續人若ハ讓受人又ハ其ノ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所、共有又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
- 五 漁業權ノ貸付ニ關シテハ其ノ事由、年月日、期間及借主又ハ其ノ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
- 六 入漁登録ニ關シテハ第四十二條ノ二第二項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事項
- 六ノ二 第四十三條第一項ニ依ル變更ノ登録ニ關シテハ其ノ事項及年月日

號ノ規定ハ前條第一項ノ相續、讓渡、貸付、差押、假差押、假處分ノ登録ニ之ヲ準用ス

持分ノ變更ニ關シテハ其ノ事由及年月日ヲ登録スヘシ

前條第一項ノ相續、讓渡、貸付若ハ變更ノ登録ハ申請ニ因リ之ヲ爲スモノトス

第四十一條 行政官廳ハ免許ヲ與ヘタル漁業ノ漁場圖正本ヲ編綴シテ之ヲ備ヘ置クヘシ

前項ノ漁場圖ハ免許漁業原簿ノ一部トス

第四十二條 他人ノ専用漁場ニ入漁スル權利ヲ有スル者登録ヲ受ケムトスルトキハ漁場圖正副二通ヲ添附シ當事者雙方連印シテ之ヲ申請スヘシ但シ連印ヲ得ルコト能ハサルトキハ事由ヲ具シテ之ヲ申請スヘシ

第二十六條ノ入漁者前項ノ登録ヲ申請スルトキハ申請書ニ其ノ權利ヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第四十二條ノ二 入漁申請ニ對シ登録アリタルトキハ登録證ヲ下付スヘシ

- 一 登録證ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 二 登録番號
- 三 登録年月日
- 四 入漁者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
- 五 入漁者ノ權利義務
- 六 登録シタル官廳名

行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ登録證ニ漁場圖

第六ノ三 登録證ノ訂正ニ關シテハ其ノ事項及年月日

第六ノ四 登録證ノ書換ニ關シテハ相續又ハ讓渡ニ在リテハ其ノ事由、年月日及相續人若ハ讓受人又ハ其ノ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所、共有又ハ代表者ノ變更ニ在リテハ其ノ事由、年月日及代表者ノ氏名若ハ名稱及住所

第七 免許期間更新ノ免許ヲ與ヘタルトキハ其ノ年月日及期間

八 休業ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ事由、年月日及休業期間

九 漁業權ヲ制限又ハ停止シタルトキハ其ノ事由及年月日

十 漁業權又ハ入漁ノ權利ノ消滅ニ關シテハ其ノ事由及年月日

十一 漁業權又ハ入漁者若ハ借主ノ權利ノ差押、假差押又ハ假處分ニ關シテハ其ノ事由及年月日

前項第五號乃至第六號ノ二ニ掲ケタル事項ハ申請ニ因リ之ヲ登録スルモノトス

第三十九條 行政官廳ハ免許漁業共同人名簿ヲ備ヘ漁業權共有者、共同入漁者及共同借主ノ氏名若ハ名稱及住所、持分ノ定アリタルトキハ其ノ持分並之ニ關スル相續、讓渡、貸付、變更、差押、假差押、假處分ノ登録ヲ爲スヘシ

免許漁業共同人名簿ハ免許漁業原簿ノ一部トス

第四十條 第三十八條第一項第四號、第五號及第十一



ヲ添付シ下付スルコトヲ得

第四十三條 登録シタル入漁者ノ權利義務ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ其ノ事由ヲ具シタル書面及登録證ヲ添付シ變更ノ登録ヲ三十日以内ニ申請スヘシ

前項ノ登録ニ關シテハ第二十九條第一項但書、第二項、第三項及第四十二條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條ノ二 第三十一條第三十三條第三十四條及第三十五條第一項ノ規定ハ登録證ニ關シテ之ヲ準用ス

第四十四條 漁業權又ハ漁業權共有者ノ持分ノ貸付アリタルトキハ當事者雙方ハ其ノ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ

第四十五條 漁業權ノ差押、假差押又ハ假處分ノ命令アリタルトキハ其ノ申請ヲ爲シタル者ハ之ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ十五日以内ニ行政官廳ニ届出ツヘシ其ノ取消ノ命令アリタルトキ亦同シ

第四十六條 借主ノ權利並漁業權共有者、登録シタル共同入漁者及共同借主ノ持分ニ相續、讓渡若ハ共有アリタルトキハ相續人又ハ當事者双方ハ其ノ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ

前二條ノ規定ハ登録シタル入漁者ノ權利並前項ノ權利及持分ニ之ヲ準用ス

第四十七條 漁業權共有者、登録シタル共同入漁者及共同借主ノ氏名若ハ名稱又ハ住所ニ變更アリタルトキハ其ノ變更アリタル者ハ之ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ

三十日以内ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ  
前項ノ規定ハ民法第二百五十五條及第二百六十四條ノ規定ニ依リ其ノ持分ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條 第四十三條及第四十四條乃至第四十七條ノ外當事者ノ申請ニ因リテ登録シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項ヲ消滅シタルトキハ當事者ハ之ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ變更又ハ消滅ノ登録ヲ申請スヘシ但シ代表者ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 行政官廳ニ於テ第二十八條第一項第一號、第二號、第四號乃至第六號ノ二、第六號ノ四乃至第十一號ニ掲ケタル事項ヲ登録シタルトキハ慣行ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第五十條 漁業權者其ノ他ノ利害關係者ハ免許漁業原簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ下付ヲ行政官廳ニ申請スルコトヲ得

第四章 蕃殖保護及漁業取締  
第五十一條 水産動物ヲ疲憊若ハ斃死セシムヘキ有毒物又ハ爆發物ヲ使用シテ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ捕鯨ノ爲メ爆發物ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 前條ノ規定其ノ他漁業法第十三條ニ依ル命令ハ官署又ハ公署ニ於テ調査又ハ試験ノ爲水産動物ノ採捕又ハ養殖ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第五十三條 漁業法第十三條ニ依ル命令ハ養殖、學術入り又ハ之ヲ使用セムトスル者ハ事由ヲ具シ其ノ土地ヲ管轄スル島司又ハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ土地カ島司又ハ郡長ノ管轄ニ屬セザルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ漁場標識ノ建設ヲ命セラレタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五十九條 漁場ノ標識ヲ建設スル爲他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スル者ハ其ノ認可書又ハ命令書ヲ携帯スヘシ

第六十條 漁場標識ヲ建設シタルトキハ其ノ漁場標識タルコトヲ明示スヘシ

第六十一條 地方長官禁漁區ヲ設ケタルトキハ適當ノ場所ニ其ノ標示ヲ爲スヘシ

第五章 裁決  
第六十二條 漁業法第二十五條第一項ニ依リ爭議ノ裁決ヲ受ケムトスル者ハ免許ヲ與ヘタル行政官廳ニ申請スヘシ但シ關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異ナルトキハ農商務大臣ニ申請スヘシ

第六十三條 前條ノ裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 申請者及爭議ノ相手方ノ氏名若ハ名稱及住所  
二 申請ノ目的及理由  
三 立證  
第六十四條 爭議ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附スヘシ裁決ノ申請ヲ却下スルトキ亦同シ

研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ水産動物ノ採捕ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第五十四條 遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ魚道ヲ開通スヘシ

第五十五條 定置漁業及特別漁業ニ關シテハ行政官廳ハ漁場取締ノ爲命令ヲ以テ保護區域ヲ設ケタルコトヲ得

保護區域内ニ於テ漁業ノ妨害トナルヘキ行爲ノ禁止又ハ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

地方長官前二項ノ命令ヲ發スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十六條 左ニ掲ケタル漁業ハ其ノ漁業ヲ爲ス水面ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 藻手繰網漁業  
二 藻打瀬網漁業  
三 藻曳網漁業  
四 潜水器漁業  
五 空釣繩漁業

前項漁業ノ地方名稱ハ地方長官之ヲ告示スヘシ  
地方長官第一項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下付スヘシ

第五十七條 前條ノ漁業者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帶スヘシ  
第五十八條 漁場ノ標識ヲ建設スル爲他人ノ土地ニ立









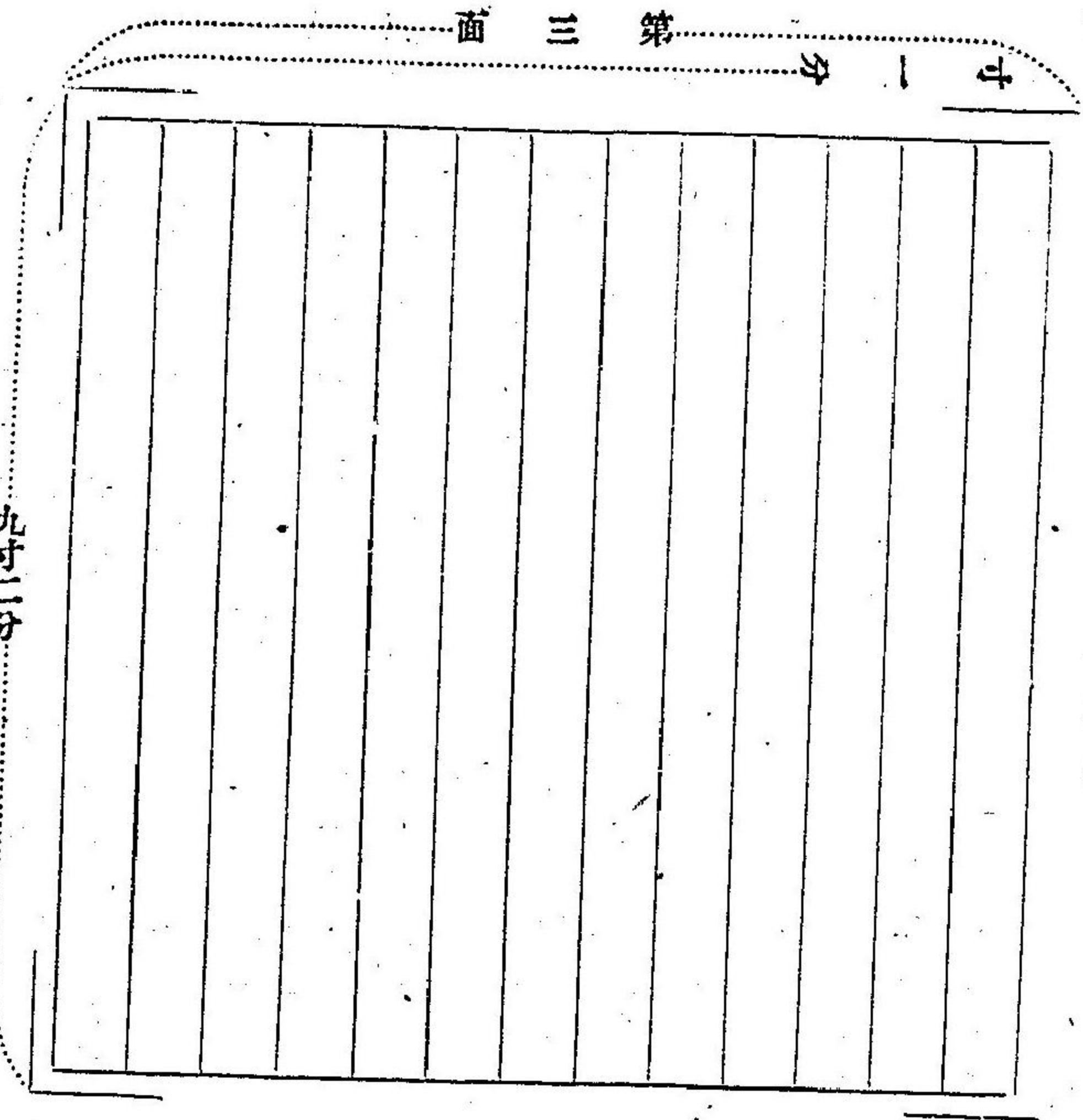












九寸二分

●兵庫縣漁業取締規則(明治三十五年八月八日)

第一條 漁業法施行規則第五十六條ニ該當スル漁業ノ外左ニ掲ケタル漁業ヲ爲サントスルモノハ知事ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ  
打瀬網一名 帆曳網漁業

五 許可ヲ受ケントスル期間  
第三條 第一條ニヨリ許可ヲ受ケタル漁業者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帯スヘシ

第四條 許可ヲ受ケタル漁業者廢業シタルトキハ三十日以内ニ鑑札ヲ添附シテ知事ニ届出ツヘシ

第五條 鑑札ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ事由ヲ具シテ再下付ヲ申請スヘシ

第六條 許可ノ期間ハ十箇年以内トス

第七條 鑑札ハ相續、讓渡、共有、質入、貸付其他擔保ニ供スルコトヲ得ス

第八條 水産動植物ノ蕃殖保護其他公益上必要アリト認ムルトキハ漁業ノ許可ヲ制限停止シ又ハ取消ヲ命スルコトアルヘシ本則又ハ他ノ法令ニ違背シタルトキ亦同シ

第九條 第二條及第四條乃至第八條ノ規定ハ漁業法施行規則第五十六條ノ漁業ニモ之ヲ適用ス

第十條 遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲サントスル者ハ河川流幅ノ五分ノ一以上ノ魚道ヲ開通スヘシ但シ知事ニ於テ必要アリト認メタル場合ハ特ニ其ノ方法ヲ指定スルコトアルヘシ

第十一條 漁場ノ標識ヲ建設シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ノ検査ヲ受クヘシ變更移轉又ハ除去シタルトキ亦同シ

市町村長前項建設ノ検査ヲ爲シタルトキハ其都度左ノ事項ヲ報告スヘシ

- 手繰網漁業
  - 縛網漁業
  - 線網一名 中高網漁業(千番線網、マ)
  - 鰯卷網漁業
  - 鰯建回シ網漁業
  - 鰯揚線網漁業
  - ヤタラ曳網漁業
  - 小鮎曳網漁業(一定ノ曳揚場ヲ有セサルモノ)
  - 小鯛曳網漁業(一定ノ曳揚場ヲ有セサルモノ)
  - 桁網漁業
  - 五智網漁業
  - 鰯刺網漁業
  - 鯛流網漁業
  - 烏賊巢曳網漁業
  - ハタ網漁業
  - 蛸壺繩漁業
  - イサリ漁業
  - 鵜飼漁業
  - 瀬張網(モジチ)漁業(一定ノ水面ニ建設セサルモノ)
  - 前項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下附ス
- 第二條 前條漁業ノ出願ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 漁業ノ名稱
  - 二 漁業ヲ爲ス場所
  - 三 漁獲物ノ種類
  - 四 漁業ノ時期

- 一 建設ノ場所
  - 二 標識ノ形狀及大小ヲ知ルニ足ヘキ圖面
  - 三 記載文字若ハ漁場標識タルコトヲ明示スル方法
- 市町村長變更、移轉又ハ除去ノ検査ヲ爲シタルトキハ其都度變更ノ事項移轉ノ場所並ニ除去シタル旨ヲ報告スヘシ
- 第十二條 定置漁業ノ免許ヲ出願セントスルモノニシテ漁場ヲ距ル十五丁以内ニ他ノ免許定置漁業アルトキハ相互ノ關係ヲ明記シタル書面ヲ願書ニ添附スヘシ
- 第十三條 區劃漁業ノ免許ヲ出願セントスルモノハ養殖場ノ設備及養殖ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ願書ニ添附スヘシ
- 第十四條 漁業法施行規則及本則ニ依リ漁業ノ免許又ハ許可ヲ受ケタルモノハ其工作物ノ施設及水面ノ占用又ハ使用ニ付テハ明治二十五年十一月十一日本縣令第八號官有土地水面借用及使用規則明治三十一年七月本縣令第五十三號土木起工規則明治三十三年二月本縣令第七號河川敷地及水面使用並占用規程ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト見做ス但必要アリト認ムルトキハ命令條件ヲ付シ又ハ使用料ヲ徵スルコトアルヘシ
- 第十五條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ニシテ農商務大臣ニ之ヲ爲スヘキ場合ハ漁業法施行規則ニ依リ提出スヘキ書類ノ外別ニ副本一通ヲ添附スヘシ
- 第十六條 第一條ニ違背シタルモノハ拾圓以下ノ罰金



ニ處ス  
 第十七條 前條ノ場合ニ於テハ其情狀ニ依リ漁具及漁獲物ヲ沒收スルコトアルヘシ  
 第十八條 第三條及第十一條第一項ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

附則

第十九條 本則施行前ヨリ本縣内ニ於テ第一條ノ漁業ヲ爲スモノニシテ明治三十六年六月三十日迄ニ許可ヲ出願シタルモノニアリテハ許可ノ處分ヲ受クル迄ノ間其他ニアリテハ明治三十六年六月三十日迄仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得  
 第二十條 本則ハ明治三十五年八月二十日ヨリ施行ス

●漁業法施行規則第五十六條ニ該當スル漁業名稱

(明治三十五年七月五日) 兵庫縣告示第二百十號

漁業法施行規則第五十六條ニ該當スル漁業ノ名稱左ノ如シ

一 藻手線漁網業

アブラメ網一名晝手線網

夜手線網一名夜曳網

漕網一名夜手線網

二艘漕網

雜魚曳網一名ベラ曳網

コソクリ網一名夜漕網

鯉漕網

- 鰓漕網
- 底曳網
- メバル漕網
- キザ曳網
- コロガシ網
- ガシン網
- 藻漕網
- 藻手線網
- 藻打漕網漁業
- 雜魚打漕網
- 小打漕網
- 藻打漕網
- 三 藻曳網漁業
- 鰓曳網
- サイラ曳網
- 四 潜水器漁業
- 潜水器
- 五 空釣繩漁業
- 空釣繩
- 鯖空釣繩

●漁業法施行規則第五十六條及兵庫縣漁業取締規則第一條ニ據リ漁業者ニ下附スヘキ鑑札ノ樣式ヲ左ノ通定メ

(明治三十五年九月二十五日) 兵庫縣告示第三百五十七號

漁業法施行規則第五十六條及兵庫縣漁業取締規則第一條ニ據リ漁業者ニ下附スヘキ鑑札ノ樣式ヲ左ノ通定メ

木製 縦三寸 横二寸三分

第 號	面	裏
第一號	漁業鑑札 兵庫 縣印	明治年月日下附 何府何郡何町何番屋敷 何縣何市何村何 何
		一 漁業ノ名稱 何漁業 一 漁獲物ノ種類 何々 一 漁業時期 自何月何日 至何月何日 一 許可期間 自明治何年何月何日何々年間 至明治何年何月何日何々年間 一 漁業ヲ爲ス場所 何々 一 制限又ハ條件他人ノ免許漁業權ヲ妨害ス可カラス 何々 何々

●鵜繩網使用及鮎捕獲禁止河川

(明治二十八年三月三十日) 改正(三〇年第三四號) 兵庫縣令第十八號

左記河川ニ於テ鵜繩網ヲ使用スルコトヲ禁止シ且毎年三月一日ヨリ六月十五日マラ鮎ノ捕獲ヲ禁止ス犯ス者ハ

〔一日以上三日以下〕ノ拘留又ハ〔貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下〕ノ科料ニ處ス但イナ漁業ノ爲メ同漁期(毎年七月十五日マラ)間千種川下流赤穂町所屬赤穂橋及尾崎村所屬岩津橋以南ニ於テ鵜繩網ヲ使用スルモノニ限リ本令ヲ適用セス

- 赤穂郡 千種川 佐用郡界ヨリ海岸マテノ間
- 同 郡 鞍居川 赤穂郡鞍居村ノ内金出地村字國光界ヨリ同郡上郡村ノ内上郡村千種川合流マテノ間
- 同 郡 千種川 佐用郡德久村ノ内平松村郡界ヨリ
- 同 郡 久崎村ノ内家内村郡界マテノ間
- 同 郡 佐用川 同郡石井村ノ内與海村眞川合流ヨリ同郡久崎村ノ内久崎村字落合千種川合流マテノ間
- 同 郡 志文川 同郡三日月村ノ内眞宗村郡界ヨリ
- 同 郡 中安村ノ内中島村字坂田千種川合流マテノ間
- 同 郡 千種川 安栗郡千種村ノ内千草村岩野邊川合流ヨリ下流郡界マテノ間
- 同 郡 志文川 同郡土萬村ノ内鹽山村字加賀須ヨリ下流郡界マテノ間

●鮎捕獲禁止河川

(明治二十八年五月十五日) 兵庫縣令第二十七號

毎年二月一日ヨリ五月三十一日迄ノ間左記ノ河流ニ於テ鮎ヲ捕獲スルコトヲ禁止ス犯スモノハ〔一日以上三日以下〕ノ拘留又ハ〔貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下〕ノ科料ニ處ス



揖保川 播磨國宍粟郡繁盛村ノ内倉床村水源ヨリ以下同郡内及(揖東郡)内(揖西郡)内ヲ經テ海岸ニ至ル迄ノ幹流  
引原川 播磨國宍粟郡奥谷村ノ内戸倉村水源ヨリ同郡内揖保川幹流ニ合スル迄  
伊澤川 播磨國宍粟郡高澤村ノ内上ノ村水源ヨリ同郡内揖保川幹流ニ合スル迄  
林田川 播磨國宍粟郡富栖村ノ内皆河村水源ヨリ同郡内及(揖東郡)内ヲ經テ(揖西郡)内揖保川幹流ニ至ル迄

●真珠貝採取取締規則(明治二十九年九月三十日) (兵庫縣令第七十一號)

改正(三〇年第一三三號)

- 第一條 真珠貝ハ毎年六月一日ヨリ九月三十日迄管下沿海ニ於テ之ヲ漁獲スルコトヲ禁止ス
- 第二條 左ノ場所ニ於テハ真珠貝ヲ漁獲スルコトヲ禁止ス但養殖保護上又ハ試漁ノ必要アル場合ニ於テ本縣知事ノ許可ヲ得タルトキハ此限リニアラス  
三原郡福良灣内字洲崎堤防東鼻ヨリ字蛇ノ鰭ノ内勸次郎鼻ノ西一町ノ所ヲ見通シ又一方同洲崎突堤北鼻ヨリ字白木丙四十八番地ノ七南角(阿那賀道立石)ヲ見通シ該線以北ノ海面一圓
- 第三條 左ノ場所ニ於テハ真珠貝ノ附着スヘキ石礫ヲ取除キ又ハ海底ヲ攪拌スヘキ漁具ヲ使用スルコトヲ禁止ス

三原郡福良灣内字洲崎堤防東鼻ヨリ字蛇ノ鰭ノ内勸次郎鼻ノ西一町ノ所ヲ見通シ又一方同洲崎突堤北鼻ヨリ字白木丙四十八番地ノ七南角(阿那賀道立石)ヲ見通シ該線以北ノ海面一圓

第四條 真珠貝ノ棲息スル地方ノ漁業組合ハ其保護蕃殖ヲ圖ルヘキ規程ヲ設ケ知事ノ認可ヲ承クヘシ

第五條 第一條第二條ヲ犯ス者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 第三條ニ違背シタル者ハ(一日以上三日以下)ノ拘留ニ處シ又ハ(貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下)ノ科料ニ處ス

●縛網使用禁止海面(明治三十七年五月十日) (兵庫縣令第三十五號)

本縣海面左ノ區域ニ於テ縛網ノ使用ヲ禁止ス違背シタルモノハ拾圓以下ノ罰金ニ處シ其情狀ニ依リ漁具及漁獲物ヲ沒收ス但シ沒收スヘキ漁獲物ヲ既ニ賣却シ又ハ消費シタルトキハ其代金ヲ追徴ス

西 淡路國先山(一名光寺山)ノ頂上ヲ同國津名郡草香明神鼻ノ北端ニ重テ見通シタル線以東

北 攝津國高尾山ノ頂上(方音)ノ頂上ヲ同國津名郡小豆島星ヶ城ノ頂上(方音)ノ頂上ヲ見通シタル線以南

東 淡路國津名郡岩屋町松尾崎ヨリ播磨國明石郡明石町古波戸ヲ見通シタル線以西(付録圖面略ス)

●神戸港内漁撈禁止區域(明治三十九年十一月十日) (兵庫縣令第三十一號)

明治三十七年四月兵庫縣令第二十七號神戸港内漁撈禁止ノ件左ノ通り改正ス

神戸港内ニ於テ漁撈スルコトヲ禁止ス但下ケ釣漁、竿釣漁ヲナスハ此限リニアラス

前項禁止ニ違背シタルモノハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

禁止區域  
神戸脇ノ濱ノ東角ヨリ正南「眞方位」ニ引キタル一線ト和田岬ヨリ北東「眞方位」ニ引キタル一線トノ二線ヲ境界トナシタル區域

別紙圖面ノ通り(圖面略)

●漁場取締方(明治三十八年六月二十九日三農第一〇號) (第三部長ヨリ沿海郡市長ニ通牒)

今般漁業取締ノ爲メ海上警邏ニ關スル規程別紙之通り相定メ警務長ヨリ沿海各警察署及分署長ヘ訓達相成候條將來海面取締ノ必要ヲ認メラル、場合ニ於テハ豫メ所轄警察署長ヘ御協議ノ上無用ノ紛争ヲ醸サ、ル様御注意相成度此段及通牒候也

(別紙)

保訓第六號(三十八年六月五日警務長ヨリ沿海) (海警察署長分署長ニ訓達抄)

近來漁業者ニシテ本縣漁業取締規則ニ違背シ鑑札ヲ受ケス又ハ漁業ニ關スル法令ニ違背シ漁業ヲナスモノ及漁業ノ妨害ヲナスモノ往々之レアルヤニ相聞ヘ候條自今左記ノ各項ニヨリ之レカ取締ヲナシ遺憾ナキヲ期セラルヘシ

右訓達ス

- 第一 漁業取締ノタメ巡査ヲ以テ漁場ノ警邏ヲナサシムヘシ
  - 第二 漁場警邏區域ハ其署管轄區域ニ據ル
  - 第三 各地方ニ於テ漁業ノ最モ盛ナル時期ニ於テ其必要ニ應ジ巡査一名乃至二名ヲ以テ漁業取締上必要ナル海面ヲ警邏セシムヘシ  
其度數ハ凡毎月三回以上トス但勤務ノ方法ハ署長之レヲ定メ報告スヘシ
  - 第四 取締巡査ハ左ノ事項ニ注意シテ取締ヲナスヘシ
    - 一 免許ニ依ラスシテ免許ヲ受クヘキ漁業ヲナスモノ及免許ヲ受ケタルモノニシテ漁具ノ構造若クハ漁場ノ位置ヲ變更シタルモノ
    - 一 本縣漁業取締規則ニ違背シ許可鑑札ヲ受ケスシテ漁業ヲナシ又ハ鑑札ヲ携帯セスシテ漁業ヲナスモノ
    - 一 許可鑑札ニ記載セル漁業ノ時期及漁業ノ場所ニ違反シ漁業ヲナスモノ
    - 一 縛網禁止區域内ニ於テ縛網ヲ使用スルモノ
    - 一 他人ノ漁權若クハ漁區ヲ侵害シ又ハ漁業ヲ妨害スルモノ
    - 一 以上ノ外漁業ニ關スル法令ニ違背スルモノ
- 漁業法疑義解釋方(抜抄)
- (明治三十五年七月八日無號) (内務部長ヨリ郡市長ニ通知)
- 一定ノ解釋ニ付 一定ノ水面トハ定置漁業ニ在リ



テハ漁場ノ區域カ漁具ヲ建設又ハ敷設スル場所ノ一定セル水面ヲ云フ特別漁業ニ在リテハ漁業ノ性質上定置漁業ノ場合ノ如ク正確ニ限定スルコトヲ得サルモノアルヲ以テ一定ノ場所ノ範圍内ニ於テ多少異動スルコトアルモ程度ノ如何ニヨリ事實一定ト認定シ得ルモノナレハ可ナリ

- 一 遼河魚類 河流ヲ逆上スルニアラサレハ發育又ハ産卵ヲ爲スコト能ハサル魚類ヲ云フ鮭、鱒、鮎、鰻、アメノ魚、白魚ノ類ナリ
- 一 保護區域 定置漁業及特別漁業ニ限リ行政官廳ノ必要ト認メタル場合ニ命令ヲ以テ定ムヘキモノニシテ豫メ規定シ難シ但其區域ハ水面ニ限リ陸上ニ及ハス

●漁業法施行ニ關スル心得方(抜抄)

(明治三十五年七月十日) (兵庫縣内訓第四號)

郡市長

漁業法施行ニ關シ左ノ通心得ヘシ  
一 從來水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ慣行アルモノハ必スシモ漁業法第四條ノ專用漁業免許ヲ受ケルニ非サルモ法令ノ範圍内ニ於テ漁業ヲ爲スヲ妨ケス唯其免許ヲ受ケサルトキハ水面專用ノ權利ナキニ過キサレナリ然ルニ當業者間ニ於テ其免許ヲ得サレハ全ク漁業ヲ爲スコト能ハサルモノ、如ク誤解スルモノナキヲ保セス是等誤解ノ爲無益ノ手數ヲ費ス等ノ事無

ハ該漁業ヲ爲スコトヲ得サル義ニ候條心得違ヒナキ様示諭相成度依命此段及通牒候也

●鰻揚線網漁業許可條件

(明治三十七年七月二十七日四農第一〇) (一號内務部長ヨリ沿海郡市長ニ通牒)

鰻揚線網漁業許可ニ付テハ自今鰻地曳網保護ノ爲メ左記條件ヲ付シ鑑札下附候就テハ從來ノ漁業者ニシテ鑑札訂正願出候者ニ對シテハ此際至急願出候様示達相成度依命此段及通牒候也

條件 鰻地曳網場ニ於テハ沿岸線ヲ距ルコト十丁

以內ノ海面ニ於テ使用スヘカラス但漁業權者ニ於テ異議ナキ場合ハ此限リニアラス

追テ他漁業者ニ於テ鰻揚線網漁業者ニ對シ理由ナキ苦情ヲ申立又ハ不當ノ入漁料ヲ要求スル等ノ事往々有之哉ニ聞及候ニ付此等ニ對シテハ十分説諭方御配慮相成度此旨申添候

●漁業鑑札記載事項解釋方

(明治三十六年五月十二日内農第四九四) (四號内務部長ヨリ沿海郡市長ニ通牒)

漁業法施行規則第五十六條及本縣漁業取締規則第一條ニ該當スル漁業ニ對シテ付スヘキ許可鑑札ニ記載シタル「漁業ヲ爲ス場所」ハ制限ノ趣旨ヲ含メルモノニシテ鑑札面記載ノ場所以外ニ於テハ一切該漁具ヲ使用スルコトヲ得サルハ勿論鑑札面記載ノ場所内ト雖モ慣行若クハ免許ニ依リ他人カ漁業權ヲ有セル場合ニ於テハ決

- 之様適宜諭告ヲ爲スヘシ
- 二 漁業法施行規則第二條第三條第四條ニ該當スヘキ漁業ニシテ本年六月農商務省告示第百十八號ニ記入ナキモノ又ハ其名稱ノ明瞭ナラサルモノハ其地方名稱漁具ノ構造及使用ノ方法ヲ詳記シ當廳へ上申スヘシ
- 四 漁場ヲ管轄スル郡市長明確ナラサル場合ニ於テハ出願者ノ住所地ヲ管轄スル郡市長ニ於テ其事務ヲ取扱フヘシ
- 五 二以上ノ郡市長ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケル漁業ニ關シテハ關係郡市長交互補助以テ其事務ヲ取扱フヘシ

●鰻揚線網漁業解釋方

(明治三十六年七月二十九日内農第三七) (六七號内務部長ヨリ沿海郡市長ニ通牒)

本縣漁業取締規則第一條ニ規定シタル許可ヲ受ケヘキ漁業ノ内鰻揚線網漁業アリテ鰻巾着網ノ名稱無之候處現今本縣漁業者カ使用セルモノハ何レノ名稱ヲ以テスレモ其構造略同一ニシテ純粹ノ巾着網ナルモノ無之何レモ揚線網ノ構造ヲ多少變更シタルモノニ過キスト認メ候就テハ該漁業ニ從事セントスルモノハ假令從來巾着網ノ名稱ヲ用キタルモノト雖モ此際揚線網ノ許可ヲ受クヘキモノト廳議決定候條貴部内漁業者ニ對シ至急其手續ヲ了シ候様御示達相成度尙本年初メテ該漁業ニ從事スルモノ及從來使用セサル場所ニ於テ本年新ニ使用セントスルモノハ許可鑑札ヲ受ケタル上ニアラサレ

シテ權利者ノ漁業ヲ妨害スルカ如キ事無キ様注意スヘキハ勿論ナルニ近來該鑑札ノ下附ヲ受ケタルモノニシテ鑑札面ニ「漁業ヲ爲ス場所」記載セラレタル時ハ該水面ニ於テハ無制限ニ漁業ヲ爲シ得ルノ權利ヲ得タル者ナルカ如キ誤解ヲ抱キ若クハ故ラニ曲解ヲ爲シ權利者ノ漁業ヲ妨害シ又ハ權利者ニ對シ從來ノ契約ヲ履行セサル者有之趣ニ聞及候ニ付貴部内當業者ニ對シ心得違無之様篤ト示達方御取計相成度此段及通牒候也

●明治四十二年度兵庫縣郡部縣稅營業稅雜種稅課目課額

(明治四十二年一月二十日) (改正(四十二年) (兵庫縣令第五號) 第一二號)

明治四十二年度兵庫縣郡部縣稅營業稅雜種稅課目課額  
明治四十一年通常兵庫縣郡部會ノ議決ヲ經左ノ通定ム  
明治四十二年度兵庫縣郡部縣稅營業稅  
雜種稅課目課額

營業稅  
商業

- 物品販賣業
- 金錢貸付業
- 物品貸付業
- 運送業
- 請負業
- 席貸業







津名郡	多紀郡	水上郡	美力郡	羽來郡	養父郡
洲木町 志筑町 由真町 岩屋町	篠山町			生野町	
都志村 都家村 富島村	福住村	生和柏成 郷田原松 村村村	濱坂町	竹田村 牧田村	八鹿村
江來室 井馬津 井村村	古市村	黒久佐 井下治 村村村	村岡町	梁瀬村	
鮎野浦 原島村 野波村 佐野村 照田村 生繼村	雲味阿加 部間野村 村村村	上大路吉幸 久路見世川 下村村村村	溫泉村	山口村 粟鹿村	養父市場村 關宮村
鳥籠多淺安中尾 岡口賀野平田崎 村村村村村	今城南城北 田南河内村 村村村	國春日沼 領日坂貨 村村村	西濱村	中川村	廣谷村 大藏村
大町 中川原村 廣石村 千草村	後川村	鴨船竹神葛 庄城田樂野 村村村村	大照小 庭來代 村村村村	東河村	系非村 南谷村 西谷村 大屋村 宿南村
仁上山 井灘村 田村	草山村	新美前 井和山 村村村	入射熊 田添次 村村村	與布土村	日大原村 建屋村 高柳村 伊佐村

郡石出	郡崎城	郡粟尖	郡用佐	郡穗赤	郡保揖
出石町	豐岡町	山崎町		赤穂町	龍野町
	國日港 府高村 村村	安師村		坂越村	新宮村 斑鳩村 大津村 室津村 林田村
	城香 崎住 町村			上郡村	神岡村 旭陽村 神部村 御津村 網千町
	三内田入 方川鶴條 村村村	千三神河 穰方戶東 村村村	久佐川 崎村村	相新廻 生涼屋 村村村	石海村 越部村 龍田村 譽原村 勝原村 平井村 余部村
	竹五新 野莊田 村村村	三西下 河谷三 村村村	平福村 三日月村	那尾崎 波村村	香島村 太市村 太宅村 小田村 太田村 東樂村 半田村 揖保村
高神室 橋美地 村村村	三西餘口 椒氣部佐 村村村村	土富菅葛 萬野澤 村村村村	德西江長 久庄川谷 村村村村	有赤高若 年松田狹 村村村村	伊勢村 桑原村 河內村
寶合小 母橋坂 村村村	清入長奧 瀧代井津 村村村村	繁奧染 盛谷河 村村村	大中森石 廣安山井 村村村村	高船鞍矢 雄坂居野 村村村村	西野村 布施村



郡原三	福良町	廣田村 淡路村 市村	阿萬村	賀集村 榎帆村 列村	加茂村 文村 倭知村 志代村 神代村 沼島村	大野村 堺村 八木村 北阿萬村	津井村 伊加利村	阿那賀村 灘村
-----	-----	------------------	-----	------------------	---------------------------------------	--------------------------	-------------	------------

工業  
製刷業  
印刷業  
寫真業  
職工業

一等地 年稅課率 金一圓十錢  
 二等地 同 金九十五錢  
 三等地 同 金八十錢  
 四等地 同 金六十五錢

郡市名	等	地	一	二	三	四	等	地
郡原武	魚崎町	御影町	西宮町	住吉村	須磨村	今津村	鳴尾村	本山村
郡武庫	尼ヶ崎町	伊丹町	小田村	園田村	稻野村	六甲村	山田村	大庄村
郡有馬	有馬町	三田町	鹽瀨村	山口村	三輪村	有野村	道場村	大澤村
郡石明	明石町	平野村	魚住村	垂水村	伊川谷村	中野村	玉津村	岩岡村

郡美斐	三水町	別所村	久留美村	志染村	淡河村
郡東加		小野村	市場村	北谷村	奧吉川村
郡可多		松井庄村	杉原谷村	上淡河村	中吉川村
郡西加	加古川町	北條町	下里村	神野村	細川村
郡宮加	高砂町	氷丘村	神野村	北谷村	加茂村
郡南印	會根村	入野村	加古新村	神野村	加茂村



上水郡	美方郡	朝來郡	養父郡	出石郡	城崎郡	粟栗郡
柏原町		生野町		出石町		
和路村 大田村	濱坂町	枚田村	八鹿村	資母村	八條村 竹野村	城崎町 豐岡町
佐治村 成松村	村岡町	竹田村				
上久下村 小川村 生野村	照添村 射來村 大庭村	栗瀨村	養父市 關宮村		日高村 三江村 五莊村 香港村	神戶村 千種村
久下村 沼貫村 幸世村	溫泉村 小代村 入田村 西濱村	栗鹿村	廣谷村		新田村 田鶴野村 內川村 中筋村 國府村	
葛野村 遠坂村 前山村	熊次村	東河村 中川村	日大屋村 建屋村 南谷村 高柳村 宿南村	室地村 神美村 高橋村	奈佐村 中竹野村 口佐津村 餘部村 三方村 清瀧村	河東村 桑河內村 三方村 西谷村 三河村 菅野村
美竹田村 竹田村 和村		與布土村 山口村	大屋村 糸井村 西谷村 伊佐村 大藏村	小坂村 合橋村	奧竹野村 奧佐津村 長井村 入代村 西氣村 三椒村	萬澤村 下三方村 繁盛村 奧谷村 土萬村

	佐用郡	赤穂郡	保保郡	神崎郡	磨磨郡
山崎町			龍野町 斑鳩村	網千町	
		赤穂町	新宮村 旭陽村 大津村	粟賀村 田原村	余部村 八幡村
			香島村 林田村 勝原村	川邊村	
城下村	久崎村 佐用村	尾崎村 新波村 那郡村	神部村 室津村 布津村 余部村 小宅村 太市村 石海村	寺前村 福崎村 香呂村 船津村 瀬加村	市殿村 城北村 飾磨町 白濱村 花田村 曾左村 菅野村
安師村	平福村 三日月村	鹽屋村 坂越村 若狹野村	揖保村 御津村 半田村 東栗田村 太田村 龍田村 越部村 平井村	鷺居村 甘地村 中寺村 豐富村 入千種村	水上村 國衙村 高濱村 糸引村 高岡村 高谷村 鹿谷村 荒川村
富樫村	長谷村 江川村 西庄村 德久村	相生村 高田村 赤松村 有年村	伊勢村 桑原村	大山村 山田村 長谷村	家島村 入木村 谷外村 谷内村 置内村 津田村 妻鹿村
戸原村	石井村 石井村 藤山村 中安村 大廣村	矢野村 鞍居村 船坂村 高雄村	西栗栖村 河內村	越知谷村 砥淵村	下中島村 四郷村 御國村 安室村 廣柄村 手柄村 英賀保村







臨時市場 日稅 金一圓

最高 中木戸及下足料者ノ 二十人分  
木戸錢 興行主タルト包含ス  
最高 敷物料 取得者ノ興行主  
棧敷代 スラ包含ス 八枚分

日稅  
但シ棧敷一枚ハ大人四人以上ヲ容ル、  
モノトス若シ三人以下ヲ容ル、トキハ  
其ノ平分ノ四倍ヲ一枚分トシ又棧敷ヲ  
設ケス場代敷物料等ヲ每人ヨリ取得ス  
ルモノハ其ノ最高料金四人分ヲ一枚分  
ト看做ス

但シ木戸錢又ハ棧敷代ノ一方ヲ受クルモノ  
ハ木戸錢ハ四十人分棧敷代ハ十枚分トス  
課稅標準ニ探ルヘキモノナキトキハ演劇、相撲  
ニ在テハ一日稅額金二圓五十錢其ノ他ノ興行ニ  
在テハ一日稅額金一圓ヲ課ス

遊覽所 動物、器械、奇品、畫  
畫展覽會、觀目鏡ノ類  
日稅 金二十錢

遊技場 玉突、揚弓、大弓、射  
的、投扇、吹矢ノ類  
日稅 金一圓

臨時市場 日稅 金十圓

人寄席 月稅 金三圓

船 積石數五十石未滿ノ海川小船長 自油梁三間迄  
年稅 金五十錢

第一種漁業 賦課箇數一箇ニ付

第二種、第三種、第四種漁業ハ別ニ之ヲ定ム  
年稅 金五十錢

自轉車 年稅 金三圓

自動車 年稅 金八圓

一類 定員六人以上 年稅 六圓

二類 定員二人乗以上 年稅 四圓

三類 定員一人乗 年稅 五圓

蒸氣機械 公稱一馬力ニ付 年稅 五圓

日本形船 積石五十石以上(一石ニ付)年稅 金三圓

西洋形船 年稅 金二十錢

風帆船 一噸ニ付 年稅 金十五錢

狩 一等 狩獵法第十一條  
ノ區別ニ依ル 金五圓

二等 同上 金二圓五十錢

三等 同上 金五十錢

●郡部營業稅雜種稅課目課額ニ關スル應議  
決定(明治三十五年四月二十九日決定同月三十  
日發行第九十五號縣報雜種稅額內登載)

一 飲食店トシテ販賣スヘキ飲食物ヲ行商シ若クハ露  
店ニ於テ販賣スル場合ハ仍飲食店トス

一 定期市場 年稅同ト開  
場スルモノハ市場中定場ニ包含ス  
〔演劇其他興行稅ハ左ノ例ニ依リテ算定ス〕

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

但シ長三間以上一問迄ヲ加フル毎ニ金二十錢  
ヲ增加ス

漁船長三間迄 年稅 金四十錢

但シ長三間以上一問迄ヲ加フル毎ニ金二十錢  
ヲ增加ス

遊船長三間迄 年稅 金一圓

但シ長三間以上一問迄ヲ加フル毎ニ金二十錢  
ヲ增加ス

馬車 二匹立 年稅 金十圓

同 一匹立 年稅 金六圓

人力車 同 年稅 金二圓

荷積牛馬車 同 年稅 金三圓五十錢

荷積大車 同 年稅 金二圓五十錢

荷積中車 同 年稅 金二圓

荷積小車 同 年稅 金一圓五十錢

水 搗臼 一箇ニ付 年稅 金十五錢

挽臼 一箇ニ付 同 年稅 金一圓五十錢

白ヲ用キサルモノ 同 年稅 金三圓

乘馬 農駄馬兼用トモ 同 年稅 金二圓

屠牛 一頭ニ付 年稅 金八十錢

牛馬 一頭ニ付 年稅 金三十錢

積牛及馬 一年 羊豚 一頭ニ付 年稅 金三十錢

最高木戸錢下足料トモ十人分トアルハ最高木戸錢  
トモ十人分トス

假令ハ最高木戸錢五錢下足料五厘トモハ此ノ十人  
分即五拾五錢トナルカ如シ

上等棧敷代敷物料トモ四枚分トアルハ上等棧敷代  
敷物料 四枚分トス

假令ハ上等棧敷代一梓壹圓ニシテ此ノ一梓ノ棧敷  
中ヨリ受クル敷物料ヲ八錢トモハ此ノ四枚分即四  
圓參拾貳錢トナルカ如シ

但書前段木戸錢ノ一方ヲ受クルモノ云々トアル木戸  
錢ハ下足料ヲモ包含ス

船ノ長三間以上ハ一問未滿ノ端數ヲ生スル場合ト  
雖モ相當稅額ヲ增加スヘキモノトス

蒸氣機械ニハ石油發動機械ハ包含セス

●兵庫縣郡部縣稅施行細則

(明治四十一年七月四日) 改正(四十二年第  
兵庫縣令第四十七號) (一六號)

兵庫縣郡部縣稅施行細則左ノ通定ム

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ縣稅賦課規則ト稱スルハ兵庫縣郡  
部縣稅賦課規則ヲ謂ヒ漁業稅規則ト稱スルハ兵庫縣  
郡部漁業稅規則ヲ謂ヒ本縣ト稱スルハ神戸市ヲ除キ  
タル區域ヲ謂ヒ所轄郡市役所又ハ町村役場ト稱スル



ハ縣稅ノ納稅地ヲ所轄スル郡市役所又ハ町村役場ヲ謂フ

第二條 縣稅ノ納稅地ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 地租割、營業稅附加稅及第一種第三種所得稅附加稅ハ本稅納稅ノ地トシ本稅納稅ノ地ナキトキハ營業所ノ地トシ營業所ナキトキ又ハ營業所二箇以上アルトキハ納稅者ノ選定シタル地トス
- 二 第二種所得稅附加稅及戶數割ハ納稅者住所ノ地トシ住所ナキトキハ居所ノ地トス
- 三 商業稅、工業稅、料理屋稅、待合茶屋稅、遊船宿稅、芝屋茶屋稅、飲食店稅、湯屋稅、理髮人稅、遊藝師匠稅、遊藝稼人稅、相撲稅、俳優稅、幫間稅、藝妓稅、市場稅、演劇稅、興行稅、遊覽所稅、遊技場稅、屠畜稅及第一種第三種第四種漁業稅ハ營業所ノ地トシ營業所ナキトキハ納稅者住所ノ地トシ住所ナキトキハ居所ノ地トシ營業所、住所又ハ居所ナキトキハ納稅者ノ選定シタル地トス
- 四 第二種漁業稅ハ納稅者ノ選定シタル地トス
- 五 狩獵稅ハ納稅者住所ノ地トシ住所ナキトキハ居所ノ地トシ住所又ハ居所ナキトキハ本稅納稅ノ地トス
- 六 車稅 自轉車稅及自動車稅ヲ包含ス以下ニ依リ 及乘馬稅ハ納稅者住所ノ地トシ住所ナキトキハ居所ノ地トシ住所又ハ居所ナキトキハ物件所在ノ地トス
- 七 人寄席稅、水車稅及蒸汽機械稅ハ物件所在ノ地トス

トス  
八 船稅 日本形船稅及西洋形船稅ハ船舶定繫場 船舶港ヲ包含ス以下ニ依リ  
フニ依リ地トス

九 家屋稅ハ建物所在ノ地トス

第三條 徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ交付シタル後納稅地ヲ變更スルモ其ノ納稅義務ヲ了スル迄ハ該縣稅ニ付テハ納稅地ニ變更ナキモノト看做ス  
納稅義務ノ減消シタル場合ニ於テ其ノ既ニ確定シタル縣稅ニ付テモ其ノ納稅義務ヲ了スル迄亦前項ニ準ス

第四條 納稅地ノ選定ヲ要スル場合ニ於テハ納稅義務發生ノ後五日以内ニ之ヲ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ其ノ變更ノ場合亦同シ但シ第二條第一號ノ場合ニ於テ營業所二箇以上有スル者ニ在リテハ其ノ營業所ノ一ヲ選定スルコトヲ要ス

第五條 營業ノ讓渡、讓受又ハ現ニ課稅ヲ受クル物件ノ所有權移轉ニ關スル届書ハ相續ノ場合ヲ除クノ外當事者双方署名捺印スヘシ但シ營業ヲ讓受ケ又ハ所有權ヲ取得シタル證據ヲ提出スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 營業、行爲又ハ物件ニ關シ他ノ法令ニ依リ行政廳ニ届出ヲ爲シ又ハ行政廳ノ免許、許可、檢査若ハ鑑札ヲ受ケタル場合ハ届書ニ其ノ年月日及事件ノ要旨ヲ附記スヘシ但シ郡市役所又ハ町村役場ニ於テ受理スヘキモノ又ハ之ヲ經由スヘキモノニ付テハ此

ノ限ニ在ラス

納稅者ハ所轄郡市役所又ハ町村役場ノ要求アルトキハ前項ノ書類又ハ鑑札等ノ正本ヲ呈示スヘシ

第七條 届出ノ事項ヲ不相當ト認ムルトキハ郡市長又ハ町村長ハ之ヲ更正セシムルコトアルヘシ

第八條 住所、居所、營業所、物件所在地、船舶定繫場又ハ納稅地ノ變更ニシテ他ノ郡市又ハ町村ニ關係スル場合ハ舊所轄郡市役所又ハ町村役場ニ届出ツヘシ

第九條 郡役所ニ提出スヘキ届書ハ所轄町村役場ヲ經由スヘシ

第十條 届出ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但シ第五條但書及第二十七條乃至第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ市役所又ハ町村役場ニ於テ調製スル書面ノ讀聞セ又ハ閱覽ヲ受ケ之ニ捺印スヘシ

第十一條 縣稅ノ賦課ニ關シテハ縣、郡ノ官吏、吏員又ハ市町村吏員ヲシテ納稅者ノ家宅、營業所又ハ物件所在地ニ臨檢シ鑑札、標札、物件及帳簿等ノ檢査ヲ爲サシムヘシ

第二章 營業稅、雜種稅  
第十二條 商業稅、工業稅、飲食店稅又ハ第一種漁業稅 漁業稅規則 第五條前段ヲ課スヘキ營業ヲ開始シタル者ハ其ノ開

始ノ後五日以内ニ住所、氏名、營業所ノ所在地、營業ノ種類及其ノ開始ノ年月日ヲ所轄市役所又ハ町村役場ニ届出ツヘシ但シ營業ニ關シ他ノ法令ニ依リ行政廳ニ届出ヲ爲シ又ハ行政廳ノ免許若ハ許可ヲ受ケルモノニシテ所轄郡市役所、町村役場又ハ警察官署ニ於テ受理スヘキモノ又ハ之ヲ經由スヘキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 演劇稅、興行稅、遊覽所稅又ハ臨時遊技場稅ヲ課スヘキ營業ヲ開始セムトスル者ハ其ノ開始ノ前、遊藝師匠稅、遊藝稼人稅、相撲稅、俳優稅、幫間稅、第一種漁業稅 漁業稅規則 第五條後段 又ハ第三種第四種漁業稅ヲ課スヘキ營業ヲ開始シタル者ハ其ノ開始ノ後五日以内ニ住所、氏名、營業所ノ所在地、營業ノ種類及其ノ開始ノ年月日ノ外左ニ掲クル事項ヲ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ但シ本文前段ノ營業者ニ在リテハ該營業ニ付所轄郡市役所ヨリ徵稅令書ヲ交付ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 遊藝稼人ハ其ノ藝名及生年月日  
二 相撲及俳優ハ其ノ藝名及課率ノ等級  
三 演劇及興行ハ其ノ課稅標準ノ細別、營業日數、開場及閉場ノ年月日尙興行ニ在リテハ其ノ種類  
四 遊覽所及臨時遊技場ハ其ノ營業日數、開場及閉場ノ年月日

五 第三種漁業ハ其ノ漁場ノ數及所在地  
前條但書ノ規定ハ前項後段ノ營業ニ之ヲ適用ス



第十四條 屠畜稅ヲ課スヘキ屠畜ヲ爲サムトスル者ハ屠殺ノ前住所、氏名、屠畜ノ種類及頭數並屠殺ヲ爲スヘキ屠畜場ヲ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ但シ縣稅賦課規則第七條第三項但書ニ依リ課稅ヲ受ケムトスル場合ハ見込ノ種類、頭數、期間及其ノ事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第十五條 遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優、幫間又ハ第四種漁業營業者ニシテ營業開始ノ届出ヲ爲シ又ハ免許若ハ許可ヲ受ケタルトキ及其ノ他ノ營業者ニシテ行商又ハ出稼ヲ爲ストキハ所轄郡市役所ニ届出テ營業鑑札ヲ受クヘシ其ノ同居ノ家族及傭人ヲシテ行商又ハ出稼ヲ爲サシムル場合亦同シ但シ臨時市場演劇興行遊覽所臨時遊技場營業者、常業ニ非サル相撲俳優、第一種第二種第三種漁業營業者及營業ニ關シ他ノ法令ニ依リ鑑札又ハ免許證ヲ受有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 營業鑑札ハ營業ノ際之ヲ携帶スヘシ 許若ハ許可ヲ受ケタルトキハ直ニ營業所ノ門戸ノ賭易キ場所ニ標札ヲ掲クヘシ但シ臨時市場演劇興行遊覽所臨時遊技場營業者、常業ニ非サル相撲俳優及營業ニ關シ他ノ法令ニ依リ相當ノ標札ヲ掲クル營業者ハ此ノ限ニ在ラス 前項ノ標札ハ營業者ニ於テ之ヲ調製シ所轄市役所又ハ町村役場ノ證印ヲ受クヘシ

第十八條 物件所有者ニシテ前條ノ届出ヲ爲シタルトキハ所轄郡市役所ヨリ船舶、自轉車、自動車、水車及乘馬ニ付テハ鑑札ヲ、馬車、人力車、荷積牛馬車及荷積車ニ付テハ檢印ヲ受クヘシ但シ船舶法ニ依リ船舶國籍證書ヲ受有スル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラス 鑑札ハ船舶ハ艦ノ内部ニ附着シ自轉車及自動車ハ車體ノ、乘馬ハ馬具ノ賭易キ部分ニ附着シ水車ハ建物ノ門戸ノ賭易キ場所ニ掲クヘシ 檢印ハ馬車及人力車ハ右棍棒ノ車體ニ接近シタル上面ニ、荷積牛馬車及荷積車ハ車體ノ右側面後部ニ烙記ス但シ棍棒ニ烙記シ難キ場合ハ車體ノ右側面後部ニ烙記スルモノトス 檢印ヲ受クヘキ物件ニシテ檢印シ難キ場合ハ鑑札ヲ受ケ之ヲ物件ノ賭易キ部分ニ附着スヘシ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ第十二條乃至第十四條及第十七條ノ區分ニ從ヒ第十三條第一項本文前段及第十四條ニ掲クル種類ノ營業ニ付テハ其ノ都度、其ノ他ノ種類ノ營業又ハ物件ニ付テハ事實發生ノ後五日以内ニ其ノ事由ヲ所轄郡市役所又ハ町村役場ニ届出テ鑑札アルモノハ之カ記入、書換又ハ再交付ヲ、檢印アルモノハ之カ再檢印<sup>第五號ノ場ヲ請フヘシ</sup>合テ除ク<sup>合テ除ク</sup>ヲ請フヘシ 一 氏名ヲ變更シタルトキ 二 住所、居所、營業所、物件所在地又ハ船舶定繫場ヲ變更シタルトキ

標札記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ届出ヲ爲シ又ハ免許若ハ許可ヲ受ケタル際更ニ證印ヲ、營業ヲ廢止シタルトキハ其ノ都度證印ノ消印ヲ請フヘシ 標札又ハ其ノ證印ヲ毀損シ又ハ標札ヲ亡失シタルトキハ事實發生ノ後五日以内ニ更ニ第二項ノ手續ヲ爲スヘシ 標札ハ地區又ハ營業ノ種類ヲ限リ之ヲ掲ケシメサルコトヲ得其ノ地區及種類ハ郡市長之ヲ定ム 第十七條 本縣内ニ於テ水車稅、車稅、船稅又ハ乘馬稅ヲ課スヘキ物件ノ所有權ヲ取得シ、本縣外ヨリ轉入シ又ハ課稅外ノ物件ヲ課稅スヘキ用途ニ變更シタル者ハ事實發生ノ後五日以内ニ住所、氏名、物件ノ種類員數及所有權取得、轉入又ハ課稅用途變更ノ年月日ノ外左ニ掲クル事項ヲ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ但シ船舶鑑札規則ニ依リ船舶鑑札ヲ受有スル船舶及營業用ノ馬車又ハ人力車ニ付テハ此ノ限ニ在ラス 一 蒸汽船及西洋形帆船ハ其ノ噸數、積石數五十石以上ノ日本形帆船ハ其ノ積石數、積石數五十石未滿ノ日本形帆船及端舟其ノ他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル船舶ハ其ノ船體ノ長<sup>軸梁ヨリ櫓櫂ニ</sup>、製造ノ年月日及定繫場<sup>至ル内側ノ間數</sup> 二 水車ハ其ノ臼ノ數及所在地 三 本縣内ニ住所ヲ有セサル者ノ所有又ハ轉入ニ係ル車輛及乘馬ハ其ノ所在地

三 營業又ハ物件ノ種類及課稅標準ニ變更ヲ生シタルトキ、車體ヲ修繕シ若ハ檢印アル部分ヲ取換ヘタルトキ 四 馬車馬匹ノ頭數ヲ増減シタルトキ 五 營業ノ讓渡、讓受又ハ物件ノ所有權ニ移轉アリタルトキ 六 鑑札有効期限ノ經過シタルトキ 七 鑑札又ハ檢印ヲ毀損又ハ亡失シタルトキ 第二十條 左ノ場合ニ於テハ第十二條乃至第十四條及第十七條ノ區分ニ從ヒ其ノ都度其ノ事由ヲ所轄郡市役所又ハ町村役場ニ届出鑑札アルモノハ之ヲ返納シ檢印アルモノハ其ノ部分ヲ切取リテ之ヲ返納シ又ハ其ノ消印ヲ受クヘシ 一 營業ヲ廢止シタルトキ 二 行商又ハ出稼ヲ廢止シタルトキ 三 物件ノ課稅用途ヲ廢止シタルトキ 四 物件ヲ解撤、破壞又ハ亡失シタルトキ 五 物件又ハ船舶定繫場ヲ本縣外ニ移轉シタルトキ 第二十一條 車輛ノ檢印又ハ消印ハ郡市長ノ指定スル場所及日時ニ於テ之ヲ受クヘシ 第二十二條 國稅營業者ニシテ其ノ資格ヲ喪失シ引續キ營業ヲ爲ス場合及縣稅營業者ニシテ國稅營業者ニ編入セラレタル場合ハ新ニ營業ヲ開始シ又ハ營業ヲ廢止シタル者ノ例ニ依リ届出ツヘシ 第二十三條 亡失ニ係ル物件ヲ發見シタルトキハ發見



ノ後五日以内ニ其ノ事由ヲ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ

第二十四條 鑑札及標札ハ賣買、交換、貸借、讓渡又ハ讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條 鑑札、標札、檢印又ハ消印ハ別記様式ニ依ル但シ第十六條ノ消印ハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 漁業稅規則第七條ニ依リ第一種漁業稅ノ前半期分ヲ後半期分ニ併課スヘキ地區ハ郡長之ヲ定ム

第三章 營業稅附加稅

第二十七條 府縣制第八條ニ該當スル營業者ニシテ

本縣内ニ本店ヲ有シ及他府縣ニ支店其ノ他ノ營業所ヲ有スルモノハ毎年三月三十一日迄ニ住所、氏名、政府ニ申告シタル事項及前一箇年間ノ收入金高製造シテ收入金ナキモノヲ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ

前項政府ニ申告シタル事項及前一箇年間ノ收入金高ハ本店、支店其ノ他ノ營業所毎ニ分別シ其ノ區分シ難キ場合ハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

運送業中軌道業ニ付テハ停留所ヲ以テ營業所ト看做ス

第一項届出ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ營業稅額決定ノ後稅金増徴額ヲ除クノ減額アリタルトキハ事實發生ノ後五日以内ニ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第二十八條 府縣制第八條ニ該當スル營業者ニシテ本縣内ニ支店其ノ他ノ營業所ヲ有シ及他府縣ニ本店

ヲ有スルモノハ毎年三月三十一日迄ニ住所、氏名及營業ノ種類ノ外左ニ掲クル事項ヲ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ

一 本店及本縣内支店其ノ他ノ營業所ノ所在地  
二 本縣内支店其ノ他ノ營業所ニ於ケル營業稅ノ課稅標準トナルヘキ事項

三 本縣内支店其ノ他ノ營業所ニ於ケル前一箇年間ノ收入金高但シ製造業ニシテ收入金ナキモノハ其ノ製造品ノ價格

前條第二項乃至第四項ノ規定ハ稅金減額ノ場合ヲ除クノ外本條ニ之ヲ準用ス

第二十九條 前二條ノ營業者ニシテ廢業其ノ他ノ事故ニ因リ府縣制第八條ニ該當セサルモノト爲リタルトキハ其ノ都度其ノ事由ヲ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ

第四章 所得稅附加稅

第三十條 本縣内ニ住所ヲ有スル第一種及第三種所得稅ノ納稅者ニシテ其ノ所得金ノ内本縣外ニ於ケル土地、家屋、物件又ハ營業所ノ營業等ニ係ルモノアルトキハ政府ヨリ所得金額決定ノ通知ヲ受ケタル後五日以内ニ住所、氏名及所得ノ金額並種類ヲ所得所在地管轄ノ稅務署別ト爲シ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ

本縣内ニ住所ヲ有セサル第一種及第三種所得稅ノ納稅者ニシテ政府ヨリ所得金額決定ノ通知ヲ受ケタル後本縣内ニ住所ヲ移轉シ且納稅ヲ爲ス場合ニ於テ前

前項届書ニハ建物ノ平面圖ヲ添付スヘシ其ノ平面圖ニハ敷地ノ方位、届出人ノ住所及氏名ヲ記載シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

第三十五條 建物ヲ増築、改築、移轉、分割又ハ合併シタルトキハ前條ニ準シ事實發生ノ後五日以内ニ届出ツヘシ

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ事實發生ノ後五日以内ニ其ノ事由ヲ所轄市役所ニ届出ツヘシ

一 第三十四條ノ届出ノ事項ヲ變更シタルトキ  
二 建物ノ所有權ニ移轉アリタルトキ  
三 建物ヲ解撤、破壊又ハ亡失シタルトキ

第六節 罰則  
第三十七條 第四條、第十二條乃至第二十四條及第二十七條乃至第三十六條ノ規定ニ違反シ又ハ虛偽ノ届出ヲ爲シ若ハ第十一條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ拘留又ハ料料ニ處ス

附則  
第三十八條 本則ハ明治四十一年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

兵庫縣郡部縣稅取締規則ハ之ヲ廢止ス  
第三十九條 (削除)

第四十條 本則施行當時ノ營業稅附加稅及第二種漁業稅ノ納稅者ニシテ納稅地ノ選定ヲ要スル場合ハ本年八月三十一日迄ニ第四條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十一條 本則施行當時ノ第一種、第三種及第四種

項ニ該當スルトキハ住所移轉ノ後仍前項ノ例ニ依リ届出ツヘシ

第三十一條 本縣内ニ住所ヲ有セサル第一種及第三種所得稅ノ納稅者ニシテ其ノ所得金ノ内本縣内ニ於ケル土地、家屋、物件又ハ營業所ノ營業等ニ係ルモノアルトキハ政府ヨリ所得金額決定ノ通知ヲ受ケタル後五日以内ニ住所、氏名及所得ノ金額並種類ヲ所得所在地管轄ノ稅務署別ト爲シ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ

第三十二條 前二條届出ノ後政府ヨリ所得金額更訂ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ尚前條ノ者ニ在リテハ其ノ届出ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合亦同シ

第三十三條 本縣内ニ住所ヲ有スル第二種所得稅ノ納稅者ニシテ記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ノ納稅ヲ了シタルトキハ五日以内ニ住所、氏名、稅額及納稅ノ場所ヲ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ

第五章 家屋稅

第三十四條 家屋稅ヲ課スヘキ建物ヲ建築シ又ハ課稅外ノ建物ヲ課稅スヘキ用途ニ變更シタル者ハ事實發生ノ後五日以内ニ住所、氏名、建物ノ所在地、地番、種類、構造、面積、構造、階數、各間取ノ間尺、長、短、各間取ノ坪數、六尺三寸平方、及三、各間取ノ間尺、アルモノハ其ノ名稱並建築落成又ハ課稅用途變更ノ年月日ヲ所轄市役所ニ届出ツヘシ



漁業營業者ハ本年ニ限リ第十三條ノ例ニ依リ七月三十一日迄ニ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ但シ漁業稅規則第四條ノ第一種漁業營業者ハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 府縣制第八條ニ該當スル營業者ニシテ其ノ營業ニ關シ從前ノ規定ニ依リ既ニ届出ヲ了シタル場合ハ本年七月三十一日迄ニ第二十七條及第二十八條中追加ニ係ル事項ノ届出ヲ爲スヘシ

第四十三條 本則施行當時ノ營業者及物件ニ關シ本則ニ依リ新ニ鑑札ヲ要スル場合ハ本年九月三十日迄ニ之ヲ受クヘシ

從前ノ規定ニ依リテ受ケタル鑑札又ハ檢印ハ本則ニ依リ鑑札又ハ檢印ヲ要スル場合ニ限リ漁業ニ關スルモノヲ除クノ外仍其ノ効力ヲ有ス其ノ鑑札ニ有効期限ノ記載ヲ要スルモノニ付テハ本年九月三十日迄ニ提出シテ之カ記入ヲ受クヘシ

第四十四條 標札ハ本則施行當時ノ營業者ニ在リテハ本年九月三十日迄ニ第十六條第一項及第二項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十五條 從前ノ規定ニ依リテ受ケタル鑑札及檢印ニシテ無効トナリタルモノハ前條標札ノ證印ヲ受ケル際之ヲ返納シ其ノ檢印ニシテ返納シ難キ場合ハ第二十一條ノ規定ヲ適用ス但シ標札ノ證印ヲ受ケサル者ノ鑑札ハ郡市長ノ定ムル期間内ニ之ヲ返納スヘシ

附 則(四十二年兵庫縣令第十六號附則)  
本令中檢印ニ關スル事項ハ公布ノ日ヨリ其ノ他ハ明治

四十二年度ヨリ之ヲ施行ス

本令施行當時自轉車ノ所有者ハ本年五月三十一日迄ニ所轄郡市役所ニ其ノ鑑札ノ引換ヲ請フヘシ

自轉車鑑札ノ引換ニ關シ兵庫縣郡部縣稅施行細則ニ規定アルモノノ外必要ナル事項ハ郡市長ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

營業鑑札 紙製縱曲尺四寸五分  
橫曲尺三寸

表

第何號

物品販賣業

住所

氏名

裏

年月日

兵庫縣何郡(市)役所

備考

一 業名ハ營業稅ニ付テハ商業及工業ノ業目ヲ、離種稅ニ付テハ稅目ヲ記載シ尙第四種漁業ハ稅目ノ下部ニ業體ヲ記載スルモノトス

二 遊藝人、相撲及俳優ハ業名ノ下部ニ課稅標準ヲ記載シ

尙裏面ニ左ノ如ク鑑札ノ有効期限ヲ記載シ之ニ市役所又ハ町村役場印ヲ捺捺スルモノトス但シ鑑札ノ有効期限ハ當該所屬年度限リトス

鑑札有効期限 月 年 日

三 家族及傭人ノ行商又ハ出稼ニ關スルモノハ住所トアルチ住所營業主氏名同居家族(傭人)ト記載スルモノトス

船舶鑑札 木製縱曲尺五寸  
橫曲尺三寸

第何號 年月日 郡市役所 所烙印

海川小船(漁船遊船) 何箇

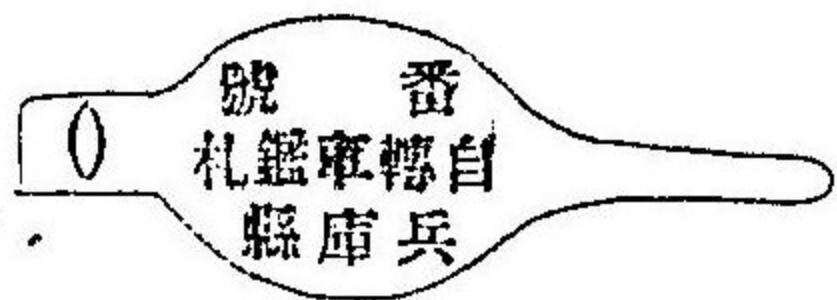
何年何月製造

定製場 何々

住所

氏名

自轉車鑑札 眞鍮製縱二寸  
橫二寸



自動車及乘馬鑑札 木製縱曲尺三寸  
橫曲尺二寸

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

第何號 年月日 郡市役所 所烙印

自動車(乘馬) 何輛

住所

氏名

水車鑑札 木製縱曲尺五寸  
橫曲尺三寸

第何號 明治 年月日 郡市役所 所烙印

水車 搗臼 何箇

挽臼 何箇

所在地 何々

住所

氏名

標札 木製縱曲尺一尺  
橫曲尺四寸

年月日 市役所 町村役所 寫印

物品販賣業

住所

氏名

檢印其ノ一 縱曲尺一寸八分  
橫曲尺八分







稅者ノ地租割ノ賦課額又ハ還付額ヲ測定スヘシ  
第十三條ノ二 郡市長ハ毎年五月三十一日迄ニ其ノ年  
四月一日現在ノ縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サル地租額  
ヲ調査シ之ヲ當廳ニ報告スヘシ

第三章 營業稅、雜種稅

第十四條 町村長ハ縣稅賦課規則第八條又ハ漁業稅規  
則第四條ニ依リ町村會ニ於テ營業稅及雜種稅納稅者  
ノ等級及賦課額ヲ議定シタルトキハ直ニ第三號樣式  
ノ報告書ヲ製シ之ヲ所轄郡長ニ提出スヘシ  
町村長ハ縣稅賦課規則第二十四條ニ依リ町村會ニ於  
テ新ニ營業ヲ開始シタル者ノ賦課額ヲ議定シタルト  
キハ每翌月三日迄ニ第四號樣式ノ報告書ヲ製シ之ヲ  
所轄郡長ニ提出スヘシ但シ同條但書ニ依リ賦課額ヲ  
定メタルモノニ付テハ其ノ事由ヲ備考ノ欄内ニ記載  
スルコトヲ要ス

町村長ハ縣稅賦課規則第二十四條但書ニ依リ町村會  
ニ於テ豫メ賦課額査定ノ方法ヲ議定シタルトキハ直  
ニ之ヲ所轄郡長ニ報告スヘシ

町村長ハ漁業稅規則第五條前段ノ第一種漁業稅ヲ課  
スヘキ營業ヲ開始シタル者アルトキハ第二項ノ例ニ  
準シ所轄郡長ニ報告書ヲ提出スヘシ但シ屆書ヲ以テ  
報告書ニ代フルコトヲ得

第十五條 警察官署ニ於テ縣稅ヲ課スヘキ營業、行爲  
又ハ物件ニ付届出ヲ受理シ又ハ免許證、許可證、檢  
査證若ハ鑑札ヲ交付シタルトキハ其ノ都度住所、氏

數ヲ記載スヘシ

第十七條 警察官署ニ於テ前二條ノ届出ヲ受理シ又ハ  
免許證、許可證、檢査證若ハ鑑札ヲ交付セシ場合ハ  
納稅者ニ對シ郡市役所又ハ町村役場ノ指示ニ從ヒ納  
稅ノ手續ヲ爲スヘキ様注意ヲ與フヘシ

第十八條 郡長ニ於テ第十五條又ハ第十六條ノ通知ヲ  
受ケタル場合ハ更ニ之ヲ所轄町村長ニ令達スヘシ但  
シ演劇稅、興行稅、遊覽所稅又ハ臨時遊技場稅ニ付  
テハ當事者ノ届出アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ住所、居所又ハ營業所ノ變更ニシ  
テ他ノ郡市又ハ町村ニ關係スルモノニ付テハ舊所轄  
町村長ニ令達スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ通知書ヲ以テ令達書ニ代フル  
コトヲ得

第十九條 市町村長ニ於テ商業、工業、料理屋、待合  
茶屋、遊船宿、芝居茶屋、飲食店、湯屋、理髮人又  
ハ第一種漁業稅規則第五條ノ營業者ノ住所、居所、營  
業所ノ變更ニ係ル當事者ノ届出、警察官署ノ通知又  
ハ郡長ノ令達ヲ受ケタルトキ其ノ變更カ本縣内他ノ  
郡市又ハ町村ニ關係スル場合ハ左ノ例ニ依ルヘシ

一 縣稅施行細則ニ依ル當事者ノ届出又ハ郡長ノ令  
達ニ付テハ舊所轄市町村長ハ其ノ都度該書面ニ課  
稅額其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ新所轄市町  
村長ニ送付スヘシ

二 他ノ法令ニ依ル當事者ノ届出又ハ警察官署ノ通

名、營業所ノ所在地、營業、行爲又ハ物件ノ種類及  
員數並其ノ届出、免許證、許可證、檢査證若ハ鑑札  
交付ノ年月日ノ外左ニ掲クル事項ヲ所轄郡市役所ニ  
通知スヘシ但シ人寄席ニ於テ爲ス興行ニ付テハ此ノ  
限ニ在ラス

一 藝妓ハ其藝名及生年月日

二 演劇及興行ハ其ノ課稅標準ノ細別、營業日數、  
開場及閉場ノ年月日尙興行ニ在リテハ其ノ種類

三 遊覽所及臨時遊技場ハ其ノ營業日數、開場及閉  
場ノ年月日

四 狩獵ハ狩獵法第十一條ノ免許稅ノ等級

五 第二號及第三號ノ場合ヲ除クノ外營業ノ免許又  
ハ許可ノ年月日ト營業開始ノ年月日ノ異ナル場合  
ハ其ノ營業開始ノ年月日

六 人寄席ハ其ノ所在地及檢査濟ノ年月日

七 馬車及人力車ハ車體檢査證ノ番號尙馬車ニ付テ  
ハ馬匹ノ頭數

前項通知ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ハ狩獵ヲ除ク  
ノ外其ノ都度更ニ其ノ年月日及事由ヲ同一ノ郡市役  
所ニ通知スヘシ

第十六條 警察官署ニ於テ縣稅ヲ課スヘキ營業、行爲  
又ハ物件ニ付上級行政廳ニ提出スヘキ届出ヲ受理シ  
又ハ上級行政廳ノ處分ニ係ル免許證、許可證、檢査證  
若ハ鑑札ヲ交付シタル場合ハ前條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ蒸汽機械ニ付テハ其ノ公稱馬力ノ

知ニ付テハ舊所轄市町村長ハ其ノ都度變更ノ廉及  
課稅額其ノ他必要ナル事項ヲ新所轄市町村長ニ通  
知スヘシ

三 前二號ノ場合ニ於テハ關係町村長ハ每翌月三日  
迄ニ第六號樣式ノ報告書ヲ製シ之ヲ所轄郡長ニ提  
出スヘシ但シ同一ノ郡内ニ係ル場合ハ新所轄町村  
長ニ於テハ本號ノ手續ヲ要セサルモノトス

四 新所轄町村長ハ届書、通知書又ハ令達書ヲ以テ  
前號ノ報告書ニ代フルコトヲ得

第二十條 郡市長ニ於テ前條ニ掲クルモノヲ除クノ外  
ノ營業者又ハ物件所有者ノ住所、居所、營業所、物件  
所在地、船舶定繫場ノ變更ニ係ル當事者ノ届出又ハ  
警察官署ノ通知ヲ受ケタルトキ其ノ變更カ本縣内他  
ノ郡市又ハ町村ニ關係スル場合ハ左ノ例ニ依ルヘシ

一 同一ノ郡内ニ係ルモノニ付テハ郡長ハ其ノ都度  
第六號樣式ニ準シ令達書ヲ製シ之ヲ新所轄町村長  
ニ送付スヘシ

二 他ノ郡市ニ係ルモノニ付テハ舊所轄郡市長ハ其  
ノ都度縣稅施行細則ニ依ル當事者ノ届出ノ場合ニ  
於テハ届書ニ課稅上必要ナル事項ヲ記載シテ之ヲ  
新所轄郡市長ニ送付シ其ノ他ノ場合ニ於テハ變更  
ノ廉及課稅上必要ナル事項ヲ新所轄郡市長ニ通知  
スヘシ

三 前號ノ届書又ハ通知書ヲ受ケタル郡長ハ其ノ都  
度第六號樣式ニ準シ令達書ヲ製シ之ヲ所轄町村長

二三九



ニ送付スヘシ

四 郡長ハ届書又ハ通知書ヲ以テ第一號又ハ第三號ノ合達書ニ代フルコトヲ得

第二十一條 町村長ニ於テ縣稅施行細則第二十條ノ届出ヲ受ケタル場合及他ノ法令ニ依ル當事者ノ届出又ハ郡長ノ合達カ同條ノ各號ニ該當スル場合ハ左ノ例ニ依ルヘシ

一 第十九條ニ掲ケル種類ノ營業者ニ係ルモノニ付テハ毎翌月三日迄ニ第六號様式ニ準シ報告書ヲ製シ之ヲ所轄郡長ニ提出スヘシ

二 第二十條ニ掲ケル種類ノ營業者又ハ物件所有者ニ係ルモノニ付テハ其ノ都度之ヲ所轄郡長ニ提出スヘシ但シ第十八條ニ依リ郡長ノ合達ニ係ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 第十八條第二項及前三條ノ場合ニ於テ納稅者ニ對シ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ交付シタル場合ハ左ノ例ニ依ルヘシ

一 町村長ハ第十八條ニ依リ郡長ノ合達ヲ受ケタル場合又ハ他ノ法令ニ依ル當事者ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ第二十條ニ掲ケル種類ノ營業者又ハ物件所有者ニ係ルモノニ付テハ其ノ都度令書ノ交付其ノ他必要ナル事項ヲ所轄郡長ニ報告スヘシ

二 前號ノ場合ヲ除クノ外ハ郡市長又ハ町村長ハ届書、通知書、合達書又ハ報告書ニ合書ノ交付其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

營業主ト同居ノ家族及傭人ノ行商又ハ出稼鑑札ハ主タル鑑札ノ番號ヲ附スヘシ主タル鑑札番號ナキモノハ別ニ之ヲ附スルコトヲ要ス

第二十八條 營業鑑札中遊藝家、相撲及俳優鑑札ノ有効期限後引續キ營業ヲ爲スモノニ付テハ更ニ其ノ有効期限ヲ記載スヘシ

第二十九條 郡役所ニ於テ取扱フヘキ鑑札ハ町村役場ヲ經テ交付スヘシ若シ直接交付シタルトキハ其ノ都度鑑札ニ記載シタル事項ヲ所轄町村長ニ合達スヘシ

第三十條 鑑札、檢印及消印ハ當廳ニ於テ調製シ之ヲ配付ス但シ縣稅施行細則第十六條ノ消印ハ此ノ限ニ在ラス

鑑札、檢印又ハ消印ハ其ノ豫定ノ種類及員數ヲ記載シ町村役場ニ於テ取扱フヘキモノハ町村長ハ之ヲ郡長ニ、郡市役所及町村役場ニ於テ取扱フヘキモノハ郡市長ハ之ヲ當廳ニ請求スヘシ

第三十一條 營業者又ハ物件所有者ニシテ所在分明ナラサルモノニ付テハ營業ノ廢止又ハ物件ノ課稅用途廢止若ハ亡失ノ例ニ準シ取扱フヘシ

前項ノ者復歸シ引續キ同一ノ營業ヲ爲シ、物件ヲ所有スルトキ又ハ亡失ニ係ル物件發見ノ届出アリタルトキハ同納稅期間ニ係ル場合ヲ除クノ外新ニ營業ヲ開始シ又ハ物件ノ所有權ヲ取得シタル者ノ例ニ準シ取扱フヘシ

第三十二條 郡市長ニ於テ縣稅施行細則第十六條第五

第二十三條 郡長ニ於テ車輛ニ檢印ヲ爲シタルトキハ毎翌月三日迄ニ第五號様式ノ合達書ヲ製シ之ヲ所轄町村長ニ送付スヘシ但シ町村役場ヲシテ檢印ノ事務ヲ取扱ハシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

車輛ニ再檢印ヲ爲ストキハ曩ノ檢印ハ之ヲ消印スヘシ消印シ難キトキハ之ヲ削リ取ルコトヲ要ス

第二十四條 町村長ニ於テ間數ニ基キ課稅スヘキ船舶ニ關スル届出ヲ受ケタルトキハ船體及間數ヲ検査シ其ノ年月日ヲ届書ニ記載スヘシ

第二十五條 町村長ニ於テ郡役所ニ於テ取扱フヘキ鑑札又ハ檢印ノ返納ヲ受ケタルトキハ自轉車鑑札ヲ除クノ外之ヲ棄却シ届書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第二十六條 縣稅施行細則中營業鑑札ニ關シ郡役所ニ屬スル事務ハ町村役場ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

前項ノ外郡役所ニ屬スル鑑札、檢印又ハ消印ノ事務ハ郡長ノ定ムル處ニ依リ其ノ種類又ハ鑑札ニ記載スヘキ事項ヲ限リ町村役場ヲシテ之ヲ取扱ハシメ尙檢印又ハ消印ノ事務ハ特ニ町村役場ヲ指定シ他ノ町村ニ屬スル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ取扱上必要ナル事項ハ郡長之ヲ定ムヘシ

第二十七條 鑑札ノ番號ハ營業稅ニ付テハ各業目毎ニ、雜種稅ニ付テハ各稅目毎ニ之ヲ區別シ町村役場ニ於テ取扱フヘキモノハ町村長ニ於テ、郡市役所ニ於テ取扱フヘキモノハ郡市長ニ於テ之ヲ附スヘシ

自轉車鑑札ノ番號ハ當廳ニ於テ之ヲ附ス

項ニ依リ標札ヲ掲ケシメサル地區又ハ種類ヲ定ムル場合ハ營業者ノ取締上差支ヘナキ範圍ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二十三條 郡市長ニ於テ縣稅施行細則第二十六條ニ依リ第一種漁業稅ノ前半期分ヲ後半期分ニ併課スヘキ地區ヲ定ムル場合ハ漁業組合ニ於テ其ノ組合内漁業者總員ノ共同組織ニ成ル魚類共同販賣所ヲ設ケ並一定ノ蓄積金ヲ爲シ其ノ一部ハ必ス組合内各漁業營業者ノ負擔スル漁業稅ニ充當スルノ方法ヲ設ケタルモノニ就キ納稅上ノ便否等ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ

第二十四條 町村長ハ漁業稅規則第二條ニ掲ケル漁業町村内ニ於ケル第一種漁業營業者ノ全部廢業ヲ爲シタルトキハ其ノ都度之ヲ當廳ニ報告スヘシ

第二十五條 郡市長ニ於テ第二種漁業稅納稅者ノ納稅地ノ選定又ハ變更ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ都度之ヲ當廳ニ報告スヘシ但シ届書ヲ以テ報告書ニ代フルコトヲ得

第二十二條ノ規定ハ本條ニ之ヲ準用ス

第三十六條 第二種漁業稅ノ賦課ニ關シ必要ナル事項ハ其ノ都度當廳ヨリ之ヲ所轄郡市長ニ合達スヘシ

郡長ニ於テ前項ノ合達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度更ニ之ヲ所轄町村長ニ合達スヘシ

第二十七條 郡市長又ハ町村長ハ第七號様式ノ營業臺帳又ハ物件臺帳ヲ設備スヘシ但シ狩獵者、市場、演劇、興行、遊覽所、臨時遊技場及屠畜營業者並船鑑



札規則ニ依リ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ臺帳ヲ設備セサルコトヲ得尙郡役所ニ在リテハ第十九條ニ揭クル種類ノ營業者ニ付テモ亦同シ

營業臺帳及物件臺帳ハ當事者ノ届出若ハ申請、警察官署ノ通知又ハ上級行政廳ノ令達等ニ基キ其ノ都度加除更正スヘシ

第三十八條 郡市長ハ當事者ノ届出若ハ申請、町村長ノ報告、警察官署ノ通知及營業臺帳又ハ物件臺帳等ニ基キ各市町村又ハ市町村内各營業者、行爲者又ハ物件所有者ノ營業稅及雜種稅ノ賦課額又ハ還付額ヲ調定スヘシ

第三十九條 市町村長ハ當事者ノ届出若ハ申請、郡市長ノ令達、市町村會ノ議決及營業臺帳又ハ物件臺帳等ニ基キ市町村内各營業者、行爲者又ハ物件所有者ノ營業稅及雜種稅ノ賦課額又ハ還付額ヲ調定スヘシ

第四十條 郡市長ハ毎年五月三十一日迄ニ其ノ年四月一日現在ノ營業者及物件等ヲ調査シ第八號様式ノ報告書ヲ製シ之ヲ當廳ニ提出スヘシ

第四十一條 郡市長ニ於テ縣稅施行細則第二十七條ノ届出ヲ受ケタルトキハ政府ニ申告シタル事項ニ付テハ所轄稅務署ニ就キ照合ヲ爲シ營業稅額ヲ記載ノ上該期限後十日以内ニ、其ノ他ノ場合ニ於テハ其ノ都度之ヲ當廳ニ提出スヘシ

第四十二條 郡市長ニ於テ縣稅施行細則第二十八條又ハ變更ニ付稅務署ノ通知又ハ納稅者ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ他ノ郡市ニ係ルトキハ其ノ都度同條ノ所得金額及種類其ノ他課稅上必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ新所轄郡市長ニ送付スヘシ

第四十九條 郡市長ハ稅務署若ハ郡市長ノ通知又ハ縣稅施行細則第三十條乃至第三十三條ノ届出ニ基キ町村内各所得稅納稅者ノ所得稅ノ賦課額又ハ還付額及其ノ住所、氏名ヲ所轄町村長ニ令達スヘシ

第五十條 郡市長ハ稅務署ノ通知又ハ縣稅施行細則第三十條乃至第三十三條ノ届出ニ基キ各市町村ノ所得稅附加稅ノ賦課額又ハ還付額ヲ調定スヘシ

第六章 戶數割

第五十二條 町村長ハ縣稅賦課規則第三十三條ニ依リ町村會ニ於テ戶數割納稅者ノ等級及賦課額ヲ議定シタルトキハ直ニ第九號様式ノ報告書ヲ製シ之ヲ所轄郡市長ニ提出スヘシ

縣稅賦課規則第三十七條ノ場合ニ於テハ第十四條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス但シ同條第二項ノ報告書ハ第十號様式ニ依ルヘシ

第五十三條 現住者四月一日以後本縣内他ノ町村ニ移

ハ第二十九條ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ都度之ヲ當廳ニ提出スヘシ但シ第二十九條ノ場合ニ於テ同則第二十七條ノモノニ付テハ所轄稅務署ニ照合スルコトヲ要ス

第四十三條 縣稅施行細則第二十八條ニ該當スル營業稅附加稅納稅者ノ納稅地ノ選定又ハ變更ノ届出ニ付テハ第三十五條ノ規定ヲ準用ス

第四十四條 縣稅施行細則第二十七條又ハ第二十八條ニ該當スル營業稅附加稅納稅者ノ營業稅ノ賦課額又ハ還付額其ノ他課稅上必要ナル事項ハ其ノ都度當廳ヨリ之ヲ所轄郡市長ニ令達スヘシ

第三十六條 第二項ノ規定ハ本條ニ之ヲ適用ス

第四十五條 郡市長ハ稅務署ノ通知又ハ當廳ノ令達ニ基キ各市町村ノ營業稅附加稅ノ賦課額又ハ還付額ヲ調定スヘシ

第四十六條 市町村長ハ稅務署ノ通知又ハ上級行政廳ノ令達ニ基キ市町村内各納稅者ノ營業稅附加稅ノ賦課額又ハ還付額ヲ調定スヘシ

第四十七條 郡市長ニ於テ縣稅施行細則第三十一條ニ該當スル所得稅附加稅納稅者ノ納稅地ノ選定又ハ變更ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ旨本縣内所得所在地ノ郡市長ニ通知スヘシ

第四十八條 郡市長ニ於テ縣稅施行細則第三十條又ハ第三十一條ニ該當スル所得稅附加稅納稅者ノ納稅地

轉シタルトキハ舊所轄町村長ハ第十一號様式ノ通知書及報告書ヲ製シ新所轄町村長ニハ其ノ都度之ヲ送付シ所轄郡市長ニハ毎翌月三日迄ニ之ヲ提出スヘシ但シ當時戶數割賦課額ノ定マラサルモノニ付テハ議定後本文ノ區別ニ從ヒ通知又ハ報告ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

前項通知書ノ送付ヲ受ケタル町村長ハ同一ノ郡内ニ係ル場合ヲ除クノ外仍前項ノ例ニ依リ所轄郡市長ニ報告書ヲ提出スヘシ

第五十四條 町村長ハ四月一日以後一月ヲ廢シ、姫路市又ハ本縣外ニ轉出シタル者アルトキハ毎翌月三日迄ニ第十一號様式ニ準シ報告書ヲ製シ之ヲ所轄郡市長ニ提出スヘシ

第五十五條 第二十二條ノ規定ハ前二條ニ之ヲ準用ス

第五十六條 郡市長ハ町村長ノ報告ニ基キ各市町村ノ戶數割ノ賦課額又ハ還付額ヲ調定スヘシ

第五十七條 町村長ハ町村會ノ議決ニ基キ町村内各納稅者ノ戶數割ノ賦課額又ハ還付額ヲ調定スヘシ

第五十八條 郡市長ハ毎年五月三十一日迄ニ其ノ年四月一日現在ノ戶數ヲ調査シ之ヲ當廳ニ報告スヘシ

第七章 家屋稅

第五十九條 市長ハ家屋名寄帳ニ基キ市又ハ市内各納稅者ノ家屋稅ノ賦課額又ハ還付額ヲ調定スヘシ

家屋名寄帳ハ適宜市長ニ於テ之ヲ設備シ當事者ノ届出等ニ基キ其ノ都度加除更正スヘシ



第六十條 市長ハ毎年五月三十一日迄ニ其ノ年四月一日ニ於テ家屋稅ノ賦課ヲ受クヘキ建物ノ坪數及同日ノ現在戸數ヲ調査シ之ヲ當廳ニ報告スヘシ

第六十一條 本手續ハ兵庫縣郡部縣稅施行細則實施ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十五年三月兵庫縣訓令第十六號兵庫縣郡部縣稅取扱手續ハ之ヲ廢止ス  
第六十二條 (削除)  
附則(四十二年兵庫縣訓令甲第三號附則)  
本令ハ明治四十二年度ヨリ之ヲ施行ス

明治何年度  
縣稅徵收原簿

何市役所(町村役場)

備考  
一 課稅標準ノ欄ニハ地租額又ハ賦課等級等ヲ記載スヘシ後期ニ於テ異動ナキモノハ記載スルニ及ハス尙場合ニ依リテハ本欄ノ一部又ハ全部ノ記載ヲ省クコトヲ得  
二 備考ノ欄ニハ傳令書發布後地租額更正ノ爲増減ノ理由又ハ滞納報告ノ經過等ヲ記載スヘシ  
三 納稅管理人ハ其ノ住所氏名ヲ納稅者ノ左傍ニ朱書併記スヘシ  
四 營業稅附加稅、所得稅附加稅其ノ他追加縣稅又ハ臨時收入ニ係ルモノハ適宜調整スヘシ但シ追加縣稅ニ係ルモノハ後期ノ欄ノ下ニ追

加ノ欄ヲ設ケ處理スルコトヲ得  
五 末欄ニ測定總額ヲ記載シ置クヘシ増減ヲ生シタル場合亦同シ  
六 用紙ハ美濃紙トシ半面ニ一人又ハ二人ヲ記載スヘシ

Table with columns for tax items (地租, 商業稅, 料屋稅, 湯屋稅, 戸數別) and amounts. Includes a section for '前' and '後' periods.

明治何年度  
縣稅日記簿

何市役所(町村役場)

備考  
一 稅目毎ニ口座ヲ設ケ且總額ヲ附スヘシ  
二 用紙ハ美濃紙トス

Table with columns for dates (年月日), numbers (番號), and amounts (收入額, 未濟額, 支出額, 殘額).

Table titled '地租' (Land Tax) with columns for '計' (Total) and '支' (Expenditure). Includes a section for '支ニ〇縣支金庫ヘ納'.

第三號樣式

年月日  
郡長宛  
何町村長某印

Table titled '雜種稅ノ部' (Miscellaneous Tax Section) with columns for '等級' (Grade), '課額' (Taxable Amount), '人員' (Personnel), and '稅額' (Tax Amount).

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

Table titled '合計' (Total) with columns for '計' (Total) and '支' (Expenditure).

備考  
一 工業ハ商業ニ倣ヒ列記スヘシ  
二 雜種稅ハ各稅目毎ニ合計ノ一欄ヲ設ケヘシ

Table titled '開業稅目及等級賦課額備考' (Business Tax Items and Grades Taxable Amount Reference) with columns for '年月日' (Date), '課額' (Taxable Amount), and '住氏名' (Residence Name).

第五號樣式  
年月日  
町村長宛  
何郡長某印

Table titled '種類格印年月日備考住所氏名' (Type, Stamp, Date, Reference, Residence, Name) with columns for '種類' (Type), '格印' (Stamp), '年月日' (Date), '備考' (Reference), '住所' (Residence), and '氏名' (Name).



第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

一 新規檢印又ハ再檢印ノ區別等ハ備考ノ欄ニ記載スヘシ  
第六號様式

年月日 郡長宛 何町村長某印

營業者(物件)異動報告書

種類	等級	賦課額	移轉	轉入	地所	備考	前住地	氏名
			年月日	住	所		所	氏名

備考

- 第十九條第三號ノ場合ニ於テ新所轄町村長ノ調製スルモノハ轉入地住所ト前住地住所ノ欄ノ位置ヲ變更シ且等級ノ欄ヲ削ルヘシ
- 第二十條第一號ノ場合ハ報告書トアルヲ合途書、何町村長某印トアルヲ何町長某印、郡長宛トアルヲ町村長宛ト改メ且轉入地住所ト前住地住所ノ欄ノ位置ヲ變更シ等級ノ欄ヲ削ルヘシ
- 第二十一條第一號ノ場合ハ移轉年月日ヲ其ノ事故ノ年月日、前住地住所ヲ住所ト改メ且轉入地住所ノ欄ヲ削ルヘシ
- 令書ヲ交付セシ場合ハ其ノ旨ヲ又物件ノ移轉ニ係ル場合ハ所有者携帶若ハ譲受人ノ氏名等ヲ備考ノ欄ニ記載スヘシ

第七號様式

明治何年度調製

商業(何々)臺帳

何郡(市)役所(町村役場)

備考

- 商業又ハ工業ハ各別冊ト爲シ各業目毎ニ口座ヲ設クヘシ
- 雜種稅ニ係ルモノハ各稅目毎ニ別冊ト爲スヘシ
- 前二號ノ場合ニ於テ營業者少數ナルトキハ適宜口座ヲ設ケ合冊ト爲スコトヲ得
- 第一欄ニハ鑑札番號ヲ記載スヘシ商業工業其ノ他鑑札ヲ交付セザル業目及稅目ニ在リテハ本欄ヲ省クヘシ
- 商業又ハ工業中鑑札ヲ要スルモノハ別ニ鑑札番號帳ヲ設クヘシ
- 商業又ハ工業中鑑札ヲ交付シタルトキ又ハ營業主ト同居ノ家族及傭人ノ行商又ハ出稼ヲ爲ス場合ハ其ノ事由、鑑札番號、家族及傭人ノ氏名ヲ第二欄種類又ハ業目ノ傍ニ記載スヘシ
- 鑑札ノ記入、書換、返納又ハ物件ノ修繕其ノ他ノ異動ハ沿革ノ欄ニ記載スヘシ
- 船舶鑑札ハ第三欄開業年月日ヲ製造年月日ト改メ又車輛鑑札ハ同欄鑑札交付年月日ヲ檢印年月日ト改メ且開業年月日ノ欄ヲ削ルヘシ
- 馬車又ハ人力車ノ車體檢査證番號ハ第二欄種類又ハ業目ノ傍ニ記載スヘシ
- 納稅管理人アルトキ又ハ營業所若ハ物件所在地ト住所ノ異ナルトキハ營業所及物件所在地並船舶ノ定點場所在地ヲ第四欄住所、氏名ノ左傍ニ記載スヘシ但シ納稅管理人ノ住所及氏名ハ之ヲ未記入ルコトヲ要ス
- 廢業、納稅地變更(他市町村)又ハ物件ノ課稅用途廢止、解散、破壊、亡失若ハ本縣外ヘ轉出シタルモノハ其ノ事由、年月日ヲ第三欄沿革ニ記載シ朱線ヲ以テ全部ヲ抹殺スヘシ
- 前號ノ外營業又ハ物件ノ異動ニ關シ必要ト認ムル事項ハ相當ノ欄ニ記載スヘシ
- 用紙ハ美濃紙トシ半面ニ四名ヲ記載スヘシ

第	種類又ハ業目	開業年月日	住所	氏名
號		年月日	所	氏名

等級	一戶賦課額	戶數	稅額
合計			

第八號様式

年月日

知事宛

何郡市長某印

明治何年度四月一日現在營業者物件及其他報告書

商業稅

稅目	業目	等地	課率	人員	稅額
合計					

備考

- 雜種稅ノ營業者ハ營業稅ノ例ニ依リ尙等地ノ下ニ課稅標準ノ一欄ヲ設クヘシ
- 物件ノ種類、員數(白數、馬力數、噸數共)及稅額ヲ營業稅ノ例ニ準シ記載スヘシ
- 臨時市場、演劇、興行、遊覽所及臨時遊技場ハ前年度中ノ開業日數及稅額、居畜ハ前年度中ノ居畜ノ種類別頭數及稅額、狩獵ハ前年度中ノ免許稅ノ等級別人員及稅額ヲ營業稅ノ例ニ準シ記載スヘシ
- 雜種稅ハ各稅目毎ニ合計ノ一欄ヲ設クヘシ

第九號様式

年月日

郡長宛

何町村長某印

第二輯 縣稅及賦金

第一章 縣稅

等級	一戶賦課額	戶數	稅額
合計			

第十號様式

年月日

郡長宛

何町村長某印

明治何年度臨時戶數割賦課額報告書

轉入	年月日	等級	賦課額	備考	住地	氏名
合計						

備考

- 姫路市又ハ本縣外ヨリ轉入ニ係ルモノハ前住地ヲ備考ノ欄ニ記載スヘシ

第十一號様式

年月日

郡町村長宛

何町村長某印

現住者異動通知(報告)書

等級	賦課額	移轉	轉入	地所	備考	前住地	氏名
		年月日	住	所		所	氏名

備考

- 令書交付ノ旨ハ備考ノ欄ニ記載スヘシ



二 第五十三條及第五十四條ノ場合ハ第六號様式備考第一號乃至第三號ノ例ニ依ルヘシ

### ●縣稅中營業稅附加稅所得稅附加稅ノ賦課取扱方

(明治四十一年八月十五日)  
兵庫縣訓令乙第九七一號

郡長 姫路市長

本縣縣稅中營業稅附加稅、所得稅附加稅ノ賦課取扱方ニ關シ左ノ通心得ヘシ  
明治四十一年八月內訓第五號ハ之ヲ廢止ス

- 一 兵庫縣郡部縣稅取扱手續第四十五條、第四十九條及第五十條稅務署ノ通知スヘキ營業稅額及第一種、第三種所得稅額ニ關スル事項ハ左ノ通トス
  - (甲) 第一種、第三種ノ所得ヲ決定シタルトキハ其ノ年月日、定率稅額及納稅者ノ住所氏名但シ第三種所得稅ハ所得稅法第四十二條第三項ニ依リ四回ニ分納スルモノナルヲ以テ稅金全額ヲ一時ニ通知シ每納期納額ノ通知ハ之ヲ省略スルモノトス
  - (乙) 營業稅課稅標準ノ決定シタルトキハ其ノ年月日及市町村別定率稅總額但シ營業稅ハ營業稅法第二十條ニ依リ二回ニ分納スルモノナルヲ以テ稅金全額ヲ一時ニ通知シ每納期納額ノ通知ハ之ヲ省略スルモノトス
  - (丙) 前二號ノ通知ヲ爲シタル後左ノ事實アリタルトキハ其ノ都度之ヲ通知ス但シ營業稅ニ關シテモ一

人別ニ通知スルモノトス

- (イ) 稅額ヲ増減變更シ又ハ過誤納還付額ノ決定ヲ爲シタルトキ
  - (ロ) 納稅地ヲ變更シ又ハ相續其ノ他ノ理由ニ依リ納稅者ニ變更ヲ生シタルトキ
  - (ハ) 所得稅法第四十二條第三項但書又ハ國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ稅金ヲ徵收スルトキ
  - 二 前項所得稅額ハ納稅者ノ納稅總額ナルヲ以テ兵庫縣郡部縣稅施行細則第三十條ノ所得ニ對スル稅額ハ之ヲ控除スルコトヲ要ス
  - 三 兵庫縣郡部縣稅施行細則第三十條又ハ第三十一條ノ所得ノ調査ニ關シ必要アル場合ニ於テ所轄稅務署ニ照會ヲ要スルトキハ縣內ニ在リテハ直接稅務署ニ就キ縣外ニ在リテハ適宜ノ方法ニ依ルヘシ但シ縣內ノ稅務署ニシテ其ノ郡市外ニ在ルモノニ付テハ其ノ所在地ノ郡市役所ニ照會方ヲ囑託スルコトヲ得
  - 四 第一項稅務署ニ於ケル通知事項ノ調査ニ關シテハ同署事務ノ都合ニ依リ適宜之カ補助ヲ爲スヘシ
- 縣稅施行細則同取扱手續同徵收細則改正  
ニ關スル取扱方 (明治四十一年七月四日兵庫縣訓令第八〇號) (內務部訓令ヨリ郡長姫路市長ニ通牒)
- 今般郡部縣稅施行細則、同取扱手續及同徵收細則改正相成候ニ付テハ左記ノ事項御承知置相成度依命此段及通牒候也  
記

- 一 縣稅ヲ課スヘキ營業、行爲又ハ物件ニ付テハ從來或ル一二ノ場合ヲ除クノ外納稅義務者ヲシテ納稅ニ關シ一定ノ届出ヲ爲サシメタリト雖今回公布ノ施行細則ニ於テハ納稅義務者カ營業、行爲又ハ物件ニ關シ行政廳ニ對シ届出若クハ申請ヲ爲シタル場合ハ其ノ納稅ノ爲メニセサルモノト雖之ニ基キテ課稅ノ手續ヲ爲スヘキモノトナシ以テ納稅者ニ利便ヲ與フルト同時ニ課稅手續ノ迅速ナラムコトヲ期シタリ是レ同則第十二條、第十三條又ハ第十七條ニ於テ縣稅ヲ課スヘキ營業若クハ行爲ノ開始又ハ物件ノ所有等ノ場合ニ届出ヲ爲サシムルモノト之ヲ爲サシメサルモノ、區分アル義ニ有之
- 二 然レトモ演劇稅、興行稅、遊覽所稅又ハ臨時遊技場稅ヲ課スヘキ營業ニ付テハ脫稅防止ノ手段トシテ速ニ納稅ノ手續ヲ履行シ若クハ之ヲ履行セシムルノ必要アリ依テ警察官署ノ通知アルニ拘ハラヌ納稅者ヲシテ營業開始ノ届出ヲ爲スコトヲ命シタリ故ニ納稅者ニ在リテハ其ノ届出ト同時ニ郡市役所ノ合達ヲ俟タス便宜市役所又ハ町村役場ニ納稅ノ委託ヲ爲スコトヲ得ヘク又市町村ニ在リテハ速ニ其ノ附加稅賦課ノ手續ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ警察官署ノ通知ニシテ納稅者ノ届出ヨリモ速カナル場合ハ郡市役所ハ之レニ基キ課稅ノ手續ヲ履行シ可然從テ納稅者カ其ノ届出ニ先テ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ重テ届出ヲ爲サシムルノ必要ナキモノトス之

- レ施行細則第十三條第一項本文前段及其ノ但書ノ規定アル義ニ有之
- 三 警察官署ニ於テハ縣稅ヲ課スヘキ營業、行爲又ハ物件ナルヤ否ヤ確認シ難ク從テ取扱手續第十五條又ハ第十六條ノ通知ノ事項中ニハ縣稅ヲ課セサルモノヲモ包含セル場合ナキヲ保セス依テ其ノ通知ヲ受ケタル郡市長又ハ郡長ノ合達ヲ受ケタル町村長ハ適宜調査ノ上取捨ヲ加ヘラレ度
- 四 警察官署カ取扱手續第十五條又ハ第十六條ノ通知ヲ爲スニハ一定ノ通知簿ニ依リ又警察分署ハ警察電話ニ依リ警察署ヲ經テ通知スル等便宜ノ方法ニ依ル場合アルヘキニ付豫メ承知シ置カレ度
- 五 自轉車鑑札、檢印及消印ハ直接當廳ニ於テ調製ノ上配付スヘキモ其ノ他ノ鑑札ハ從前ノ通見積書ヲ添付配付方當廳ヘ請求ノ上便宜郡市役所ニ於テ調製方取計有之度
- 六 施行細則中郡市長ニ委任シタル事項ハ第二十一條ノ場合ヲ除クノ外郡ニ於テハ郡令市ニ於テハ告示ヲ以テ規定セラレ度
- 七 納稅者ニ利便ヲ與フルカ爲メニ或ル場合ニ於テ納稅ノ爲ニスル届出ヲ省略シ又ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲サシムル場合ハ其ノ結果關係廳ニ於テハ自然事務ノ取扱振リニ變動ヲ來シ且手數ヲ増加スヘキ場合アルハ亦已ヲ得サルガリ就テハ今後關係廳ハ時々互ニ打合ヲ爲シ以テ圓滿ニ課稅ノ實ヲ舉クル様注意ヲ加ヘ



ラレ度

八 徵收細則中改正ニ係ル縣令ノ附則第三項ニ於テ第一號式(丙)徵稅令書、第四號式第六號式第七號式納付書及第十號式送達書ハ當分ノ間舊書式ニ依ルコトヲ得ルモノト定メラレタルハ既ニ從來ノ書式ニ基キ用紙調製濟ノ向ニ對シ右用紙ノ使用ヲ許サル、ノ趣旨ニ出テタルモノトス隨テ舊用紙使用濟ノ上ハ改正ノ書式ニ依ルヘキハ勿論ニ有之

◎郡部縣稅取扱手續取扱方

(明治四十一年七月四日保訓第一號警務長ヨリ郡部警察署長同分署長ニ訓達)

本月四日訓令甲第二十一號ヲ以テ郡部縣稅取扱手續被相定候ニ付テハ同手續第十五號乃至第十七條ニ依リ警察署分署ニ於テ取扱ヘキ事務ハ増加シタルモ右ハ要スルニ行政整理ノ趣旨ニ基キ同一事件ニ付人民ヲシテ各官公署ニ一々其手續ヲ爲サシムルノ煩勞ヲ省略シ便宜ヲ與フルノ趣旨ニ出タル義ニ付郡下一般ニ對シ訓示ヲ與フルト共ニ一面郡市役所ニ對シテハ直近ノ地ニ在リテハ通知簿ニ依リ遠隔ノ地ニ在リテハ郵便ヲ以テ必要ノ事項ヲ遺漏ナク通知スヘシ右訓達ス

◎荷車檢印取扱方(明治四十一年九月一日保發第三一五號)

荷車取縮規則改正ノ結果同則ノ構造制限ニ適セサル荷車ハ現在使用ノモノニ限リ明治四十二年十二月三十一

日迄之カ使用ヲ許シ居候處近來郡市役所ノ檢印アル新シキ荷車ニシテ其構造規則ニ適合セサルモノヲ使用セラルモノ往々有之調査スルニ右等ノ中修繕變更等ノ名義ノ下ニ殆ント新調ノ程度ニ達シタル荷車ニ對シテモ依然檢印ヲ與ヘラレ候向有之趣右ノ如キ新造ニ均シキ荷車ニ對シ修繕ノ名義ノ下ニ檢印ヲ與フルニ於テハ改正規則ノ精神ヲ沒了スルノ結果ヲ生シ候條今後斯ル荷車ニ對シテハ斷然檢印ヲ與ヘラレサル様取扱相成度此段及通牒候也

◎縣稅ノ賦課ヲ受クル荷車ニ關スル取扱方

(明治四十二年三月三日兵部庶務第一五號) (號內務部部長ヨリ郡部警察署長同分署長ニ訓達)

今般郡部縣稅施行細則並同縣稅取扱手續改正及縣稅課スヘキ荷積車ニ關スル特例公布相成候處右取扱方ニ關シ左ノ通決定相成候條依命此段及通牒候也

- 一 荷車取縮規則ノ構造制限ニ適合セサル荷車ヲ修繕又ハ改造シテ同則ノ構造制限ニ適合スル荷車ト爲シタルトキハ郡部縣稅施行細則第十九條第三號ニ該當スルモノトス
- 二 荷車取縮規則ノ構造制限ニ適合セサル荷車ニシテ同則第三十六條ノ期限ヲ經過シタルモノハ郡部縣稅施行細則第二十條第三號ニ該當スルモノト看做ス
- 三 荷車取縮規則ノ制限ニ適合セサル荷車ノ課稅用途ヲ廢止シ又ハ之ヲ解散シタル後引續キ其ノ代用トシ

於テ必要ト認ムルトキハ適宜本項ト同時ニ檢査スルハ妨ケナシ

六 前項檢印ニ際シ從前既ニ烙記シタル檢印ニシテ其ノ車體ニ必適スルモノニ在リテハ該檢印ヲ認メ差支ナシ

七 同縣令ニ依リ届出ツル荷積車中荷車取縮規則ノ構造制限ニ適合スルモノ又ハ同縣令施行後縣稅施行細則第十七條ニ依リテ届出ツル荷積中車、小車ニ對シテハ本日縣令第十六號縣稅施行細則改正縣令ニ定ムル檢印ヲ烙記スヘキハ勿論ナルモ四十一年度課稅上ノ區分ハ第四項ノ通トス

◎稅務ニ關シ郡長ヨリ直接稅務管理局ニ

照覆方(明治三十年一月二十日第一二九號) (號內務部部長ヨリ郡部警察署長ニ訓達)

靜岡縣照會 二十九年十一月二十七日 郡(區)長ヘ委任ノ條件タリト雖モ他府縣ヘ往復スル文書ハ府縣廳ニ差出サシメ長官ノ名ヲ用テシ諸裁判所ハ直ニ郡(區)長ノ名ヲ用テスルヲ得ル旨去ル十二年四月七日附ヲ以テ御通牒ノ趣モ有之候處稅務ニ就テハ今般(管理局)ヲ被置候ニ付右稅務上就中登錄稅等ノ事ニ關シ疑義等有之場合ニ於テ一々本廳ヘ伺出シメ更ニ本官ヨリ(稅務管理局長)ヘ照會スルハ徒ニ繁雜ノ手數ヲ増スニ過キサル儀ニ有之殊ニ稅務ノ事ハ全ク特種ノ事務ニモ有之候間諸裁判所ヘ直接往復スルヲ得ルノ例ニ依リ郡長ヨリ直ニ(稅務管理局長)ヘ照會セシメ可然義ト

テ課稅外ニ屬スル荷車ヲ所有スルモノニ就キテハ明治三十七年五月十四日一治第九八號通牒ヲ準用ス(郡部縣稅取縮規則及郡部縣稅取扱手續改正ノ爲メ同通牒中縣稅取縮規則第六條第一項)トアルハ「縣稅施行細則第十七條」ニ「縣稅取縮規則第十四條第一項」トアルハ「縣稅施行細則第二十條」ニ相當シ又「縣稅取扱手續第五條」ノ物件臺帳ハ其ノ備考第九項「トアルハ」縣稅取扱手續第三十七條ノ物件臺帳ハ其ノ備考第九號「ト云フニ相當ス」

四 本日縣令第十七號明治四十二年度ニ於テ縣稅ヲ課スヘキ荷積車ニ關スル特例第一項ハ荷車取縮規則ノ構造制限ニ適合セサル荷積車ヲ同則及明治四十二年度課目課額ニ定ムル名稱ニ適合セシメラレタルノ規定ナルヲ以テ明治四十一年度ノ課稅上ニ於テハ依然從來ノ區分ニ從フヘキモノトス(構造制限ニ適合スル荷積車ト雖モ四十一年度課稅上ニ於テハ從來ノ區分ニ從フヘキハ勿論ナリ)

五 同縣令第二項ハ明治四十二年度ニ於テハ荷積車ノ構造制限カ荷車取縮規則ノ構造制限ニ適合スルト否トヲ問ハス同一ノ課稅標準ニ依リ課稅スヘキモノナルヲ以テ之レカ準備トシテ中車、小車又ハ中車、小車ト看做サルヘキ荷積車一切ヲ届出テ更ニ檢印ヲ受ケシムルノ規定ナリ從テ届出期限ハ四十二年度開始ノ前後ヲ問ハス適宜定ムヘキモノトス

大車又ハ大車ト看做サルヘキ荷積車ト雖モ郡市長ニ











スル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ(一項)

●牛乳營業取締規則施行細則(抜抄)

(明治三十三年七月二十五日) (兵庫縣令第五十號)

- 第一條 牛乳搾取及乳製品製造營業ヲ爲サントスルモノハ左記各號ヲ具シ所轄警察官署ヲ經由本廳ニ届出認可ヲ受クヘシ其之ヲ變更セントスルトキ亦同シ
- 一 住所氏名但シ法人ニ係ルモノハ管理人ノ住所氏名
- 二 法定代理人又ハ保佐人アルモノハ其連署
- 三 營業ノ種類及乳製品製造營業者ニアリテハ其種類及製造方法
- 四 牛乳搾取所又ハ乳製品製造所ヲ設置スヘキ町村字地番
- 五 牛乳搾取所又ハ乳製品製造所ノ敷地面積數並ニ構造仕様書搾取營業者ニアリテハ尙搾取所近傍ノ見取圖
- 六 人家並ニ飲用水ノ距離
- 七 工事落成期日
- 第二條 牛乳搾取所及乳製品製造營業者自ラ其營業ヲ管理セサルトキ又ハ事故ノ爲メ管理スル能ハサルニ至リタルトキハ管理人ヲ定メ所轄警察官署ヲ經由本廳ニ届出ヘシ
- 第六條 營業用建物ノ工事落成シタルトキハ所轄警察署ヲ經由本廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ其檢査ヲ受ケタ

ル後ニアラサレハ使用スルヲ得ス

- 第七條 牛乳搾取所又ハ乳製品製造所ノ構造ニシテ危険若ハ衛生上必要ト認ムルトキハ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ一時使用ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第十八條 牛乳搾取及乳製品製造營業者ハ毎月五日限リ附録第一號第二號ノ様式ニ基キ前月分ノ搾乳高乳製品製造高販賣高及其代價ヲ記載シ所轄警察官署ヲ經由本廳ニ届出ヘシ
- 第十九條 牛乳ノ請賣營業ヲ爲サントスルモノハ搾取營業者ノ連署ヲ以テ所轄警察官署ニ届出ヘシ乳製品請賣營業ヲ爲サントスルモノハ舶來品ト内國製トヲ問ハス其種類及製造者ノ住所氏名ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第二十一條 牛乳營業者ハ左記第一號第二號ノ場合ニ於テハ營業主又ハ管理人ヨリ第三號第四號ノ場合ニ於テハ相續人又ハ管理人ヨリ事實ノ生シタル日ヨリ十日内ニ所轄警察官署ヲ經由本廳ニ届出ヘシ但第三號ノ場合復業シタルトキハ直ニ届出ヘシ
- 一 住所氏名又ハ社名ニ異動ヲ生シタルトキ
- 二 法定代理人又ハ管理人ニ異動ヲ生シタルトキ
- 三 休業又ハ廢業シタルトキ
- 四 死亡シタルトキ

(附録様式略)

●清涼飲料水營業取締規則(抜抄)

(明治三十三年六月五日) (改正(三十九年)内務省令第三十號) (第九號)

- 第一條 本則ニ於テ清涼飲料水ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル「ラムネ」、「リモナーデ」(果實水、薄荷水及桂皮水ノ類ヲ含ム)、曹達水及其ノ他炭酸含有ノ飲料水ヲ謂フ
- 清涼飲料水營業者ト稱スルハ清涼飲料水ノ製造(清涼水ニ供スル礦泉ノ採掘)又ハ販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ
- 第二條 清涼飲料水製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ(一項)

●清涼飲料水營業取締規則施行細則(抜抄)

(明治三十三年七月七日) (改正(四〇年)兵庫縣令第四十八號) (三二號)

- 第一條 清涼飲料水營業取締規則第一條ノ製造販賣營業ヲ爲ントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ヲ經由本廳ニ届出認可ヲ受クヘシ其第三號乃至第五號ヲ變更セントスルトキ亦同シ
- 一 住所氏名年齢及屋號アルモノハ其名稱但シ法人ニ係ルモノハ管理人ノ住所氏名及其社名
- 二 法定代理人又ハ保佐人アル者ハ其連署
- 三 製造所ノ位置坪數ヲ詳記シタル圖面並ニ其構造仕様書及設備事項鑛泉ニアツテハ其湧出地及近傍見取圖及試験成績書
- 四 飲料水ノ種類並ニ製造及容器洗滌方法
- 五 用水汲取所
- 六 工事落成期日
- 第七條 營業用建物ノ工事落成シタルトキハ本廳ノ檢

- 查ヲ受クヘシ其檢査ヲ受ケタル後ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス其之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第十條 本則第一條第一號第二號ニ異動ヲ生シ又ハ廢業シタルトキハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經由本廳ニ届出ヘシ

●氷雪營業取締規則(抜抄)

(明治三十三年七月三日) (改正(三十九年)内務省令第三十七號)

- 第一條 本則ニ於テ氷雪ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル氷及雪ヲ謂フ
- 氷雪營業者ト稱スルハ氷雪ヲ採收製造シテ販賣シ又ハ其ノ卸賣若ハ請賣ヲ爲ス者ヲ謂フ
- 第二條 氷雪營業ヲ爲サントスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ請賣營業ヲ爲サントスル者ハ此ノ限ニ在ラス(一項)
- 氷雪營業取締規則施行細則(抜抄)
- (明治三十三年十月十日) (改正(三十四年)兵庫縣令第六十六號) (四〇年)第九一號) (三三號)
- 第一條 氷雪ヲ採收製造シテ販賣シ若クハ卸賣ヲ爲サントスル者ハ採收業ニアリテハ第一號乃至第四號第六號第七號第九號製造業ニアリテハ第一號第二號第三號第五號乃至第七號第九號卸賣業ニアリテハ第一號第二號第七號乃至第九號ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經由本廳ニ届出認可ヲ受クヘシ其事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ



- 一 營業者ノ住所氏名年齢
  - 二 法定代理人又ハ保佐人アルモノハ其連署
  - 三 原料水ノ種類
  - 四 採收場ノ位置坪數並ニ周圍六十間以内ノ模様ヲ詳記シタル圖面但シ採水原料水ヲ他ヨリ導クモノハ其水源及水路ノ圖面
  - 五 製氷場ノ位置坪數並ニ周圍十間以内ノ模様ヲ詳記シタル圖面
  - 六 採收場若クハ製氷場ノ圖面並ニ構造書但シ製氷ニアリテハ尙製氷器械ノ主要圖面並ニ製造方法書
  - 七 貯藏場ノ圖面位置構造及貯造方法書
  - 八 氷雪採收製造者ノ認可證寫
  - 九 工事落成期日
- 第七條 本則ニヨリ認可ヲ得タル場所ニ於テ採收製造セントスルモノハ其認可ノ年月日及採收製造場所ヲ詳記シ採收者ニアリテハ毎年十月三十一日限り製氷者ニアリテハ開始十日前所轄警察官署ヲ經由本廳ニ届出ヘシ
- 第八條 氷雪採收製造並ニ卸賣營業者ハ(氷)(雪)賣買帳ヲ備ヘ貯藏賣却ノ都度記載シ採收製造營業者ニアリテハ採收製造及其賣却高ヲ卸賣營業者ニアリテハ他府縣ヨリ買入又ハ賣却シタル數量ヲ記載シ翌年一月三十一日限り所轄警察官署ヲ經由本廳ニ届出ヘシ
- 第十二條 採收場製氷場及氷室ノ構造不全ニシテ必用ト認ムルトキハ改築又ハ修繕ヲ命スルコトアルヘシ

其命令ニ從ハサルトキハ其期間營業ヲ停止ス

第十四條 本則第一條第一號第二號ニ異動ヲ生シ及廢業シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經由本廳ニ届出ヘシ

●飲食物其他衛生上危險ノ物品取締制(抜抄)  
(明治三十三年二月二十四日)  
(法律第三十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 販賣ノ用ニ供スル飲食物又ハ販賣ノ用ニ供シ若ハ營業上ニ使用スル飲食物、割烹具及其ノ他ノ物品ニシテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アルモノハ法令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニ於テ其ノ製造、採取、販賣、授與若ハ使用ヲ禁止シ又ハ其ノ營業ヲ禁止シ若ハ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ物品ノ所有者若ハ所持者ヲシテ其ノ物品ヲ廢棄セシメ又ハ行政廳ニ於テ直接ニ之ヲ廢棄シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者若ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ之ヲ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第三條 本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ公吏ノ命ヲ受ケテ指定ノ期間内ニ之ヲ履行セサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ

公務ヲ行フ者ニ抗拒シタル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ(重禁錮)ニ處シ(四十圓以下)ノ罰金ヲ附加ス

行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ之ヲ聽許シタル者ハ刑法(第二百八十四條)ノ例ニ照シテ處斷ス

●飲食物其他衛生上危險ノ物品取締施行方  
(抜抄)(明治三十三年三月二十七日)  
(內務省令第十號)

飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事 東京府知事ヲ除クハ法令ニ明文アル場合ニ於テ營業者ニ對シ明治三十三年法律第十五號ニ依リ行政廳ニ屬スル職權ヲ行フ前項ノ職權ハ其ノ輕易ナルモノニ限り應府縣令ヲ以テ警察官署ニ委任スルコトヲ得

●飲食物其他ノ物品取締ニ關シ警察官署ノ行フ職權(明治三十三年十月二十日)  
(兵庫縣令第七十二號) 改正(三十八年第一號)

飲食物其他ノ物品取締ニ關シ警察官署ヲシテ左ノ職權ヲ行ハシム

第一條 明治三十三年法律第十五號第一條ニ依リ左記各號ノ物品ニ關シテハ販賣授與ノ禁止又ハ廢棄ノ

處分

- 一 明治三十三年四月內務省令第十五號牛乳營業取締規則第六條ノ容器ヲ用ヒタル牛乳第七條各號ノ牛乳及第九條各號ノ乳製品
  - 二 明治三十三年四月內務省令第十七號有害性著色料取締規則第六條ノ飲食物物品及材料
  - 三 明治三十三年六月內務省令第三十號清涼飲料水營業取締規則第三條ノ器具第五條各號ノ清涼飲料水
  - 四 明治三十三年七月內務省令第三十七號第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪
  - 五 明治三十三年十二月內務省令第五十號飲食物用器具取締規則第二條乃至第五條第七條ノ器具若ハ之ヲ用ヒタル飲食物
  - 六 明治三十四年十月內務省令第三十一號人工甘味質取締規則第二條ノ飲食物
  - 七 明治三十六年九月內務省令第十號飲食物防腐劑取締規則第二條第三條ノ物品
- 第二條 明治三十三年法律第十五號第一條ノ職權ヲ行フ爲メ物品ノ検査ヲ必要ト認メタルトキハ同法第二條ノ職權

●藥品營業並藥品取扱規則(抜抄)  
(明治二十二年三月十號) 改正(二十五年第六號、三十二年第一號、三十四年第六號、四〇年第三十五號)

第二章 藥種商  
第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ



第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

◎藥種商並製藥者取締細則(抜抄)  
(明治四十一年三月二十日)  
(兵庫縣令第二十五號)

第一條 藥種商ノ免許鑑札ヲ受ケムトスル者ハ左ノ第一號乃至第三號ノ事項ヲ製藥者ノ免許鑑札ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ履歷書ヲ添付シテ當廳ニ願出ヘシ法人ノ願書ニハ其ノ定款ヲ添付スルコトヲ要ス

- 一 族籍住所氏名生年月日 法人ニ在リテハ其ノ代表者
- 二 營業所ノ位置
- 三 貯藏所ノ位置
- 四 製藥所ノ位置、坪數及其ノ構造仕様書
- 五 製藥品目 藥局方所定外、製藥ニ在リテハ其ノ處方、製造方法及一容器ノ分量但シ製造方法ノ秘密ニ屬スルモノハ其ノ方法表ヲ封書ト爲スコトヲ得

第二條 藥劑師又ハ製藥ニ關スル技能アル者ヲ雇入レ之ヲ製藥主任者トシ製藥者ノ免許鑑札ヲ受ケムトスル者ハ第一條ノ手續ニ依リ製藥主任者ノ履歷書ヲ添付シ當廳ニ願出ヘシ

第十四條 製藥者ハ製造セシ各製品ノ數量ヲ翌年一月末日迄ニ當廳ニ届出ヘシ  
第十五條 藥劑師ニシテ藥品製造、販賣ノ業ヲ爲サムトスル者ハ第一條ノ手續ニ準シ免狀ノ寫ヲ添へ當廳ニ届出尙第六條第八條乃至第十二條第十四條第十六條第十七條第二十一條ヲ遵守シ且廢業シタルトキハ十日以内ニ當廳ニ届出ヘシ  
第十七條 必要ト認ムルトキハ營業所、貯藏所及製藥所ノ構造又ハ其ノ他ニ對シ改築變更ヲ命スルコトアルヘシ  
第十八條 藥種商又ハ製藥者ニシテ一箇年以上休業シ又ハ六ヶ月以上行衛不明トナリタルトキハ免許ノ効ヲ失フ  
第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ免許ヲ與ヘス

- 一 製藥ニ關スル技術ナシト認ムル者
  - 二 本則ヲ遵守スル能ハスト認ムル者
  - 三 其ノ他不適當ト認ムル者
- 第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許ヲ取消スコトアルヘシ
- 一 前條各號ニ該當スト認ムルトキ
  - 二 第十七條ノ命令ニ從ハサルトキ

第二十一條 本則ニ依ル願届ハ所轄警察官署ヲ經由ス

第二章 縣稅及賦金 第一章 縣稅

項ノ履歷書ヲ添付シ當廳ニ届出ヘシ其ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ免許ノ効ヲ失フ

第三條 第一條第三號第四號ノ事項ヲ變更セムトシ又ハ藥局方所定ノ製藥品目ヲ増加セムトスルトキハ當廳ニ願出許可ヲ受ケヘシ

第一條第一號第二號ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ製藥品目ヲ減少シ若ハ藥局方所定外ノ製藥品目ヲ増加シタルトキハ即時ニ其ノ旨當廳ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ免許鑑札記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ届出ト同時ニ免許鑑札ノ書換ヲ願出ヘシ

第四條 藥種商又ハ製藥者ハ其ノ業名並住所氏名ヲ記載シタル看板ヲ店頭ニ掲出スヘシ

第五條 免許鑑札ヲ毀損、亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ十日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再下付ヲ當廳ニ願出ヘシ

第六條 營業者三十日以上休業セムトスルトキハ其ノ旨當廳ニ届出ヘシ

前項ノ者復業シタルトキハ其ノ旨即時ニ届出ヘシ

第七條 營業者廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ管外へ轉居セムトスルトキハ直ニ當廳ニ届出鑑札ヲ返納スヘシ但シ死亡ハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 藥種商支店ヲ設ケムトスルトキハ其ノ位置ヲ詳記シ且管理人ヲ定メ其ノ履歷書ヲ添へ當廳ニ届出認可ヲ受クヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

◎藥種商製藥者免許證雛形

藥種商免許證 唐草

分五寸三橫

第 號	免 許 證
住 營 業 所	
製 藥 所	
右製藥者開業免許するもの也	
明治 年 月 日	
兵 庫 縣	
兵 庫 縣	
氏 名	

堅四寸七分

製藥者免許證 唐草

分七寸三橫

第 號	免 許 證
住 營 業 所	
製 藥 所	
右製藥者開業免許するもの也	
明治 年 月 日	
兵 庫 縣	
兵 庫 縣	
氏 名	

堅五寸







◎砂糖消費稅法(抜抄)(明治三十四年三月三十日)

第九條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

◎砂糖消費稅法施行規則(抜抄)(明治三十四年八月九日)

第二十七條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、引取リタル日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
  - 二 販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載ヲ要セス

◎鹽專賣法施行細則(抜抄)(明治三十八年四月一日)

改正(三十八年第三六號、三九年第九號第一二號)

第三十八條 鹽賣業者ハ少クモ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 買入レタル鹽ノ數量、價格、買入月日及買入先
- 二 賣渡シタル鹽ノ數量、價格、賣渡月日及賣渡先

第三條 古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其ノ旨行政廳ニ届出ツヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケムトスルトキハ更ニ其ノ地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ(二項)

第十一條 古物商物品ヲ賣買シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又買主、讓渡主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 古物商法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及フ

第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限内亦同シ

第十六條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得

第十八條 他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

◎石油消費稅法(抜抄)(明治四十二年三月十六日)

第十三條 石油ノ製造者及販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ石油ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

◎石油消費稅法施行規則(抜抄)

改正(明治四十一年三月十六日)

第十九條 石油販賣者ハ少クモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル數量、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
  - 二 販賣シタル數量、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

◎古物商取締法(抜抄)(明治二十八年三月六日)

改正(三十八年第二四號)

第一條 古物商ハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

第二條 古物商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

◎古物商取締法細則(抜抄)

改正(明治二十八年七月二十六日)

第一條 古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク)知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 左ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買、交換スルトキハ古物商取締法及此ノ細則ヲ遵守スヘシ

- 吳服商 金物商 袋物商 小間物商
- 艦甲商 時計商 飾商 書籍商

第三條 二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設ケタルトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノノ外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ届出ヘシ

第四條 營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖、移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ但シ死亡者非ハ主ナルトキハ其ノ死亡ハ戶主ヨリ届出ヘシ



後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ願出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戶長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第五條 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ古物商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ其ノ買受ケ若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以内ニ他所ニ運搬シ又ハ他人ニ交附セントスル場合ニ於テハ其ノ品目届出ハ運搬又ハ交附ノ行爲ニ先ツヘシ又相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第六條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

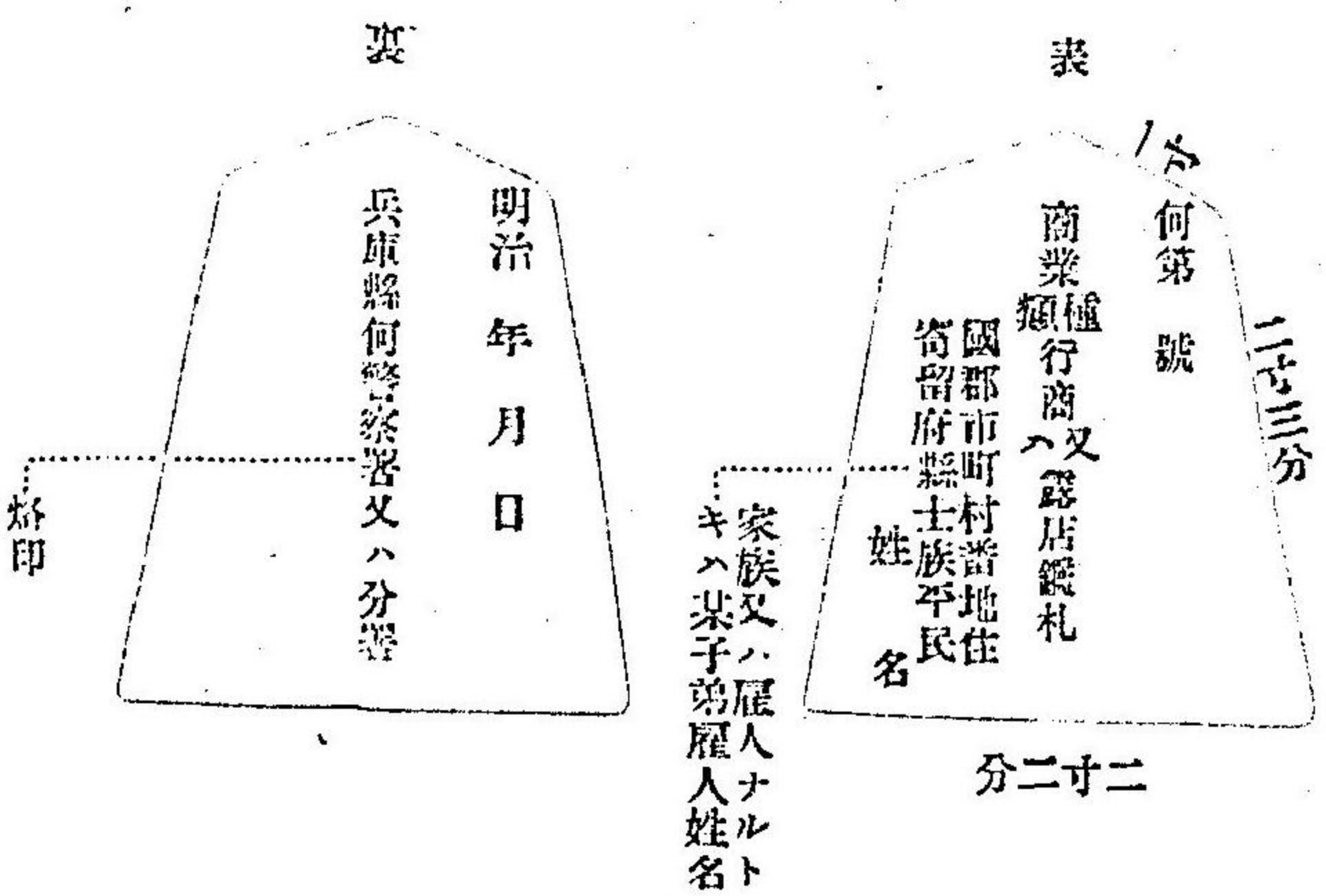
第七條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ疏明シ行政廳ニ届出ヘシ

第八條 古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行政廳ニ願出鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ家族又ハ同居ノ雇人ニ限リ行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶セシムヘシ

第九條 古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ  
規約書ニハ開閉ノ時間、場所及集參スヘキ營業者ノ住所、氏名ヲ記載スヘシ

第三條 古物商ノ營業ニ關スル願届ハ管轄警察署長警察分署長ニ差出ス可シ  
其願届ノ處分ニ屬スル職權ハ警察署長警察分署長ヲシテ之レヲ行ハシム

第四條 古物行商及露店鑑札ノ調製ハ左ノ雛形ニ依リ出願者ノ負擔トス



裏  
明治年月日  
兵庫縣何警察署又ハ分署  
表  
商業種行商又露店鑑札  
國都市町村番地住  
寄留府縣士族平民  
姓名  
何第號  
分二寸三分  
分二寸二分  
家族又ハ雇人ナルト  
キハ其子弟雇人姓名ト  
封印

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ  
第十條 行商、露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ  
第十一條 古物ノ買賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其ノ日時並場所ヲ行政廳ニ届出ヘシ

●古物商取締法及同細則施行規則(抜抄)

(明治二十八年八月二十六日) 改正(二八年第  
兵庫縣令第四十七號) (五三號)

第一條 古物商取締法細則第二條各種商ノ外尙左ノ營業者ニシテ隨時其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者ハ總テ古物商ニ關スル法律規則ヲ遵守ス可シ

- 一 鍛冶職
  - 二 鑄物職
  - 三 扇傘張替職
  - 四 疊職
  - 五 樂音器商
  - 六 表具師
  - 七 靴商
- 第二條 古物商營業願書ニハ左ノ事項ヲ記載ス可シ
- 一 營業物品種
  - 二 住所身年分
  - 三 既往十年以來前住地アレハ其住地及每移轉ノ年月日及營業
  - 四 既往十年以來身分氏名ノ變更アレハ變更以前ノ身分氏名

第五條 古物商ハ古物明細帳、古物市場ニハ古物賣買帳ヲ設ケ上欄下欄ヲ區畫シ警察官署ノ檢印ヲ受ケ左ノ區別ニ依リ上下對照シテ記載ス可シ但行商露店ノ取引ニ古物明細帳ヲ使用シ難キ場合ハ假帳ヲ設ケ本條各項ノ要領別ニ上下欄ノ區ヲ書留メ遅クモ五日以内更ニ明細帳ニ記載ス可シ

一 上欄ハ買受讓受又ハ交換ニ因テ得タル物品ノ部トナシ其種類品質模樣員數價額番號年月日賣主讓主ノ住所氏名又證人ヲ要セントキハ其住所氏名及事由警察官ノ許可ヲ受ケタルトキハ其旨趣

二 下欄ハ賣渡讓渡又ハ交換ニ因テ渡シタル物品ノ部トナシ其種類員數價額年月日買主讓受主ヲ詳ニスルヲ得タルトキ又ハ同業者ニ賣渡讓渡タルトキハ其住所氏名又賣品ヲ自用ニ供シタルトキハ其事

第六條 販賣ノ依託ヲ受ケタル物品又ハ自用ノ物品ヲ販賣セントスルトキハ前條第一號ニ準シ記載ス可シ

(一)項

●神戸市沿海ニ於ケル廢棄物拾得取締方

(抜抄)(明治三十二年十月十日)  
(兵庫縣令第五十七號)

第一條 用具方法ノ如何ヲ問ハス神戸市沿海ニ於テ左ノ廢棄物ヲ拾得セントスル者ハ第一號雛形ニ從ヒ標札ヲ製シ神戸水上警察署ノ檢印ヲ受ケ稼業中之ヲ携帶スヘシ若シ船舶ヲ使用スルトキハ尙第二號雛形ニ



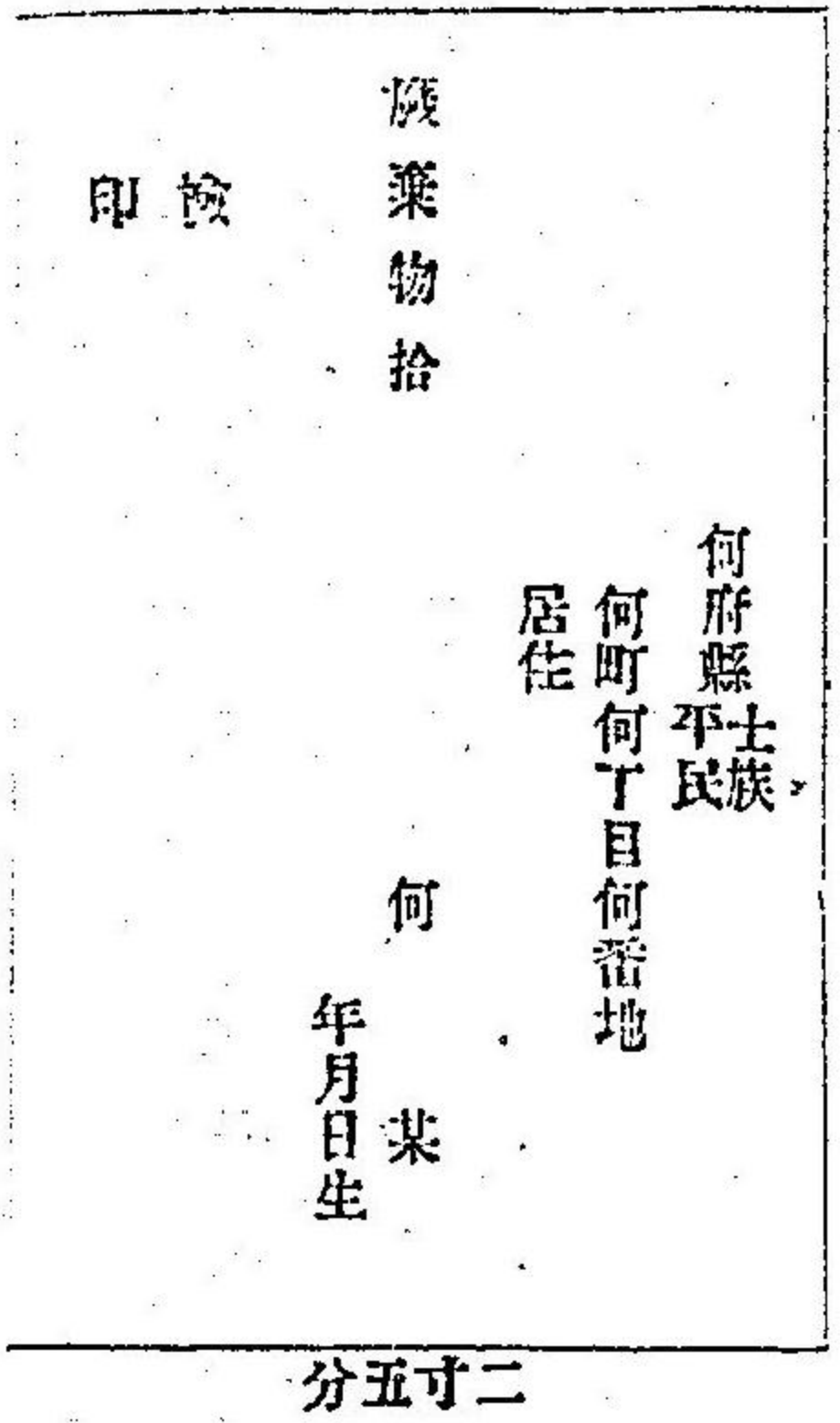
從之標旗ヲ製シ船頭ニ掲クヘシ

空瓶、空罐、空箱、空樽、毀レ硝子、襪襪、古靴、古ゴム、繩ノ切レ、竹木片、焚燬、鳥獸骨、金物類、斷片、貝殻ノ類ニシテ廢棄物ト見做シ得ヘキモノ

第三條 神戸水上警察署ハ取締上必要ナリト認ムルトキハ稼業者ノ人員ヲ制限スルコトアルヘシ

第四條 第一條ニ違反シタル者及第二條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ(十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下)ノ科料ニ處ス  
拾得者ニ關シ不正ノ行爲アリト認ムル者又ハ前項ニ依リ處分セラレタル者ハ其稼業ヲ差止ムルコトアルヘシ

第一號雜形 三寸五分



シ公安ヲ紊ルノ行爲アルトキハ其營業ヲ禁止若クハ停止スルコトアルヘシ

◎艦船行商取締規則(抜抄)(明治四十一年一月十五日(兵庫縣令第三號))

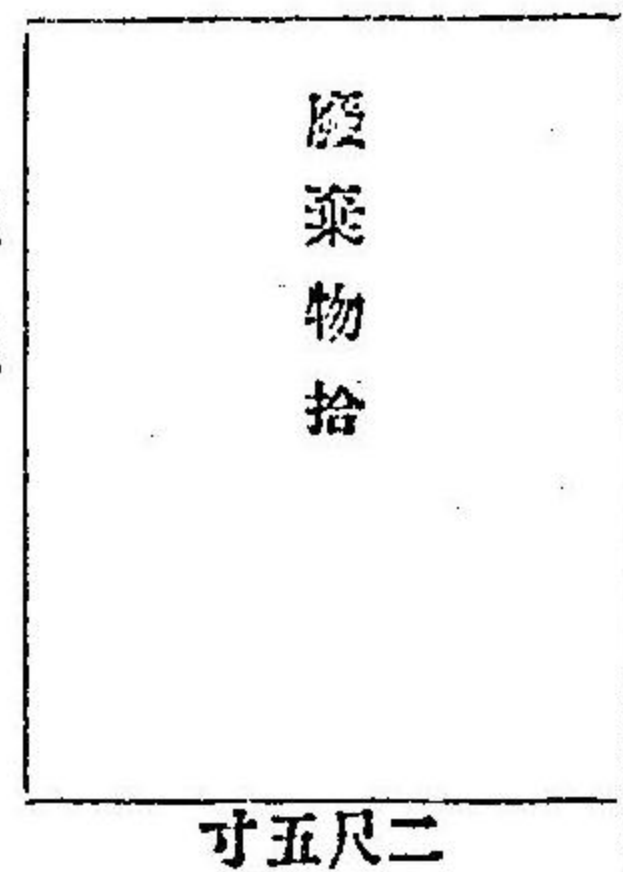
第一章 通則

第一條 本則ニ於テ艦船行商ト稱スルハ神戸港内並開港々則ニ基キ港長ニ於テ神戸港内ト見做シタル場所ニ碇泊セル艦船ニ往復シ左ニ掲クル營業ヲ爲スモノヲ謂フ  
一 雜貨品美術品飲食料品新聞雜誌其他諸物品ノ販賣  
二 被服靴其他諸物品ノ製作及修繕  
三 金銀兩換  
四 洗濯及理髮  
五 撮影  
六 以上ノ諸營業ニ關スル注文取  
七 空瓶及殘飯買

第二條 艦船行商營業ヲ爲サントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ所屬組合取締人連署ヲ以テ神戸水上警察署ニ願出免許ヲ受クヘシ  
一 營業ノ種別  
二 法人ニ係ルトキハ其商號所在地及代表者ノ族籍住所氏名  
三 法定代理人又ハ補佐人若ハ夫ノ同意ヲ要スルモノハ其連署

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

第二號雜形



◎社寺境内ニ於ケル營業取締規則(抜抄)(明治三十五年四月十一日(兵庫縣令第二十九號))

第一條 社寺境内ニ於ケル營業者ハ別ニ定メタル規定ニ依ルノ外左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願ヒ出テ其許可ヲ受ルニアラサレハ其營業ヲ爲スコトヲ得ス其營業ノ種類ヲ變更増減セントスル場合亦同シ  
一 住所氏名  
二 營業ノ種類  
三 建設物ノ構造仕様方法書  
四 土地使用ノ認許書

前項第四號ノ認許書ハ他人ノ家屋ヲ使用シテ營業ヲ爲ス者ニアリテハ家主ノ得タル境内地使用認許書ヲ添ヘ連署ヲ以テ出願スルヲ要ス  
第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル營業者ニシテ風俗ヲ害

第三條 營業者左記各號ノ一ニ該當スルトキハ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ神戸水上警察署ニ届出ヘシ但第一號ノ場合ニ於テハ家主又ハ家族ヨリ家主又ハ家族アラサルトキハ所屬組合ヨリ其手續ヲ爲スヘシ  
一 行衛不明トナリ又ハ死亡シタルトキ  
二 第二條各號ノ事項ニ變更ヲ來シタルトキ  
三 廢業シタルトキ

第七條 營業者並ニ助手及船夫ハ附録第一號ノ鑑札ヲ製シ神戸水上警察署ノ檢印ヲ受ケ就業中ノヲ携帯スヘシ  
第八條 外國航行ニアラサル帝國艦船ニテ營業セントスルモノハ附録第二號ノ標旗ヲ製シ神戸水上警察署ノ檢印ヲ受ケ外國航行ノ帝國艦船及外國艦船ニテ營業セントスルモノハ神戸稅關ヨリ附録第三號ノ標旗ヲ受ケ就業中ノ其營業船ノ艦部ニ掲クヘシ但日出前日没後ハ船部ニ附録第四號ノ標燈ヲ掲クヘシ  
營業者及助手二人以上營業船ニ同乗スルトキハ標旗ハ一個ヲ掲クヘシ但此場合ニ於テハ同乗者共同ノ責任トス

第九條 鑑札及標旗標燈ハ之ヲ他人ニ貸與又ハ讓與スヘカラス  
第十條 鑑札又ハ標旗(附録第一號)ノ記載事項ニ異動ヲ生シ若ハ毀損亡失又ハ文字不明トナリタルトキハ其實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ營業者ニ於テ更ニ之ヲ

二六九



製シ神戸水上警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條 第一號及第三號第六條第一號及第二號ニ該當スルトキハ第三條又ハ第六條ノ届出義務者ヨリ鑑札及標旗ニ號ヲ神戸水上警察署ニ差出シ消印ヲ受クヘシ

第十一條 外國航行ノ帝國艦船及外國艦船ニ於テハ日出前日没後ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス但稅關ノ承認ヲ得タルトキハ此限ニアラス

第四章 制裁

第三十三條 知事ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノニ對シ營業免許ヲ取消シ若ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ  
一 本則又ハ關稅法ニ違背シタルモノ  
二 公安秩序ヲ亂シ又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノ  
三 以上ノ外不適當ト認ムルモノ

附則

本則施行前免許ヲ受ケタル營業者及雇人ハ本則ニ依リ免許又ハ認可ヲ受ケタルモノト見做ス(二項)

第一號雜形

用紙西洋紙厚紙  
縦三寸一分  
横二寸一分

「輪廓ハ青色」

所屬組合ヲ記スルコト

第 號

(神戸部組合又ハ兵庫部組合)

裏

明治 年 月 日

神戸水上警察署

面

第二號雜形

番號ハ船夫鑑札番號ヲ記スルコト

第 號

神戸部組合又ハ兵庫部組合

印

神戸水上警察署印

船 商 行 船 鑑

竿ノ高三尺  
旗地質白雲齋  
縦一尺一寸  
横一尺六寸

第三號雜形

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

表

内國艦船行商鑑札

何々

營業種目

住所

營業者 氏 生 年 月

助手 氏 生 年 月

「住所氏名(營業者ノ)」

裏

明治 年 月 日

神戸水上警察署

表

第 號

外國航行外艦船行商鑑札

何々

營業種目

住所

營業者 氏 生 年 月

助手 氏 生 年 月

「住所氏名(營業者ノ)」

(神戸部組合又ハ兵庫部組合)

裏

第 號

色 赤

地第 號

色 藍

竿ノ高寸法等第一號標旗ニ同シ

第四號雜形

船夫鑑札番號ト同一番號ヲ記スルコト

第 號

船 商 行 船 鑑

四面白色硝子ニシテ文字ハ黒書但外艦船ニ交通スル者ハ文字赤書

●骨牌稅法(抜抄)(明治三十五年四月五日)

第一條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ  
前項ノ免許ハ骨牌ノ製造ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ製造所一箇所毎ニ骨牌ノ販賣ヲ爲サムトスル者ニシテ販賣所ヲ有スル者ニ在リテハ販賣所一箇所毎ニ



之ヲ受クヘシ

骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第八條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ骨牌ノ出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

●骨牌稅法施行規則(抜抄)

(明治三十五年五月二十三日勅令第五百四十四號)

第一條 販賣所ヲ有シテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ販賣所ヲ定メ免許申請書ヲ販賣所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌販賣者販賣所ヲ増設セムトスルトキ亦同シ(二項)

第二條 骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有スル者販賣所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ販賣所ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ(二項)

第三條 骨牌製造業又ハ骨牌販賣業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第四條 骨牌製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ

警察官ノ許可ヲ受クヘシ  
第十八條 質屋法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及フ  
第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十條 質屋廢業シ若ハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約及其ノ質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其期間亦同シ

第二十一條 行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得

●質屋取締法細則(抜抄)(明治二十八年七月二十六日內務省令第九號)

第一條 質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣、知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 支店ヲ設クルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届

止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第八條 骨牌販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル骨牌ノ種類、組數、價格、引取ノ日及引取先
  - 二 貼用シタル印紙ノ金額
  - 三 販賣シタル骨牌ノ種類、組數、價額、販賣ノ日及賣渡先
- 小賣ノ場合ニ於テハ前項第三號賣渡先ノ記載ヲ要セ

●質屋取締法(抜抄)(明治二十八年三月十三日法律第十四號)

(改正三三年第六一號) (三八年第二五號)

第一條 質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキハ亦同シ

第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ

帳簿、質札及通帳ノ製方及様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ出ヘシ

第三條 店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出

ヘシ支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ但シ死亡者非ハ主ナルトキハ其死亡ハ戶主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戶長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第四條 前二條ノ届出及廢業ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第五條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ヘシ

●質屋取締法及同細則施行規則(抜抄)  
(明治二十八年八月二十六日兵庫縣令第四十八號) (改正二八年第一號) (五四年第一號)

第一條 質屋ノ營業ニ關スル願届ハ管轄警察署長警察分署長ニ差出ス可シ

其願届ノ處分ニ屬スル職權ハ警察署長警察分署長ヲシテ之レヲ行ハシム



第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ設ケ上欄下欄ヲ區畫シ警察官署ノ檢印ヲ受ケ左ノ區別ニ依リ上下對照シテ記載ス可シ

一 上欄ハ入質ノ部トナシ細則第七條記載事項ノ外質使人アルトキ又證人ヲ要セシトキハ各其住所氏名警察官ノ許可ヲ受ケタルトキハ其旨趣  
一 下欄ハ出質ノ部トナシ上欄ノ質物受質又ハ流質賣却又ハ自用ニ供シタルトキハ其年月日若シ質置主ニアラサル者他人ノ質札又ハ通帳ヲ以テ其質物ヲ受出サントスルトキハ其住所氏名

◎貸蒲團營業取締規則(抜抄)

(明治三十六年五月三十日)  
(兵庫縣令第四十七號)

第一條 蒲團又ハ蚊帳ノ貸附ヲ營業トナサントスルモノハ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第二條 住所又ハ身上ニ異動アリタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第八條 本則ヲ遵守スル能ハスト認ムルトキハ營業ノ認可ヲ取消ス可トアルヘシ

◎海水浴取締規則(抜抄)

(明治三十四年六月二十五日)  
(兵庫縣令第五十五號)

第一條 左ニ掲クル場所ニ於テ海水浴ヲ爲シ又ハ爲サシムル者ハ胸部背部以下膝關節部以上ヲ露出セザル浴衣ヲ着シ又ハ着セシムヘシ  
一 神戸市ノ地先海面

二 武庫郡須磨村西灘村ノ地先海面  
三 明石郡垂水村明石町ノ地先海面  
四 海水浴場

第二條 神戸港内ニ於テハ特ニ指定シタル地先海面ノ外海水浴ヲ爲スコトヲ得ス  
前項ノ海面ハ之ヲ告示ス

第三條 海水浴場ヲ開設セントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其之ヲ變更セントスルトキ亦同シ  
一 浴場ノ位置及其周圍六十間以内ノ模様ヲ記シタル圖面  
二 浴場ノ面積及構造設計書並ニ其圖面  
三 浴場ノ名稱アルモノハ其名稱

◎海水浴取締規則第二條ニ依ル海面指定

(明治三十四年六月二十五日) 改正(三十二年)  
(兵庫縣告示第二百七十七號)

海水浴取締規則第二條ニ依ル海面ハ左ノ通指定シタリ  
一 神戸市新生田川以東神戸港界以西ノ地先六十間以内ノ海面

◎陸運營業取締規則(明治十九年十月二十三日)

(兵庫縣令第四十二號)  
改正(二〇年第一五三號、二二年第一二六號、二三年第五二號)

第一條 陸運營業ヲ分テ陸運請負人馬繼立ノ二種トス  
一 陸運請負業トハ貨主ノ委託ヲ受ケ陸運ニ係ル諸荷物ノ運搬ヲ請負フモノヲ云フ

一 人馬繼立業トハ陸運請負業者又ハ公衆ノ求メニ應シ人又ハ牛馬ヲ供給シ繼立ヲ爲ス者ヲ云フ

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ其種類及左ノ事項ヲ記シ市町村長ノ與印ヲ受ケ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ差出シ允許ヲ請フヘシ但二種ノ營業ヲ兼スルコトヲ得  
一 賃錢及ヒ手數料ノ定額  
二 諸荷物取扱方法及ヒ責任  
三 前項ノ外營業上必要ノ件

第三條 支店ヲ設クントスル者ハ管理人ヲ定メ其位置姓名共記載シ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

第四條 族籍氏名ヲ改メ居所ヲ轉シ又ハ廢業シタルトキハ第二條ノ手續ニ依リ五日以内ニ縣廳ニ届出ヘシ

第五條 左ノ場合ニ於テハ允許ノ効ヲ失フヘシ  
一 營業者死亡シ二十日以内ニ更ニ出願セザル時  
二 後見人死亡シ又ハ辭任シタル場合ニ於テ十日以内ニ更ニ後見人ヲ立サル時

第六條 營業者ハ左ノ各項ニ觸レズ且ツ信用及相當ノ資産アルモノニ限ルヘシ  
一 白痴瘋癲者又ハ未丁年者ニシテ後見人ナキ者  
二 強盜盜又ハ詐僞取財ノ罪ヲ犯シタル者

第七條 營業者ノ員數ハ土地ノ狀況ニ依リ之ヲ制限スルコトアルヘシ

第八條 人馬繼立營業者ハ其土地ノ狀況ニ依リ常ニ相當ノ稼業人ヲ準備シ繼立ニ差支ナカラシムヘシ但臨

時召集シ得ラルヘキ人員ノ見込ヲ定メ本條人員ト併セテ縣廳ニ届置クヘシ

第九條 定額ノ賃錢又ハ手數料ノ外ニ金錢ヲ請求スヘカラス

第十條 營業者ハ規定中貨主又ハ行旅ニ對スル必要ノ件並ニ左式ノ看板ヲ營業中店頭又ハ門戸ニ掲示スヘシ

陸運請負業 氏名 幅三尺 人馬繼立業

第十一條 正當ノ事由ナクシテ荷物ノ受負又ハ人馬ノ繼立ヲ拒絶スヘカラス

第十三條 營業上ニ付テハ家族雇人ノ所爲ト雖トモ營業者又ハ管理人其責ニ任スヘシ

第十四條 本則第二條乃至第四條第八條乃至第十二條ニ違背シタル者ハ(違警罪)ヲ以テ處セラルヘシ

◎通船營業取締規則(抜抄)

(明治四十年九月三十日)  
(兵庫縣令第四十七號)  
改正(四一年第一三九號)

第一章 通則

第一條 本則ニ於テ通船營業ト稱スルハ神戸市沿海ニ於テ解船又ハ小蒸氣船ヲ以テ人又ハ貨物ノ運送及是等ノ用ニ供スル貸船ノ業ヲナスモノヲ謂フ

第二條 通船營業ニ使用スル船舶ヲ分チテ第一類船第二類船ノ二種トス



第三條 通船營業ヲ爲サムトスルモノハ左ノ各號ヲ具シ組合取締人連署ヲ以テ神戸水上警察署ニ願出免許ヲ受クヘシ但解船ニ係ルモノハ第五號乃至第七號ノ具備ヲ要セス

一 族籍住所氏名年齢但法人ニ係ルモノハ其代表者ノ族籍住所氏名年齢借船ニ係ルトキハ船主ノ連署  
二 法定代理人又ハ補佐人ヲ要スルモノハ其連署妻ハ夫ノ連署但民法第十七條ノ場合ハ此ノ限リニアラス

三 船舶ノ種類及其員數  
四 客人ノ送迎場<sup>第一類船</sup>ニ限ル  
五 船舶ノ國籍  
六 船長機關士ノ族籍住所氏名年齢及免狀ノ種類  
七 船舶検査證寫  
警察ノ取締上必要アリト認ムルトキハ船數ヲ制限スルコトアルヘシ

第四條 左ノ場合ニ於テハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ第一號ハ戸主又ハ家族戸主又ハ家族アラサルトキハ營業者所屬組合ヨリ神戸水上警察署ニ届出ヘシ但第四號讓渡ノ場合ハ當事者双方連署ニテ届出ヘシ  
一 營業者行衛不明トナリ又ハ死亡シタルトキ  
二 第三條第一號第二號第四號第五號第六號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ

第二十四條 第二類船ニハ附錄第五號ノ標旗ヲ掲ケ夜間ハ尙標燈ヲ船上見易キ場所ニ掲クヘシ但輸入手數未濟外國貨物及ヒ戻稅交付金附帶スル輸出貨物ヲ積卸スル爲メ外國船又ハ外國航行ノ内國船へ交通スルモノハ附錄第四號ノ標旗ヲ船上見易キ場所ニ掲クヘシ

第六章 制裁

第三十七條 營業免許又ハ増船認可ヲ得タル後滿三ヶ月以上開業セス又ハ船體検査ヲ受ケス若クハ休業シタルモノハ免許又ハ認可ノ効ヲ失フモノトス

第三十八條 營業者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ當廳ニ於テ營業免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ  
一 本則又ハ關稅法ニ違反シタルトキ  
二 公安秩序ヲ亂シ又ハ風俗ヲ害スルノ虞レアリト認ムルトキ

三 營業者トシテ不適當ト認ムルトキ  
四 他人ニ名義ヲ貸スノ事實アリト認ムルトキ  
附則

第四十一條 本則施行前通船營業ノ免許ヲ受ケタル者及船夫鑑札ヲ受ケタル者ハ本則ニ依リ免許又ハ鑑札ヲ受ケタル者ト見做ス(一項)

附錄  
第二號 材料杉又ハ枿

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

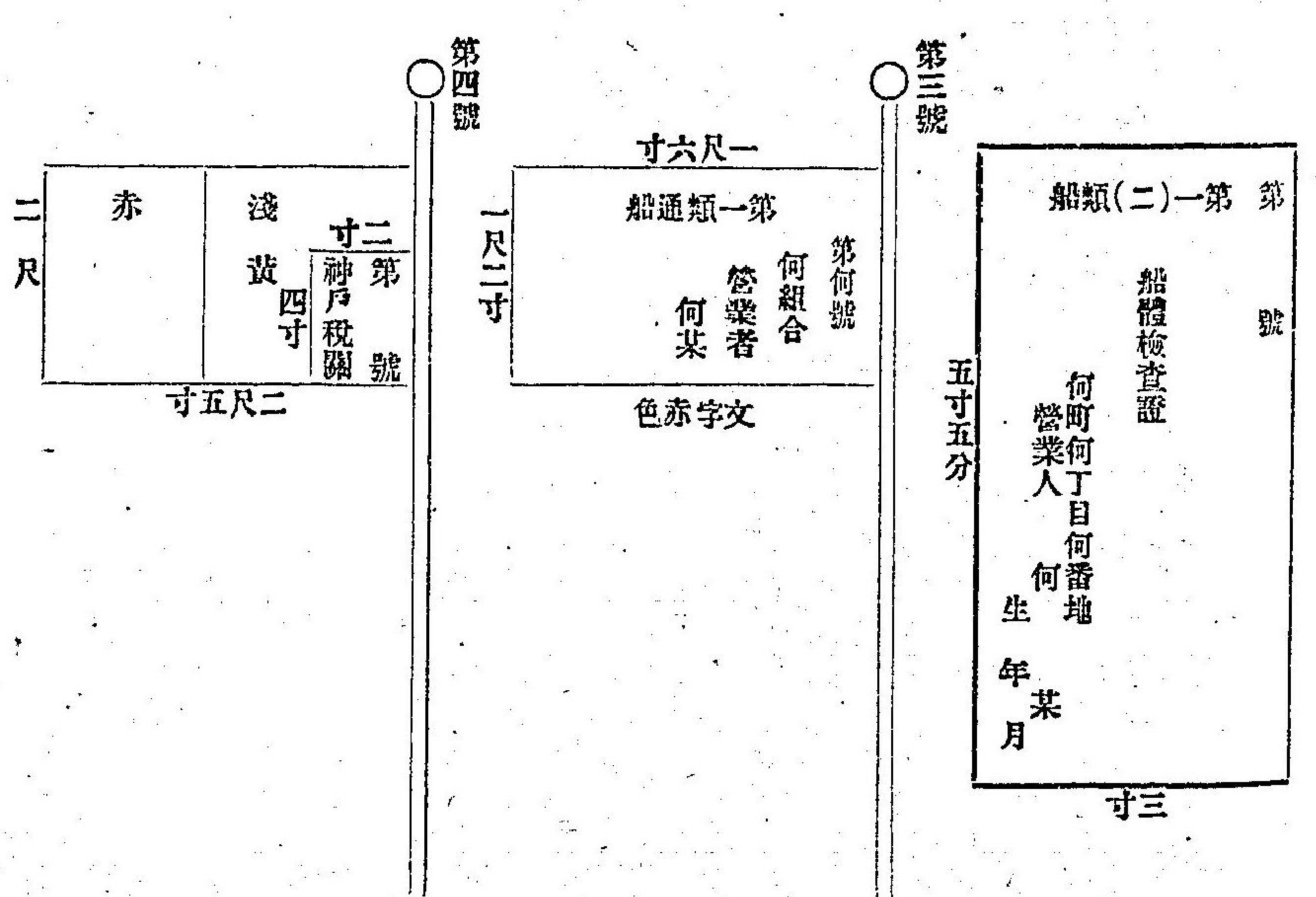
三 廢業又ハ休業シタルトキ  
四 營業船ノ使用ヲ廢シ若クハ讓渡シタルトキ

第八條 解船ノ船體及屬具被服<sup>第一類</sup>ハ使用前神戸水上警察署ノ検査ヲ受ケ船體検査證ハ船内賭易キ場所ニ釘付スヘシ但船體検査證ノ調製ハ營業者ノ負擔タルヘシ  
第十條 検査證又ハ船夫鑑札ヲ失ヒタルトキ又ハ其記載事項ニ異動ヲ生シ若クハ文字不明トナリタルトキハ營業者ヨリ再下附又ハ書換ヲ申請スヘシ

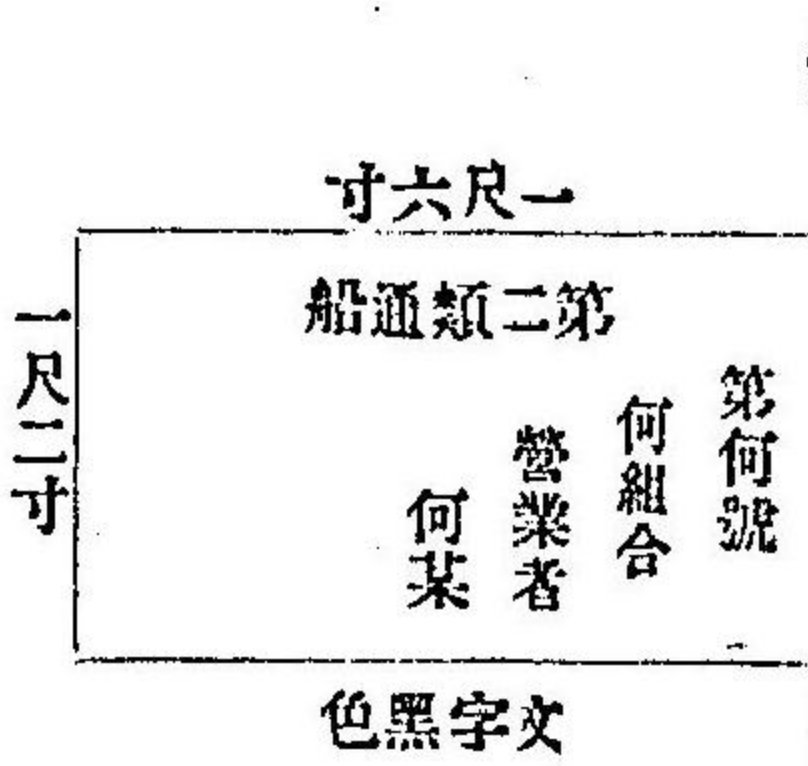
第十六條 第一類船トハ人ヲ送迎スル解船及小蒸氣船ヲ謂フ  
第十七條 第一類船ニハ附錄第三號ノ標旗ヲ艦部ニ掲ク夜間ハ尙標燈ヲ船上見易キ場所ニ掲クヘシ但外國船又ハ外國航行ノ内國船へ交通セントスルモノハ附錄第四號ノ標旗ヲ掲クヘシ

第十八條 第一類船賃金及乗客ノ定員ハ神戸水上警察署ニ届出認可ヲ受ケ和英兩文ノ賃金及定員表ヲ船内見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ  
第三章 第二類船  
第二十一條 第二類船トハ貨物ヲ運送スル解船又ハ小蒸氣船ヲ謂フ

第二十二條 第二類船ニハ船首兩側ニ標旗ト同一ノ番號ヲ大形ニ明記スヘシ







●通船營業取締規則ニ依ル輸入手數未濟ノ外國貨物搭載ノ第二類船定繫場

(明治四十年九月三十日)  
(兵庫縣告示第四百三十六號)

明治四十年九月兵庫縣令第四十七號通船營業取締規則第二十五條ニ依リ輸入手數未濟ノ外國貨物ヲ搭載セル第二類通船定繫場ノ位置左ノ通指定ス

- 一 小野濱波止場沖防波堤西端ト米利堅波止場トノ間但米利堅波止場ヨリ東百間以内ヲ除ク
- 二 川崎波止場
- 三 兵庫波止場

前記各波止場内及各陸岸ヨリ百間以内ノ沖合別紙圖面之通(圖面略)

●胞衣及産褥汚物取締規則(抜抄)

(明治三十四年四月二十日)  
(兵庫縣令第四十二號)

第六條 營業者ハ胞衣及産褥汚物取扱料金ヲ定メ神戸市ニ在テハ本廳其他ノ市町村ニ在テハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ其之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十一條 本則ニ據リ本廳若クハ所轄警察官署ニ差出スヘキ願届ハ市ニ在テハ市役所町村ニ在テハ町村役場ヲ經由スヘシ

第十三條 營業者本則ニ違犯シ又ハ本則ヲ遵守シ得サルト認ムルトキハ營業免許ヲ取消スコトアルヘシ

●塵船營業取締規則(抜抄)(明治三十二年十月五日)  
(兵庫縣令第五十五號)

第一條 本則ニ於テ塵船營業者ト稱スルハ神戸市沿海ニ碇泊スル艦船ニ就キ動物ノ死屍灰燼及塵芥類ノ取除ヲ業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 前條ノ營業者ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ神戸水上警察署ニ願出免許ヲ受クヘシ

- 一 族籍住所氏名年齢但法人又ハ組合ニ係ルトキハ其代表者ノ族籍住所氏名年齢
- 二 使用スヘキ塵船ノ數

廢業シタルトキ塵船ヲ減シタルトキ竝ニ第一號ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ神戸水上警察署ニ届出ヘシ

塵船ヲ増加セントスルトキハ神戸水上警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第三條 塵船營業者ハ第一條ニ掲ケタルモノ、投棄場又ハ燒棄場ヲ設クヘシ

第三條 胞衣及産褥汚物ノ取扱ヲ以テ營業ト爲サントスルモノハ左ノ各號ヲ具シ神戸市ニ在テハ本廳其他ノ市町村ニ在テハ所轄警察官署ノ免許ヲ受クヘシ第四號第五號ヲ變更又ハ改築セントスルトキ亦同シ

- 一 住所氏名年齢法人ニ係ルモノハ社名及其管理人ノ氏名
- 二 法定代理人又ハ保佐人アルモノハ其連署
- 三 營業所ノ位置
- 四 埋没地又ハ燒却場ノ位置及他人ノ所有ニ係ハルトキハ其承諾書
- 五 埋没地又ハ燒却場ノ構造及近傍二町以内ノ見取圖

第四條 左記第一號第二號第三號第五號ノ場合ニ於テハ營業者又ハ管理人第四號ノ場合ニ於テハ管理人又ハ相續人ヨリ十日以内ニ神戸市ニ在テハ本廳其他ノ市町村ニ在テハ所轄警察官署ニ届出ヘシ

- 一 住所氏名又ハ社名ニ異動ヲ生シタルトキ
- 二 法定代理人保佐人管理人ニ異動ヲ生シタルトキ
- 三 營業所ノ位置ヲ變更シタルトキ
- 四 解散又ハ死亡シタルトキ
- 五 廢業シタルトキ

第五條 埋没地又ハ燒却場ノ工事落成シタルトキハ神戸市ニ在テハ本廳其他ノ市町村ニ在テハ所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケタル後ニアラサルハ使用スルコトヲ得ス

第四條 投棄場又ハ燒棄場ヲ設ケントスルトキハ其場所ヲ詳記シ仕様書竝ニ圖面ヲ添へ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第五條 投棄場及燒棄場ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ

第七條 營業者ニシテ左ノ各號ニ該當スルトキハ免許ヲ取消スコトアルヘシ

- 一 財産ニ對スル罪ヲ犯シタルトキ
- 二 本則ニ違背シタルトキ
- 三 免許ヲ受ケタル後六十日間開業セス又ハ三十日以上休業シタルトキ

第八條 神戸港界内ニ於テ使用スヘキ塵船及其碇泊所ノ位置ニ關シ神戸港務局ノ承認ヲ受ケタルトキハ其旨神戸水上警察署ニ届出ヘシ

港界外ニ於ケル塵船碇泊所ノ位置ハ神戸水上警察署ノ指定ニ從フヘシ

港界外ニ於テノミ使用スヘキ塵船ハ神戸水上警察署ニ届出検査ヲ受クヘシ

第十一條 掃除賃金ハ豫メ神戸水上警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

●塵船營業取締規則執行心得(抜抄)

(明治三十二年十月九日指第二四九號)  
(警部長ヨリ神戸市内各警察署ニ指示)

第三條 規則第八條ニヨル碇泊所ノ位置ハ取締上必要



ナル場所ヲ選ヒ指定スヘシ

同條第三項ノ船舶ノ検査ハ神戸港務局ニ於テ承認シタル塵船ノ船體ヲ標準トスヘシ若シ差支ナシト認ムルモノハ検査済ノ證ヲ與ヘ船舶内ニ釘付セシムヘシ但用材ハ届出人ヲシテ調製セシムヘシ

印
検査済
港外使用塵船
塵船營業者
年月日
何
某

●汚物掃除法施行細則(抜抄)

(明治三十七年三月十日)  
(兵庫縣令第九號)

- 第七條 屎尿ハ屎尿汲取營業者ニアラサレハ取扱ノ委託ヲ受クルコトヲ得ス但郡村ニ接近シタル地域ニシテ市長ノ指示シタルモノハ此限ニアラス
- 第八條 屎尿汲取營業ヲナサントスルモノハ左記各號ヲ具シ市役所ヲ經由本廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
  - 一 住所氏名但法人ニアツテハ其社名
  - 二 事務所ノ位置
  - 三 屎尿汲取ノ區域
  - 四 屎尿汲取ノ方法、期日、料金及汲取タル屎尿ノ

處分方法

- 第九條 前條ノ出願者ニシテ法定代理人又ハ保佐人アルモノハ連署スヘシ
- 第十條 屎尿貯溜所ヲ設置セントスルモノハ其位置、構造仕樣書及其圖面竝ニ近傍六十間以内ノ見取圖ヲ添ヘ成工期日ヲ定メ所轄警察官署ヲ經由本廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 前項ノ工事ハ落成ノ上本廳ノ検査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス
- 第十一條 左記ノ事實ヲ生シタルトキハ營業者又ハ相續人ヨリ五日以内ニ市役所ヲ經由本廳ニ届出ヘシ
  - 一 住所氏名、社名、法定代理人、保佐人ニ異動ヲ生シタルトキ
  - 二 解散又ハ死亡シタルトキ
- 第十二條 營業者ニシテ左記事項ヲ變更セントスルトキハ市役所ヲ經由本廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
  - 一 第八條第二號乃至第四號
  - 二 屎尿貯溜所ノ位置構造
- 第十三條 營業者ハ休業スルコトヲ得ス
- 第十四條 廢業セントスルトキハ三十日前委託者ニ通告シ且ツ市役所ヲ經由本廳ニ届出ヘシ
- 第二十六條 營業者ハ本廳ニ於テ許可シタル區域外ニ立入り屎尿汲取ノ委託ヲ受クルコトヲ得ス
- 第二十七條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ營業ノ免許ヲ取消スコトアルヘシ
  - 一 ヲ宿泊セシムルモノヲ謂フ
  - 二 下宿トハ一月定ノ食料座敷料等ヲ受ケテ人ヲ寄宿セシムルモノヲ謂フ
  - 三 木賃宿トハ賄ヲ爲サス木賃其他ノ諸費ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシムルモノヲ謂フ

- 一 營業免許ノ後一箇月以内ニ營業ヲ開始セザルトキ
- 二 本則ニ違反シ又ハ本則ヲ遵守スル能ハスト認メタルトキ

附則

- 第三十一條 本則第七條及第二十條ハ當分ノ内姫路市ニ適用セス
- 第三十二條 本廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ町村ノ全部又ハ一部ヲ指定シ本則ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトアルヘシ

●汚物掃除ニ關スル法令施行方

(明治四十二年一月二十五日)  
(兵庫縣令第七號)

汚物掃除法第十一條ニ依リ塵芥汚泥ノ掃除、運搬及處分、公共便所ノ築造及修繕ニ關シテ同法及其ノ施行命令ヲ明石郡明石町大明石村字上ノ丸、大ニ準用ス本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●宿屋營業取締規則(抜抄)(明治三十二年七月十七日)

(改正)三三年第三九號、三六年第一〇號、四一年第一二號

第一章 通則

- 第一條 本則ニ於テ宿屋營業ト稱スルハ旅人宿下宿木賃宿ノ三種トス
- 一 旅人宿トハ主トシテ一泊定ノ宿泊料ヲ受ケテ人

- 一 後見人ナキ未成年者癡癩者白痴者
- 二 保佐人ナキ准禁治產者
- 三 財産ニ對スル罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ猥褻姦淫ニ關スル罪ヲ犯シタル者ニシテ改悛ノ情ナシト認ムル者
- 二 法定代理人又ハ保佐人アル者ハ其連署
- 三 營業ノ種類及營業ノ場所
- 四 營業用家屋ノ構造及其平面圖竝ニ客室ノ坪數
- 第三條 營業者自カラ其營業ヲ管理セサル時又ハ事故ノ爲メ管理スル能ハサルニ至リタル時ハ管理人ヲ定メ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 第四條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ營業ノ免許ヲ與ヘス
  - 一 族籍住所氏名年齢竝ニ屋號アルモノハ其屋號但法人ニ係ルモノハ管理人ノ族籍住所氏名年齢及其社名
  - 二 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ第三號第四號ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ支店ヲ設ケントスルトキ亦同シ



(四號、五號略)

第五條 宿屋營業者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ免許ヲ取消シ又ハ營業ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 前條第一號乃至第三號ニ該當スル者
- 二 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ所業アリト認ムル者
- 三 他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認ムル者
- 四 本則ヲ遵守セス又ハ宿泊人ニ對シ不正ノ所業アリト認ムル者

第六條 宿屋營業者ハ同一家屋内ニ於テ芝居茶屋貸席待合茶屋藝妓屋料理屋飲食店及ヒ雇人口入營業ヲ兼ヌルコトヲ得ス但第七條ニ依リ構造シタル家屋内若クハ土地ノ狀況ニヨリ必要ト認メタルトキハ料理屋ノ兼業ヲ許可スルコトアル可シ

第八條 營業用家屋ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ其検査済ノ認證ヲ受クルニアラサレハ營業ノ爲ニ使用スルコトヲ得ス

第九條 營業用ノ家屋ニシテ危險又ハ衛生上必要ト認ムルトキハ改造又ハ修理ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 解散、失踪又ハ死亡シタルトキハ戶主家族又ハ後見人管理人ニ於テ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十一條 左ノ場合ニ於テハ事實ノ生シタル日ヨリ五日内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ  
一 族籍住所氏名又ハ社名屋號ニ異動ヲ生シタル時

第三十五條 下宿營業用家屋ハ客室ノ坪數市ニ在テハ十坪以上ノモノニ限ル

第三十六條 第二十八條第二號乃至第四號第三十一條乃至第三十四條第一項第四十二條但書ノ規定ハ下宿ニモ亦之レヲ適用ス

第三十八條 下宿營業者ハ下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル名札ヲ店頭若クハ門戸ニ掲出スヘシ

第四十條 木賃宿營業地ハ別ニ告示ヲ以テ之レヲ指定ス

第四十二條 本則第二十八條第二號第四號第三十二條乃至第三十四條ノ規定ハ木賃宿ニモ亦之レヲ適用ス但滞在在外泊シタルトキハ其旨宿泊人名簿ニ記載シ置クヘシ

附則

第四十五條 從來ノ宿屋營業者ハ當分ノ内第六條ノ規定ニ依ラス料理屋營業ヲ兼ヌルコトヲ得但本則實施ノ日ヨリ十日内ニ其營業ノ種類並ニ免許又ハ届出ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第四十六條 前條ノ規定ハ本則發布ノ日以前ニ於テ現ニ兼業シ來リタル者ニ限り之ヲ適用ス  
(様式略)

◎木賃宿營業地指定(明治三十二年八月十日)  
兵衛縣告示第二百一十一號  
明治三十二年七月二十七日縣令第三十二號宿屋營業取

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

二 休業又ハ廢業シタル時  
三 法定代理人又ハ保佐人管理人ニ異動ヲ生シタル時

第十二條 相續ニ依リ宿屋營業ヲ繼承セントスル者ハ相續確定ノ日ヨリ十日内ニ第二條第一號第二號ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ  
相續不確定ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ管理人ノ選定ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 營業者ハ宿泊料又ハ座敷料賄料等ヲ定メ所轄警察官署ニ届出ヘシ其定額ヲ變更シタルトキ亦同シ(一項)

第二十八條 旅人宿營業用ノ家屋ハ左ノ制限ニ從フヘシ  
一 市ニ在テハ客室ノ坪數二十坪以上郡ニ在テハ十坪以上アル者ニ限ル  
(二號乃至四號略)

第三十二條 營業者ハ第一號様式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製紙數ヲ記シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ  
第三十三條 宿泊人名簿ハ使用終リタル後一ケ年間保存スヘシ

第三章 下宿

縮規則第三十八條ニ依ル木賃宿營業ハ縣下ノ全市郡ニ於テ爲スコトヲ得但神戸市姫路市及武庫郡西宮町明石郡明石町津名郡洲本町城崎郡豐岡町ニ在テハ左ニ記載シタル區域ニ限ル  
神戸市ノ内  
葺合村字新川(俗稱二百軒長) 屋及近接ノ地  
神戸市林田村ノ内長田村字糸木  
武庫郡西ノ宮町ノ内  
字市庭町 同與古道町東側以東  
明石郡明石町ノ内  
西新町四辻以西  
姫路市ノ内  
鑄物師町 威德寺町 博勞町  
城崎郡豐岡町ノ内  
永井町  
津名郡洲本町ノ内  
船場町

◎宿屋營業取締規則執行心得(抜抄)

(明治三十二年七月三十一日)  
廳達第一〇九號

第五條 規則第八條ニ依リ構造ノ落成ヲ届出タルトキハ構造ノ適否ヲ検査シ適當ナルモノハ使用ヲ認可シ第三號様式ニ依リ認證ヲ下付スヘシ



第三號樣式 (用紙四ノ内十二枚切)

旅人宿 下宿 木賃宿	構造検査済之證
契印	何區郡何町村何番地
何	何 某
明治年月日	何警察(分)署印

●畜場取締規則(抜抄)(明治三十五年五月二十日)

- 第一條 營業ノ爲メ牛馬羊豚ヲ飼養シ又ハ休憩宿泊セシメントスルモノハ左記各號ヲ具シ市役所町村役場及所轄警察官署ヲ經由シ本廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ第三號第四號第七號第十號及構造ヲ變更セントスルトキ亦同シ
- 一 住所氏名但シ法人ニ係ルモノハ管理人ノ住所氏名
- 二 法定代理人又ハ保佐人アルモノハ其連署
- 三 畜場ノ位置
- 四 家畜ノ種類及飼養又ハ繫留スヘキ見込頭數
- 五 敷地建物坪數及建物全部平面圖并構造仕様書
- 六 建物ト隣地境界トノ最近距離
- 七 給水ノ方法
- 八 敷地ノ周圍六十間以内ノ見取圖
- 九 人家及飲用水ヘノ距離
- 十 工事落成期日

形 雞

長サ三尺

(牛)(馬)(羊)(豚)	畜場
住所	氏名

●雇人請宿營業取締規則(抜抄)

(明治二十二年八月六日)

(兵庫縣令第五百二十一號)

- 第一條 雇人請宿營業ヲ爲サントスルモノハ所轄警察署又ハ分署<sup>神戸市内ニ限リ</sup>ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第二條 轉住改氏名又ハ廢業シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第三條 營業者ハ左ノ看板ヲ製シ店頭ニ掲クヘシ

雇人請宿營業	氏名	横入寸
--------	----	-----

- 第六條 營業者ハ營業簿冊ヲ製シ其紙數ヲ記シテ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ紹介ノ都度左ノ事項ヲ詳記シ置キ臨時警察官吏ノ檢閱ニ供スヘシ但此簿冊ハ使用後滿二年間保存スヘシ
- 一 雇人ノ族籍氏名年齢並ニ現住所
- 二 雇役ノ種類
- 三 口入紹介セシ年月日
- 四 被雇期限及給金額
- 五 解雇ノ理由

- 第四條 建物ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出テ検査ヲ受ケタル後ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス
- 第五條 衛生上必要ト認ムルトキハ修繕改築増築又ハ移轉ヲ命スルコトアルヘシ
- 第七條 畜場ノ門戸ニハ雞形ノ標札ヲ掲クヘシ
- 第八條 左記第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ營業人又ハ管理人ヨリ第四號ノ場合ニ於テハ戶主、相續人又ハ其家族ヨリ二十日以内ニ復業セントスルトキハ五日前ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 一 住所氏名又ハ社名ニ異動ヲ生シタルトキ
- 二 法定代理人、保佐人、又ハ管理人ニ異動ヲ生シタルトキ
- 三 休業又ハ廢業シタルトキ
- 四 死亡シタルトキ
- 第九條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ免許ヲ取消スコトアルヘシ
- 一 免許ノ後正當ノ事由ナク二箇月以内ニ建設ニ着手セス又ハ落成期限ヲ經過シ落成セザルトキ
- 二 正當ノ事由ナク六箇月以上休業シタルトキ
- 第十條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ畜場ノ使用ヲ停止若シクハ禁止スルコトアルヘシ
- 一 第五條ノ命ニ從ハザルトキ
- 二 本則ヲ遵守セスト認ムルトキ
- 三 當該吏員ノ臨檢ヲ拒ミタルトキ

六 雇主ノ住所氏名

- 第九條 營業者ニ於テ受クヘキ手数料金額ハ營業者協議ヲ以テ之ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ其認可ヲ受ケタル金額ハ之ヲ家宅内見易キ所ニ掲出スヘシ
- 第二十一條 此規則ヲ一年以内ニ再犯シタル者ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止又ハ停止スルコトアルヘシ

●娼妓紹介人取締規則(抜抄)

(明治二十七年八月六日)

(兵庫縣令第五百十九號) 改正(三三年第七六號)

- 第一條 此規則ニ於テ紹介人ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ娼妓ノ轉席又ハ新ニ娼妓ヲラントスル婦女ノ周旋ヲ爲ス者ヲ云フ
- 第二條 紹介人タラントスル者ハ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第四條 紹介人其業ニ關シ犯罪アリテ所轄警察官署ニ於テ正當ニ其業ヲ營ムコトヲ得サル者ト認メタルトキハ第二條ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第六條 紹介人ハ紹介ヲ爲シタル年月日娼妓又ハ娼妓タラントスル婦女ノ原籍氏名年齢並ニ其席主手数料額ヲ帳簿ニ記載シ置キ警察官吏ノ検査ニ供スヘシ
- 第八條 紹介人ハ手数料額ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ
- 前項ノ認可ヲ受ケサル間ハ第二條ノ許可ヲ受クルト



雖モ營業ヲ開始スルコトヲ得ス  
 第十三條 紹介人廢業轉居又ハ改氏名ヲ爲シタルトキハ五日以内ニ其旨ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ  
 第十四條 紹介人ハ他人ヲシテ其業ノ全部又ハ一部ヲ代理セシムルコトヲ得ス若シ疾病其他已ムヲ得サル事故ノ爲メ其家族又ハ雇人ヲシテ其業ノ補助ヲ爲サシムルトキハ所轄警察官署ニ豫メ其族籍住所氏名ヲ届出認可ヲ受クヘシ(一項)  
 前項ニ依リ認可ヲ受ケタル家族又ハ雇人ノ都合ノ行爲アルトキハ其認可ヲ取消スコトアルヘシ(二項)

職工營業主及紹介人取締規則(抜抄)

(明治二十九年十二月二十二日) 改正(三十二年第一號) (兵庫縣令第八十九號) 改正(四一號)

第二章 紹介人

第十條 各種製造場ノ職工タラントスル者ヲ口入周旋ヲ業トスル者ヲ紹介人トス  
 第十一條 紹介人ハ族籍住所年齢ヲ詳記シ履歷書ヲ添付シ管轄警察官署ニ願出許可ヲ受ク可シ  
 第十二條 紹介人ハ成ルヘク自ラ其業務ヲ執ル可シ若シ止ムヲ得ス代人ヲ使用スルトキハ其住所氏名ヲ管轄警察官署及募集地ノ管轄警察官署ニ届出可シ  
 第十四條 紹介人營業ヲ願出タルトキ若シ本則ヲ遵守スル能ハサル者ト認ムルトキハ許可セサルコトアル可シ  
 許可シタル者ト雖モ前項ニ該當スルトキハ許可ノ失

効ヲ命スルコトアル可シ代人ニ對シテモ亦本條ヲ適用ス

第三章 職工取扱及寄宿舎

第二十七條 此規則ニ依リ取締ヲ爲スヘキ營業主及職工雇人ハ五十名以上ノ人員ヲ使用スル工場ニ限ルモノトス

外國人案内業者取締規則(抜抄)

(明治三十五年一月二十日) 改正(三十六年第一號) (兵庫縣令第十二號) 改正(二九號)

第一條 本則ニ於テ案内業者ト稱スルハ外國人ノ道案内ヲ業トスル者ヲ謂フ  
 第二條 案内業者ヲ爲サントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添へ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ヘ差出シ免許ヲ受クヘシ  
 一 履歷書  
 二 第三條但書ニ該當スル者ニ在リテハ卒業證書ノ寫  
 第三條 案内業者ハ當廳ニ於テ試験ノ上之ヲ免許ス但中學校又ハ之ト同等以上ノ官立公立私立學校卒業證書ヲ有スル成年以上ノ者ハ語學ニ限リテ試験シ若ハ全部試験ヲ爲サシテ免許スルコトアルヘシ(一項)  
 第五條 免許證ヲ喪失毀損シ若ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ヘ届出テ再下付又ハ書換ヲ請フヘシ  
 廢業又ハ死亡シタルトキハ前項ノ期間内ニ所轄警察

代書業取締規則(抜抄)(明治三十七年四月十一日) 改正(三十八年第九一號) (兵庫縣令第二十四號)

官署ヲ經由シ當廳ヘ届出テ免許證ヲ返納スヘシ但死亡ノ場合ニ於テハ戸主又ハ其ノ相續人ヨリ本文ノ手續ヲ爲スヘシ  
 第六條 案内業者ニシテ事務所ヲ設ケタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ヘ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ又同シ  
 第七條 案内賃金ハ豫メ之ヲ定メ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ヘ届出テ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ更定セントスルトキ亦同シ  
 第八條 就業中ハ免許證ヲ携帶スヘシ(一項)  
 第九條 案内業者ハ左記各號ノ事項ニ該當スヘキ行爲アルヘカラス  
 (一) 號乃至五號略)  
 六 免許證ヲ他人ニ轉貸若ハ讓與スルコト  
 第十一條 本則及案内賃金ハ之ヲ歐文ニ翻譯シテ事務所内見易キ場所ニ掲出シ且別ニ印刷シテ被案内者ニ貸與スヘシ  
 第十二條 案内業者本則ニ違背シ又ハ第四條第二號乃至第四號ニ該當スヘキ事實ノ生シタルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消スコトアルヘシ  
 附 則  
 第十五條 他府縣ニ於テ案内業ノ免許ヲ受ケタルモノハ第二條ノ手續ヲ要セスシテ案内業ヲナスコトヲ得但被案内者ヨリ受クヘキ賃錢其ノ他ノ費用ニ就キテハ其ノ免許ヲナシタル府縣ノ認可額ニ據ル

第一條 本則ニ於テ代書業ト稱スルハ名義ノ如何ニ拘ハラズ他人ノ需メニ應シテ代書料ヲ受ケ書類ヲ作成ヲ爲スヲ云フ  
 第二條 代書業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名生年月日及營業所ヲ記載シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ  
 第三條 左ノ場合ニハ關係事項ヲ具シ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ  
 一 營業所ヲ變更シタルトキ  
 一 廢業シタルトキ  
 一 改氏名ノトキ  
 一 行衛不明又ハ死亡シタルトキ但此場合ニハ戸主又ハ家族ヨリ届出ヘシ  
 第四條 代書人ハ豫メ代書料ノ額ヲ定メ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ  
 第五條 代書人ハ代書事件簿ヲ調製シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ事件名委託者ノ住所氏名書類作成年月日及作成書類ノ紙數並ニ代書料領收額ヲ記載スヘシ  
 第八條 代書料額ノ認可ヲ受ケタルトキハ營業所見易キ場所ニ掲示シ置クヘシ  
 第十五條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ



- 一 本則ニ違背シタルトキ
- 一 不正行爲アリト認メタルトキ
- 一 代書業者トシテ不適當ナリト認メタルトキ

◎牛馬商取締規則(抜抄)(明治三十九年七月十六日)  
改正(四〇年第二六號)  
四年第七號

- 第一條 本則ニ於テ牛馬商ト稱スルハ牛馬ノ賣買交換又ハ賣買交換貸借ノ周旋ヲ業トスルモノヲ謂フ
- 第二條 牛馬商ノ營業ヲ爲サントスルモノハ族籍住所氏名生年月日ヲ記シ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ
- 免許鑑札ノ調製ハ第一號鑑形ニ依リ出願者ノ負擔タルヘシ
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ牛馬商ノ免許ヲ與ヘス
  - 一 未成年者
  - 二 瘋癲白痴者
  - 三 禁治産又ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタル者又ハ家資分産若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
  - 四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ産牛馬組合法若ハ産牛馬組合定款ニ違背シテ處分ヲ受ケ又ハ本則第二條ニ違背シテ處分ヲ受ケ尙改悛ノ情ナシト認ル者
  - 五 素行不良又ハ他人ニ名義ヲ貸スノ事實アリト認

ムル者

第四條 營業中ハ鑑札ヲ携帯スヘク當該官吏及産牛馬組合員又ハ當事者ヨリ閱覽ヲ求メテラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

- 第五條 左ノ場合ニハ其實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出第二號及第三號ノ場合ハ鑑札ノ書換又ハ再下付ヲ請フヘシ但第一號前段ノ場合ニ於テハ相續人又ハ戶主ヨリ之ヲ届出ツヘシ
  - 一 營業者死亡又ハ廢業シタルトキ
  - 二 亡失毀損若ハ字體不分明トナリタルトキ
  - 三 鑑札記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ
- 第六條 牛馬商ハ左ニ掲クル行爲ヲ爲スコトヲ得ス
  - 一 鑑札ヲ讓渡又ハ貸與スルコト
  - (二號乃至六號略)
- 第七條 牛馬商ハ賣買交換又ハ貸借ノ周旋手数料ヲ定メ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 第八條 牛馬商ハ第二號様式ノ帳簿ヲ調製紙數ヲ記シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ賣買交換又ハ賣買交換貸借ノ周旋ヲナシタルトキハ其ノ都度之ニ記入シ使用後滿三年間保存スヘシ(一項)
- 第九條 本則第三條第二號乃至第五號ノ一ニ該當スヘキ事實發生シ又ハ本則ノ規定ニ違背シタルトキハ牛馬商ノ營業ヲ停止シ若ハ其ノ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第一號様式

縦三寸五分

第 號	住所	氏 名
牛馬商免許鑑札		年齢
年 月 日		
何警察署(分署)		
格印		

歩五寸二

(第二號様式略)

◎醬油稅則(抜抄)(明治二十一年六月十八日) 改正(二九年)  
律第六四號、三二年第二五號、  
三七年第七號、三九年第一六號

- 第一條 醬油 留テ併テ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ヲ取消ヲ求ムヘシ
- 第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

◎醬油稅則施行規則(抜抄)(明治三十二年三月七日) 改正(三五年第二五三號、三七年) 第八八號、三八年第六號

- 第一條 醬油ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署長ニ提出スヘシ但シ自家用ノミノ醬油ヲ製造セムトスル者ハ其ノ旨ヲ附記スヘシ
- 第四條 前項ノ容器ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ申告スヘシ醬油製造人ノ居所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ(二項)
- 第七條 醬油製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署長ニ申告スヘシ
- 相續ノ場合ヲ除ク外醬油製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ醬油製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造人ハ醬油稅則第一條ニ依リ其ノ免許ヲ取消ヲ求ムヘシ
- 第七條ノ二 醬油製造人其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署長ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條ノ三 醬油製造人其ノ製造場ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ
- 第二十條 醬油製造人ハ醬油製造用原料品ノ受拂、醬油ノ仕込、製成、出入、消費ニ關シ詳細ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ



●酒母醱及麴取締法(抜抄)(明治三十八年一月一日)

第一條 本法ハ酒造稅法ニ依リ酒類ノ製造免許ヲ受ケ  
 スシテ酒母又ハ醱ヲ製造スル者、販賣ノ爲ニ麴ヲ製  
 造スル者及麴ヲ請買スル者ニ之ヲ適用ス  
 第二條 酒母、醱又ハ麴ヲ製造セムトスル者ハ製造場  
 一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ  
 第三條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者及麴ノ請買者ハ帳簿  
 ヲ調製シ酒母、醱又ハ麴ノ製造出入ニ關スル事實ヲ  
 詳細明瞭ニ記載スヘシ  
 第十七條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者ニシテ其ノ製造ヲ  
 廢止シタルトキハ其ノ旨政府ニ申告スヘシ

●酒母醱及麴取締法施行規則(抜抄)

(明治三十八年一月一日)

第一條 酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醱ヲ製  
 造セムトスル者及販賣ノ爲ニ麴ヲ製造セムトスル者  
 ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル  
 免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ  
 第六條 酒母、醱又ハ麴製造者ハ毎年十二月廿二日  
 製造スヘキ見込石數、製造著手ノ時期及製造方法ヲ  
 記載シ所轄稅務署ニ申告スヘシ新ニ免許ヲ受ケタル  
 者ハ事業着手前ニ申告スヘシ  
 酒母、醱又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ休止セムトスル  
 トキ若ハ製造休止後更ニ製造セムトスルトキ又ハ前

項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其  
 ノ都度申告スヘシ

第七條 酒母、醱又ハ麴ノ製造業ヲ相續シタルトキハ  
 相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ  
 相續ノ場合ヲ除ク外酒母、醱又ハ麴ノ製造業ノ引  
 繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒母、醱又ハ麴  
 製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ  
 前項ノ免許申請書ニハ引繼ヲ爲サムトスル者ノ同意  
 書ヲ添附スヘシ

第八條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者其ノ製造場ヲ移轉セ  
 ムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許  
 可ヲ受クヘシ  
 第九條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ廢止シタ  
 ルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ第七條第二  
 項ニ依リ製造業ノ引繼ヲ爲シタルトキ亦同シ  
 第十五條 酒母、醱又ハ麴製造者ハ少クトモ左ノ事項  
 ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在  
 リテハ引取ノ日及其ノ引取先  
 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日  
 三 製造シタル酒母、醱又ハ麴ノ數量及其ノ製造ノ日  
 四 酒母ヲ麴ニ混和シタルトキハ其ノ酒母及麴ノ數  
 量、其ノ混成數量及其ノ混和ノ日  
 五 使用又ハ他ニ引渡シタル酒母、醱若ハ麴ノ數量  
 及使用又ハ引渡ノ日、引渡シタルモノノ價額及引

渡先

第十六條 麴請買者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載  
 スヘシ  
 一 引取リタル麴ノ數量、價格、引取ノ日及引取先  
 二 販賣シタル麴ノ數量、價格、販賣ノ日及賣渡先  
 小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セ  
 ス

●非常特別稅法(抜抄)(明治三十七年四月一日)

(改正) (三十八年第一號、三十九年第七號)

第十二條 織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ  
 申告スヘシ但シ自用ニ供スル織物ノミヲ製造セムト  
 スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 一 織物製造者ハ其ノ製造場ニ於テ織物ノ  
 賣買業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得製  
 造ノ場所ト販賣ノ場所トヲ區別シタル場合ハ此ノ限  
 ニ在ラス

第十四條 織物ノ製造者及販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ織物ノ  
 製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

●非常特別稅法施行規則(抜抄)

(明治三十七年四月一日) (改正) (三十七年第一三九號)

第一條 本令ニ於テ製造者又ハ製造セムトスル者ト稱  
 スルハ自用ニ供スルモノノミヲ製造シ又ハ製造セム  
 トスル者ヲ包含セス

第二條 織物ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘ  
 キ種類ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ

販賣場ヲ有シテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ販賣場ヲ  
 定メ販賣場所轄稅務署ニ申告スヘシ  
 販賣場ヲ有セスシテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ其ノ  
 居所所轄稅務署ニ其ノ旨申告スヘシ

第四條 織物製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移  
 轉先ノ製造場ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ  
 織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有スル者販賣場ヲ移轉セ  
 ムトスルトキハ移轉先ノ販賣場ヲ定メ所轄稅務署ニ  
 申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有セサル者其ノ居所ヲ移  
 轉シタルトキハ其ノ旨移轉先ノ所轄稅務署ニ申告ス  
 ヘシ

第五條 織物製造者ニシテ期間ヲ定メテ製造ヲ爲スト  
 キハ製造ニ着手スル毎ニ着手及終了ノ時期ヲ豫メ所  
 轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 第二條若ハ第五條ニ依リ申告シタル事項又ハ  
 第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル  
 事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘ  
 シ

第七條 織物製造業又ハ販賣業ヲ相續シタルトキハ相  
 續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ  
 織物製造業又ハ販賣業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受  
 人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ



第八條 織物製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十八條 織物製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタル者ニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル種類、數量及其ノ製造ノ日
- 四 他ニ引渡シタル種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第十九條 織物販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル種類、數量、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 二 販賣シタル種類、數量、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 三 小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

●煙草專賣法(抜抄)(明治三十七年四月一日)

改正(四〇年第一一〇號)

第五〇號

第二十二條 製造煙草ハ政府又ハ政府ノ指定シタル煙草元賣捌人若ハ煙草小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

煙草賣捌人及煙草ノ販賣ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ

キヨリ復權ノ確定スルニ至ル迄ノ者

四 國稅滯納處分ヲ受ケ又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一箇年ヲ經サル者

五 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

六 公權剝奪若ハ停止中ノ者

七 履行期日ヲ過キ仍ホ製造煙草ノ買入代金ヲ完済セサル者

前項第二號及第七號ノ一ニ該當スル者ハ煙草小賣人ニ指定セララルコトヲ得ス

會社ノ場合ニ於テハ前二項各號ノ事實ノ有無ハ會社又ハ其ノ會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役又ハ監査役ニ付之ヲ定ム

第四條 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ハ五箇年以内ニ於テ專賣局長官ノ指定シタル期間其ノ營業ヲ爲スコトヲ得

煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人死亡ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續人ハ專賣局長官ニ申告シ殘期間其ノ營業ヲ承繼スルコトヲ得

第五條 煙草元賣捌人相互ニ組合契約ヲ締結シ共同シテ其ノ業務ヲ營マムトスルトキハ第七號書式ニヨリ組合契約書ヲ添ヘ專賣局長官ノ許可ヲ受ケヘシ

前項ニヨリ組合契約ヲ締結シタル者ハ其ノ組合員タル期間各自單獨ニ營業ヲナスコトヲ得ス但シ二箇所

之ヲ定ム

●煙草賣捌規則(抜抄)(明治三十八年二月四日)

改正(三十八年第三四號第四五號、三十七年第六號第一八號第三三號、四〇年第一五號第二六號、四一年第一〇號)

第四五號

第一條 煙草元賣捌人ハ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ煙草小賣人ニ賣渡スモノトス

煙草小賣人ハ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス

政府ハ特殊ノ場合ニ於テ製造煙草ヲ特定價格ヲ以テ煙草小賣人又ハ消費者ニ賣渡スコトアルヘシ

煙草元賣捌人ハ他ノ煙草元賣捌人ト製造煙草ヲ賣買スルコトヲ得

第二條 煙草元賣捌人及煙草小賣人ハ專賣局長官之ヲ指定ス

煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人タラントスル者ハ第一號書式ニ依リ申請スヘシ

第三條 左ニ掲クル者ハ煙草元賣捌人ニ指定セララルコトヲ得ス

一 煙草耕作者、之ト同一ノ家ニ在ル者又ハ煙草耕作者ノ同居者

二 專賣法規若ハ租稅法規ニ違反シ罰金以上ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經サル者

三 身代限處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルト

以上ノ營業所ヲ有スル煙草元賣捌人カ其ノ一部營業所ノ營業ニ付キ組合ニ加入シタルトキハ他ノ營業所ニ於テ單獨ニ營業ヲナスコトヲ妨ケス

組合規約ヲ變更セムトスルトキハ變更契約書ヲ添ヘ專賣局長官ノ許可ヲ受ケヘシ

煙草元賣捌人相互ニ會社ヲ組織シ其ノ業務ヲ營マムトスルトキハ會社設立前第二號書式ニ依リ專賣局長官ノ許可ヲ受ケヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者會社ヲ設立シ第一號書式ニヨリ專賣局長官ニ申請シタルトキハ煙草元賣捌人ニ指定セララルコトヲ得此場合ニ於テハ會社ヲ組織シタル煙草元賣捌人ノ指定ハ當然消滅ス

前二項ノ規定ニヨリ煙草元賣捌人ニ指定セララル會社ハ其ノ會社ヲ組織シタル前ノ煙草元賣捌人ノ所

有スル製造煙草ヲ引受クルモノトス

定款ヲ變更セムトスルトキハ變更定款ヲ添ヘ專賣局長官ノ許可ヲ受ケヘシ本條ニ依ラスシテ煙草元賣捌人ニ指定セララル會社亦同シ

第六條 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニシテ其ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ廢業ノ日ヨリ三十日以前ニ其ノ旨ヲ專賣局長官ニ申告スヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テ專賣局長官ハ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ取消スコトヲ得但シ第三號ノ規定ハ煙草小賣人ニハ之ヲ適用セス

一 本規則ニ違反シ當該官吏ノ注意ヲ受クルモ尙之



ニ從ハサルトキ  
 二 煙草元賣捌人ニ在リテハ第三條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ煙草小賣人ニ在リテハ第三條第一項第二號又ハ第七號ニ該當スルニ至リタルトキ  
 三 政府ヨリノ煙草買受代金一箇年五千圓未滿ナルトキ

會社カ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ指定セラレタル場合ニ於テ前項第一號第二號ノ事實ノ有無ハ其ノ會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役又ハ監査役ニ付テ之ヲ定ム  
 第八條 煙草元賣捌人ノ買受クル製造煙草ノ代金ハ政府ノ定メタル價格ニ對シ一定ノ割引歩合ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 煙草元賣捌人ト煙草小賣人トハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ヌ又其ノ營業所ヲ同クスルコトヲ得ヌ  
 第十三條 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ營業所ハ一人一箇所トス但シ既ニ二箇所以上ノ營業所ヲ有スル煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ハ此ノ限ニ在ラス  
 專賣局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ煙草元賣捌人ニ對シ二箇所以上ノ營業所ノ設置ヲ許可スルコトヲ得ルヘシ

第十四條 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ハ專賣局長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業所ノ位置ヲ變更スルヲ得ヌ  
 製作ノ免許ヲ得タル者ハ修覆及販賣ヲナスコトヲ得  
 販賣ノ免許ヲ得タル者ハ桿秤ノ取緒及垂絲ニシテ金屬ニアラサルモノニ限リ修覆ヲナスコトヲ得  
 免許ニ關スル年限、身元保證金其ノ他必要ナル制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 度量衡器ノ製作者、修覆者若ハ販賣者ニシテ度量衡ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ營業免許ヲ取消スコトヲ得

●度量衡法施行令(抜抄)(明治三十六年九月二十二日) 勅令第三百四十四號  
 第十二條 度量衡器ヲ製作シ、修覆シ又ハ販賣セムトスル者ハ度量器、量器又ハ衡器ニ付各別ニ營業所一箇所毎ニ免許ヲ受クヘシ  
 第十三條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許年限ハ十五箇年トス  
 第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ度量衡器ノ製作者、修覆者又ハ販賣者タルコトヲ得ヌ  
 一 剝奪公權者  
 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ赦免又ハ滿期後三箇年ヲ經サル者  
 一 度量衡法第十四條ノ處分ヲ受ケ爾後三箇年ヲ經サル者  
 一 家資分産又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定ニ至ル迄ノ者

●度量衡法施行細則(抜抄)(明治三十六年十二月四日) 農商務省令第十號  
 第三條 免許  
 第五十四條 度量衡器ノ製作者、修覆者又ハ販賣者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク之ヲ農商務大臣ニ届出テ免許狀ヲ返納スヘシ營業免許ノ消滅シタルトキ亦同シ  
 第五十五條 度量衡器ノ製作者、修覆者又ハ販賣者ノ相續人ハ度量衡法施行令第十四條ノ規定ニ抵觸セサル場合ニ限リ被相續人ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ三十日以内ニ免許狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ(一項)  
 第五十六條 度量衡器ノ製作者又ハ修覆者ハ其ノ工場以外ニ於テ製作又ハ修覆ヲナスコトヲ得ヌ但シ運搬シ難キ度量衡器ノ修覆ニアリテハ此ノ限ニ在ラス  
 度量衡器ノ製作者又ハ販賣者ハ其ノ營業所以外ニ於テ販賣ヲナスコトヲ得ヌ  
 第一項但書ノ場合ニ於テハ豫メ度量衡器所在地ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

煙草小賣人前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ指定ハ當然其ノ効力ヲ失フモノトス但シ二箇所以上ノ營業所ヲ有スル煙草小賣人ニシテ其ノ内一箇所又ハ數箇所ノ營業所ニ付前項ノ規定ニ違反シタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人其ノ營業所ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ廢止ノ日ヨリ三十日以前ニ其ノ旨ヲ專賣局長官ニ申告スヘシ  
 第十五條 煙草元賣捌人他ノ營業ヲ兼ヌルトキハ其ノ營業所ト他ノ營業所トノ間ニ相當ノ區別ヲ設クヘシ  
 第十九條 煙草元賣捌人ハ第四號及第五號書式ノ帳簿ヲ調製シ翌月五日マテニ第六號書式ノ製造煙草受拂月計表ヲ專賣局長官ノ指定シタル專賣局販賣所、專賣局製造所、專賣局製造所分工場又ハ專賣局販賣所藏置所ニ差出スヘシ  
 第二十三條 煙草小賣人ハ帳簿ヲ調製シ製造煙草ヲ買受ケタルトキハ其ノ買受先、買受年月日並其ノ種類、名稱、數量、代金ヲ記載スヘシ(書式略)  
 ●度量衡法(抜抄)(明治二十四年三月二十四日) 法律 第三三號  
 改正(三十二年第三號) 改正(三十四年第四號)

第八條 度量衡器ヲ製作シ修覆シ若ハ販賣セムト欲スル者ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ願出免許ヲ受クヘシ  
 附則  
 第十九條 明治三十年勅令第十六號ニ依ル度量衡器ノ檢定及製作、修覆又ハ販賣ノ免許ハ本令施行後仍其ノ効力ヲ有ス  
 ●度量衡法施行細則(抜抄)(明治三十六年十二月四日) 農商務省令第十號  
 改正(三十四年第四號)

●度量衡法施行令(抜抄)(明治三十六年九月二十二日) 勅令第三百四十四號  
 第十二條 度量衡器ヲ製作シ、修覆シ又ハ販賣セムトスル者ハ度量器、量器又ハ衡器ニ付各別ニ營業所一箇所毎ニ免許ヲ受クヘシ  
 第十三條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許年限ハ十五箇年トス  
 第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ度量衡器ノ製作者、修覆者又ハ販賣者タルコトヲ得ヌ  
 一 剝奪公權者  
 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ赦免又ハ滿期後三箇年ヲ經サル者  
 一 度量衡法第十四條ノ處分ヲ受ケ爾後三箇年ヲ經サル者  
 一 家資分産又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定ニ至ル迄ノ者



◎度量衡器取締規則(抜抄)(明治三十七年二月一日) (兵庫縣令第三號)

改正(四一年第) (六一號)

第二章 營業者ニ關スル規定

第十三條 度量衡器ノ製作者、修覆者又ハ販賣者自ラ其ノ業務ニ從事セサルトキ又ハ營業所ニ不在ノトキハ代理人ヲ定メ置クヘシ

第十四條 度量衡器ノ製作者、修覆者又ハ販賣者ハ様式第二號ニ依リ其ノ營業ニ該當スル帳簿ヲ備ヘ營業ノ事項ヲ明確ニ記載シ毎月末及毎年度(前年四月ヨリ其一年末ニ於テ其ノ月及其ノ年度内ニ於ケル記載ノ個數、價格、修覆料ヲ各別ニ合計シテ記入スヘシ

第十五條 度量衡器ノ製作者、修覆者又ハ販賣者ハ様式第三號ニ依リ前年度ノ營業報告書ヲ作り毎年四月十五日限リ知事ニ差出スヘシ其ノ營業ヲ廢止シタルトキ又ハ營業免許ノ消滅シタルトキハ直ニ之ヲ差出スヘシ

第十六條 度量衡法施行細則第五十六條第三項ニ依リ修覆ノ許可ヲ受ケントスル場合ハ運搬シ難キ事由及修覆セントスル度量衡器ノ種類、個數、修覆ノ場所並ニ修覆成工期限ヲ記シタル願書ヲ知事ニ差出スヘシ(一項)

第十七條 衡器ノ製作者、修覆者又ハ販賣者其ノ工場若クハ營業所以外ニ於テ桿秤ノ取締及錘秤ニシテ金屬ニアラサルモノ、修覆ヲナサントスルトキハ其ノ

スル物料ヲ謂フ

第二條 肥料ノ製造、輸入、移入又ハ賣買ヲ營業ト爲サムトスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ

肥料ノ調合又ハ製造業ニ伴フ肥料ト爲ルヘキ副産物ノ產出ハ之ヲ肥料ノ製造ト看做ス

前項ノ製造業及副産物ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 前條第一項ノ免許願書ニハ製造者ニ在リテハ製造場ノ位置、製造及藏置ニ關スル設備、肥料ノ名稱及製造方法ヲ、輸入者、移入者又ハ賣買者ニ在リテハ肥料ノ名稱及營業所ノ位置ヲ記載スヘシ

前項ニ依リ願書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認リヲ受クヘシ

第六條 肥料營業ノ免許ヲ受ケタル者正當ノ理由ナクシテ其ノ免許ノ日ヨリ一年以内ニ開業セス又ハ一年以上其ノ營業ヲ休止シタルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第七條 肥料營業者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ公益上必要ト認ムルトキハ地方長官ハ免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ營業者ニ對シ三年ヲ超過セサル期間肥料營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ禁スルコトヲ得

第八條 植物ノ營養ニ供用スル物料ニシテ地方長官ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ得テ指定シタルモノハ之ヲ他

事由及修覆所ノ位置、修覆職工ノ氏名並ニ修覆料ヲ記シタル願書ヲ知事ニ差出シ其ノ許可ヲ受クヘシ(様式略)

◎澆入紙製造取締規則(抜抄)

(明治二十年七月二十五日) (勅令第三十六號)

第一條 文字書紋ヲ澆入レタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄廳(東京府)ニ届出ヘシ違フ者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

◎澆入紙製造届書雛形

(明治二十年八月十六日) (大藏省令第十二號)

文字書紋ヲ澆入レタル紙ヲ製造スル者ハ一種毎ニ現品二葉ヲ添ヘ左ノ雛形ニ據リ届書ニ通リ管轄廳(東京府)ニ差出スヘシ管轄廳又ハ警視廳ハ一通ヲ留メ置キ一通ヲ當省ニ遞送スルモノトス(雛形略)

◎澆入紙製造取締規則ニ依ル書類提出方

(明治二十年九月三十日) (兵庫縣令第二百六號)

今般勅令第三十六號及大藏省令第十二號ヲ以テ文字書紋澆入紙製造取締規則發布ニ付當廳ニ差出スヘキ届書ハ製造場所管轄警察署ヲ經由スヘシ

◎肥料取締法(抜抄)

(明治四十一年四月十三日) (法律第五十一號)

第一條 本法ニ於テ肥料ト稱スルハ植物ノ營養ニ供用

ノ用途ニ供スル爲製造、輸入、移入又ハ賣買スル場合ニ限リ本法ヲ適用セス

◎肥料取締法施行規則(抜抄)

(明治四十一年八月十三日) (農商務省令第十七號)

第一條 肥料製造營業ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ免許願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ所轄地方長官ニ差出スヘシ

一 營業者ノ氏名又ハ名稱及住所

二 營業所ノ位置

三 藏置所ノ位置

第四條 第十三條第一項第一號又ハ第四號ニ該當スル肥料ニ在リテハ其ノ製造ニ關スル技術主住者ノ氏名、住所及履歴

第三條 肥料ノ輸入、移入又ハ賣買ノ營業ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ免許願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ所轄地方長官ニ差出スヘシ

一 營業者ノ氏名又ハ名稱及住所

二 藏置所ノ位置

三 製造者ノ氏名若ハ名稱及其ノ主タル製造場所在地又ハ肥料生産地

四 肥料ノ輸入又ハ移入ノ營業者ニ在リテハ輸入港又ハ移入港

五 保證票ヲ添附スヘキ肥料ニ在リテハ其ノ保證成分量



第五條 肥料營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ行商ヲ爲  
サムトスルトキハ行商地ノ地方長官ニ願出テ行商鑑  
札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ雇人其ノ他ノ從業者ヲシテ  
行商ヲ爲サシムル場合ニ於テハ各之ヲ携帶セシムヘ  
シ

行商鑑札ヲ受ケタルモノニシテ營業所所在ノ市町村  
及之ニ準スヘキ者以外ノ地ニ於テ行商ヲ爲シ若ハ雇  
人其ノ他ノ從業者ヲシテ行商ヲ爲サシムトスルト  
キハ三日以前ニ肥料ノ名稱、行商地域及行商日程ヲ  
行商地ノ地方長官ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタル  
トキハ直ニ其ノ旨届出ツヘシ

第七條 行商者ヲ變更シタルトキ又ハ肥料營業者若ハ  
行商者ノ氏名、名稱若ハ住所ニ變更アリタルトキハ  
肥料營業者ハ二週間内ニ行商地ノ地方長官ニ鑑札ノ  
書換ヲ出願シ行商ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク鑑札  
ヲ返納スヘシ

肥料營業者死亡シタルトキハ其ノ相續人、行商者死  
亡シタルトキハ其ノ肥料營業者前項ニ準シ遲滞ナク  
行商鑑札ヲ返納スヘシ

第八條 肥料ノ製造營業者第一條第二號ニ掲ケタル事  
項ヲ變更シ又ハ肥料ノ輸入、移入若ハ賣買ノ營業者  
第三條第五號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ  
ハ所轄地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 第一條第三號ニ掲ケタル事項若ハ同條第四號  
ノ技術主任者又ハ第三條第二號乃至第四號ニ掲ケタ

前二項ノ帳簿ハ之ニ最終ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ二  
年以上之ヲ保存スヘシ

第二十一條 肥料營業者ハ各營業所ニ於テ前年中ニ販  
賣シタル肥料ノ名稱別ノ數量及價額ヲ肥料營業者ニ  
販賣シタルモノト肥料營業者以外ノ者ニ販賣シタル  
モノトニ別テ毎年二月末日迄ニ其ノ各營業所所在地  
ノ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ハ肥料ヲ製造、輸入若ハ移入シテ販賣ス  
ルモノニ在リテハ其ノ製造、輸入若ハ移入ニ係ルモ  
ノヲ區別シテ之ヲ爲スヘシ

●肥料取締法施行細則(抜抄)

(明治四十一年十月二十六日)  
(兵庫縣令第七十九號)

第一條 肥料營業者ハ各製造場、藏置所又ハ營業所ノ  
店頭若ハ門戸等見易キ所ニ別記様式ノ標札ヲ掲クヘ  
シ但シ特別ノ事情アルモノハ知事ノ認可ヲ得テ適宜  
ノ標札ヲ掲クルコトヲ得

標札記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ訂正ス

ル事項、肥料營業者若ハ第一條第四號ノ技術主任者  
ノ氏名、名稱若ハ住所ニ變更アリタルトキ又ハ肥料  
營業者其ノ營業ヲ廢止若ハ休止シタルトキハ肥料營  
業者ハ二週間内ニ各製造場、營業所、藏置所、輸入  
港及移入港所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

肥料營業者死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ前項ニ準  
シ其ノ旨届出ツヘシ

第十一條 肥料營業者ハ各製造場及營業所ニ其ノ營業  
ニ關スル願書其ノ添附書類、免許書及認可書、届書  
又ハ其ノ寫ヲ備、置クヘシ

第十二條 左記ノ副産物ハ肥料取締法第二條第二項ノ  
副産物トス  
一 大豆油粕、菜種油粕、棉實油粕、荏油粕、胡麻油  
粕、蓖麻子油粕、椰子油粕、落花生油粕、亞麻仁油粕  
二 魚族荒粕  
三 硫酸アンモニア

前項ノ副産物ヲ產出スル製造業ハ肥料取締法第二條  
第二項ノ製造業トス

第二十條 肥料營業者ハ各營業所ニ帳簿ヲ備ヘ肥料ノ  
製造、輸入、移入、讓受若ハ讓渡ヲ爲ス毎ニ其ノ名  
稱、數量、價格、年月日及相手方ノ氏名又ハ名稱及  
住所ヲ記載スヘシ

營業所、製造場其ノ位置ヲ異ニスル場合ニ於テハ肥  
料營業者ハ前項ノ外其ノ製造場ニ帳簿ヲ備ヘ肥料ヲ  
製造スル毎ニ其ノ名稱、數量及年月日ヲ記載スヘシ

第二條 二ヶ所以上ノ營業所又ハ製造場ヲ設ケタルト  
キハ各營業所又ハ製造場ノ管理人ヲ定メ五日以内ニ  
其住所氏名ヲ記載シ管理人連署ノ上届出ツヘシ其ノ  
届出テタル事項ニ變更アリタル場合亦同シ

縣外ノ營業者ニシテ本縣管内ニ營業所又ハ製造場ヲ  
設ケタル場合モ亦前項ノ例ニ依ル

第三條 肥料營業ヲ休止シタルモノ其ノ營業ヲ開始シ  
タルトキハ直ニ其ノ旨届出ツヘシ

第四條 肥料行商者ハ行商ノ際手帳ヲ携帶シ行商セシ  
トスル肥料ノ名稱并ニ數量ヲ記載シ之ヲ讓渡ス毎ニ  
其ノ名稱、數量、價格、年月日及相手方ノ住所氏名  
ヲ記入スヘシ

第五條 免許證又ハ行商鑑札ヲ亡失、毀損シタルトキ  
ハ其事由ヲ具シ書換又ハ再下附ヲ申請スヘシ

第七條 肥料取締法施行規則第五條第二項ノ行商ニ關  
スル届書及同第十九條ノ陸揚ニ關スル届書ハ直接縣  
廳ニ差出スヘシ

第八條 左ニ掲クルモノハ別記様式ニ據ルヘシ  
一 肥料製造營業免許願  
一 同上添附書  
一 肥料輸入(移入、賣買)營業免許願  
一 同上添附書  
一 肥料ノ名稱變更、營業所位置(其他何々)認可申  
請書



保證票

- 肥料製造簿
  - 肥料輸入、移入、讓受簿
  - 肥料讓渡簿
  - 肥料販賣高届
  - 肥料營業者臺帳
- 前項ノ帳簿ハ特ニ簿記式ニ依ルコトヲ得
- 第九條 郡市役所ハ肥料營業者臺帳ヲ備ヘ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度加除訂正スヘシ

兵庫縣指令何第何號免許  
肥料製造(輸入、移入、賣買)業

住所	氏名
----	----

横五寸以上  
縦二尺以上

●化製所取締規則(抜抄) (明治三十五年五月二十六日 兵庫縣令第四十號)

- 改正(三十七年第三〇號) 改正(三十七年第三〇號)
- 第一條 動物質ノ原料トシテ蠟、膠、脂肪、生皮、鞣皮、肥料等ノ製造所ヲ設置セントスルモノ又ハ獸類ノ骨格及其他動物性ノ零屑ヲ取扱ハントスルモノハ左記各號ヲ具シ所轄警察官署ヲ經由本廳ニ願出許可ヲ受クヘシ第三號第四號第七號第十號及構造ヲ變更セントスルトキ亦同シ
- 一 住所氏名但法人ニ係ルモノハ其管理人ノ住所氏名

- スコトアルヘシ
- 一 免許ノ後正當ノ理由ナク二ヶ月以内ニ建設ニ着手セス又ハ落成期限ヲ經過シ落成セザルトキ
- 二 正當ノ理由ナク六箇月以上休業シタルトキ
- 第十三條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ化製所ノ使用ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ
- 一 第八條ノ命令ニ從ハサルトキ
- 二 本則ヲ遵守セスト認ムルトキ
- 三 當該吏員ノ臨檢ヲ拒ミタルトキ

形 雜

何々化製所	住所	氏名
-------	----	----

尺一市

●烟花取締規則(抜抄) (明治二十一年六月九日 兵庫縣令第八十四號)

- 改正(三十七年第五〇號) 改正(三十七年第一三〇號)
- 第一條 烟火製造ノ營業免許ヲ得ントスルモノハ其願出ニ左ノ各項ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ當廳ヘ差出スヘシ但本則第九條ニヨリ烟火貯藏願又ハ火藥庫建設願ヲ本願書ニ添テ差出ハ妨ケナシ
- 一 製造場及火藥類置場位置ヲ示シタル略圖
- 一 製造場又ハ火藥類ノ置場ト人家若クハ火ヲ取扱フ場所トノ距離但距離ハ十間以上タルヘシ
- 一 烟火ノ種類

- 二 法定代理人又ハ保佐人アルモノハ其連署
- 三 製品ノ種類及其製造方法
- 四 化製所ノ位置
- 五 敷地建物坪數及建物全部平面圖並構造仕樣書
- 六 建物ト隣地境界トノ最近距離
- 七 給水ノ方法
- 八 敷地ノ周圍百二十間以内ノ見取圖
- 九 人家及飲用水ヘノ距離
- 十 工事落成期日
- 第七條 建物ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出檢査ヲ受ケタル後ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス
- 第八條 衛生上必要ト認ムルトキハ修繕改築増築又ハ移轉ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十條 化製所ノ門戸ニハ雜形ノ標札ヲ掲クヘシ
- 第十一條 左記第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ營業人又ハ管理人、第四號ノ場合ニ於テハ戶主、相續人又ハ其家族ヨリ二十日以内ニ、復業セントスルトキハ五日前所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 一 住所氏名又ハ社名ニ異動ヲ生シタルトキ
- 二 法定代理人保佐人又ハ管理人ニ異動ヲ生シタルトキ
- 三 休業又ハ廢業シタルトキ
- 四 死亡シタルトキ
- 第十二條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ免許ヲ取消

- 第二條 烟火販賣ノ免許ヲ得ントスルモノハ願書ニ其種類ヲ記載シ貯藏場ノ略圖ヲ添ヘ所轄警察官署ヘ差出スヘシ但小兒ノ玩弄ニ止マル線香火花鼠火花ノ類ハ此限ニアラス
- 第三條 烟火製造者ニシテ他ヨリ製造品ヲ買入販賣セントスルトキハ第二條ニ依リ免許ヲ受クヘシ
- 第五條 轉住改氏名若クハ廢業シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヘ届出ヘシ
- 第六條 烟火製造場及販賣所ノ見易キ場所ニ左ノ看板ヲ掲クヘシ

寸七橫

免烟火製造營業	住所	氏名
許烟火販賣營業		

堅二尺八寸

- 第十三條 烟火製造人及販賣人ハ左ノ事項ヲ詳記シ翌月五日限リ所轄警察官署ヘ届出ヘシ
- 一 火藥類ヲ買入レタルトキハ其年月日斤量及火藥類營業者ノ住所氏名
- 一 製造シタル烟火ノ種類及其員數
- 一 賣渡シタル烟火ノ種類及買受ケ人ノ住所氏名
- 一 月末日烟火及火藥類ノ現在高

- 黃燐摺附木製造取締規則(抜抄)
- (明治三十三年八月三十日) 改正(三十七年第一五號) (兵庫縣令第六十二號) 改正(四〇年第二八號)
- 第一條 黃燐ヲ用キテ摺附木ヲ製造セントスル者ハ製



造所ノ圖面ヲ添へ所轄警察官署ヲ經テ本廳へ願出ツ  
 第八條 製造所ヲ増築又ハ改造セントスルトキハ圖面  
 ヲ添へ所轄警察官署ヲ經テ本廳へ願出ツヘシ  
 第九條 製造所ヲ賣買讓與スルトキハ双方連署所轄警  
 察官署ヲ經テ本廳へ願出ツヘシ  
 第十條 廢業スルトキハ所轄警察官署ヲ經テ本廳へ届  
 出ツヘシ

●銃砲火藥類取締法(抜抄)(明治三十二年八月四日)  
 (法律第百六號)

第一條 本法ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用銃砲及非軍用  
 銃砲ヲ謂ヒ火藥類ト稱スルハ火藥、雷管、導火線其  
 ノ他爆發質物品ヲ謂フ  
 第五條 銃砲製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ廳府縣長  
 官ノ許可ヲ受クヘシ  
 銃砲ノ修繕ヲ營業トスル者ハ銃砲製造營業者ト看做  
 ス  
 第六條 銃砲商及火藥商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ廳  
 府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ  
 第七條 火藥商及銃砲商ノ廳府縣ニ於ケル定員ハ内務  
 大臣之ヲ定ム  
 第八條 第五條及第六條ノ營業許可ヲ受ケタル者其ノ  
 許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ開業セス又ハ開業後一箇  
 年間休業シタルトキハ廳府縣長官ハ其ノ許可ヲ取消  
 スコトヲ得

●銃砲火藥類取締法施行細則(抜抄)

(明治三十二年八月四日)  
 (内務省令第四十三號)

第十五條 銃砲製造營業者銃砲商及火藥商ハ其ノ取引  
 シタル銃砲及火藥類ノ種類數量取引ノ年月日及讓渡  
 人並注文人讓受人ノ住所氏名其ノ他必要ノ事項ヲ帳  
 簿ニ記載スヘシ  
 狩獵免許若ハ火藥類ヲ要スル工業ノ許可又ハ銃砲火  
 藥類取締法施行規則第八條ノ許可ヲ受ケタル者ニ火  
 藥類ヲ讓渡シタルトキハ前項ニ掲ケタル事項ノ外讓  
 受人ノ使用ノ目的ヲ記載スヘシ  
 第十六條 銃砲製造營業者銃砲商及火藥商ハ一箇月間  
 取引シタル銃砲及火藥類ノ種類數量並各種類月末ノ  
 現在高ヲ翌月十日迄ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ(一項)  
 ●銃砲商火藥商定員(抜抄)(明治三十二年八月五日)  
 (内務省告示第九十一號)  
 銃砲商火藥商定員左ノ通之ヲ定ム  
 銃砲商定員 兵庫縣三十人  
 甲種火藥商定員 兵庫縣二十三人  
 乙種火藥商定員 兵庫縣二十五人  
 ●銃砲火藥類取締法施行方(抜抄)  
 (明治三十二年八月二十一日)  
 (兵庫縣令第四十四號) (改正(三十七年  
 第一七號))  
 銃砲火藥類取締法施行ノ件左ノ通り相定ム  
 第一條 銃砲火藥類取締法同施行規則ニ依リ當廳ヲ經  
 由シ若クハ當廳ニ差出スヘキ願届ハ凡テ所轄警察官

第九條 銃砲製造營業者銃砲商又ハ火藥商カ法律命令  
 ニ違背シ又ハ銃砲、火藥類ヲ危險ノ用ニ供スルノ虞  
 アルトキハ廳府縣長官ハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ營  
 業ヲ停止スルコトヲ得  
 第十一條 銃砲、火藥類ハ行商シ又ハ露店市場其ノ他  
 屋外ニ於テ販賣スルコトヲ得ス

●銃砲火藥類取締法施行規則(抜抄)

(明治三十二年八月四日)  
 (勅令第三百六十六號)

第二條 銃砲火藥類取締法第六條ニ依リ火藥商ニ與フ  
 ル許可ヲ分チテ甲乙ノ二種トス  
 甲種ノ許可ヲ受ケタル火藥商ハ火藥類ニ關スル各種  
 ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得  
 乙種ノ許可ヲ受ケタル火藥商ハ火藥類ヲ輸入シ之ヲ  
 官廳又ハ火藥商ニ賣渡スノ外火藥類ニ關スル他ノ商  
 行爲ヲ爲スコトヲ得ス  
 本令施行前火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ甲種ノ許可  
 ヲ受ケタル者ト看做ス但シ輸入及卸賣ノ營業ニ限リ  
 許可ヲ受ケタル者ハ乙種ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス  
 第十五條 火藥庫又ハ假貯藏所ハ其ノ位置並建設ノ方  
 法ヲ具シ且假貯藏所ニ在テハ貯藏スヘキ火藥類ノ種  
 類數量ヲ記シ廳府縣長官ニ差出シ其ノ許可ヲ受ケル  
 ニ非サレハ建設スルコトヲ得ス  
 火藥庫又ハ假貯藏所ノ建築修繕又ハ模様替ノ工事ヲ  
 竣リタルトキハ警察官ノ検査ヲ受クヘシ

署ヲ經由スヘシ

●諸製造所及貯藏場等建設取締方(明治三十二年五  
 月四日兵庫縣令

第九十) 改正(二三年第四號、二五年第一三二號、  
 五號) 二九年第二九號、三五年第四〇號、  
 三六年第一六號第二四號)  
 第四三號、三七年第一四號)

自今左ニ列記スル諸製造所及貯藏場等ヲ設ケントスル  
 モノハ其建物及地所ノ圖面ヲ添へ第一類ハ所轄警察官  
 署ヲ經由當廳へ第二類ハ所轄警察官署へ願出(第二類中第  
 五項ハ人家稠密ノ町村又ハ第六項ハ神戸市ノ外出願ヲ要セス  
 項ハ神戸市ノ外出願ヲ要セス) 許可ヲ受クヘシ其改造模様替  
 スルトキ亦同シ  
 但其他ノ製造所貯藏場ニシテ警察上必要アリト認め  
 ルトキハ本則ニ據ラシムルコトアルヘシ  
 前項ニヨリ許可シタル製造所若クハ貯藏場ニシテ危害  
 豫防又ハ衛生上必要ト認めルトキハ改築増築修繕移轉  
 又ハ作業ノ禁止若クハ停止ヲ命スルコトアルヘシ  
 一 瓦斯製造所及貯藏場  
 二 石油再製所  
 三 焦煤製造所及貯藏場  
 四 燐寸製造所  
 五 テレピン油製造所及貯藏場  
 六 諸タール製造所  
 七 鹽酸硝石硫酸其他揮發劇烈ノ舍密物等製造所及  
 貯藏場  
 八 製鐵所  
 九 製鋼所



以上第一類トス

- 一 硝子製造所
- 二 諸鑄造所
- 三 煉化瓦類陶造所
- 四 陶器製造所
- 五 石灰及礪穀灰製造所
- 六 鍛冶工場
- 七 (削除)
- 八 (削除)
- 九 石輪製造所
- 十 (削除)
- 十一 (削除)
- 十二 (削除)
- 十三 製紙所
- 十四 假漆製造所

●料理屋飲食店席貸待合茶屋及芝居茶屋營業取締規則(抜抄)  
(明治三十二年七月十九日 兵庫縣令第三十三號)  
改正(三十五年第七號)  
(三十七年第四九號)

第一條 料理屋飲食店席貸待合茶屋及芝居茶屋ノ營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ第三號ノ事項ヲ變更シ又ハ支店ヲ設ケントスルトキ亦同シ

一 族籍住所氏名年齢及屋號アルモノハ其屋號但法

内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

- 一 族籍住所氏名又ハ社名屋號ニ異動ヲ生シタル時
  - 二 休業又ハ廢業シタル時
  - 三 法定代理人又ハ保佐人管理人ニ異動ヲ生シタル時
- 第十四條 料理屋飲食店ニシテ客席ノ設ケナキモノハ本則ヲ適用セス

●料理屋飲食店席貸待合茶屋芝居茶屋營業取締規則執行心得(抜抄)  
(明治三十二年七月二十四日 兵庫縣廳達第一一〇號)

警察部 警察署 同分署

第五條 規則第十四條ノ客席トハ家屋内ニ於テ客ノ飲食シ得ヘキ場所ヲ指稱シタルモノニ付椅子腰掛ノミヲ備フルモノト雖モ店舗内ナルトキハ客席ト認ムルモノナリトス

第六條 規則中飲食店ト稱スルハ定住營業者ヲ指稱セルモノニ付行商露店床店等ハ規則ノ範圍外ニ措クヘキモノトス

●藥湯營業出願方(抜抄)  
(明治十年五月三十一日 兵庫縣令第八十五號)

藥湯營業之儀は從來縣限り差許來り候處本年太政官第七號を以て賣藥規則公布相成候上は總て該規則に照準營業可致等に付別紙書式雛形に照し藥湯名及び藥味分量水量溫度主治功能等詳悉記載可願出尤從來營業者へ

人ニ係ル者ハ管理人ノ族籍住所氏名年齢及其社名

- 二 法定代理人又ハ保佐人アル者ハ其連署
  - 三 營業ノ種類及營業ノ場所
- 第二條 營業者自ラ其營業ヲ管理セサル時又ハ事故ノ爲メ管理スル能ハサルニ至リタル時ハ管理人ヲ定メ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 第三條 安寧秩序ニ害アリト認ムル場所及左記各號ノ
- 一 該當スル者ハ營業ノ免許ヲ與ヘス
  - 二 後見人ナキ未成年者癡癪者白痴者
  - 三 保佐人ナキ准禁治産者
  - 三 財産ニ對スル罪ヲ犯シテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ猥褻姦淫ニ關スル罪ヲ犯シタル者ニシテ改悛ノ情ナシト認ムル者
- (四號、五號略)
- 第四條 營業者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ免許ヲ取消シ又ハ其營業ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ
- 一 前條第一號乃至第三號ニ該當スル者
  - 二 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アリト認ムル者
  - 三 他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認ムル者
  - 四 本則ヲ遵守セス來客ニ對シ不正ノ所業アリト認ムル者
- 第六條 解散失踪又ハ死亡シタルトキハ戶主家族又ハ後見人管理人ハ十日以内ニ其旨ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第七條 左ノ場合ニ於テハ事實ノ生シタル日ヨリ五日

相渡し置候縣許鑑札及び届指命令書等は總て廢棄に屬し候條引續營業致度者は來る六月二十日限り更に可願出此旨布達候事

但し湯屋取締に關する條々は總て洗湯同様可相心得事

藥湯營業者免許書版雛形

許免 藥湯營業

分五寸七幅

●鑛泉營業取締規則(抜抄)

(明治二十一年十二月二十二日 改正(四〇年第一) 兵庫縣令第三百三十四號)

- 第一條 鑛泉營業者ハ健康ヲ保護スル爲メ設ケタル此規則ヲ遵守スヘシ
- 第二條 鑛泉營業ヲ別テ左ノ二種トス
- 一 鑛泉浴場 鑛泉水ヲ取リテ他ニ運搬シテ浴場ヲ設ケルモノモ包含スラ設ケテ他人ノ浴用ニ供スルモノ
  - 一 鑛泉飲用場ヲ設ケテ他人ノ飲用ニ供スルモノ
  - 一 鑛泉ヲ汲取リ飲用トシテ販賣スルモノ
- 第三條 鑛泉營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各項ヲ詳記シ場所並ニ構造ノ細圖ヲ添ヘ本廳へ願出許可ヲ受クヘシ
- 一 鑛泉名
  - 一 鑛泉所在地名字及近傍ノ地況



- 一 他ニ運搬シテ浴場ヲ設クルモノハ其地名番地
  - 一 鑛泉試驗成績附試驗人ノ氏名
  - 一 醫治効用附取調人氏名
  - 一 入浴若クハ飲用心得
  - 一 浴場若クハ飲用場構造方法
  - 一 他ニ運搬シテ浴場ヲ設クルモノハ鑛泉ノ分量
  - 第四條 鑛泉浴場若クハ飲用場ノ構造ヲ變更セントスルトキハ其構造方法ヲ詳記シ圖面變更ニ係ル箇ヲ添ヘ本廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ
  - 第十一條 一町村一部落又ハ數人共同營業ニ係ルトキハ取締上一切ノ責ニ任スル爲メ互選ヲ以テ管理人ヲ定メ其氏名ハ所轄警察署ヘ届出ヘシ
  - 第十二條 鑛泉營業者廢業轉居又ハ改氏名ヲ爲シタルトキ若クハ浴場又ハ飲用場ヲ賣買讓與シタルトキハ本廳ヘ届出ヘシ
- 湯屋營業取締規則(抜抄)(明治三十三年二月十五日(兵庫縣令第九號)改正(三十八年第一八號))
- 第一條 本則ニ於テ湯屋營業ト稱スルハ白湯、藥湯、鑛泉湯、鹽湯及蒸湯ノ別ヲ問ハス浴湯ヲ設ケ營業スルモノヲ謂フ
  - 第二條 湯屋營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ
    - 一 族籍、住所、氏名、年齢並ニ屋號アルモノハ其

- 屋號但法人ニ係ル者ハ管理人ノ族籍、住所、氏名、年齢及其社名
- 二 法定代理人又ハ保佐人アル者ハ其連署
- 三 浴湯ノ種類但鑛泉湯及湯花等ヲ用ユルモノハ其證明書並ニ醫治ノ効能入浴ノ心得藥湯ハ藥劑免許證寫
- 四 營業場ノ地名、番地、坪數及四隣ノ摸樣ヲ記シタル圖面
- 五 脫衣場、洗場、浴槽、火焚場、燃料貯積所、汚水排出線路及水汲取場ノ位置ヲ示シタル圖面並ニ用材ノ種類ヲ記シタル構造書
- 六 正面並ニ平面圖
- 七 烟突ノ高サ用材ノ種類及其構造書
- 八 燃料ノ種類
- 九 工事落成期限
- 十 最近同業者ヘノ距離
- 第三條 營業者自ラ其營業ヲ管理セサルトキ又ハ事故ノ爲メ管理スル能ハサルニ至リタルトキハ管理人ヲ定メ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 第四條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ營業ノ免許ヲ與ヘス
  - (一號略)
  - 二 後見人ナキ未成年者癡癲者白痴者
  - 三 保佐人ナキ準禁治產者

- 第五條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ營業ノ免許ヲ取消シ又ハ停止ヲ命スルコトアルヘシ
  - 一 免許ノ日ヨリ三十日內ニ營業家屋ノ建設ニ着手セス又ハ落成期限ヲ經過シ尙落成セサルトキ
  - 二 天災其他ノ不可抗力ニヨリ營業家屋ヲ亡失シ六ケ月內ニ再築セサルトキ
  - 三 六十日以上休業シタルトキ
  - 四 前條第二號第三號ニ該當スルニ至リタルトキ
  - 五 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ所業アリト認メタルトキ
  - 六 本則ニ違背シ且ツ本則ヲ遵守スル能ハスト認メタルトキ
- 第八條 營業用ノ家屋ヲ改築變更セントスルトキハ第二條第四號乃至第七號及第九號ノ事項ヲ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ(一項)
- 第九條 營業用ノ家屋ニシテ危險又ハ衛生上必要ト認ムルトキハ改造又ハ修理ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十條 營業用家屋ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受クニアラサレハ營業ヲ開始スルヲ得ス
- 第十一條 左記第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ營業主ヨリ第四號ノ場合ニ於テハ相續人又ハ管理人ヨリ事實ノ生シタル日ヨリ五日內ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ但營業主又ハ相續人ニシテ法定代理人若クハ保佐人アル者ハ其連署ヲ要ス

- 一 族籍住所氏名又ハ社名屋號ニ異動ヲ生シタルトキ
- 二 休業又ハ廢業シタルトキ
- 三 法定代理人又ハ保佐人管理人ニ異動ヲ生シタルトキ
- 四 失踪又ハ死亡シタルトキ
- 第十二條 湯屋營業ニ供用セル家屋ヲ買受讓受若クハ借受營業ヲ爲サントスル者ハ第二條第一號第二號第三號及第八號ノ事項ヲ具シ當事者連署ノ上所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 相續ニ依リ營業ヲ承繼セムトスル者ハ相續確定ノ日ヨリ十日以内ニ第二條第一號第二號ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 第十四條 營業時間ハ午前四時ヨリ午後十二時ヲ限リトス但年甫年未等ノ慣行ニヨル場合ハ此限リニアラス
- 天候ノ爲メ危險ノ虞アリト認ムルトキハ焚火ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十七條 湯錢ハ場内見易キ所ニ揭示スヘシ
- 理髮營業取締規則(抜抄)(明治三十四年四月二十日(兵庫縣令第四十號))
- 第一條 理髮業ヲ爲サントスルモノハ本籍住所氏名年齢ヲ詳記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ其理髮所ヲ設クルモノハ其位置ヲ明記スヘシ



家族徒弟又ハ雇人ヲシテ業務ニ從事セシムルトキハ其本籍住所氏名年齢ヲ詳記シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ  
前二項届出ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ廢業シタルトキハ五日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

●藝妓稼業檢番及置屋取締規則(抜抄)

(明治四十年十二月十三日  
兵庫縣令第五十四號)

- 第一條 藝妓稼業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ戸籍謄本ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ但未成年者又ハ有夫ノ婦ニシテ本條ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ未成年者ニ在テハ父母又ハ後見人有夫ノ婦ニ在テハ夫ノ連署ヲ要ス
- 一 寓所但置屋ニ寄寓スル者ハ其置屋ノ住所氏名
- 二 藝名
- 三 従前ノ職業
- 四 檢番ニ依ル者ハ其所屬檢番名
- 第二條 藝妓ニシテ寓所ヲ移轉セントスルトキハ移轉所ヲ記シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ但他ノ警察官署所轄内ニ轉スル場合ハ前寓所々轄警察官署ヲ經由スヘシ
- 第四條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ但第四號ノ場合ニ於テハ家主又ハ家族ヨリ届出ヘシ

能ハスト認ムルトキハ其業ヲ停止シ又ハ其許可ヲ取消スコトアルヘシ

●魚鳥獸青物市場取締規則(明治二十二年一月八日  
兵庫縣令第一號)

第一條 規則第一條ノ願書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認メタルトキハ附録様式ニ依リ調製シタル許可證ヲ交付シ(以下略)

第 號
藝妓稼業許可證
警察(分)署印

分四寸一

本籍族籍
寓 所
藝 名
氏 名
生年月日
明治 年 月 日附與

- 一 本籍族稱氏名藝名ヲ變更シタルトキ
  - 二 所屬檢番ヲ變更シタルトキ
  - 三 廢業シタルトキ
  - 四 死亡又ハ所在不明トナリタルトキ
- 前項第三號第四號ノ場合ニ於テハ許可證ヲ返納スヘシ
- 第五條 藝妓ノ檢番ヲ設ケントスルモノハ左ノ書類及事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其營業所ヲ變更セントスルトキ亦同シ
  - 一 營業所
  - 二 檢番ノ名稱
  - 三 會社組織ニ在テハ其定款
  - 四 戸籍謄本但會社組織ニ在テハ業務擔當社員ノ戸籍謄本
  - 第六條 藝妓置屋ノ業ヲ爲サントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ戸籍謄本ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其場所ヲ變更セントスルトキ亦同シ
  - 一 場所
  - 二 屋號
  - 三 従前ノ職業
  - 第七條 置屋業者ハ藝妓ヲ抱ヘ又ハ其抱ヲ解キタルトキハ三日以内ニ藝妓ノ氏名及藝名ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ
  - 第十條 藝妓、檢番、置屋ニシテ本則ヲ遵守スルコト

●魚鳥獸青物市場取締規則(明治二十二年一月八日  
兵庫縣令第一號)

- 第一條 此規則ニ稱スル市場トハ場所ヲ定メ衆人集合シテ魚鳥獸及肉類並蔬菜菓實菌草等ノ青物類ヲ互市交換又ハ競賣スルモノヲ云フ
- 第二條 前條ノ市場ヲ分テ左ノ三種トス
- 第一種 常ニ一定ノ場所ニ於テ開設スルモノヲ定市場トス
- 第二種 豫テ場所及期日ヲ定メ一年間ニ一回若クハ數回若クハ數月間開設スルモノヲ定期市場トス
- 第三種 臨時ニ場所及期日ヲ定メ開設スルモノヲ臨時市場トス
- 第三條 第一種第二種ノ市場ヲ開設セントスルモノハ其市場ノ位置名稱種類及開設ノ要旨ヲ記載セシ願書ニ左ノ圖書ヲ添付シ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ但位置ヲ轉シ若クハ構造ヲ變更セントスルトキモ亦本條ニ據ル
- 第一 市場實測圖面(建物及敷地ノ坪數並四隣ノ景狀等ヲ具記スヘシ)
- 第二 市場近傍人民諾否ノ書面
- 第三 汚穢水排出溝渠ノ構造其他腐敗物掃除等ノ手續方法書
- 第四條 左ノ各項ニヨリ市場規程ヲ設ケ(前條開設願書同時ニ)縣廳ノ認可ヲ受クヘシ其更正加除スルトキモ亦同シ但規程中不都合ト認ル條件アルトキハ更正ヲ命スルコト



アルヘシ

- 第一 市場位置名稱及種類
- 第二 賣品ノ種類及取扱手續
- 第三 開市ノ定日及時限
- 第四 市場清潔方法
- 第五 前項ノ外物品受渡順序、口錢又ハ手数料ノ定額、賣上金ノ收入及荷主ヘ計算ノ手續、税金及費用ノ收支手續其他役員ヲ選舉スルトキハ其方法及權限等市場ノ種類組織ニヨリ必要ノ事項
- 第五條 第三種ノ市場ヲ開設セントスルモノハ其市場ノ位置名稱種類及開設ノ要旨ヲ記載セシ願書ニ左ノ圖書ヲ添付シ所轄郡(區)役所ノ許可ヲ受クヘシ但開市期日ヲ伸縮若クハ變更スルトキハ直ニ届出ヘシ
- 第一 市場見取圖面
- 第二 市場近傍人民諸否ノ書面
- 第三 賣品ノ種類及取扱手續、開市ノ期日及時限、市場清潔方法、口錢又ハ手数料ヲ收入スルモノハ其定額等ヲ列記セシ書面
- 第六條 二人以上共立ニ係ル第一種第二種ノ市場ハ一名ノ代表者ヲ定メ其住所姓名ヲ縣廳ヘ届出ヘシ
- 第七條 第一種第二種ノ市場ヲ賣買讓與シ或ハ其他ノ事故ニヨリ場主ノ變更ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ又廢場スルトキハ直ニ縣廳ヘ届出ヘシ

- 第八條 市場ノ開設移轉及構造變更ノ許可ヲ得タルトキ若クハ廢場閉場及期日ノ伸縮變更等ヲ爲シタルトキハ直ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ
- 第九條 市場ノ入口又ハ外圍ノ四隅ニ其種類名稱及場主ノ住所姓名ヲ記載セシ木製ノ標牌ヲ掲ケ又ハ標木ヲ建設スヘシ
- 第十條 市場ノ位置及土地ノ商況又ハ衛生上取締ノ都合ニヨリ新設ヲ許サス又ハ移轉合併或ハ廢停ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十一條 市場ノ構造ニ就キ衛生其他取締上必要トムルトキハ改築變更ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十二條 第一種第二種ノ市場ハ物品賣買交換ノ景況賣上金高及口錢手数料ノ收入額等毎半年分取纏メ前半年分ハ其年七月二十日後半年分ハ翌年一月二十日限縣廳ヘ報告スヘシ但第三種ノ市場ハ本文ニ準シ閉場後五日以内ニ所轄郡(區)役所ヘ報告スヘシ
- 第十三條 此規則第三條第四條第五條ニ違背シ若クハ第十條第十一條ノ命令ニ從ハサルモノハ(違警罪ヲ以テ論シ)一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料)ニ處ス
- 一 此規則ニ該當スル從前ノ市場ニシテ引續營業スルモノハ來ル四月三十日迄ニ出願許可ヲ受クヘシ
- 一 牛馬市場ハ別ニ定ムル所ノ牛馬市場取締規則ニ據ル

●米外五種市場取締規則(抜抄)

(明治二十七年六月二十日) 改正(二八年第) 兵庫縣令第五十四號

- 第一條 本規則ニ規定スル市場ハ米、雜穀、肥料、酒、鹽、油類ノ一種若クハ數種ノ現品ヲ一定ノ場所ニ於テ衆人集合シ賣買スル所ヲ云フ
- 市場ニ於テ賣買スル物品ハ其市場内ニ現在スルモノニ限ル
- 第二條 市場ヲ開設スルトキハ豫メ左ノ事項ヲ詳具シテ開設者ヨリ所轄警察署ヘ届出ヘシ
- 一 市場開設ノ趣旨及目的
- 二 資本金額其使用豫算並維持方法及收入金豫算書
- 三 會社組織ニアラスシテ開設主二人以上アルトキハ其組合營業ノ仕方
- 四 市場主ト賣買人トノ關係、賣買ノ方法、商品並代金受渡手續、手数料等ヲ明記セル市場規則其他營業細則
- 五 市場ノ開閉時刻
- 六 市場ニ備付ノ帳簿名目及用法
- 七 附屬仲買人若クハ仲次人等ヲ定ムルモノニ在テハ其族籍住所氏名
- 八 賣買スヘキ現品ヲ藏置スル倉庫ノ所在番號
- 第三條 前條ノ各項ニ變更ヲ生シタルトキハ其都度届出ツヘシ

●家畜市場取締規則(抜抄)

- 第四條 市場ニ在テハ賣買一口毎ニ其都度品柄數量價格及所在倉庫受渡ノ日時賣買人買人ノ氏名ヲ市場帳簿ニ記載シ置クヘシ
- 第五條 毎日ノ賣買高受渡高及殘高ハ賣買シタル翌日限リ所轄警察署ヘ届出ヘシ
- 第七條 市場ノ入口等人目ニ觸レ易キ位置ニ市場主又ハ重役員ノ氏名住所ヲ市場ノ名稱ト併セテ揭示スヘシ(二項)
- 第九條 五日以上營業ヲ休止スルカ又ハ廢業スルトキハ直ニ其旨ヲ所轄警察署ヘ届出ヘシ

(明治三十四年四月五日) 兵庫縣令第三十八號 改正(六五號)

- 第一條 本規則ニ於テ家畜市場ト稱スルハ牛馬羊豚ヲ集合シテ其賣買主ノ取引スル公場ヲ云フ
- 第二條 家畜市場ヲ分テテ定期市場及定期市場ノ二種トシテ定期市場ハ其市場規程ニ定ムル休日ヲ除ク外毎日開市スルモノトシ定期市場ハ期日ヲ定メテ開市スルモノトス
- 第三條 市場ヲ開設セントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署ヲ經由シテ本廳ヘ出願許可ヲ受クヘシ
- 一 定期市場定期市場ノ區別及其開市日
- 一 賣買家畜ノ種類
- 一 市場ノ位置及略圖



一 建物ノ構造仕様書及敷地圖面坪數

一 人家及飲用井川ノ距離

一 賣買ノ方法

一 工事落成ノ期日

一 市場ニ關スル規程

一 賣買及取引ノ方法

一 開市ノ時刻

一 休業ノ日

(四號略)

一 手数料ノ金額

(六號及七號略)

第八條 市場新設又ハ改造變更等工事落成シタルトキハ本廳ニ届出検査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第九條 賣買時間ハ日出ヨリ日没迄ノ間ニ限ルヘシ

第十二條 市場開設主ハ入市及賣買家畜ノ頭數金額等ヲ第一號書式ニ依リ定期市場ハ閉市後十日以内定市場ハ毎翌月五日迄ニ本廳へ届出ツヘシ

第十五條 獸畜傳染病發生其他知事ニ於テ必要ト認めタル場合ハ閉市ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條 市場ニハ帳簿ヲ供ヘ賣買セシ各家畜一頭毎ニ產地種類年齡性質價格賣買主ノ住所氏名ヲ記シ置

第四條 產牛馬組合ハ左ニ關スル事項ヲ規定シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一 開設ノ期日場所

一 賣買及取引ノ方法

一 賣買違約者處分方法

一 手数料

一 賣買家畜受授ノ方法

一 糶取方法

第五條 知事ハ衛生又ハ公益上必要ヲ認ムルトキハ糶場ノ位置設備其他糶場ニ關シ變更ヲ命スルコトアルヘシ

附則

第七條 本則ニ依ル糶場ハ總テ明治三十四年四月兵庫縣令第二十八號家畜市場取締規則ヲ適用セス

(第一號樣式略)

●劇場取締規則(抜抄)(明治十九年二月八日)

改正(二年縣令第一三九號、二三年第五七號、三七年第一〇號、四〇年第二八號)

第一條 劇場ヲ新設シ又ハ改造模様替セントスルモノハ左ノ各項ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ所轄警察官署經由當廳へ願出許可ヲ受クヘシ

一 族居住所氏名

二 場所

三 圖面並ニ仕法書

第二條 前條新設ト改造模様替トヲ問ハス工事落成シ

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

第十九條 市場開設ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ六ヶ月以内ニ第六條ノ設備ヲ爲サ、ルトキハ其許可ノ効ヲ失フモノトス

第二十條 市場ニシテ其構造破壞セルトキハ改築若クハ修繕ヲ命シ尙ホ一時其使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十一條 定市場ニシテ六ヶ月以上開市セザルトキハ許可ヲ取消コトアルヘシ

第二十二條 市場開設主改氏名轉居死亡ノ遺族ヨリ其ハ廢業休業シタルトキハ十日以内ニ所轄警察署ヲ經テ本廳ニ届出ツヘシ

(第一號書式略)

●糶取規則(抜抄)(明治四十年九月三十日)

兵庫縣令第四十八號

第一條 產牛馬組合ハ毎年期日ヲ定メ便宜ノ地ニ牛馬ノ糶場ヲ設クヘシ

第二條 產牛馬組合内ニ於テ生産シタル生後二十四ヶ月以内ノ牛馬ヲ賣却讓渡セントスル者ハ總テ前條ノ糶場ニ牽出シ競賣ニ附スヘシ但正當ノ事由ニ因リ產牛馬組合長ノ承認ヲ得タル者ハ此限リニアラス

第三條 產牛馬組合長ハ糶場閉鎖後十五日以内ニ第一號書式ニ依リ其ノ景況ヲ知事ニ報告スヘシ

タルトキハ速ニ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ

(二項)

第三條 劇場ハ左ノ數ヲ以テ定限トス

一 神戸市 六ヶ所

一 姫路市 三ヶ所

一 明石町 二ヶ所

第四條 免許ヲ得タル劇場ト雖モ滿三年間演劇ニ使用セザル者ハ免許ノ効ヲ失フモノトス

第五條 廢場又ハ賣買讓與シタルトキハ所轄警察官署ヲ經由其事由ヲ當廳へ届出ヘシ

第七條 臨時劇場ヲ假設セントスルモノハ現場ノ略圖ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ但本文ノ場合ニ於テハ第八條ノ書面ト併セ出願スルモ妨ケナシ

第八條 演劇ヲ興行セントスル時(藝團管ノ場)ハ左ノ各項ヲ記載シ仕組帳ニ藝人鑑札ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ但興行ヲ止メ又ハ一時休業若クハ日延等ヲナストキハ其旨届出ヘシ

一 場所

二 興行日數

三 木戸錢

四 場代

第十條 興行ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限ルヘシ但非常又ハ裂風等ノ節ハ臨時停業ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條 見料ヲ受スシテ演劇トナラズト爲ス場合ニ

三二三

三二三



於テモ總テ本則ヲ遵守スヘシ  
第十七條 劇場ヲ假用シテ他ノ興行ヲ爲ス時ハ各其取締規則ヲ遵守スヘシ  
第十九條 演劇ノ所作世安ニ妨害アリト認ムル時ハ警察官吏ニ於テ一時興行ヲ停止スルコトアルヘシ

●寄席取締規則(抜抄)(明治十九年二月八日)

改正(一〇年縣令第一五三號、二一年第一一〇號、二三一年第五八號、三七年第一一號、四〇年第二八號)

第一條 寄席ヲ新設シ又ハ改造模様替セントスルモノハ左ノ各項ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ  
一 族籍住所氏名  
二 場所  
三 圖面並ニ仕法書  
第二條 前條新設ト改造模様替トヲ問ハス工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出檢査ヲ受クヘシ(一項)  
第三條 廢席又ハ賣買讓渡シタルトキハ其旨所轄警察官署ニ届出ヘシ  
第五條 臨時小屋掛ヲ爲シ又ハ通常家屋ヲ假用シテ興行セントスルモノハ第一條ノ手續ニ從ヒ所轄警察署若クハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ但本文ノ場合ニ於テハ第七條ノ書面ト併セ同時ニ出願スルモ妨ケナシ  
第六條 寄席ノ演藝ハ講談昔噺祭文淨瑠璃手踊音曲影繪操人形輕口假猿狂言物真似身振等ノ類トス

第二十條 此規則ニ違背シタル者ハ(違警罪)ヲ以テ處分セラル、ノ外尙ホ情狀ニ依リ其營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

●興行場遊覽所取締規則(抜抄)(明治十九年二月二十五日)

改正(一〇年縣令第一五三號、二一年第一一〇號、二三一年第五九號、四〇年第二八號)

第一條 興行場並ニ遊覽所ヲ開設セントスルモノハ左ノ各項ヲ詳記シ並ニ藝人鑑札ヲ添ヘ所轄警察署若クハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ  
一 族籍住所氏名  
二 場所  
三 興行種類  
四 興行日數  
五 木戸錢  
六 場代  
七 入場人員  
第三條 見料ヲ受ケスシテ興行場又ハ遊覽所ヲ開設スル場合ニ於テモ總テ本則ヲ遵守スヘシ  
第四條 興行場ニ於テ爲スモノハ角力足藝輕業曲馬獨樂廻シ力持及ヒ其他ノ技藝又遊覽所ニ於テ爲スモノハ天産及ヒ人造ノ物品魚鳥獸又ハ奇品古書畫ノ類トス  
第七條 興行時間ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限ルヘシ  
第八條 第四條ノ藝人ニシテ社寺境内若クハ路傍ニ於テ營業スルモノハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ルハ勿論左ノ各項ヲ遵守スヘシ但萬歲猿廻シ居合抜眼目鏡

第七條 興行ヲ爲サントスルトキハ左ノ各項ヲ詳記シタル書面ニ藝人鑑札ヲ副ヘ所轄警察官署若クハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ但興行ヲ止メ又ハ一時休業若クハ日延等ヲナストキハ其旨届出ヘシ  
一 場所  
二 演藝ノ種目  
三 興行日數  
四 木戸錢  
五 場代  
第九條 見料ヲ受ケスシテ第六條ノ演藝(營業者ト否ヲ爲ス場合ニ於テモ總テ本則ヲ遵守スヘシ)  
第十四條 興行時間ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限ルヘシ  
第十五條 寄席興行ハ左ノ各項ヲ禁ス  
一 演劇ニ等シキ所作ヲ爲スコト  
(二項乃至六項略)

第十六條 第六條ノ藝人ニシテ場所ヲ定メス社寺境内又ハ路傍等ニ於テ營業スルモノハ所轄警察署若クハ分署ニ届出ルハ勿論本則第十五條二項三項六項及ヒ左ノ各項ヲ遵守スヘシ  
(二項及二項略)  
第十七條 寄席ヲ假用シテ他ノ興行ヲ爲スモノハ各其取締規則ヲ遵守スヘシ但演劇興行ニ使用スルヲ許サス  
第十九條 興行ノ所作世安ニ妨害アリト見認ムルトキハ警察官吏ニ於テ一時興行ヲ停止スルコトアルヘシ

ノ類ヲ營業スルモノモ亦タ本文ニ同シ  
(二項及二項略)  
第九條 此規則ニ違背シタル者ハ(違警罪)ヲ以テ處分セラル、ノ外尙ホ情狀ニ依リ其營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

●遊技場營業取締規則(抜抄)(明治十七年六月十九日)

改正(一〇年縣令第一五三號第二二四號、二五年第一〇號、四〇年第二八號)

第一條 遊技場(定場臨時及ヒ雜商ノ區別ナク玉突錫弓銃砲)者ハ此警察取締規則ヲ遵守スヘシ  
第二條 此營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許ヲ受クヘシ但本人(其住所)警察署又ハ分署ニ願出免許ヲ受クヘシ其素行上此規則ヲ遵守スル能ハサルモノト認ムルモノ又ハ其場所構造等ニ於テ危險ノ虞アルモノハ許可セサルコトアル可シ  
一 族籍住所身分氏名年齡  
二 業名  
三 場所(雜商ハ除ク)  
四 日數(定場及ヒ雜商ハ除ク)  
第三條 大弓及ヒ銃砲射的ノ營業ヲ爲サント欲スル場合ニ於テハ第十三條ニ記載シタル場所及ヒ構造等ヲ詳記シ願出ツヘシ  
第五條 雜商ノ免許ヲ受ケタル者他ノ警察署又ハ分署部内ニ轉住セントスルトキハ最初免許ヲ受ケタル警



察署又ハ分署へ其事由及ヒ廢業ヲ届出向ホ第二條ノ手續ニ從ヒ轉住地所轄ノ警察署又ハ分署へ願出更ニ免許ヲ受クヘシ

第六條 定場臨時營業者ハ嚮ニ免許ヲ受ケタル警察署又ハ分署部内、雖モ其場所ヲ轉換セントスルトキハ仍ホ第二條ノ手續ニ從ヒ更ニ願出免許ヲ受クヘシ

第七條 轉住第五條ノ場改氏名等總テ嚮ノ願出ニ對シ變更ノ事故アルトキハ其時々所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第八條 定場及ヒ雜商ノ免許ヲ受ケタル者廢業セントスルトキハ其時々所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第九條 雜商ノ免許ヲ受ケタル者其營業中ハ必ス營業鑑札ヲ携帯スヘシ

第十七條 他府縣ノ免許ニ係ル雜商者ト雖モ本縣管内ニ於テ營業ヲ爲ス時ハ第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條ノ規程ヲ遵守スヘシ

第十八條 營業ニ非スト雖モ大弓及ヒ銃砲射的ヲ爲サントスル者ハ第十三條ノ構造及ヒ注意ヲ遵守スヘキハ勿論仍ホ所轄警察署又ハ分署へ願出許可ヲ受クヘシ但數人集合シテ玉突揚弓投扇吹矢ノ類ヲ爲サントスルモノハ所轄警察署又ハ分署へ届出ツヘシ

第十九條 前條許可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタルモノト雖モ賭ケ勝負ニ紛ハシキ所業ヲナシ及ヒ危險ト認ムルモノニ大弓及ヒ銃砲ヲ射擊セシムル等相成ラサルハ勿論其他不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ之ヲ差止

一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタル時  
二 車馬ヲ賣渡又ハ讓渡シタル時  
三 (略)

第十條 免許證、檢査證、鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス  
第十二條 乘客ノ員數ハ車體馬力ニ應シ之ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ其定員ヲ記シタル木札ヲ車體内部ノ見易キ所ニ釘付スヘシ

第十三條 馬匹檢査證ハ其馭者之ヲ携帯シ車體檢査證ハ車體内部ノ見易キ所ニ釘付スヘシ

第十四條 檢査證アル車馬ト雖トモ第十六條第十七條ノ制限ニ適セス又ハ車體器具ノ破損若クハ不潔ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘシ

第六章 賃錢及駐車場  
第四十四條 賃錢額ハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ車内及ヒ駐車場ノ見易キ所ニ揭示スヘシ  
第四十六條 駐車場ニハ乗合馬車ト記シタル標識ヲ設クヘシ  
第四十七條 駐車場ノ外車馬ヲ置クヘカラス

● 乗合馬車營業取締規則取扱心得(抜抄)  
(明治二十一年三月八日)  
(訓令廳達第一五號)

警察部 警察署 同分署

第二條 前條稟議ノ上許可スヘキ旨指示ヲ受ケタルトキハ附錄第一號ニ依リ免許證ヲ附與シ其許可ス可カ

ムルコトアルヘシ  
第二十條 此規則ニ違背スルモノハ(違警罪)ヲ以テ處分セラル、ノ外尙其業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

● 乗合馬車營業取締規則(抜抄)(明治二十年九月三日)  
(兵庫縣令第九十七號)  
(改正(三十七年第一二九號))

第一章 通則

第一條 乗合馬車ノ營業ヲ爲サントスルモノハ願書ニ通車ノ路線並ニ駐車場路傍ニ設ケルモノヲ指シ位置發着ノ定時不定時ヲ添記シ所轄警察官署ニ差出シ免許證ヲ受タヘシ其路線駐車場等ヲ變更セントスル時亦同シ

第六條 車體馬匹ハ毎年二回三月九月所轄警察署又ハ分署ノ檢査ヲ受クヘシ其買受讓受ヲ爲シ又ハ車體ヲ新造改造シタル時ハ定期ニ拘ラス届出檢査ヲ受クヘシ

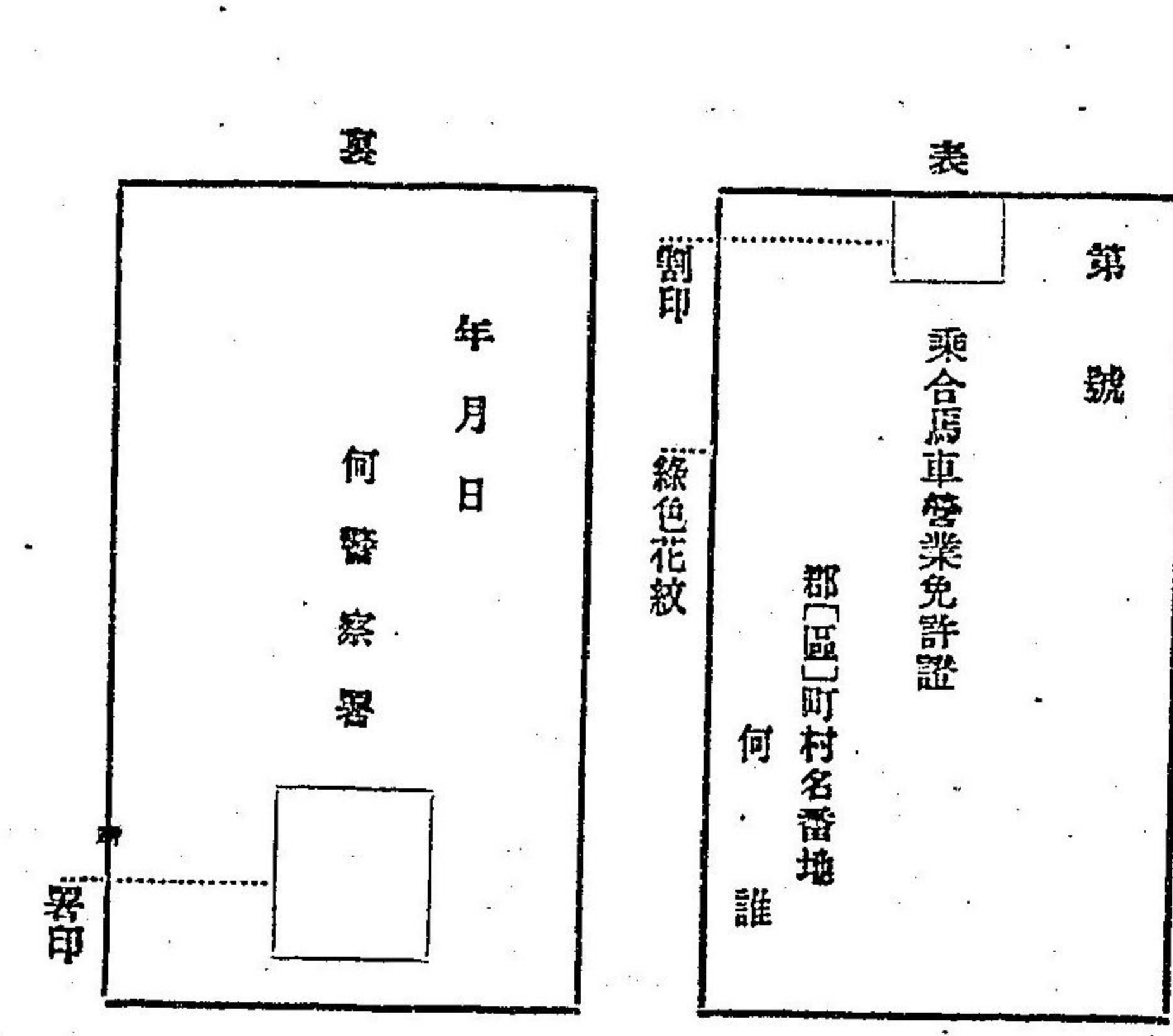
第七條 車體馬匹ハ定時ト臨時トト問ハス檢査證又ハ檢印ヲ受スシテ之ヲ使用スルヲ得ス

第八條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ  
一 轉居改氏名其他免許證檢査證鑑札面ニ異動ヲ生シタル時  
二 免許證檢査證鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不明ニ至リタル時

第九條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出免許證檢査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

ラサルモノハ同第二號ニ依リ指令スヘシ  
第四條 車體馬匹檢査ハ規則第十六條第十七條ニ照シ適否ヲ調査シ合格ノモノニハ附錄第四號第五號ニ依リ檢査證ヲ附與シ不合格ノモノハ其箇所ヲ指示シ改良ヲ命スヘシ  
(附錄)

第一號 免許證 縦六寸 横四寸五分





第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

第四號 車體検査證

堅五寸三分  
横三寸  
方三分格印

表

車體検査證

郡區町村番地

營業人 何 誰

表

年月日

●人力車營業取締規則(抜抄)(明治二十九年七月二十六號)

改正(三一年第七〇號、三二年第三八號、三四年第七四號、三五年第七八號、三七年第五〇號)

第一章 通則

第一條 此規則ニ於テ人力車營業ト稱スルハ左ノ各項ニ該ル者ヲ云フ

第五條 營業者ハ警察官署所轄毎ニ協議ノ上總代人一名乃至三名ヲ選ミ且人力車ノ賃錢額ヲ定メ其總代人ヨリ管轄警察署長、警察分署長ニ申請認可ヲ受ク可シ之ヲ變更シタルトキ又ハ組合規約及總代人ノ役務ヲ設ケタルトキ亦同シ

第六條 車體屬具及服裝ハ毎年二回管轄警察官署ノ指定シタル日時場所ニ於テ検査ヲ受ケ各其檢印ヲ受ク可シ

第七條 營業者ハ左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ届出且車體検査證又ハ鑑札ノ書換ヲ乞フ可シ

一 轉居改氏名其他検査證又ハ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキ

二 検査證又ハ鑑札ヲ毀損亡失シ若クハ其文字不明ニ至レルトキ

第八條 營業者ハ左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ届出且車體検査證又ハ鑑札並ニ服裝屬具ノ消印ヲ受ク可シ

一 廢車或ハ廢業又ハ他ノ管轄内ニ轉居シタルトキ

二 車體ヲ賣渡シ又ハ讓與シタルトキ

三(略)

第九條 營業者ハ轆子鑑札ヲ所持セサル者ニ人力車ヲ貸與スルコトヲ得ス

第十條 公設駐車場ノ位置ハ管轄警察署長又ハ分署長ニ於テ選定標示スヘシ

公設駐車場ニシテ營業者ノ人員ヲ制限スルノ必要アリ

- 一 人力車ヲ貸與スル者
- 二 轆子ヲシテ人力車ヲ轆カシムル者
- 三 自己又ハ他人ノ人力車ヲ轆ク者
- 第二條 前條第一項第二項ノ營業者ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ族籍住所身分氏名生年月ヲ記シ管轄警察署長警察分署長ニ願出免許ヲ受ク可シ
- 第三條 營業ニ供スル人力車ハ使用前車體及屬具ノ検査ヲ受ケ車體検査證ヲ車ノ獻込ニ釘付ス可シ
- 車體検査證ノ調製ハ左ノ雛形ニ依リ出願者ノ負擔タルベシ

表

第 何月檢 號

住所 氏 名

人力車體検査證

年 月 日

兵庫縣何警察署又ハ分署

格印

五寸三分

寸三

裏

リト認ムルトキハ管轄警察署長又ハ分署長之ヲ制限スルコトヲ得

前項ノ駐車場ニ於テ營業セントスルモノハ管轄警察官署ノ認可ヲ受ク可シ

私設駐車場ヲ設ケントスルトキハ其場所ヲ記載シ管轄警察官署ニ申請認可ヲ受ク可シ之ヲ廢シタルトキハ五日以内ニ届出可シ

第十條ノ二 本則ヲ遵守セス又ハ公安ヲ害シ風俗ヲ紊ルノ行爲アリト認ムルモノハ第二條ノ免許ヲ取消スルコトアル可シ

第二章 車體構造及屬具

第十二條 検査ヲ行フトキ又ハ検査證ヲ付與シタル後ト雖前條ノ制限ニ適合セス破損若クハ不潔ニ至リタルヲ認ムルトキハ其修繕ヲ命シ又ハ使用停止ヲ命スルコトアル可シ

●荷車取締規則(抜抄)(明治四十一年五月十五日)

第一條 荷車所有者ハ荷車ノ積量及住所氏名ヲ車體ノ右側略易キ所ニ明記スヘシ

第二條 荷車ノ種類、大サ、積量及車輪ノ齒幅ハ左ノ制限ニ據ルベシ

種類	荷重長	荷重幅	積 量	齒 幅
小 車	六尺以下	二尺以下	五十貫以下	六分以上
中 車	七尺以下	二尺三寸以下	百貫以下	八分以上



大車	十尺以下	二尺五寸以下	二百貫以下	一寸六分以下
牛馬車	十二尺以下	三尺以下	二百五十貫以下	三寸以上

前項牛馬車ノ全長ハ轆木ニ依リ轆カシムルモノニ在リテハ十七尺轆綱ニ依リ轆カシムルモノニ在リテハ十四尺ヲ超ユルコトヲ得ス

四輪車及彈條ヲ有スル構造ノ荷車ニ在リテハ其ノ車輪ノ齒幅ハ各第一項ノ制限ヨリ二割ヲ減スルコトヲ得三輪車構造ノ荷車ニ在リテハ其ノ前車輪ノ齒幅ハ後車輪ノ齒幅ニ對シ二割ヲ増加スヘシ

第三條 四輪車又ハ三輪車ノ前車輪ハ左右自由ニ廻旋シ得ヘキ裝置トナシ且四輪車ニ在リテハ前車輪ハ後車輪ノ軌趾ト同一ナラサル様構造スヘシ

第四條 挖棒ニ用ウル橫木ハ其ノ荷臺ヨリ張出スルコト一尺五寸以下タルヘシ

第五條 神戸市内ニ在リテハ一本挖ノ荷車ヲ使用スルコトヲ得ス但シ商品配達等ノ爲メ輕量ノ物ヲ運搬スル小車ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 荷車ノ臺尻ニ地摺木、地摺金ノ類ヲ附着スヘカラス

第七條 車輪ノ齒面ハ平扁ナルモノヲ用ヒ道路ヲ毀損スルノ虞アルモノヲ附着スヘカラス

第八條 牛馬車ニハ其ノ車輪ニ齒止ノ裝置ヲ爲スヘシ

第三十四條 第二條ニ定メタル大車及牛馬車ヲ轆ク者ハ別記様式ニ依リ自己ノ住所氏名年齢ヲ明記シタル

部分ノ長サヲ指シタルモノニシテ其ノ荷臺ノ前部又ハ後部ニ桁ノ突出セル部分ハ之ヲ計算セサルモノトス其ノ荷臺ニシテ梯子形ヲナセルモノハ前部ノ橫木ヨリ後部ノ橫木マテトシ前後兩端ノ突出ノ部分ニ對シ物品ヲ積載シ得ヘキ様橫木又ハ板等ヲ添架セルモノハ其ノ部分迄ヲ計算ス

荷車取締規則執行方  
(明治四十二年三月三日兵部庶務第一七號内務部部長ヨリ郡市長ニ通牒)

荷車取締規則ノ執行ニ關シ別紙寫ノ通訓達相成候ニ付御參考迄及御回付候也

保訓第八號(明治四十一年五月二十五日警務長)  
改正荷車取締規則ハ舊規則ニ對シ大ニ其面目ヲ改メ車體ノ大小、牛馬轆力ノ程度等參酌規定セラレタル箇條尠ナカラス從テ其執行上精密ナル注意ト適當ナル裁量ヲ加フルニアラサレハ其効果ヲ收ムル能ハサルハ勿論ナルモ尙左ノ各號ニ付テハ此際特ニ注意ヲ加ヘ其取締上ニ付遺算ナキヲ期セラルヘシ

右訓達ス

一 從來使用ノ荷車ニシテ現ニ使用スルモノハ規則第三十六條ニ依リ猶豫ノ期限ヲ設ケタリト雖トモ

同第二條ノ積量等ハ本則施行ノ日ヨリ規則第一條

木札ヲ攜帶スヘシ但シ他ノ規定ニ依リ鑑札ヲ攜帶スル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ木札ハ之ヲ貸與シ又ハ借用スルコトヲ得ス

附則  
第三十六條 本則ノ構造制限ニ適合セサル荷車ニシテ現ニ使用スルモノハ明治四十二年十二月三十一日迄使用スルコトヲ得

第三十七條 明治三十二年兵庫縣令第二十九號荷車取締規則ハ之ヲ廢止ス

樣式(木札)

縱三寸  
橫二寸

住所 氏名 年月日生

●荷車ノ種類算定方  
(明治四十二年三月三日兵部庶務第一六號内務部部長ヨリ郡市長ニ通牒)

一 荷車取締規則第二條ノ構造制限ハ車輪ノ齒幅ハ最低限ヲ示シ荷臺ノ大サハ最大限ヲ示セルモノナリ假令ハ齒幅九分ナルトキハ荷臺ノ長サ六尺幅二尺ナルモ中車トナリ又齒幅一寸六分ナルトキハ荷臺ノ長サ六尺幅二尺ナルモ大車トナルカ如シ

二 荷臺長サハ總テ物品ヲ積載シ得ラルヘク構造セルム可シ

三 依リ車體ニ明記セシム可シ

規則第二條第二項ノ規定ハ牛馬車ノミノ全長ヲ制限シタルモノニシテ大中小車ノ全長ハ別ニ制限セサルモノナルモ其挖棒ハ車臺ヨリ二尺乃至三尺ト云ヘル如ク各車ニ適應セル限度ニ於テ構造セシム可シ

四 車輪ノ齒面ハ平扁ナルモノヲ用ニヘキコトハ規則第七條ノ規定スル所ナリト雖トモ其齒面ハ往々ニシテ尖リタル構造ノモノアルヲ認ム構造上特ニ注意セララル可シ

保通第十二號(明治四十一年六月十五日警務長)  
荷車取締規則ノ執行ニ關シテハ客月二十五日保訓第八號ヲ以テ訓達致置候處尙解釋上ニ關シ伺出ノ向モ有之候ニ付重テ及通達候條左ノ通り心得ラルヘシ

右通達ス

一 規則第三十六條ニ於テ現ニ使用ノ荷車ニ對シ改造猶豫ノ規定ヲ設ケラレタル爲該荷車ノ積量モ舊規則執行當時ト同様猶豫セラレタルカ如ク解釋シ重量三百貫以上ニ達スルモ猶之ヲ默過スヘキモノナルヤノ疑ヲ懷カル、向アリ然レトモ既ニ明文ヲ以テ舊則ヲ廢止シ積量ニ對シ何等猶豫ノ規定ヲ設ケラレサル以上ハ當然新規則ニ依リ取締ヲ爲スヘキモノトス從テ積量二百五十貫ヲ超過シタルモノハ新規則違反トシテ相當處分ヲ爲スヘキモノトス

改造猶豫ヲ與ヘラレタル舊荷車ハ新規則ニ定メ



ラレタル最高積量二百五十貫ヲ超過セサル範圍内ニ於テハ各其齒幅ニ應シ舊規則ニ於テ認メラレタル積量ヲ搭載シ得ヘキモノトス(以下略)  
一 荷車ノ臺尻ニ鐵板ヲ張り其摺禿ヲ防クカ如キモノハ規則第六條ノ所謂地摺木地摺金ニアラサルヲ以テ禁スルノ限リニ在ラス

●屠場法(抜抄)(明治三十九年四月十一日)

- 第一條 本法ニ於テ屠場ト稱スルハ食用ニ供スル目的ヲ以テ獸畜ヲ屠殺スル場屋ヲ謂フ
- 第二條 屠場ヲ設立セムトスル者ハ地方長官東京府ニ於テハ警視總監テハ警視總監ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 市町村ニ於テ屠場ヲ設立スルトキハ地方長官東京府ニ於テハ警視總監ハ必要ト認ムル地區内ニ於ケル私設屠場ノ廢止ヲ命スルコトヲ得
- 第八條 內務大臣ハ必要ト認ムルトキハ屠場ノ設置ヲ市町村ニ命スルコトヲ得
- 第九條 市町村ハ地方長官東京府ニ於テハ警視總監ノ認可ヲ得ルニ非サレハ屠場ヲ廢止スルコトヲ得ス
- 第十一條 衛生上危害ヲ生シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ地方長官東京府ニ於テハ警視總監ハ屠場ノ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトヲ得
- 第十七條 本法施行ノ際現ニ存スル屠場ハ本法施行後

三箇年間に本法ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ許可期間三箇年以内ナルトキハ其ノ期間ニ依ル  
前項ノ期間終了後ハ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ  
(備考 本法ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行セラル)

●屠場法施行規則(抜抄)(明治三十九年六月二十二日)

- 第一條 屠場法第二條ニ依リ地方長官東京府ニ於テハ警視總監以下ニ依リニ於テ屠場ノ設立ヲ私人ニ許可スルトキハ一定ノ期限ヲ附スルコトヲ要ス
- 第二條 地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ屠場主ノ名義ヲ變更スルコトヲ得ス
- 第四條 屠場使用料及屠殺料ハ其ノ額ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ増減スルトキ亦同シ
- 第六條 屠場ハ獸畜ノ屠殺解體ノ外他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 屠場法施行細則(抜抄)(明治三十九年十月十五日)
- 改正(四〇年第一六號)
- 第一條 屠場設立ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ市町村役場並所轄警察官署ヲ經由シ本廳ニ願出ヘシ
  - 一 名稱
  - 二 位置
- 第十三條 市町村立外ノ屠場ヲ休止又ハ廢止セムトスルトキハ五日以前市町村役場並所轄警察官署ヲ經由シ本廳ニ届出ヘシ
- 第十四條 屠場主ハ様式屠畜明細簿ヲ備ヘ之ニ當日ノ事項ヲ記入シ日日検査員ノ検査ヲ受クヘシ
- 第十五條 屠場主又ハ屠畜業者ニシテ屠夫屠殺解體ニテ雇入又ハ解雇シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

- 三 敷地及建造物ノ坪數
- 四 周圍五丁以内ノ見取圖
- 五 敷地ノ形狀建造物配置ノ平面圖及前面、側面ノ縮尺百分一以上圖
- 六 建造物ノ構造仕様書
- 七 給水ノ方法
- 八 血液、汚水、汚物ノ處置方法
- 九 工事落成期日
- 屠場ヲ改築、増築又ハ變更セムトスルトキハ第三號、第五號、第六號、第九號ヲ具シ本條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第三條 工事落成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經由シ本廳ニ届出検査ヲ受クヘシ其ノ検査ヲ經サルモノハ使用スルコトヲ得ス
- 第四條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ屠場設立ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
  - 一 屠場設立許可後三箇月ヲ經ルモ工事ニ着手セサルトキ
  - 一 工事落成期日ニ竣工セサルトキ
  - 一 屠場ノ構造又ハ設備ヲ命シ之ニ應セサルトキ
  - 一 本則ニ違背シ又ハ本則ヲ遵守スル能ハスト認メタルトキ

- 第五條 屠殺解體ノ日時ハ本廳ニ於テ之ヲ指定ス
- 第八條 大社令節國祭日ニハ屠殺スヘカラス但シ切迫屠殺ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十二條 屠畜業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ本籍住所氏

- 汽罐汽機取締規則(抜抄)
- 改正(三四年第一三三號)
- 兵庫縣令第六六號
- 第一條 汽罐汽機ヲ使用セントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ具シ當廳ニ申請シ許可ヲ受クヘシ但特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス
  - 一 汽罐汽機使用ノ場所建物並ニ四隣ノ圖面汽罐使用ノ最近人家ハ直徑ノ距離ヲ記入ス可シ
  - 二 汽罐汽機使用ノ目的及ヒ之ニ要スル機械ノ名稱並ニ其員數
  - 三 汽罐汽機ノ使用時間
  - 四 工事落成期日
  - 五 汽罐明細書
  - 一 汽罐ノ種類及其箇數

「コルニツシ」ハ「ランカシヤ」ニ直立罐又ハ管成罐等ノ類







汽罐検査證雛形

分九寸六横

事故	検査					回数	検査年月日	使用有効期限	官検査印	許設可置明治年月日位置	業名	種類	寸法	汽罐	安全弁種類
	回	回	回	回	回										
明治年月日	回	回	回	回	回	回数	検査年月日	使用有効期限	官検査印						
	至	至	至	至	至		至	至							
	明治	明治	明治	明治	明治		明治	明治							
	年	年	年	年	年		年	年							
	月	月	月	月	月		月	月							
	日	日	日	日	日		日	日							

第 號 五寸三分五厘 花紋

汽機検査證雛形

分九寸六横

事故	検査					回数	検査年月日	使用有効期限	官検査印	許設可置明治年月日位置	業名	種類	寸法	馬力	馬力
	回	回	回	回	回										
明治年月日	回	回	回	回	回	回数	検査年月日	使用有効期限	官検査印						
	至	至	至	至	至		至	至							
	明治	明治	明治	明治	明治		明治	明治							
	年	年	年	年	年		年	年							
	月	月	月	月	月		月	月							
	日	日	日	日	日		日	日							

第 號 五寸三分五厘 花紋

發動機検査證雛形

分九寸六横

事故	検査					回数	検査年月日	使用有効期限	官検査印	許設可置明治年月日位置	業名	種類	寸法	馬力
	回	回	回	回	回									
明治年月日	回	回	回	回	回	回数	検査年月日	使用有効期限	官検査印					
	至	至	至	至	至		至	至						
	明治	明治	明治	明治	明治		明治	明治						
	年	年	年	年	年		年	年						
	月	月	月	月	月		月	月						
	日	日	日	日	日		日	日						

第 號 五寸三分五厘 花紋

●船舶法(明治三十一年三月八日) 改正(三十八年) 法律第四十六號

- 第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス
  - 一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
  - 二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
  - 三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
  - 四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
- 第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス
- 第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測定ヲ申請スルコトヲ要ス(一項)
- 第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス
- 前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス



第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サルハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、喫水ノ尺度・其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サルハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條 登錄シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條 船舶國籍證書滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條 第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有效期間満了前ト雖モ其效力ヲ失フ

第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測定ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

●船舶法施行細則(抜抄)(明治三十二年六月十二日) (逓信省令第二十四號) (改正(三八年第一五號))

第一章 總則  
第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船

第二章 縣稅及賦金 第一章 縣稅

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキ、解散セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十条ニ掲ケル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登錄ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六個月間分明ナラサルトキ亦同シ

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳管轄區域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

ノ別ヲ謂フ  
機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ハラズ之ヲ汽船ト看做ス

主トシテ帆ヲ以テ運航スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス

第二條 淺瀬船ハ推進器ヲ有セザレハ之ヲ船舶ト看做サス

第三條 船籍港ハ各市町村ノ名稱ニ依ル但市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキ區畫ノ名稱ニ依ル

第四條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖モ最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得

一 試運轉ノトキ  
二 積量ノ測定ヲ受ケントスルトキ  
三 正當ノ事由アルトキ

第五條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ掲クルコトヲ得

一 祝日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル  
二 前條ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ  
三 進水ノトキ

四 前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第三章 船舶ノ登録  
第十七條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登

三二九



錄ヲ爲スニハ申請書ニ登記ノ曆本ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ  
 管海官廳ハ關係書類ヲ調査シ汽船及機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ左ノ事項ヲ船舶原簿ニ登録ス

- 一 番號
- 二 信號符字
- 三 種類
- 四 名稱
- 五 船籍港
- 六 甲板ノ層數及種類
- 七 外板ノ材料
- 八 船骨ノ材料
- 九 檣ノ數
- 十 網具ノ裝置
- 十一 船首ノ形狀
- 十二 船尾ノ形狀
- 十三 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル長
- 十四 船舶積量測定方法ニ依ル量噸甲板下ノ長
- 十五 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル幅
- 十六 船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅
- 十七 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル深
- 十八 船舶積量測定方法ニ依ル量噸甲板下ノ長ノ中央ニ於テ該甲板ノ下面ヨリ船底内張板ノ上面マテノ深

- 十九 支水隔壁ノ數
- 二十 二重底ノ位置及容量
- 二十一 最大喫水
- 二十二 量噸甲板下部ノ噸數
- 二十三 量噸甲板上部ノ噸數
- 二十四 甲板間ノ噸數
- 二十五 船首樓ノ噸數
- 二十六 船橋樓ノ噸數
- 二十七 船尾樓ノ噸數
- 二十八 圓室ノ噸數
- 二十九 其他蔽圍セル場所ノ噸數
- 三十 總噸數
- 三十一 登簿噸數
- 三十二 船員常用室ノ噸數
- 三十三 機關室ノ噸數
- 三十四 汽機ノ種類及數
- 三十五 汽罐ノ種類及數
- 三十六 汽罐ノ材料
- 三十七 汽管ノ數
- 三十八 汽管ノ徑
- 三十九 汽管ノ行長
- 四十 推進器ノ種類及數
- 四十一 公稱馬力
- 四十二 製造地
- 四十三 進水ノ年月日

- 三十八 汽機製造ノ年月日
- 三十九 汽罐製造ノ年月日
- 四十 汽機製造者ノ氏名又ハ名稱
- 四十一 汽罐製造者ノ氏名又ハ名稱
- 四十二 造船者ノ氏名又ハ名稱
- 四十三 原名
- 四十四 所有者ノ氏名又ハ名稱及住所並共有者ナルトキハ其持分

帆船ニ在リテハ前項第一號乃至第二十六號第三十六號第三十七號第四十二號乃至第四十四號ノ事項ヲ登録ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第二項第一號第三號乃至第五號第七號乃至第九號第三十六號第三十七號第四十二號乃至第四十四號ノ事項及左ノ事項ヲ登録ス

- 一 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長
- 二 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅
- 三 腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面マテノ深
- 四 積石數

第二項第十四號第十六號第十八號及前項ノ長、幅及深ハ曲尺ヲ以テ測リタル尺度ヲ登録ス

第十八條 船舶ノ名稱ヲ變更セントスル者ハ其事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二十條 甲管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタ

ル船舶ノ船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更スル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

(一項)

前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿ノ曆本及其附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ該船舶ノ登録用紙ヲ閉鎖ス(二項)

第二十五條 船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ曆本、抄本又ハ登記證書ヲ添附シテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

第二十六條 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但第二十一條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四章 船舶國籍證書及假船舶國籍證書

第三十條 管海官廳ニ於テ第十七條ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲シタルトキハ第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

第三十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ變更ノ登録ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 第二十六條ノ規定ハ船舶國籍證書ニ記載シタル行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ船舶籍



港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ船舶國籍證書ノ滅失ニ依リ更ニ之ヲ請受ケントスルトキ亦同シ  
第三十四條 第三十一條又ハ前條ノ申請ヲ受ケタル管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付ス但第二十條第一項ノ場合ニ於テハ乙管海官廳之ヲ交付ス

第三十五條 船舶國籍證書ノ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付アリタルトキハ遲滞ナク舊證書ヲ返還スヘシ

第三十六條 船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル船長ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ假船舶國籍證書ニ記載スヘキ事項ヲ證明スルニ必要ナル書類アルトキハ其書類ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ

船舶國籍證書ノ毀損又ハ船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ假船舶國籍證書ノ交付アリタルトキハ遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

假船舶國籍證書ノ様式ハ第四號書式ニ依ル  
第三十九條 假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ新舊事項ヲ列記シ最寄管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ  
第三十二條乃至第三十五條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第四十條 假船舶國籍證書ハ其效力ヲ失ヒタルトキ又

(輪廓鑄鎖)

(第三號書式)

乙 帆船ニ用ユル分

尺一寸五分

Table with columns for ship details: 船名, 種類, 製造地, 製造者, 進水年月日, 船身長, 船幅, 船底深, 噸數, etc.

ハ船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ  
第四十一條 本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ疏明スヘシ  
船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セサルトキハ管海官廳ハ其無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

(輪廓鑄鎖) (第三號書式) 甲 汽船ニ用ユル分 尺一寸五分

Table with columns for ship details: 船名, 種類, 製造地, 製造者, 進水年月日, 船身長, 船幅, 船底深, 噸數, etc.

明治年月日 日本帝國 管海官廳名印

(輪廓鑄鎖)

(第三號書式) 丙

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ用ユル分 橫六寸

Table with columns for ship details: 船名, 種類, 製造地, 製造者, 進水年月日, 船身長, 船幅, 船底深, 噸數, etc.



國籍		船名		種類		噸數		積載	
進水年月日	製造地	船名	種類	噸數	積載	積載	積載	積載	積載
明治 年 月 日	製造地	船名	種類	噸數	積載	積載	積載	積載	積載
本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス此證書ハ來ル明治 年 月 日マテ効力ヲ有スト雖モ其以前ニ於テ船籍港ニ到着シタルトキハ直ニ其効力ヲ失フ		日本帝國		管海官廳名印		明治 年 月 日		管海官廳名印	

●船鑑札規則(明治四十年五月二十三日)

第一條 總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船ハ左ニ掲クルモノヲ除ク外日本ニ船籍港ヲ定メ船鑑札ヲ受有スヘシ

一 總噸數五噸未滿又ハ積石數五十石未滿ノ帆船

二 端舟其ノ他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟

第二條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ノ所有者ハ第一號書式ノ船鑑札交付申請書ヲ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ニ差出スヘシ

管海官廳、日本ノ領事館、貿易事務館其ノ他相當官廳ニ於テ積量ノ測定ヲ受ケタル船舶ニ付テハ前項ノ申請書ニ積量ニ關スル證明書ヲ添付スヘシ

第三條 地方官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ船舶ノ積量ヲ測定スヘシ但前條第二項ノ證明書ヲ差出シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 地方官廳ニ於テ前條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測定ヲ爲シタルトキ又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル證明書ヲ適當ナリト認メタルトキハ第二號書式ノ船鑑札ヲ交付スヘシ

第五條 船鑑札ハ船舶ニ備置キ船長其ノ他船舶ヲ指揮スル者之ヲ保管シ當該官吏ニ於テ檢閲ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルト

國籍		船名		種類		噸數		積載	
進水年月日	製造地	船名	種類	噸數	積載	積載	積載	積載	積載
明治 年 月 日	製造地	船名	種類	噸數	積載	積載	積載	積載	積載
本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス此證書ハ來ル明治 年 月 日マテ効力ヲ有スト雖モ其以前ニ於テ船籍港ニ到着シタルトキハ直ニ其効力ヲ失フ		日本帝國		管海官廳名印		明治 年 月 日		管海官廳名印	

キ又ハ船鑑札カ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ書換ヲ申請スヘシ

第二條 第二項ノ規定ハ船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ル場合ニ之ヲ準用ス

船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ船舶所有者ノ變更ニ係ルトキハ第一項ノ申請ハ新所有者ヨリ變更ノ事實ヲ證スル書面ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第三條 但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 甲地方官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ變更スルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疎明シ甲地方官廳ニ轉籍ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲地方官廳ハ遲滞ナク前項ノ申請書ニ船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測定ニ關スル書類ヲ添附シテ其ノ旨乙地方官廳ニ通知スヘシ

第九條 行政區畫變更ノ爲メ船籍港カ甲地方官廳ノ管轄區域内ヨリ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ甲地方官廳ハ申請ヲ待タズ遲滞ナク船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測定ニ關スル書類ヲ乙地方官廳ニ送付スヘシ

行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但前項ノ場合ハ此ノ限



ニ在ラス

第十條 船鑑札カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ再交付ヲ申請スヘシ

第十一條 地方官廳カ第六條若ハ前條ノ申請ヲ受ケタル場合、第八條第二項ノ通知ヲ受ケタル場合又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ船鑑札ヲ交付スヘキモノト認ムルトキハ之ヲ船舶所有者ニ交付スヘシ

第十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

一 船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解散セラレタルトキ

二 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサルトキ

三 船舶カ船舶法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ受有スルニ至リタルトキ又ハ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ヲ受有スルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ

前條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ之ト引換ニ舊鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船鑑札ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

第十三條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ニシテ船舶検査法ノ適用ヲ受クルモノノ所有者ハ管海官廳ニ積量ノ測

第一號書式

船鑑札交付申請書

- 一 船種(汽船、帆船ノ別但發動)
- 二 船籍港(當該市町村名)
- 三 進水年月
- 四 尺度(船體ノ最大ノ長、幅、深)
- 五 測定子受ケントスル場所
- 六 申請ノ事由(新造、外國船購入等)

右船舶ニ對シ船鑑札交付相成度此段申請候也

明治 年 月 日

住所

所有者 氏

名印

地方官廳名御中

第二號書式

第 號	船 鑑 札
汽船	帆船
丸	氏 名
住所	氏 名
明治 年 月 日	地方官廳名
	格印

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

度又ハ改測ヲ申請スルコトヲ得

第十四條 地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船ヲ執行セシム

第十五條 第一條、第五條、第六條第一項、第八條第一項、第十條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 本則ハ明治四十年七月一日ヨリ之施行ス

第十七條 明治二十九年十二月 逡信省令第二十五號船鑑札規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十八條 本則施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ本則施行ノ日ヨリ五箇年内ニ於テ地方官廳ノ定ムル期間内ニ更ニ船鑑札ノ交付ヲ申請シ現ニ受有スル船鑑札ヲ返還スヘシ

第十九條 本則施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本則ノ規定ニ從ヒ更ニ船鑑札ヲ受有スルニ至ルマテ本則ニ定ムル船鑑札ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條 第十二條ノ規定ハ本則施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ船鑑札ヲ返還セサル場合ニ之ヲ適用ス

船籍港	船種
長	幅
深	進水年月
發動機	測定子
積量	積石

- 一 發動機船ナルトキハ汽船ノ位置ニ發動機船ト記載スヘシ
- 二 船籍港ハ市ニ付テハ單ニ何市ト記載シ町村其ノ他之ニ類スル區畫ニ付テハ何國何郡何町村等ト記載スヘシ
- 三 船鑑札ノ寸法ハ前尺五寸幅三寸厚及木質ハ適宜トス

船鑑札取扱規則(明治四十一年三月十六日)

第一條 明治四十年逡信省令第二十四號船鑑札規則ニ依リ地方官廳ノ事務ニ屬スル船鑑札ノ交付、書換、再交付、返還及積量ノ測度ハ郡市長ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第二條 甲郡市役所ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙郡市役所ノ管轄區域内ニ變更スルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ其ノ事由ヲ疏明シ甲郡市役所ニ轉籍ヲ申請スヘシ



- 第三條 船鑑札規則第二條ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ申請セントスルモノハ同條第一號書式ノ申請書ヲ船籍港所轄ノ郡市役所ニ差出スヘシ
- 第四條 船籍ノ變更、船鑑札ノ書換又ハ再交付ヲ申請セントスル者ハ甲號書式ニ依リ船鑑札ヲ返還セントスル者ハ乙號書式ニ依リ船籍港所轄郡市役所ニ差出スヘシ
- 第五條 船鑑札規則第六條第三項ノ證明ハ其ノ變更ノ事實カ賣買、交換、贈與ニ因ルモノナルトキハ當事者双方ノ署名捺印シタル證書又ハ之ニ換ハルヘキ證明書ヲ添付シテ相續ニ因ルモノナルトキハ戶籍謄本若クハ抄本ヲ添付シテ之ヲ爲スヘシ
- 第六條 船鑑札交付ノ申請ニシテ積量ノ測定ヲ要スルモノハ測定ヲ受ケントスル日時ヲ申請書中適宜ノ場所ニ附記スヘシ
- 第七條 船舶ノ積量測定執行地及ヒ其ノ定日ハ所轄郡市役所ニ於テ別ニ之ヲ告示ス
- 第八條 前條ノ測定執行地又ハ其ノ定日外ニ於テ測定ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ臨時測定ヲ申請スルコトヲ得但測定吏員ノ出張ニ要スル成規ノ旅費日當ヲ納付スヘシ
- 第九條 本則第六條及第八條ニ依リ測定ヲ受ケントスル者ハ船舶ヲ測定執行地ニ回航シ本人又ハ其ノ代理人検査ニ立會スヘシ
- 第十條 船鑑札規則第十八條第一項ノ期間ヲ左ノ通り

- 定ム
  - 一 總噸數十五噸以上ノ西洋形船及積石數百五十石以上ノ日本形船ハ明治四十二年六月迄
  - 二 前號以下ノモノハ明治四十三年六月迄
  - 附則
  - 第十一條 本則ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
  - 第十二條 明治四十年六月兵庫縣令第三十號船鑑札取扱規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 甲號書式
- (船鑑札ノ書換、再交付又ハ轉籍)申請書
- 一 船舶番號
  - 二 船種及ヒ船名 新(船名變更ノ場合)ハ新舊ノ船名ヲ記入  
舊(船籍港變更ノ場合)ハ新舊ノ船籍港ヲ記載スヘシ
  - 三 船籍港
  - 四 進水年月
  - 五 尺度
  - 六 總噸數
  - 七 登簿噸數
  - 八 公稱馬力
  - 九 測定ヲ受ケントスル場所及ヒ日時
  - 十 申請ノ事由
  - 右船舶ニ對シ船鑑札交付相成度此段申請候也
- 乙號書式
- 船鑑札返還屆
- 新所有者 住所 氏名印  
舊所有者 住所 氏名印

- 一 船舶番號
  - 二 船種及船名
  - 三 船籍港
  - 四 進水年月
  - 五 尺度
  - 六 總噸數
  - 七 登簿噸數
  - 八 公稱馬力
  - 十一 返還ノ事由
- 右船舶ノ船鑑札返還候也
- 年 月 日

所有者 住所 氏名印

兵庫縣御中

- 備考
- 一 石數ヲ以テ表示スル船舶ハ第五、第七、第八ノ項目ヲ除キ第七總噸數ノ項ニ積石數ヲ記入スヘシ
  - 二 噸數ヲ以テ表示セル帆船及ヒ發動機船ハ第八ノ項目ヲ除クヘシ
  - 三 測定ヲ要セサルモノハ第九ノ項目ヲ除クヘシ
- 船鑑札取扱手續(明治四十一年三月十六日)  
(兵庫縣訓令甲第十一號)

第一章 總則

第一條 船鑑札規則中當應ニ屬スル事務ハ郡市役所ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

第二條 左ノ二條件ヲ具備セサル船舶ハ日本形船トシ石數ヲ以テ其ノ積量ヲ表示スヘシ

- 一 肋骨ヲ有スルモノ
- 二 船尾材ヲ有シ之ニ舵ヲ取附ケタルモノ

第三條 蒸氣ヲ用ヒサル推進用機關(例ハ石油發動機、電氣發動機、瓦斯發動機)ノ如シ

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

- 第四條 船舶ヲ改測シテ船舶法ノ適用ヲ受クヘキモノト認メタルトキハ速ニ相當手續ヲ爲スヘキ旨所有者ニ告知シ遲滞ナク船鑑札臺帳ノ謄本ヲ添付シテ所轄管海官廳ニ通知スヘシ
  - 第九條 船鑑札規則第十二條第三項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其眞否ヲ調査シ船鑑札ヲ無効ナリト決定シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ告示スヘシ
  - 第十條 船鑑札規則第十二條ニ依リ船鑑札ノ返還ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之レヲ廢棄スヘシ
  - 第十一條 郡市長ハ毎年、一月、四月、七月及十月ノ四期ニ其ノ前三箇月間ニ於ケル船舶ノ異動ヲ第二號書式ニ依リ其ノ月十五日迄ニ知事ニ報告スヘシ
  - 前項ノ報告ハ明治四十一年ニ限リ七月分ヨリ之ヲ提
- ヲ以テ運航スルモノハ發動機船トシテ取扱フヘシ
- 第四條 船鑑札規則第一條ノ船舶ニシテ航行ノ用ニ適セサル構造ヲ有スルモノハ船鑑札ヲ受有セシムルコトヲ要セス
- 漁船ニシテ船鑑札規則第一條ニ該當スルモノハ船鑑札ヲ受有セシムルコトヲ要ス
- 第五條 外板及肋骨ノ大半ヲ船體ヨリ撤去シタル場合ハ撤去ト看做スヘシ
- 第六條 船鑑札ニ記載スル所有者ノ住所ハ地番ヲモ記入スヘシ
- 第七條 書換又ハ再交付ニ依ル船鑑札ニハ年月日ノ下ニ「書換」又ハ「再交付」ト朱記スヘシ
- 第八條 船舶ヲ改測シテ船舶法ノ適用ヲ受クヘキモノト認メタルトキハ速ニ相當手續ヲ爲スヘキ旨所有者ニ告知シ遲滞ナク船鑑札臺帳ノ謄本ヲ添付シテ所轄管海官廳ニ通知スヘシ



出スヘシ

第二章 積量測定

第十二條 船舶ノ積量ヲ測定シタルトキハ測度表ヲ作リ其ノ上部欄外ニ船舶番號ヲ記載シ別冊ニ編綴保存スヘシ

第十三條 石敷船舶ノ梁下ノ石敷ヲ算定スルニ用フヘキ船底ノ長サハ船首至ノ境界カ内舳ト船底トノ交叉部ヨリ後方ニ在ルトキハ該交叉部ヨリ、船首室ノ境界カ該交叉部ヨリ前方ニ在ルトキハ其境界ヨリ測定スヘシ

第十四條 石敷船ノ深サハ加敷ヲ有スル船ニ在リテハ加敷ト外板トノ接合部ヨリ、加敷ヲ有セサル船ニ在リテハ航下外板トノ接合部ヨリ測定スヘシ

第十五條 尺度ハ單位以下二位未滿ヲ四捨五入シ因テ得タル數ヲ船鑑札ニ記載スヘシ噸數ハ單位以下二位未滿ヲ四捨五入シ因テ得タル數ノ單位マテヲ船鑑札ニ記載スヘシ但算上ノ噸數一九噸九九五等トナルトキハ四捨五入ノ法ヲ用ヒス石敷算出ノ場合亦同シ  
公稱馬力ハ單位未滿ヲ四捨五入シ因テ得タル數ヲ船鑑札ニ記載スヘシ  
發動機船ノ船鑑札ニハ公稱馬力ノ記載ヲ要セス

第十六條 船鑑札規則第三條ノ場合ニ於テ其ノ船舶他ノ官廳ノ管内ニ在ルトキハ甲官廳ハ該船舶ノ積量測定ヲ乙官廳ニ囑託スルコトヲ得

ヲ點附スルモ妨ケナシ

第四章 船鑑札臺帳

第二十四條 郡市役所ハ第一號書式ノ船鑑札臺帳ヲ備置キ船鑑札規則ニ依リ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ件名及船鑑札ノ交付、書換、再交付若クハ返還ノ年月日並ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

船鑑札規則第十二條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ返還アリタルトキハ同項各號ノ事實アリタルヤ否ヲ審査シ必要ト認ムルトキハ實地ニ臨檢シ船鑑札臺帳中當該船舶ニ對スル記載面ニ消印ヲ押捺シテ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第二十五條 船鑑札臺帳ニハ索引ヲ附スヘシ、臺帳索引ハ船名ノ頭字ノ音ニ依リテ伊呂波別ト爲シ一船舶毎ニ其ノ番號、船名及用紙番號ヲ記載スヘシ、船名ノ變更ニ依リ他ノ部ヘ移シタルトキ又ハ用紙ヲ閉鎖シタルトキハ當該欄ヲ朱抹スヘシ但五十艘未滿ノ船舶ヲ有スル郡市ニ在リテハ臺帳索引ヲ省略スルコトヲ得

第二十六條 船鑑札臺帳ハ汽船ト帆船トニ分テ各別ニ調製スヘシ但口座ヲ設ケ之ヲ一冊トナスモ妨ケナシ  
第二十七條 臺帳ハ一頁ヲ一艘ノ船舶ニ專用シ始メテ該用紙ヲ用ユル毎ニ其ノ上部欄左隅ニ用紙番號ヲ記載スヘシ

第二十八條 臺帳ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ舊事項ヲ朱抹シ左ノ區別ニ從ヒテ新事項ヲ記載スヘシ

第十七條 前條ノ場合ニ於テ船舶所有者ヨリ直接乙官廳ニ船舶ノ積量測定ヲ申請シタルトキハ乙官廳ハ測度執行ノ上積量ニ關スル證明書ヲ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ甲官廳ハ之ヲ船鑑札規則第二條第二項ノ證明書ト認メテ處理スヘシ

第十八條 船鑑札規則第二條第二項ノ證明書ニハ船鑑札ニ記載スヘキ尺度、積量及汽船ニ在リテハ公稱馬力ヲ記載スヘキモノトス但石敷船ニアリテハ尺度ヲ記載スルヲ要セス

第三章 船舶番號

第十九條 船舶ニハ番號ヲ點附シ之ヲ船鑑札及船鑑札臺帳ニ記載スヘシ

第二十條 船舶ニ付スヘキ番號ハ當廳ヨリ配付スル範圍ニ於テ順次之ヲ點附シ殘餘僅少トナリタルトキハ當廳ニ請求スヘシ

第二十一條 船舶番號ハ船鑑札ノ書換又ハ再交付ヲ爲ス場合ト雖トモ之ヲ改ムルコトヲ得ス

第二十二條 他府縣ヨリ轉入シタル船舶ヲ船鑑札臺帳ニ記載スルトキハ記事欄ニ舊番號ヲ記載シ以テ前後ノ連絡ヲ明ニスヘシ

第二十三條 本則第二十四條第二項又ハ第三十三條第二項ノ手續ヲ爲シタル船舶ノ番號ハ再ヒ他ノ船舶ニ點附スヘカラス但同一船舶ニ對スル場合ニハ該船舶ノ前項但書ノ場合ニ於テ舊番號不明ナルトキハ新番號

載シ記事欄ニ變更ノ事由ヲ記載スヘシ

一 始メテ變更アリタル場合ニハ朱抹シタル欄ノ下欄ニ新事項ヲ記載ス

一 第二回ニ變更アリタル場合ニハ前號ニヨリ記載シタル欄ノ下欄ニ新事項ヲ記載ス第三回及ヒ第四回亦之ニ倣フ

第二十九條 臺帳ニ記載シタル事項ノ變更五回ニ及ヒ用紙ニ餘白ナキニ至リタルトキハ舊事項ヲ朱抹シタル上用紙番號ノ順序ヲ追フテ新ナル用紙ニ新事項ヲ記載シ且變更アリタル事項以外ノ事項ヲ移記シ前後用紙ノ連絡ヲ保ツ爲メ舊用紙ノ記事欄ニハ何號用紙ニ移シタル旨ヲ新用紙ノ同欄ニハ何號用紙ヨリ移シタル旨ヲ附記スヘシ

第三十條 臺帳記載事項ノ訂正ヲ要スルトキハ下欄ニ移スコトナク各其ノ記載欄ニ於テ朱記訂正シ記事欄ニ訂正ノ事由及年月日ヲ記載スヘシ

第三十一條 臺帳記載事項ニ變更ナク單ニ船鑑札ノ書換ノ場合又ハ再交付ノ場合ニ於テ該書換ノ旨ヲ記事欄ニ書換又ハ再交付ノ事由及年月日ヲ記載スヘシ  
第三十二條 臺帳ノ曆本ヲ作成スルニハ朱抹セザル部

第五章 轉籍

第三十三條 船鑑札規則第八條第二項又ハ同則第九條第一項ノ規定ニ依リ乙官廳ニ於テ通知ヲ受ケ又ハ船鑑札臺帳曆本ノ送附ヲ受ケ船鑑札ヲ交付シタルトキ



第二輯 船稅及賦金 第一章 船稅

ハ其ノ旨遲滞ナク甲官廳ニ通知スヘシ  
甲官廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受クタルトキハ船鑑札臺  
帳中當該船舶ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第三十四條 本則ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十五條 明治四十年六月兵庫縣訓令甲第二十七號船鑑札取扱手續ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

頁	記事	第 第	月 年 水 通		號	番	種 船 名	種 船 港	尺			積 總 噸 數	量 登 噸 數	公 稱 馬 力	船 鑑 札 交 付 年 月 日	所 有 者
			深	幅					長							
								尺	尺	尺						
								尺	尺	尺						
								尺	尺	尺						
								尺	尺	尺						
								尺	尺	尺						

備考

- 一 船種ヲ示スニハ深、機又ハ帆ト記載スヘシ
- 二 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ積石數ハ總噸數ノ欄ニ記載シ尺度ハ之ヲ記載スルニ及ハス
- 三 各欄ノ事項中記載スヘキモノナキトキハ斜線ヲ畫シ、明ナラサルモノアルトキハ不詳ト記載スヘシ
- 四 新ニ船鑑札ヲ交付シタル場合又ハ其ノ記載事項ノ變更ニ因リ之ヲ書換ヘタル場合ニハ其ノ年月日ハ船鑑札交付年月日ノ欄ニ其ノ事由ハ記事欄ニ記載スヘシ
- 五 船鑑札ヲ再交付シタル場合、毀損ニ因リテ之ヲ書換ヘタル場合又ハ其ノ返還アリタル場合ニハ其ノ年月日及事由ハ記事欄ニ記載スヘシ

第二號書式

船舶報告 (自明治 年 月 至 年 月)

第一 新ニ船鑑札ヲ交付シタル船舶	
番 號	船 名
	新何々々々、何々々々、何々々々
	同

第二 船鑑札ヲ書換ヘタル船舶	
番 號	船 名
	新何々々々、何々々々、何々々々
	同

第三 船鑑札ヲ返還シタル船舶	
番 號	船 名
	新何々々々、何々々々、何々々々
	同

第三號書式

第一 帆船ノ部	
番 號	船 名
	新何々々々、何々々々、何々々々
	同

第二 船鑑札ヲ書換ヘタル船舶	
番 號	船 名
	新何々々々、何々々々、何々々々
	同

第三 船鑑札ヲ返還シタル船舶	
番 號	船 名
	新何々々々、何々々々、何々々々
	同

備考

- 一 報告ノ事項中明ナラサルモノハ其ノ欄内ニ不詳ト記載スヘシ
- 二 船鑑札交付事由欄ニハ新造、外國船購入、何府縣ヨリ轉入、登簿船ヨリ編入等船鑑札ヲ交付シタル原因ヲ記載シ且管轄官廳ニ變更アリタル場合ニシテ報告ノ事項中ニ新舊異動アリタルキハ各相當欄ニ新舊事項ヲ併記スヘシ
- 三 船鑑札ヲ書換若クハ再交付ヲ爲スモ第一表ノ事項ニ變更ナキ

第二輯 船稅及賦金 第一章 船稅

トキハ報告スルコト及ハス  
四 船名又ハ所有者ニ變更アリタルトキハ各相當欄ニハ舊船名又ハ舊所有者名ヲ記載シ變更事項欄ニハ新船名又ハ新所有者名ヲミテ記載スヘシ  
五 發動機船ハ深船ノ部ニ記載シ船名ノ右肩ニ「機」字ヲ附記スヘシ  
六 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ積石數ハ總噸數ノ欄ニ記載スヘシ  
七 船鑑札返還事由欄ニハ滅失、沈没、解散、國籍喪失、存否不明、何府縣ニ轉出、登簿船ニ編入等船鑑札ヲ返還シタル原因ヲ記載スヘシ  
八 船鑑札規則第八條及第九條ノ場合ニ於テハ船鑑札臺帳ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキヲ以テ船鑑札ヲ返還アリタルモノトシテ處理スヘシ

●日本形五百石以上ノ船舶製造禁止

(明治十八年七月八日 太政官布告第十六號)

日本形五百石以上ノ船舶ハ明治二十年一月ヨリ其製造ヲ禁止ス

●狩獵法(抜抄)(明治三十四年四月十三日 法律第三十三號)

- 勅旨布告候事
- 第一章 獵具、獵法
- 第一條 本法ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、網、繭繩又ハ撲ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ
- 前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第二章 狩獵免許
- 第八條 狩獵ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ柵、柵又ハ圍障アル宅地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ



限ニ在ラス(一項)

第十條 免狀ヲ分チテ甲乙ノ二種トス  
甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付  
シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付ス  
ルモノトス

第十一條 免狀ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ  
從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等 所得稅百圓以上、地租五百圓  
ヲ納ムル者又ハ其ノ家族  
金二十圓

二等 所得稅三十圓以上、地租三十圓  
以上若ハ營業稅二十圓以上ヲ  
納ムル者又ハ其ノ家族  
金十圓

三等 一等、二等以外ノ者  
金二圓

第十二條 免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月  
十五日マテトス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ  
翌年四月十五日マテトス

前項期間内ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス

第十四條 獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帯スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ檢  
査スルコトヲ得

第十五條 免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察  
官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ツヘシ

免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ書

一等免狀雛形 紙地白色 五寸五分

表 川中ノ大

狩獵免狀 農商務省 許之證

花紋赤 五寸五分

狩獵免狀 第一種(乙)甲

番號	身分	住所	職業	氏名	年齡	有效期間
第 號						明治何年何月何日ヨリ同何年何月何日マテ
						何月何日ヨリ同何年何月何日マテ
						何月何日ヨリ同何年何月何日マテ

明治 年 月 日 農務省 府 縣 團

表 川中ノ大

狩獵免狀 農商務省 許之證

五寸五分

要 摘 合 法 獵 狩

換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ手數料金二  
十五錢ヲ納ムヘシ  
第十七條 免狀ハ其ノ効力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以  
内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ  
第十八條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別  
ノ理由ニ因リ保護鳥獸又ハ其ノ他ノ鳥獸ノ捕獲ヲ要  
スルトキハ地方長官ハ何時タリトモ特ニ之カ許可ヲ  
與フルコトヲ得但シ捕獲シタル鳥獸ハ之ヲ賣買スル  
コトヲ禁ス  
前項ノ場合ニ於テハ第十一條ヲ適用セス

●狩獵法施行規則(抜抄)(明治三十四年六月二十六日  
農商務省令第七號)

改正(三十四年第九號)  
(四一年第一八號)

第一條 狩獵法第一條ノ網トハ罽罽、投網、霞網其他  
ノ張網ヲ謂ヒ繩トハ流シ網、張網繩ヲ謂ヒ撥トハ  
高撥、千本撥ヲ謂フ

第四條 狩獵免狀ヲ受ケタル者其氏名ヲ變更シ又ハ住  
所ヲ移轉シタルトキハ三週間内ニ其旨ヲ地方長官ニ  
届出ヘシ身分ニ異動アリタルトキ亦同シ

新住所地カ他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ前項  
ノ期間内ニ免狀ノ種類、等級及ヒ身分、職業、氏名、  
住所、年齢ヲ記載シタル書面ヲ其地方長官ニ差出ス  
ヘシ

第七條 獵者其免狀ヲ喪失シタルトキハ直チニ其事由  
ヲ詳記シタル書面ヲ地方長官ニ差出スヘシ此場合ニ  
於テハ地方長官ハ其旨ヲ公告スヘシ

二等免狀雛形 紙地綠色 五寸五分

表 川中ノ大

狩獵免狀 農商務省 許之證

花紋黒 五寸五分

狩獵免狀 第二種(乙)甲

番號	身分	住所	職業	氏名	年齡	有效期間
第 號						明治何年何月何日ヨリ同何年何月何日マテ
						何月何日ヨリ同何年何月何日マテ
						何月何日ヨリ同何年何月何日マテ

明治 年 月 日 農務省 府 縣 團

表 川中ノ大

狩獵免狀 農商務省 許之證

五寸五分

要 摘 合 法 獵 狩



表 川中ノ全

狩獵免狀 許之證 農商務省 廳 府 縣 印	狩獵免狀 許之證	明治 年 月 日	番號	身分	住所	職業	氏名	年 齡	有 效 期 間	甲	乙	丙
										何月何日ヨリ何月何日まで	何月何日ヨリ何月何日まで	何月何日ヨリ何月何日まで

花紋票 五寸五分

要 摘 令 法 獵 狩

五寸五分

●狩獵ニ關スル願届提出及證明書作成方

(明治三十四年十月十五日)  
(兵庫縣令第八十五號)

狩獵ニ關スル願届ノ件左ノ通相定ム  
狩獵法及狩獵法施行規則ニ依リ當廳又ハ農商務省ニ差出スヘキ願届等ハ所轄警察官署ニ差出スヘシ  
狩獵免狀下付願書ニ添付スヘキ稅額ニ關スル證明書ハ住所地市町村長ノ作成シタルモノナルヲ要ス

●狩獵法第十一條ニ規定セル所得稅ヲ納ムル者又ハ其ノ家族ノ適用方

(明治三十四年十月二十五日)  
(農發第一五八號農務局長通牒)

狩獵法第十一條ニ規定セル所得稅云々ヲ納ムル者又ハ家族ノ適用ニ就テハ往々御問合ノ向有之右ハ左記ノ通り御承知相成度此段爲念及御通牒候也  
一 狩獵法第十一條ノ所得稅額ハ假令戶主及家族カ合算シテ納稅スル場合ト雖モ分割シテ計算スヘシ例令ハ戶主ノ所得稅ハ六十圓ニシテ家族ノ所得稅カ四十圓ナルトキ之ヲ合算スレハ百圓トナルヲ以テ一等ニ該當スヘキモ分割シテ計算スルヲ以テ戶主及家族ハ二等免狀ヲ受クヘシ又戶主ノ所得稅ハ二圓ニシテ家族ノ所得稅ハ一圓ナルトキモ前例ノ如ク分割シテ計算スヘキニ依リ戶主及家族ハ三等免狀ヲ受クヘシ  
一 戶主ノ所得稅納稅額ト家族ノ所得稅納稅額カ異ナル場合ニ於テ戶主ノ納稅額カ家族ノ納稅額ヨリ多キトキハ家族ノ免狀ハ戶主ノ納稅額ニ依リテ等級ヲ定

メ家族ノ納稅額カ戶主ノ納稅額ヨリ多キトキハ戶主ノ免狀ハ戶主ノ納稅額ニ依リテ等級ヲ定ムヘシ例令ハ戶主ノ所得稅ハ百圓ニシテ家族ノ所得稅ハ三圓ナルトキ家族ハ一等免狀ヲ受クヘシ又戶主ノ所得稅ハ三圓ニシテ家族ノ所得稅百圓ナルトキハ戶主ハ二等免狀ヲ受クヘシ  
一 戶主ト家族トノ何レカノ一カ全ク所得稅ヲ納メサル場合ハ前項ニ準ス例令ハ戶主カ所得稅百圓ヲ納メ家族カ所得稅ヲ全ク納メサルトキハ家族ハ一等免狀ヲ受クヘシ之ニ反シ家族カ所得稅百圓ヲ納メ戶主カ全ク所得稅ヲ納メサルトキハ戶主ハ三等免狀ヲ受クヘシ

●狩獵法第十一條所得稅額ニハ非常特別稅  
法ノ増徴額加算方(明治三十七年九月二十一日農)

狩獵法第十一條ニ依ル狩獵免狀ノ等級ハ非常特別稅法ニ依リ増徴セル稅額ト狩獵法ノ定メタル稅額トヲ加算シテ之ヲ定ムルコトニ省議決定致候條此段及通牒候也

●商法(抜抄)(明治三十二年三月九日)  
法律第四十八號

第一編 總則

第二章 商人

第八條 戶戶ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スル者其他小商人ニハ商業登記、商號及ヒ商業帳簿ニ關スル規定ヲ適用セス

第五章 商業帳簿

第二十五條 商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日日ノ取引其他財產ニ影響ヲ及ホスヘキ一切ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載スルコトヲ要ス但家事費用ハ一个月毎ニ其總額ヲ記載スルヲ以テ足ル  
小賣ノ取引ハ現金賣ト掛賣トヲ分チ日日ノ賣上總額ノミヲ記載スルコトヲ得

第二十六條 動產、不動產、債權、債務其他ノ財產ノ總目錄及ヒ貸方借方ノ對照表ハ商人ノ開業ノ時又ハ會社ノ設立登記ノ時及ヒ毎年一回一定ノ時期ニ於テ之ヲ作り特ニ設ケタル帳簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

財產目錄ニハ動產、不動產、債權其他ノ財產ニ其目錄調製ノ時ニ於ケル價格ヲ附スルコトヲ要ス

第二十七條 年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ前條ノ規定ニ從ヒ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第二十八條 商人ハ十年間其商業帳簿及ヒ其營業ニ關スル信書ヲ保存スルコトヲ要ス  
前項ノ期間ハ商業帳簿ニ付テハ其帳簿閉鎖ノ時ヨリ之ヲ起算ス

●商法中小商人ノ範圍(明治三十二年六月十五日)  
勅令第二百七十一號  
朕小商人ノ範圍ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム







百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ  
虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ  
變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條  
ノ例ニ依ル

第一百五十七條 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利、  
義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシ  
メタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處  
ス

公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券  
ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又  
ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第一百五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行  
使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又  
ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲  
サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第十九章 印章偽造ノ罪  
第一百六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ  
印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下  
ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ  
又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名  
ヲ使用シタル者亦同シ

下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行  
爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ  
其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價  
額ヲ追徴ス

第一百九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供  
又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下  
ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕  
又ハ免除スルコトヲ得  
第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪  
第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタ  
ル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十九條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五  
年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百六十條 他人ノ建造物又ハ船舶ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲  
役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ  
處斷ス

第二百六十一條 前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル  
者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス  
●刑法施行法(抜抄)(明治四十一年三月二十八日)  
第十九條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準

第一百六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造  
シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所  
ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ  
第一百六十八條 第一百六十四條第二項、第一百六十五條第  
二項、第一百六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪  
ハ之ヲ罰ス

第二十五章 瀆職ノ罪  
第一百九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナ  
キ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキ  
ハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一百九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之  
ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタ  
ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一百九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之  
ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ  
者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年  
以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者  
被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ  
亦同シ  
第一百九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シ  
タル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第一百九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ  
收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以  
下ノ懲役ニ處ス

シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單  
ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス  
他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附  
加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス  
(參照)

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者  
ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑  
法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム  
死刑 死刑ノ刑  
無期懲役 無期懲役  
無期禁錮 無期禁錮  
有期懲役 有期懲役、重懲役、輕懲役、重禁錮  
有期禁錮 有期禁錮、重禁錮、輕禁錮、輕禁錮  
罰金 罰金  
拘留 拘留  
科料 科料

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ  
金額ヲ變更セス但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定  
メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ  
關スル規定ニ從フ

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス  
可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除外舊刑法  
ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル  
第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑  
法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル  
場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ  
刑法ノ規定ニ變更ス(一項)

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ



場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

警察犯處罰令(抜抄) (明治四十一年九月二十九日)

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日以下ノ拘留又ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス  
四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者  
二十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者  
二十六 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者  
第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス  
八 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者  
第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

兵庫縣令ノ罰則ニ關スル件

(明治四十二年十月十三日) (兵庫縣令第七十六號)  
本縣縣令ノ罰則ニ關スル件左ノ通改正ス

第五十二條 官吏、公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ

告發ハ官吏、公吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク證據及事實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シ  
第五十四條 告訴、告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得但第五十二條ノ場合ハ此限ニ在ラス(一項)

違警罪即決例(抜抄) (明治十八年九月二十四日)

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル(違警罪)ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

府縣制第八條ニ該當スル營業者ニシテ神戸市ニ營業所ヲ有スルモノノ届方

(明治四十一年七月四日) (兵庫縣令第五十號)  
府縣制第八條ニ該當スル營業者ニシテ本縣内神戸市ニ本店及他府縣ニ支店其ノ他ノ營業所ヲ有シ又ハ神戸市ニ支店其ノ他ノ營業所及他府縣ニ本店ヲ有スルモノニ付テハ兵庫縣郡部縣稅施行細則第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用シ之ニ違反シタル者ハ第三十七條ノ罰則ヲ適用ス

附則  
本令ハ明治四十一年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 本縣縣令ノ罰則中罰金ニ處スヘキモノニ付テハ其ノ金額ノ定メアルト否トヲ問ハス五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 本縣縣令ノ罰則中拘留又ハ科料ニ處スヘキモノニ付テハ其ノ刑期金額ノ定メアルト否トヲ問ハス三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス  
第三條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑事訴訟法(抜抄) (明治二十三年十月七日)

(法律第九十六號) (改正(三十二年第七三號)(四十一年第二九號))

第一編 總則

第二十條 官吏、公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署、公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ每葉ニ契印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ效ナカル可シ(一項)  
第二十一條 官吏、公吏訴訟ニ關スル書類ノ原本、正本又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラズ若シ挿入、削除及ヒ欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀ミ得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其變更増減ノ效ナカル可シ

第三編 犯罪ノ搜索、起訴及ヒ豫審

第一章 搜索  
第一節 告訴及ヒ告發

明治三十五年三月兵庫縣令第二十一號ハ之ヲ廢止ス

明治四十一年兵庫縣令第五十號取扱方

(明治四十一年七月四日) (兵庫縣令甲第二十二號) 神戸市役所  
明治四十一年七月兵庫縣令第五十號ニ依リ當事者ノ届出ヲ受ケタル場合ハ兵庫縣郡部縣稅取扱手續第四十一條及第四十二條ノ規定ニ準シ取扱フヘシ

附則

本訓令ハ明治四十一年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十五年三月兵庫縣令第二十一號ハ之ヲ廢止ス

地方稅制限ニ關スル制

(明治四十一年三月三十一日) (法律第三十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地方稅制限ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
第一條 北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ地租附加稅又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課稅スルコトヲ得ス  
一 北海道、府縣、北海道ノ區、一級町村及二級町村、沖繩縣ノ區及町村  
附加稅ノミヲ課スルトキ 地租百分ノ六十  
段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付  
附加稅及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ



總額ハ其ノ地目ノ地租額百分ノ六十ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二 其ノ他ノ公共團體

附加税ノミヲ課スルトキ 地租百分ノ四十 一段歩ニ付 段別割ノミヲ課スルトキ

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額百分ノ四十ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ營業稅附加税ヲ課スルノ外營業稅ヲ納ムル者ノ營業ニ對シ課税スルコトヲ得ス

一 北海道、府縣 營業稅百分ノ二十五

二 其ノ他ノ公共團體 營業稅百分ノ三十五

第三條 北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ所得稅附加税ヲ課スルノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課税スルコトヲ得ス

一 北海道、府縣 所得稅百分ノ十

二 其ノ他ノ公共團體 所得稅百分ノ三十五

第四條 府縣費ノ全部ヲ市ニ分賦シタル場合ニ於テハ市ハ前三條ノ市稅制限ノ外其ノ分賦金額以内ニ限リ府縣稅制限ニ達スルマテ課税スルコトヲ得

府縣費ノ一部ヲ市町村ニ分賦シタル場合ニ於テハ市町村ハ前三條ノ市町村稅制限ノ外其ノ分賦金額以内ニ限リ課税スルコトヲ得但シ府縣ノ賦課額ト市町村

●罹災救助基金法(抜抄)

(明治三十二年三月二十二日) 改正(三十八年第一法律第七十七號) (三十九年第一法律第七十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル罹災救助基金法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

罹災救助基金法

第四條 府縣ハ罹災救助基金貯蓄ノ爲直接國稅ノ附加税ヲ徵收スル場合ニ於テハ他ノ法律ノ制限ノ外百分ノ三以内ノ附加税ヲ課スルコトヲ得

●鑛業法(抜抄)(明治三十八年三月八日)

第一章 總則

第四條 本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及採掘權ヲ謂フ

第九條 本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登録ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

第十三條 本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第二章 鑛業權

第三十五條 採掘權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ(一項)

第六章 鑛業稅

第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

金鑛、銀鑛、鉛鑛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス

第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年試掘ニ付テ

ノ賦課額トノ合算額ハ府縣稅ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ内務大臣ノ許可ヲ受ケ第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以内ニ於テ課税スルコトヲ得

左ニ掲クル場合ニ於テハ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケ前項ノ制限ヲ超過シテ課税スルコトヲ得

一 内務大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二 非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ

三 水利ノ爲費用ヲ要スルトキ

四 傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ニ依リ制限ヲ超過シテ課税スルハ第一條乃至第三條ニ定メタル各稅目ニ對スル賦課カ各其ノ制限ニ達シタルトキニ限ル

前二項ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 本法ノ附加税ハ非常特別稅法ニ依ル増徴額ニ對シテハ之ヲ課スルコトヲ得ス

第七條 本法ノ規定ハ特ニ賦課率ヲ定メタル特別法令ノ適用ヲ妨ケス

附則 本法ハ明治四十一年度ヨリ之ヲ施行ス 非常特別稅法中地租、營業稅及所得稅ノ地方稅制限ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

八十錢、採掘ニ付テハ四十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

第八十四條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納ス

第三十五條第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登録ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登録ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納ス

前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存續期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第八十五條 鑛業稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示ス其ノ告示セサルモノハ之ヲ檢定ス

第八十六條 鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ

第八十七條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第八十八條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各本稅百分ノ十以内ノ附加税ヲ課スルコトヲ得

前項ノ附加税ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課税スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ北海道沖繩縣ノ區並間切島其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス